

朝倉市男女共同参画に関する市民意識調査  
報 告 書

令和3年1月

朝 倉 市



# 目 次

## I. 調査の概要

1. 調査の目的	1
2. 調査の内容	1
3. 調査の性格	1
4. 標本特性	2
5. 調査結果利用上の注意	5

## II. 調査結果の分析

### 第1章 男女平等に関する考え方について

1. 男女平等や男女共同参画への関心度	7
2. 性別役割分担意識	9
3. 分野別にみた男女の地位の平等感	12

### 第2章 家庭生活について

1. 家庭内における性別役割分担の状況	28
(1) 家庭内の役割分担の状況	28
(2) 配偶者にしてほしいこと	44
2. 子どものしつけや教育についての考え方	46

### 第3章 職業について

1. 女性が職業をもつことについて	54
(1) 女性が職業をもつことについての考え方	54
(2) 女性が職業を続けない方がよいと思う理由	57
2. 女性の実際の働き方	59
3. 女性が働き続けるために必要なこと	61
4. 就業状況について	64
(1) 現在の就業状況	64
(2) 就業形態	66
(3) 自営業の就労状況	68
(4) 勤め人の雇用形態	69
(5) 職場における女性の就業環境	71
5. 男性が育児休業・介護休業・子の看護休暇を取得することについて	73
6. 男性が育児休業を取得しない(できない)理由	75
7. 男女がともに介護と仕事を両立させていく環境を作るために必要なこと	77

## 第4章 社会活動などへの参加・参画について

1. 地域活動での男女の役割分担 ..... 79
2. 女性が地域の役職につくことについて ..... 84
  - (1) 女性が地域の役職に推薦された場合の対処 ..... 84
  - (2) 地域の役職を断る理由 ..... 86
3. 女性が市の審議会や委員会の委員に就任を依頼された場合の対処 ..... 88
4. 政策・方針決定の過程に女性が進出していない理由 ..... 90
5. 災害に備えるために必要な男女共同参画の視点 ..... 92

## 第5章 暴力などの人権侵害について

1. セクシュアル・ハラスメントの経験 ..... 94
2. ドメスティック・バイオレンスについて ..... 100
  - (1) ドメスティック・バイオレンスの経験 ..... 100
  - (2) ドメスティック・バイオレンスの相談 ..... 104
  - (3) 相談をしなかった理由 ..... 106
3. 男女間における暴力を防止するための取り組み ..... 108

## 第6章 男女共同参画社会の実現について

1. 朝倉市男女共同参画センター（あすみん）について ..... 110
  - (1) 朝倉市男女共同参画センター（あすみん）の認知と利用 ..... 110
  - (2) 利用したことがない理由 ..... 112
  - (3) 朝倉市男女共同参画センター（あすみん）で行ってほしい事業 ..... 114
2. 男女共同参画に関する法律、言葉、朝倉市の取り組み等の認知 ..... 116
3. 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度 ..... 118
  - (1) 希望 ..... 118
  - (2) 現実（現状） ..... 119
4. 男女共同参画社会実現のために望む施策 ..... 120

## Ⅲ. 調査結果のまとめ

- 調査結果から見える特徴と今後の課題 ..... 123

### ◎参考資料

- 使用した調査票 ..... 131

# I 調査の概要



# I 調査の概要

## 1. 調査の目的

この調査は、朝倉市における男女共同参画に関する意識について現状を把握し、今後の「男女共同参画社会」実現に向けての施策推進の基礎資料を得ることを目的として実施した。

## 2. 調査の内容

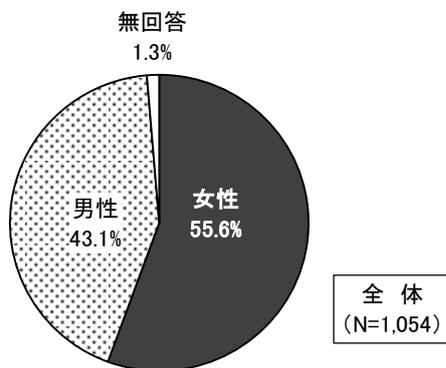
- (1) 男女平等に関する考え方について
- (2) 家庭生活について
- (3) 職業について
- (4) 社会活動などへの参加・参画について
- (5) 暴力などの人権侵害について
- (6) 男女共同参画社会の実現について

## 3. 調査の性格

- |                |                                 |
|----------------|---------------------------------|
| (1) 調査地域       | 朝倉市全域                           |
| (2) 調査対象者      | 18歳以上の男女2,000人                  |
| (3) 回収率        | 有効回収数1,054人 有効回収率52.7%          |
| (4) 抽出方法       | 住民基本台帳から無作為抽出                   |
| (5) 調査方法       | 郵送により配布・回収                      |
| (6) 調査期間       | 令和2年9月25日～10月9日                 |
| (7) 調査企画・実施    | 朝倉市 総務部 総合政策課 男女共同参画推進・青少年係     |
| (8) 調査結果の分析と監修 | 特定非営利活動法人福岡ジェンダー研究所研究員<br>武藤 桐子 |

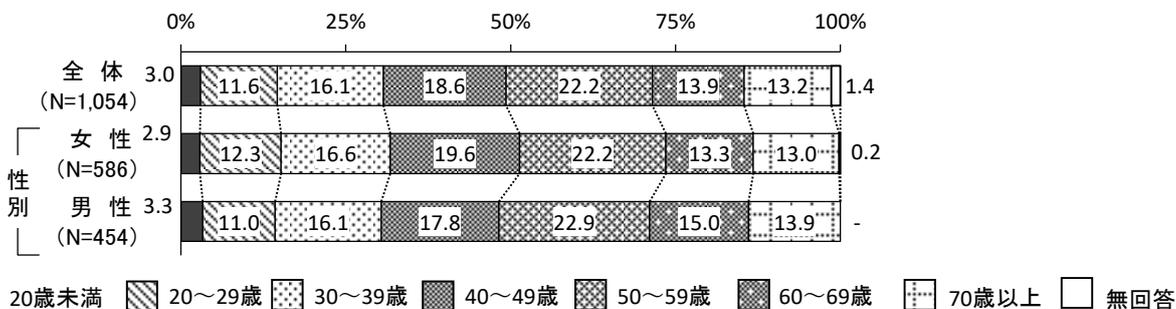
4. 標本特性

◎性別



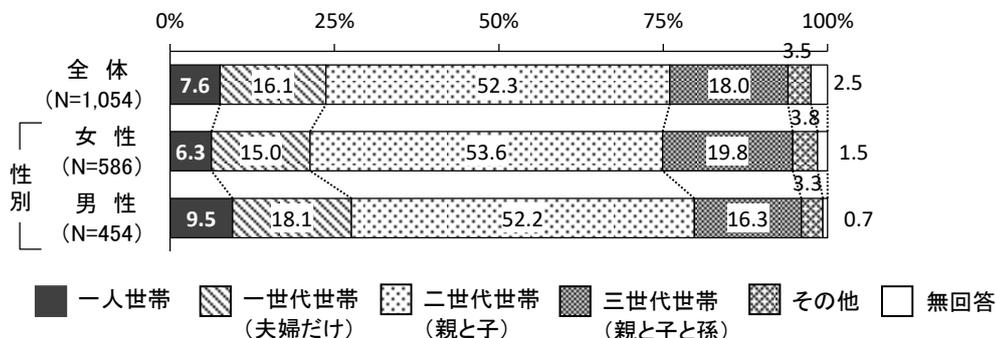
回答者の性別は「女性」が 55.6%、「男性」が 43.1%と女性の回答が 12.5 ポイント多い。

◎年齢



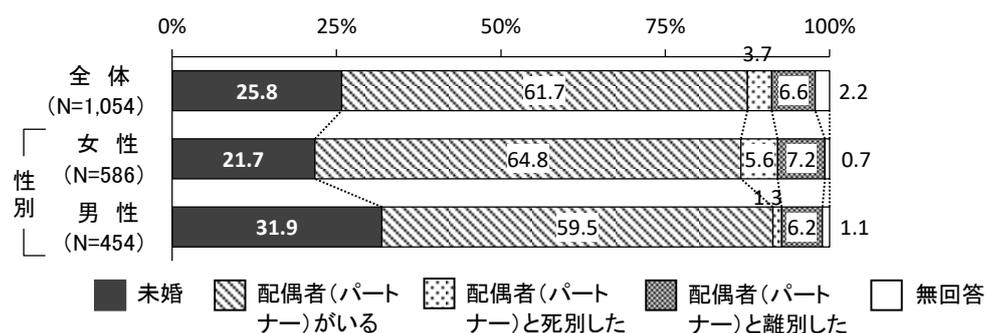
回答者の年代は、「50~59歳」が 22.2%、「40~49歳」が 18.6%、「30~39歳」が 16.1%の順で多く、以下、「60~69歳」が 13.9%、「70歳以上」が 13.2%、「20~29歳」が 11.6%となっている。性別でも各年齢ともほぼ同程度となっている。

◎家族構成



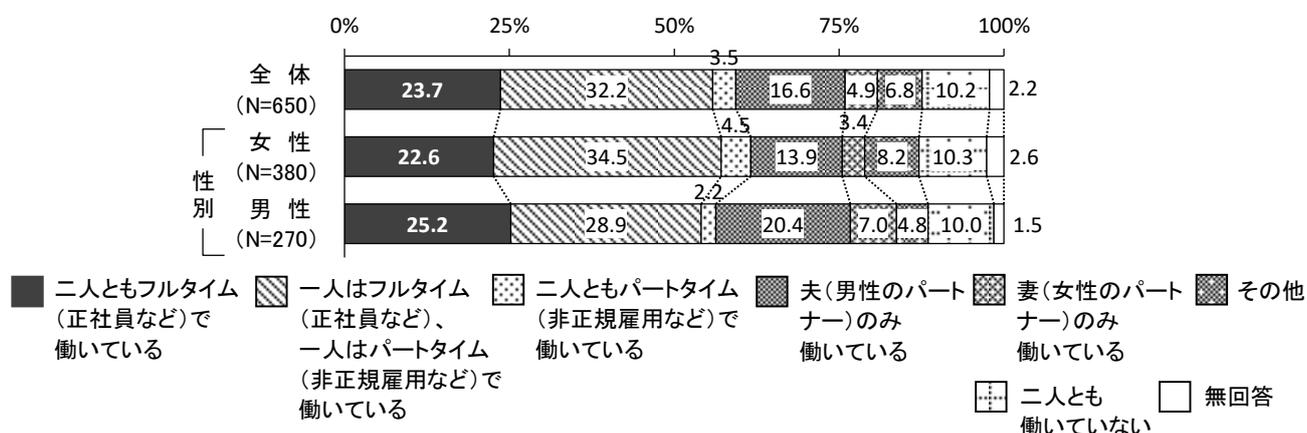
家族構成は、「二世世代世帯 (親と子)」が 52.3%で最も多く、次いで「三世世代世帯 (親と子と孫)」が 18.0%、「一世代世帯 (夫婦だけ)」が 16.1%、「一人世帯」が 7.6%となっている。

## ◎配偶関係



回答者の配偶関係は「未婚」が 25.8%、「配偶者（パートナー）がいる」が 61.7%、「配偶者（パートナー）と死別した」が 3.7%、「配偶者（パートナー）と離別した」が 6.6%となっている。

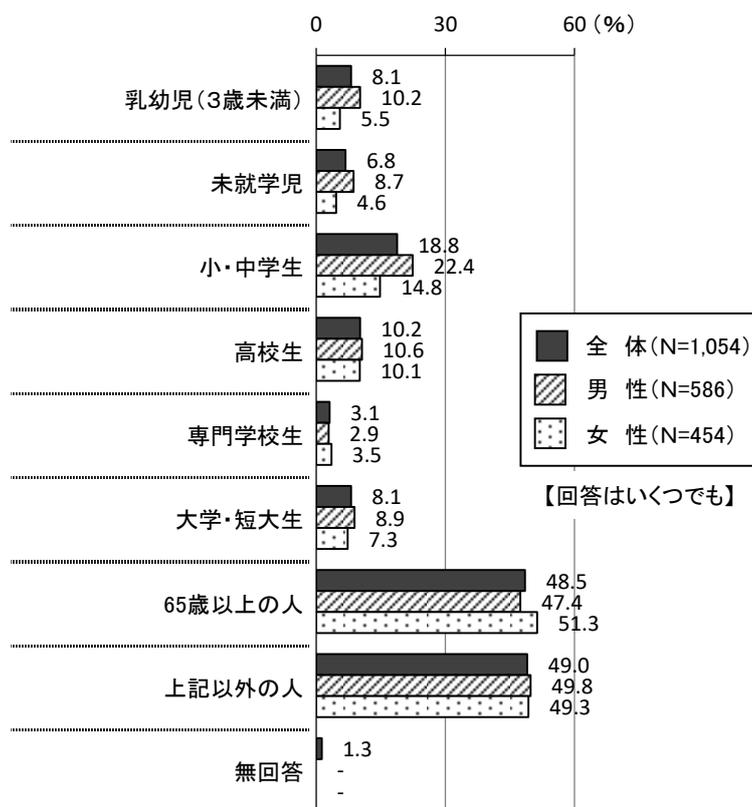
## ◎共働きの状況



配偶者（パートナー）がいる人に共働きかどうかたずねた。「二人ともフルタイム（正社員など）で働いている」（23.7%）、「一人はフルタイム（正社員など）、一人はパートタイム（非正規雇用など）で働いている」（32.2%）、「二人ともパートタイム（非正規雇用など）で働いている」（3.5%）をあわせた『共働き』は 59.4%となっている。「夫（男性のパートナー）のみ働いている」（16.6%）、「妻（女性のパートナー）のみ働いている」（4.9%）をあわせた『片働き』は 21.5%、「二人とも働いていない」は 10.2%となっている。

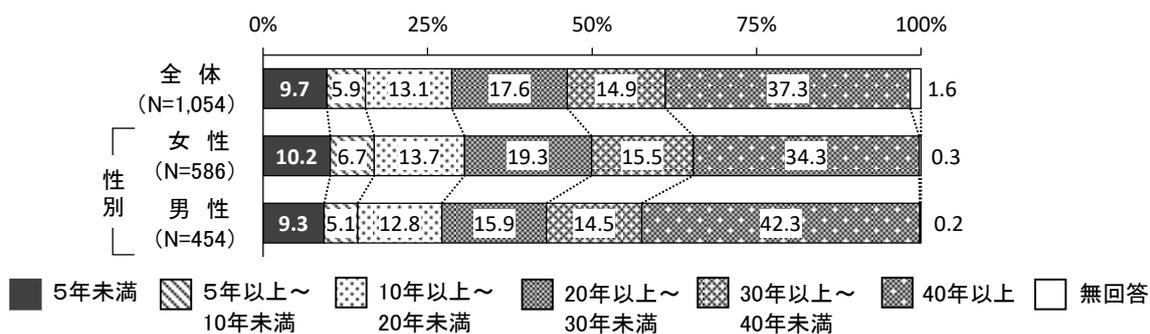
I 調査の概要

◎同居家族



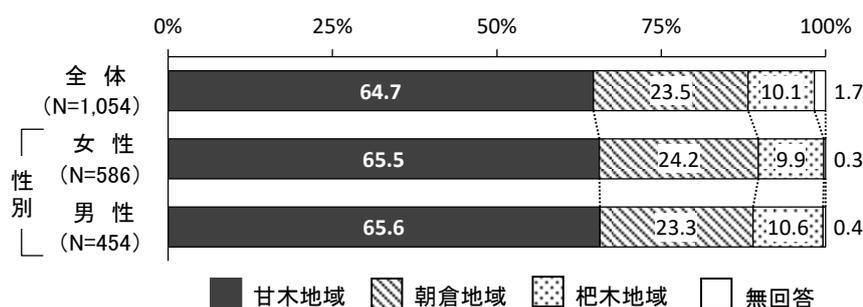
回答者自身も含めた同居家族は「65歳以上の人」が48.5%、次いで「小・中学生」が18.8%、「高校生」が10.2%などとなっている。

◎居住年数



居住年数は「40年以上」が37.3%で最も多い。

## ◎居住地域



居住地域は「甘木地域」が 64.7%、「朝倉地域」が 23.5%、「杷木地域」が 10.1%となっている。

## 5. 調査結果利用上の注意

- (1) 数字は、百分比のポイント以下2位を四捨五入しているので、回答比率の合計は、必ずしも100%ちょうどになるとは限らない。
- (2) 2つ以上の回答を要する（複数回答）質問の場合、その回答比率の合計は、原則として100%を超える。
- (3) 数表、図表、文中に示すNは、比率算出上の基数（標本数）である。数表で、分析項目によっては対象者が限定されるため、全体の標本数と合わないことがある。
- (4) 付問は前問で特定の回答をした一部の回答者のみに対して続けて行った質問である。
- (5) 文中の選択肢の表記は「 」で行い、選択肢のうち、2つ以上のものを合計して表す場合は『 』とした。
- (6) 今回の調査は、次の資料と比較分析を行っている。

朝倉市 「男女共同参画に関する市民意識調査」平成27年8月実施

内閣府 「男女共同参画に関する世論調査」令和元年9月実施

福岡県 「男女共同参画社会に向けての意識調査」令和元年12月実施



## Ⅱ 調査結果の分析



## Ⅱ 調査結果の分析

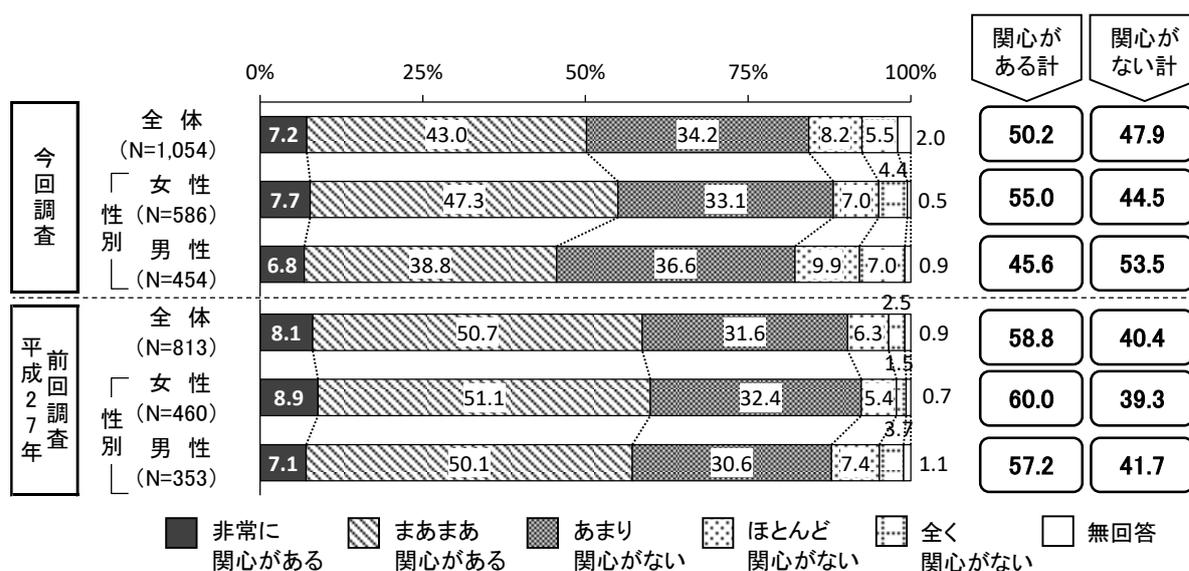
### 第1章 男女平等に関する考え方について

#### 1. 男女平等や男女共同参画への関心度

- 男女平等・男女共同参画への関心度は女性が5割半ばで男性よりも約10ポイント高いが、前回調査と比べ男女とも関心度は低くなっている。
- 男女とも年齢の低い層で『関心がない』の割合が高い傾向がみられる。

問1. あなたは男女平等や男女共同参画をテーマにする話題にどの程度関心がありますか。(〇印は1つ)

図表1-1 男女平等や男女共同参画への関心度 [全体、性別] (前回調査比較)



男女平等や男女共同参画への関心度について、全体では「非常に関心がある」(7.2%)と「まあまあ関心がある」(43.0%)を合わせた『関心がある』は50.2%で、「あまり関心がない」(34.2%)と「ほとんど関心がない」(8.2%)、「全く関心がない」(5.5%)を合わせた『関心がない』は47.9%である。

性別で見ると、『関心がある』は女性が55.0%で、男性(45.6%)を9.4ポイント上回り、『関心がない』が男性は53.5%で女性(44.5%)を9ポイント上回っている。男女平等や男女共同参画への関心度は女性の方が高いようである。

平成27年8月に実施された「男女共同参画に関する市民意識調査」(以下、前回調査という)と比べると、男女とも『関心がある』は5~11.6ポイント減少し、『関心がない』は5.2~11.8ポイント増加するなど今回調査の方が関心度は低い。

## II 調査結果の分析

年齢別でみると、男女とも年齢の低い層で『関心がない』、年齢の高い層で『関心がある』の割合が高い傾向がみられる。

図表 1-2 男女平等や男女共同参画への関心度 [全体、年齢別]

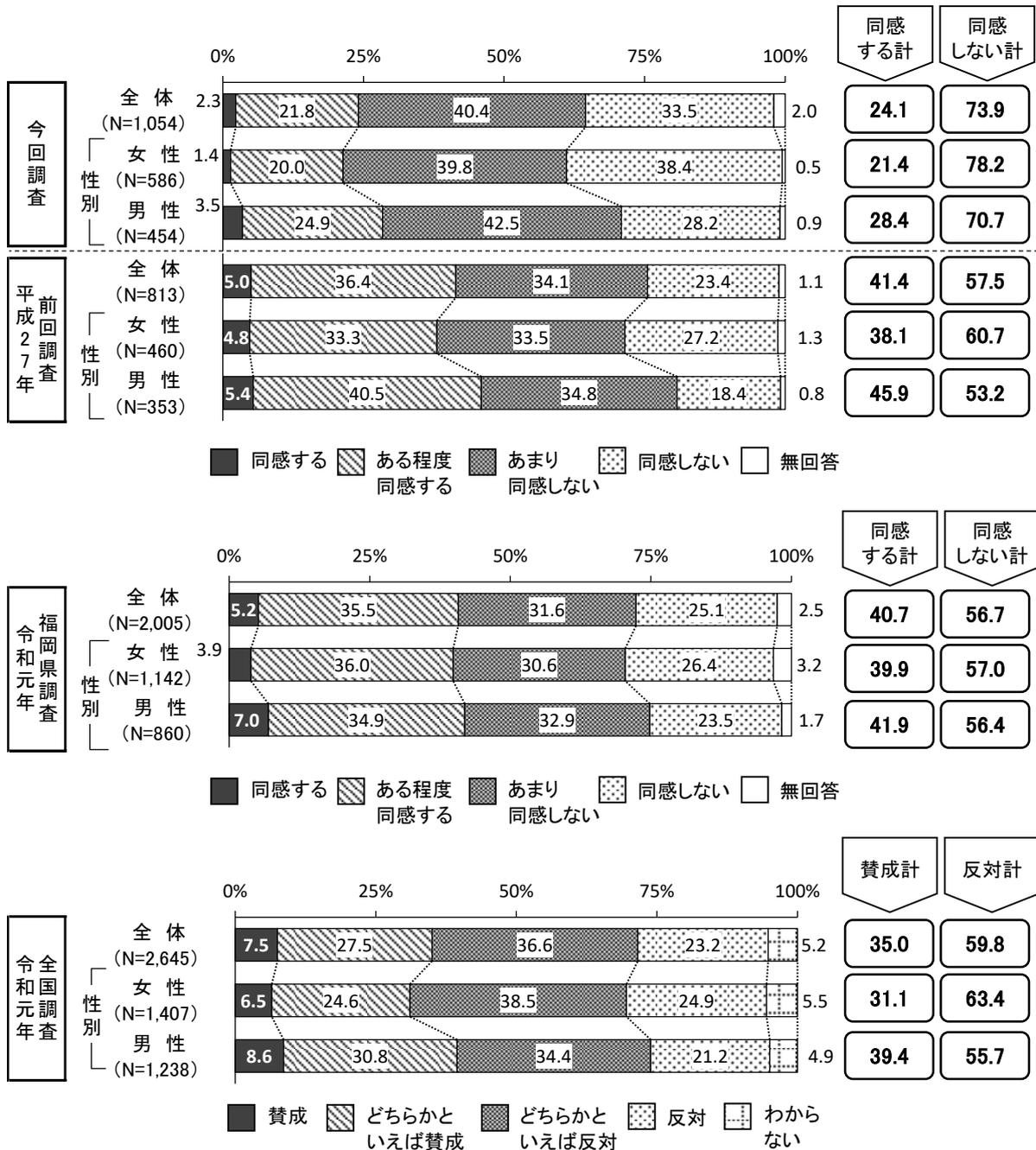
		標本数	非常に 関心がある	まあまあ 関心がある	あまり 関心がない	ほとんど 関心がない	全く 関心がない	無回答	関心がある 『計	関心がない 』計
全体		1,054 100.0	76 7.2	453 43.0	360 34.2	86 8.2	58 5.5	21 2.0	529 50.2	504 47.9
年齢別	女性:18~29歳	89	5.6	47.2	33.7	6.7	6.7	-	52.8	47.1
	女性:30~39歳	97	7.2	41.2	41.2	7.2	3.1	-	48.4	51.5
	女性:40~49歳	115	4.3	43.5	36.5	8.7	7.0	-	47.8	52.2
	女性:50~59歳	130	6.9	50.8	31.5	6.2	3.8	0.8	57.7	41.5
	女性:60~69歳	78	10.3	51.3	28.2	7.7	1.3	1.3	61.6	37.2
	女性:70歳以上	76	14.5	50.0	25.0	5.3	3.9	1.3	64.5	34.2
	男性:18~29歳	65	4.6	27.7	41.5	10.8	15.4	-	32.3	67.7
	男性:30~39歳	73	6.8	37.0	31.5	12.3	11.0	1.4	43.8	54.8
	男性:40~49歳	81	6.2	39.5	28.4	17.3	7.4	1.2	45.7	53.1
	男性:50~59歳	104	3.8	38.5	45.2	7.7	3.8	1.0	42.3	56.7
	男性:60~69歳	68	8.8	47.1	35.3	4.4	4.4	-	55.9	44.1
	男性:70歳以上	63	12.7	42.9	34.9	6.3	1.6	1.6	55.6	42.8
無回答		15	-	6.7	-	-	-	93.3	6.7	-

2. 性別役割分担意識

- 「男は仕事、女は家庭」に『同感しない』女性は8割弱、男性は約7割。前回調査より男女とも17.5ポイントと大幅に増加。
- 福岡県・全国調査と比べ、性別役割分担を容認しない人は多い。

問2. 「男は仕事、女は家庭」という考え方があります。あなたご自身の気持ちとしては、この考え方についてどう思いますか。(〇印は1つ)

図表1-3 「男は仕事、女は家庭」という考え方について [全体、性別] (前回・福岡県・全国調査比較)



## II 調査結果の分析

---

「男は仕事、女は家庭」という考え方について、全体では「同感する」(2.3%)と「ある程度同感する」(21.8%)を合わせた『同感する』が24.1%で、「同感しない」(33.5%)と「あまり同感しない」(40.4%)を合わせた『同感しない』が73.9%と性別役割分担意識を容認しない人が49.8ポイント上回っている。

性別で見ると、女性の『同感しない』は78.2%で男性(70.7%)を7.5ポイント上回っている。『同感する』は男性が28.4%で女性(21.4%)を7ポイント上回り、男性の方が性別役割分担を容認する人が多い。

前回調査と比べると、男女とも『同感しない』が17.5ポイント増え、『同感する』が女性で16.7ポイント、男性で17.5ポイント減と性別役割分担意識を容認しない人が男女とも大幅に増えている。

令和元年12月に実施された福岡県の「男女共同参画社会に向けての意識調査」(以下、福岡県調査という)と比べると、今回調査の方が男女とも『同感しない』が14.3~21.2ポイント上回っている。

令和元年9月に実施された内閣府の「男女共同参画社会に関する世論調査」(以下、全国調査という)と比べると、設問項目が違うため正確な比較はできないが、性別役割分担を容認しない人は女性で14.8ポイント、男性では15ポイント高いなど、今回調査の方が男女とも性別役割分担を容認しない人が多い。

年齢別でみると、女性の18～29歳で『同感しない』が85.4%と最も高く、次いで50代が81.6%、男性の18～29歳が80.0%と8割を超えて高い。『同感する』は男性の70歳以上で42.9%と最も高く、次いで30代で30.1%となっている。

男女共同参画への関心度別でみると、男女とも全く関心がない人は『同感する』が比較的高く、関心がある人では『同感しない』が高い傾向がみられる。

図表1-4 「男は仕事、女は家庭」という考え方について [全体、年齢別、男女共同参画への関心度別]

		標本数	同感する	同感する程 ある程度	同感しない あまり	同感しない	無回答	『同感する』 計	『同感しない』 計
全体		1,054	24	230	426	353	21	254	779
		100.0	2.3	21.8	40.4	33.5	2.0	24.1	73.9
年齢別	女性:18～29歳	89	-	13.5	38.2	47.2	1.1	13.5	85.4
	女性:30～39歳	97	1.0	19.6	40.2	39.2	-	20.6	79.4
	女性:40～49歳	115	5.2	20.9	40.9	33.0	-	26.1	73.9
	女性:50～59歳	130	-	17.7	38.5	43.1	0.8	17.7	81.6
	女性:60～69歳	78	1.3	24.4	34.6	39.7	-	25.7	74.3
	女性:70歳以上	76	-	26.3	47.4	25.0	1.3	26.3	72.4
	男性:18～29歳	65	7.7	12.3	41.5	38.5	-	20.0	80.0
	男性:30～39歳	73	2.7	27.4	38.4	31.5	-	30.1	69.9
	男性:40～49歳	81	2.5	21.0	42.0	33.3	1.2	23.5	75.3
	男性:50～59歳	104	4.8	25.0	44.2	26.0	-	29.8	70.2
	男性:60～69歳	68	1.5	23.5	45.6	26.5	2.9	25.0	72.1
	男性:70歳以上	63	1.6	41.3	42.9	12.7	1.6	42.9	55.6
	無回答	15	-	-	-	6.7	93.3	-	6.7
男女共同参画への 関心度別	女性:非常に関心がある	45	-	4.4	24.4	71.1	-	4.4	95.5
	女性:まあまあ関心がある	277	0.7	21.7	43.0	33.9	0.7	22.4	76.9
	女性:あまり関心がない	194	1.5	22.2	39.7	36.6	-	23.7	76.3
	女性:ほとんど関心がない	41	-	17.1	48.8	34.1	-	17.1	82.9
	女性:全く関心がない	26	11.5	15.4	19.2	50.0	3.8	26.9	69.2
	男性:非常に関心がある	31	6.5	19.4	35.5	38.7	-	25.9	74.2
	男性:まあまあ関心がある	176	1.7	24.4	41.5	32.4	-	26.1	73.9
	男性:あまり関心がない	166	2.4	28.9	47.6	19.9	1.2	31.3	67.5
	男性:ほとんど関心がない	45	2.2	17.8	46.7	33.3	-	20.0	80.0
	男性:全く関心がない	32	18.8	18.8	28.1	31.3	3.1	37.6	59.4
	無回答	21	-	14.3	4.8	9.5	71.4	14.3	14.3

3. 分野別にみた男女の地位の平等感

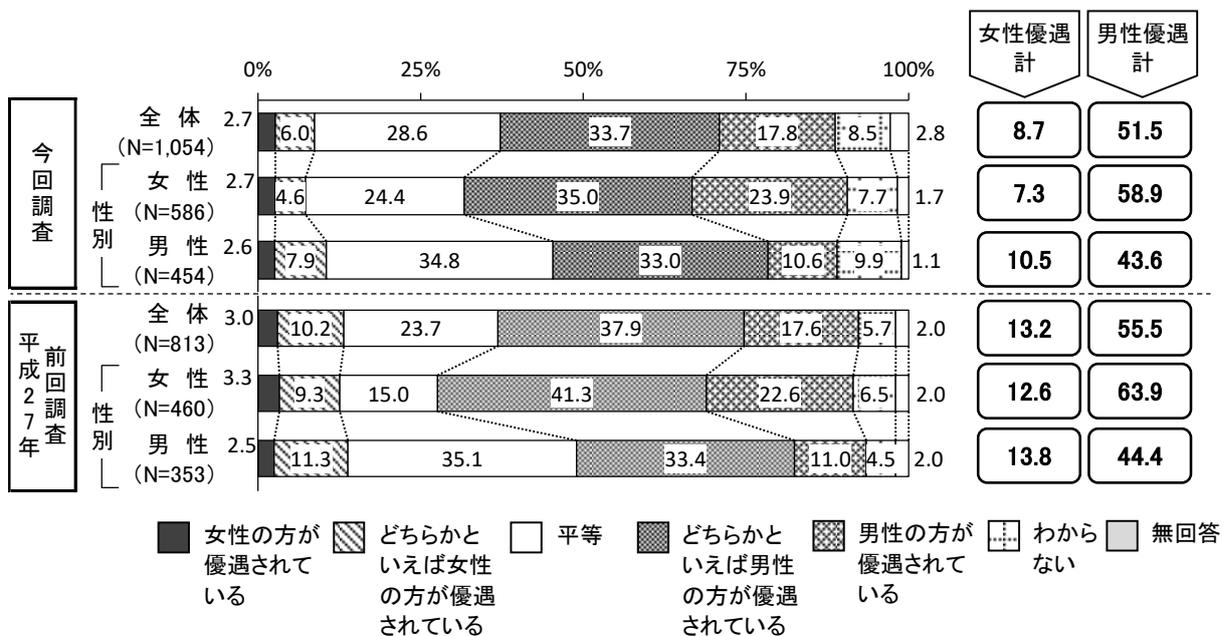
- 「平等」との回答が高い分野は「学校教育の場」で約5割。その他の分野は『男性優位』の割合が高く、「政治の場」「社会通念・慣習・しきたり」「社会全体」では約7割、「家庭生活」「地域活動・社会活動の場」で約5割、「職場」で4割半ば、「法律や制度のうえ」で4割。
- 「学校教育の場」以外の分野では、女性の方が男性よりも「平等」の割合は低く、『男性優遇』の割合が高い。
- 「家庭生活」「職場」では前回調査よりも女性の『男性優遇』との認識はやや低くなっている。
- 全国調査と比べて、「職場」を除く分野で男女とも「平等」であるとの認識は低い。

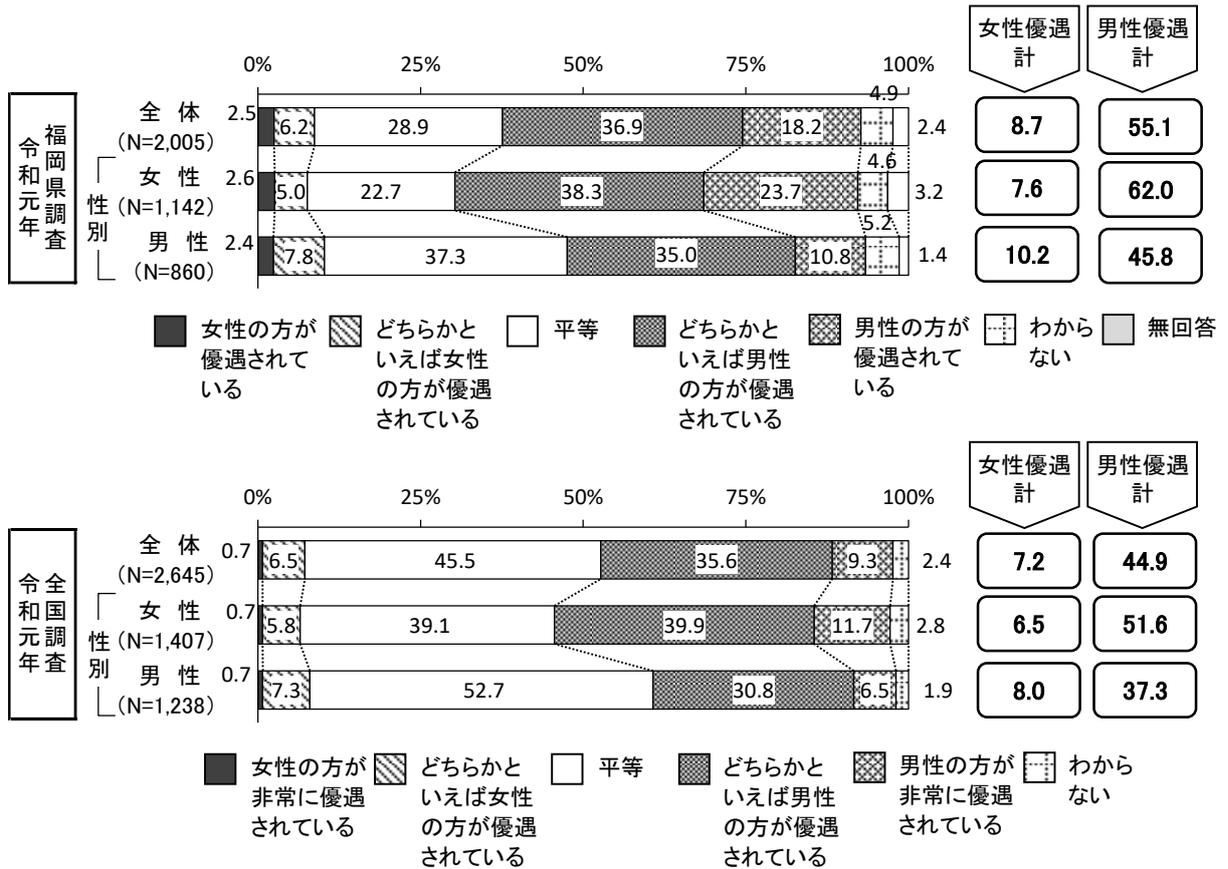
問3. あなたは、次にあげる（ア）から（ク）までの分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。それぞれについて、最もあてはまるものを選んでください。（〇印は1つずつ）

社会における8種類の分野において、男女の地位の平等感について、「女性の方が優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」「平等」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」「男性の方が優遇されている」の5段階でたずねた。

（ア）家庭生活

図表1-5 家庭生活での男女の地位の平等感 [全体、性別] (前回・福岡県・全国調査比較)





家庭生活では、「平等」は 28.6%にとどまり、「男性の方が優遇されている」(17.8%)と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(33.7%)を合計した『男性優遇』は 51.5%と約5割となっている。『女性優遇』(「女性の方が優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の合計)は 8.7%である。

性別で見ると、「平等」は女性が 24.4%、男性が 34.8%と男性の方が女性より 10.4 ポイント高い。一方、『男性優遇』は、女性は 58.9%に対し男性は 43.6%と女性の方が 15.3 ポイント高くなっている。女性が感じているほど男性自身は男性が優遇されているとは認識してはおらず、平等であると認識している傾向にあり、男性と女性で家庭生活の平等についての認識が異なっていることがわかる。

前回調査と比べると、男性はあまり大きな変化はみられないが、女性は「平等」が 9.4 ポイント増え、『男性優遇』が 5 ポイント減っていることから、家庭生活における男性優遇との認識はやや低くなっているようである。

福岡県調査と比べると、女性の『男性優遇』は今回調査の方がやや高いが、その他はほぼ同程度となっている。

全国調査の項目とは違いがあるため正確な比較はできないが、今回調査の方が男女とも「平等」は 14.7~17.9 ポイント低く、『男性優遇』は女性で 7.3 ポイント、男性で 6.3 ポイント高いなど家庭生活での平等感は男女とも全国より低くなっている。

## II 調査結果の分析

年齢別でみると、女性は18～29歳を除く各年代で『男性優遇』が6割前後から7割弱と高率で、男性は40代以上で5割前後と30代以下に比べて高い。男女とも18～29歳で「平等」が3割半ばから4割強と高い。

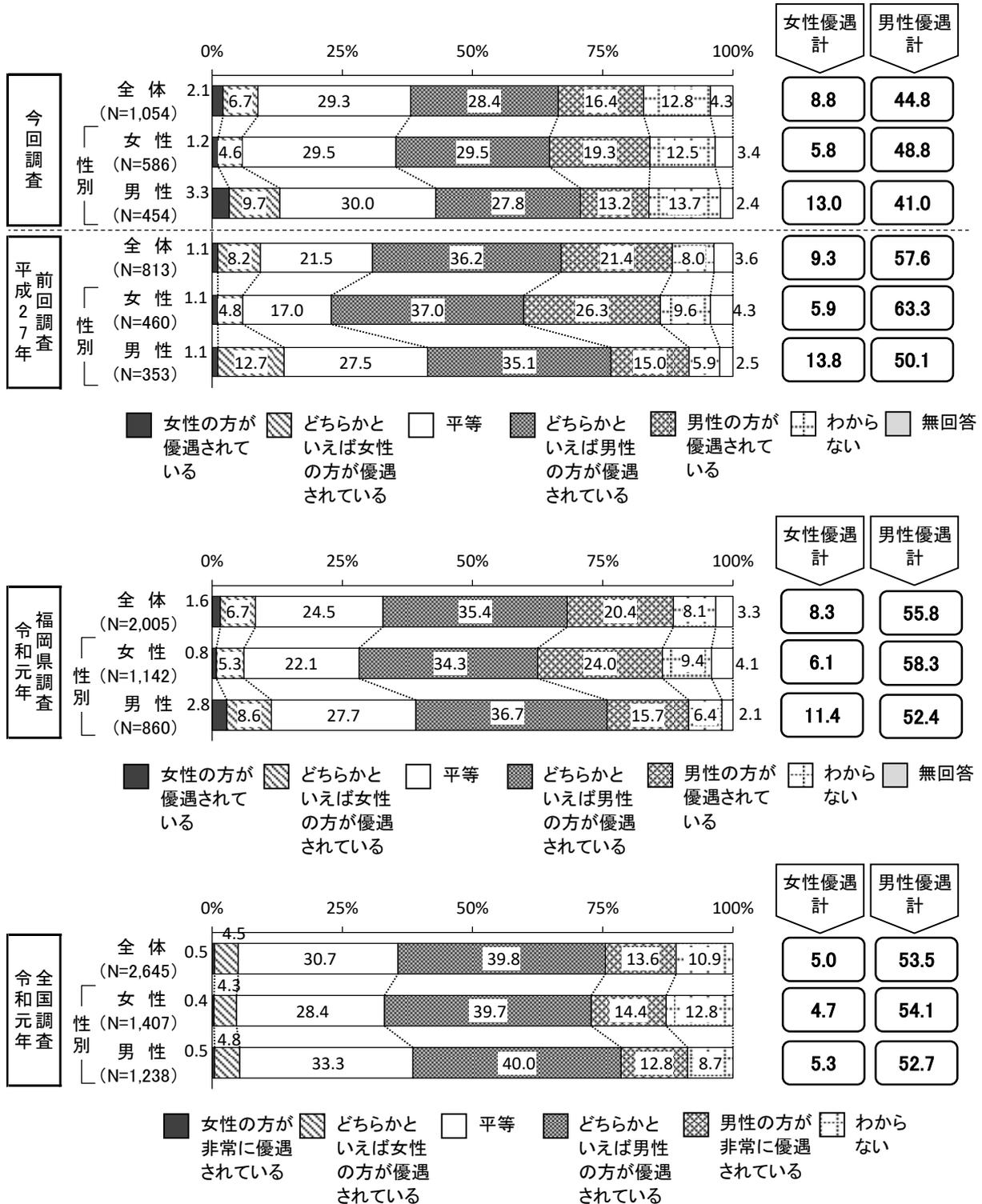
配偶関係別でみると、女性で配偶者がいる人の『男性優遇』は62.4%で未婚(48.0%)よりも14.4ポイント高い。

図表1-6 家庭生活での男女の地位の平等感 [全体、年齢別、配偶関係別]

		標本数	女性の方が優遇	ほぼ女性と男性が優え	平等	ほぼ男性の方が優え	男性の方が優遇	わからない	無回答	『女性優遇』計	『男性優遇』計
全体		1,054 100.0	28 2.7	63 6.0	301 28.6	355 33.7	188 17.8	90 8.5	29 2.8	91 8.7	543 51.5
年齢別	女性:18～29歳	89	6.7	5.6	34.8	27.0	11.2	13.5	1.1	12.3	38.2
	女性:30～39歳	97	1.0	2.1	24.7	33.0	27.8	10.3	1.0	3.1	60.8
	女性:40～49歳	115	5.2	7.8	20.9	34.8	22.6	7.0	1.7	13.0	57.4
	女性:50～59歳	130	-	3.1	22.3	36.9	30.8	6.9	-	3.1	67.7
	女性:60～69歳	78	2.6	3.8	17.9	38.5	29.5	6.4	1.3	6.4	68.0
	女性:70歳以上	76	1.3	5.3	27.6	40.8	17.1	1.3	6.6	6.6	57.9
	男性:18～29歳	65	3.1	9.2	41.5	20.0	10.8	15.4	-	12.3	30.8
	男性:30～39歳	73	4.1	16.4	32.9	24.7	6.8	13.7	1.4	20.5	31.5
	男性:40～49歳	81	3.7	7.4	28.4	33.3	17.3	8.6	1.2	11.1	50.6
	男性:50～59歳	104	1.9	6.7	32.7	42.3	5.8	9.6	1.0	8.6	48.1
	男性:60～69歳	68	1.5	4.4	36.8	35.3	7.4	11.8	2.9	5.9	42.7
	男性:70歳以上	63	1.6	3.2	39.7	38.1	17.5	-	-	4.8	55.6
	無回答	15	-	-	-	-	6.7	-	93.3	-	6.7
配偶関係別	女性:未婚	127	3.1	4.7	28.3	30.7	17.3	15.0	0.8	7.8	48.0
	女性:配偶者がいる	380	2.4	3.9	25.0	36.3	26.1	4.7	1.6	6.3	62.4
	女性:配偶者と死別した	33	3.0	12.1	15.2	30.3	24.2	9.1	6.1	15.1	54.5
	女性:配偶者と離別した	42	2.4	4.8	16.7	38.1	26.2	11.9	-	7.2	64.3
	男性:未婚	145	2.8	9.7	33.1	25.5	11.7	16.6	0.7	12.5	37.2
	男性:配偶者がいる	270	2.6	7.4	37.0	35.9	10.7	5.2	1.1	10.0	46.6
	男性:配偶者と死別した	6	-	-	33.3	66.7	-	-	-	-	66.7
	男性:配偶者と離別した	28	-	7.1	17.9	42.9	7.1	25.0	-	7.1	50.0
	無回答	23	8.7	-	13.0	8.7	-	-	69.6	8.7	8.7

(イ) 職場

図表1-7 職場での男女の地位の平等感 [全体、性別] (前回・福岡県・全国調査比較)



職場での「平等」は29.3%にとどまり、『男性優遇』は44.8%となっている。  
性別で見ると、「平等」は女性では29.5%、男性では30.0%と男女差はほとんどない。『男性優遇』は女性が48.8%、男性が41.0%と女性の方が7.8ポイント高くなっている。

## II 調査結果の分析

前回調査と比べると、女性は「平等」が 12.5 ポイント増え、『男性優遇』が 14.5 ポイント減るなど女性の職場での男性優遇との認識は低くなっている。また、男性も『男性優遇』が 9.1 ポイント減っている。

福岡県調査と比べると、『男性優遇』は男女とも今回調査の方が 9.5～11.4 ポイント低く、「平等」が女性で 7.4 ポイント高い。

全国調査と比べると、「平等」の割合は同程度となっている。

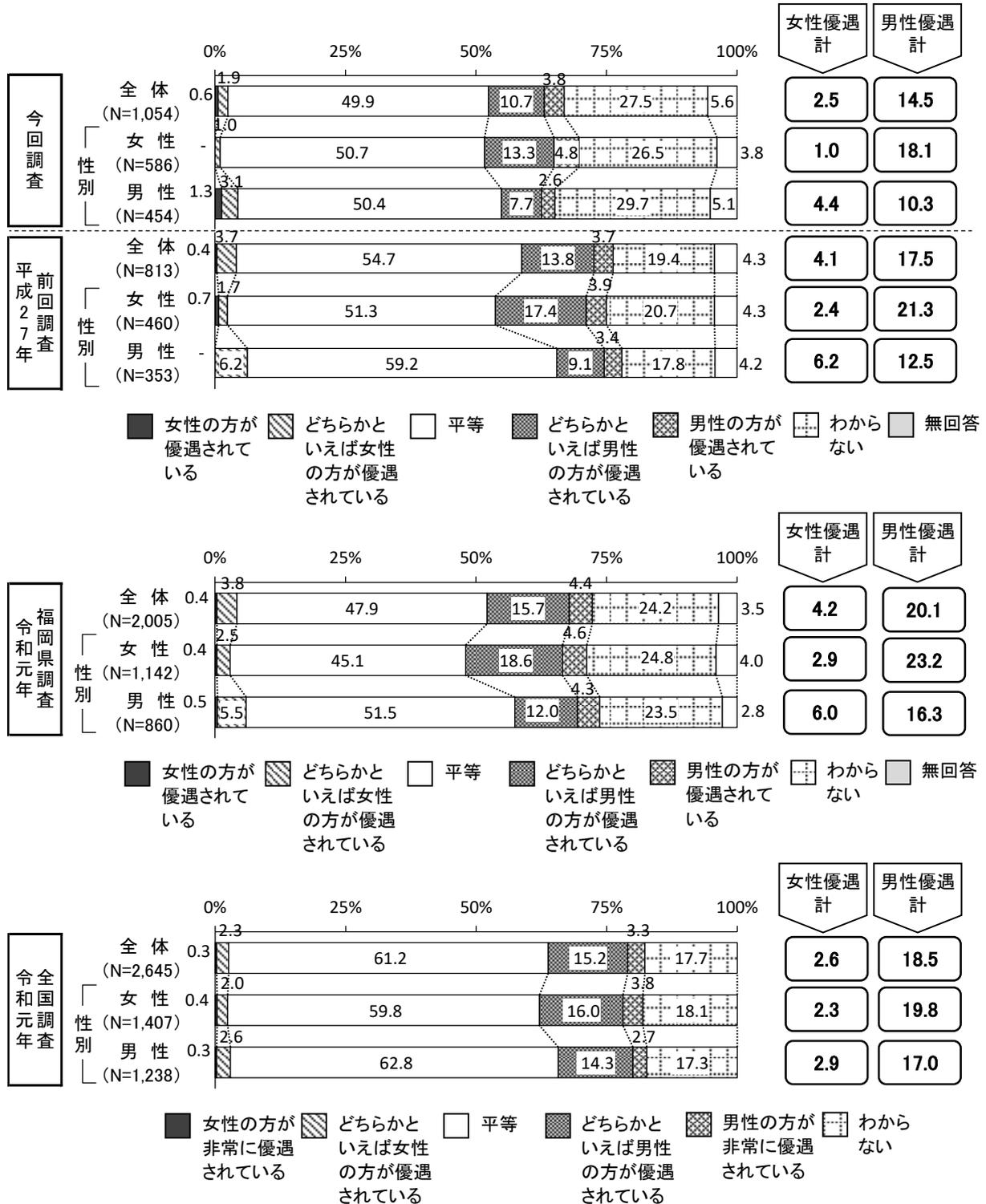
職業の有無別でみると、職業をもっている女性の 48.4%が『男性優遇』としているのに対して男性は 41.4%と女性の方が 7 ポイント高くなっている。他方、「平等」は男女とも 3 割半ばと、以前、もっていたが、いまは職業をもっていない人に比べて約 2 倍となっている。

図表 1－8 職場での男女の地位の平等感 [全体、職業の有無別]

		標本数	女性の方が優遇	どちらかともいえない	平等	どちらかの方が優え	男性の方が優遇	わからない	無回答	『女性優遇』計	『男性優遇』計
全体		1,054 100.0	22 2.1	71 6.7	309 29.3	299 28.4	173 16.4	135 12.8	45 4.3	93 8.8	472 44.8
職業の有無別	女性: 職業をもっている	424	1.4	5.9	34.2	30.0	18.4	8.5	1.7	7.3	48.4
	女性: 以前、職業をもっていたが、いまは職業をもっていない	118	0.8	1.7	12.7	35.6	22.9	20.3	5.9	2.5	58.5
	女性: いままで職業をもったことはない	28	-	-	46.4	7.1	14.3	25.0	7.1	-	21.4
	男性: 職業をもっている	357	3.9	10.6	33.1	28.0	13.4	9.8	1.1	14.5	41.4
	男性: 以前、職業をもっていたが、いまは職業をもっていない	62	-	8.1	16.1	29.0	17.7	24.2	4.8	8.1	46.7
	男性: いままで職業をもったことはない	23	4.3	4.3	26.1	26.1	-	30.4	8.7	8.6	26.1
	無回答	42	-	-	4.8	9.5	11.9	26.2	47.6	-	21.4

(ウ) 学校教育の場

図表1-9 学校教育の場での男女の地位の平等感 [全体、性別] (前回・福岡県・全国調査比較)



学校教育の場では、8分野の中で「平等」(49.9%)の割合が最も高くなっている。ただし、「わからない」(27.5%)も他の分野に比べて高く、学校に関わる機会の少ない人では実際の様子が把握しにくいという状況もうかがえる。

性別で見ると、「平等」は女性が50.7%で、男性(50.4%)とほぼ同程度となっている。

## II 調査結果の分析

前回調査と比べると、男女とも「わからない」が 5.8～11.9 ポイント増加し、「平等」や『男性優遇』の割合は減少している。

福岡県調査と比べると、今回調査の方が女性の「平等」は 5.6 ポイント高くなっている。

全国調査と比べると、今回調査の方が男女とも「平等」が女性で 9.1 ポイント、男性で 12.4 ポイント低い。

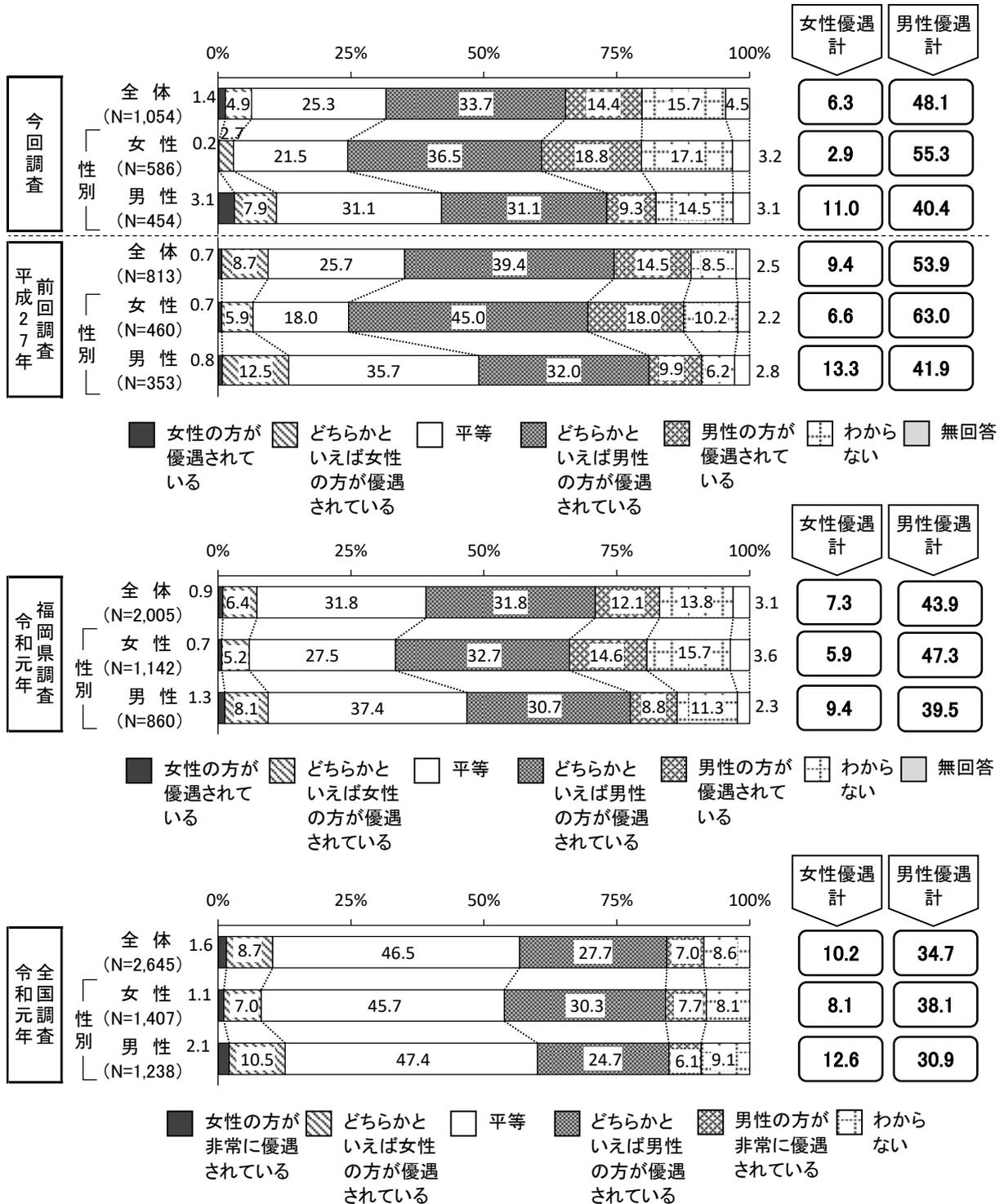
年齢別でみると、「平等」は女性の 18～29 歳で 59.6%と最も高く、次いで男性の 18～29 歳で 55.4%と女性の 40 代以下、男性の 50 代以下で 5 割を超えている。女性の 60 代では『男性優遇』が 28.2%と他の年代に比べて高くなっている。

図表 1-10 学校教育の場での男女の地位の平等感 [全体、年齢別]

		標本数	女性の方が優遇	どちらかという方が優え	平等	どちらかという方が優え	男性の方が優遇	わからない	無回答	『女性優遇』計	『男性優遇』計
全体		1,054 100.0	6 0.6	20 1.9	526 49.9	113 10.7	40 3.8	290 27.5	59 5.6	26 2.5	153 14.5
年齢別	女性:18～29歳	89	-	3.4	59.6	11.2	1.1	23.6	1.1	3.4	12.3
	女性:30～39歳	97	-	-	52.6	15.5	7.2	23.7	1.0	-	22.7
	女性:40～49歳	115	-	-	54.8	10.4	4.3	24.3	6.1	-	14.7
	女性:50～59歳	130	-	1.5	43.8	14.6	4.6	34.6	0.8	1.5	19.2
	女性:60～69歳	78	-	-	44.9	20.5	7.7	24.4	2.6	-	28.2
	女性:70歳以上	76	-	1.3	48.7	7.9	3.9	25.0	13.2	1.3	11.8
	男性:18～29歳	65	4.6	1.5	55.4	6.2	4.6	24.6	3.1	6.1	10.8
	男性:30～39歳	73	-	6.8	50.7	5.5	4.1	30.1	2.7	6.8	9.6
	男性:40～49歳	81	3.7	1.2	53.1	11.1	-	27.2	3.7	4.9	11.1
	男性:50～59歳	104	-	3.8	54.8	8.7	3.8	26.9	1.9	3.8	12.5
	男性:60～69歳	68	-	2.9	44.1	4.4	1.5	36.8	10.3	2.9	5.9
男性:70歳以上	63	-	1.6	41.3	9.5	1.6	34.9	11.1	1.6	11.1	
無回答		15	-	-	6.7	-	-	-	93.3	-	-

(工) 地域活動・社会活動の場

図表1-11 地域活動・社会活動の場での男女の地位の平等感 [全体、性別]  
(前回・福岡県・全国調査比較)



※自治会やPTAなどの地域活動の場

地域活動・社会活動の場では、「平等」は25.3%、『男性優遇』が48.1%となっている。性別で見ると、「平等」は女性が21.5%、男性が31.1%と男性の方が9.6ポイント上回り、『男性優遇』は女性が55.3%、男性が40.4%と女性の方が14.9ポイント男性を上回っている。前回調査と比べると、女性の『男性優遇』は7.7ポイント減少しているが、「平等」は3.5ポ

## II 調査結果の分析

イントの増加にとどまり、「わからない」が6.9ポイント増えている。

福岡県調査と比べると、今回調査の方が男女とも「平等」が約6ポイント低く、『男性優遇』は女性で8ポイント高いなど、女性において県よりも男性優遇との認識が強い。

全国調査と比べると、今回調査の方が男女とも「平等」は16.3～24.2ポイント低く、『男性優遇』は女性で17.2ポイント、男性で9.5ポイント高いなど地域活動・社会活動の場での平等感、男女とも全国と比べると低くなっている。

年齢別でみると、『男性優遇』は女性の60代で67.9%と最も高く、また50代(63.8%)、70歳以上(59.3%)でも6割前後と高い。男性も50代以上で『男性優遇』が4割半ばを超えており、実際に地域活動を行っていると思われる年代で『男性優遇』の割合が高い結果となっている。

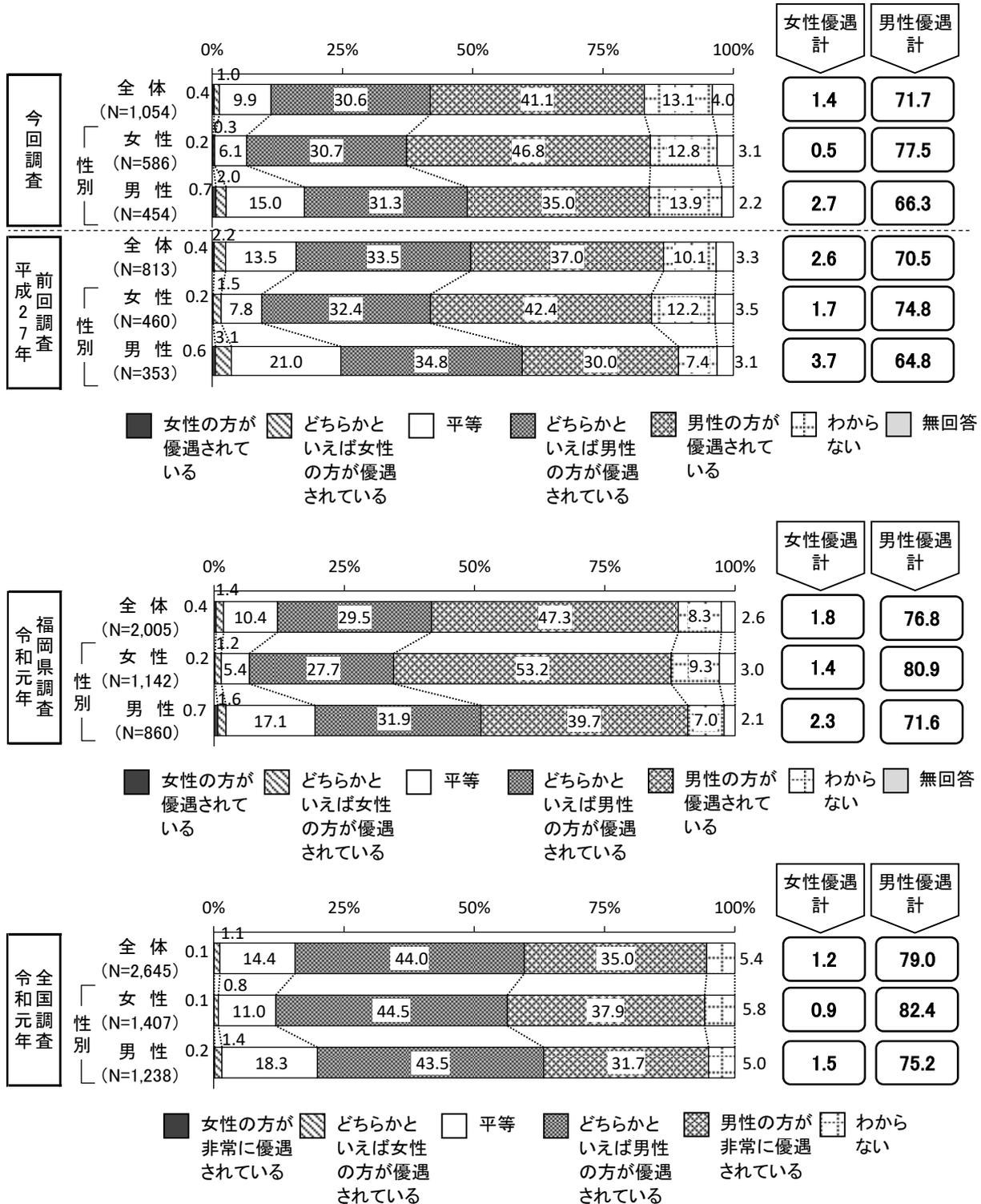
図表1-12 地域活動・社会活動の場での男女の地位の平等感 [全体、年齢別]

(%)

		標本数	女性の方が優遇	女性と男性が同等	男性の方が優遇	わからない	無回答	『女性優遇』計	『男性優遇』計		
全体		1,054	15	52	267	355	152	166	47	67	507
		100.0	1.4	4.9	25.3	33.7	14.4	15.7	4.5	6.3	48.1
年齢別	女性:18～29歳	89	-	2.2	32.6	28.1	11.2	24.7	1.1	2.2	39.3
	女性:30～39歳	97	-	3.1	27.8	24.7	21.6	20.6	2.1	3.1	46.3
	女性:40～49歳	115	-	2.6	19.1	38.3	16.5	20.0	3.5	2.6	54.8
	女性:50～59歳	130	-	3.8	13.8	36.9	26.9	16.2	2.3	3.8	63.8
	女性:60～69歳	78	-	2.6	15.4	48.7	19.2	11.5	2.6	2.6	67.9
	女性:70歳以上	76	1.3	1.3	22.4	46.1	13.2	6.6	9.2	2.6	59.3
	男性:18～29歳	65	3.1	4.6	41.5	13.8	10.8	26.2	-	7.7	24.6
	男性:30～39歳	73	2.7	6.8	39.7	24.7	11.0	15.1	-	9.5	35.7
	男性:40～49歳	81	6.2	4.9	24.7	29.6	8.6	23.5	2.5	11.1	38.2
	男性:50～59歳	104	2.9	9.6	31.7	38.5	7.7	8.7	1.0	12.5	46.2
	男性:60～69歳	68	1.5	14.7	19.1	36.8	8.8	10.3	8.8	16.2	45.6
男性:70歳以上	63	1.6	6.3	30.2	39.7	9.5	4.8	7.9	7.9	49.2	
無回答		15	-	-	6.7	-	-	-	93.3	-	-

(オ) 政治の場

図表1-13 政治の場での男女の地位の平等感 [全体、性別] (前回・福岡県・全国調査比較)



政治の場では、「平等」は9.9%と8分野中分野最も低くなっている。反対に『男性優遇』は71.7%と最も高く、男性優位が強く認識されている分野といえる。

性別で見ると、『男性優遇』は女性で77.5%と男性(66.3%)より11.2ポイント高い。「平等」は女性で6.1%、男性で15.0%と男性の方が8.9ポイント高く、女性で男性優位との認識が強い。

II 調査結果の分析

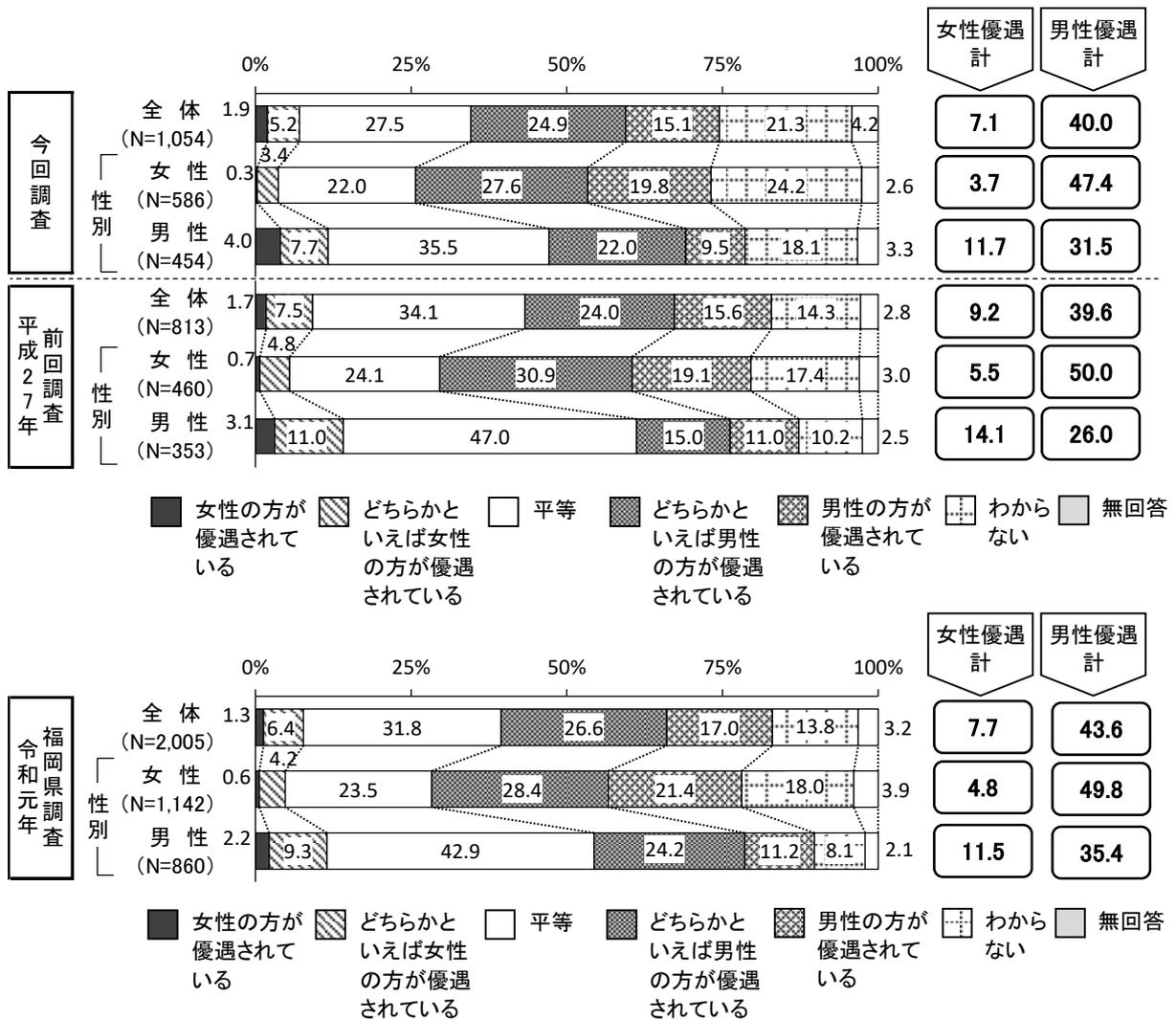
前回調査と比べると、あまり大きな変化はみられないが、男性で「平等」が6ポイント減少している。

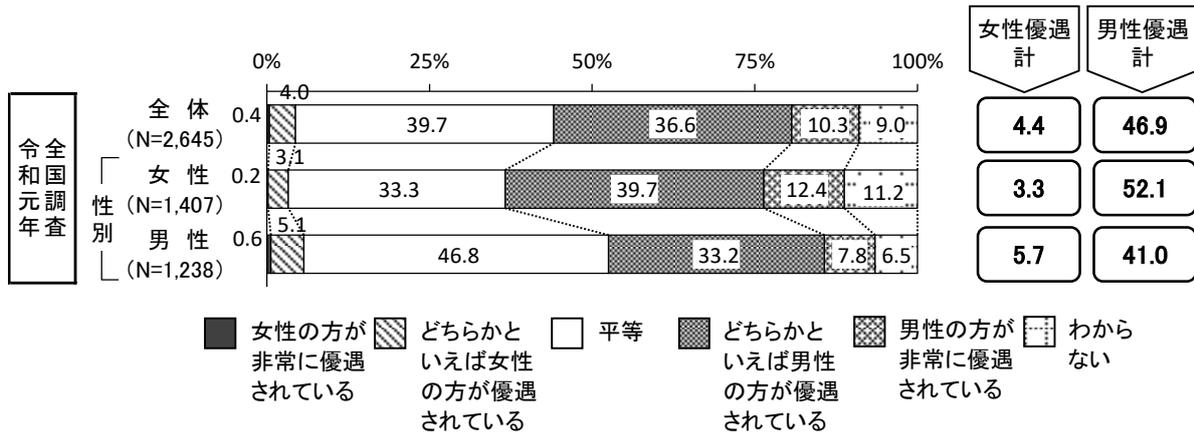
福岡県調査と比べると、今回調査の方が男女とも『男性優遇』の割合がやや低い。

全国調査と比べると、今回調査の方が「平等」は男女とも3.3~4.9ポイント低く、また『男性優遇』も4.9~8.9ポイント低いが、「わからない」の割合が全国の約2倍となっている。

(カ) 法律や制度のうえ

図表1-14 法律や制度のうえでの男女の地位の平等感 [全体、性別] (前回・福岡県・全国調査比較)





法律や制度のうえでの「平等」は27.5%、『男性優遇』は40.0%である。

性別で見ると、「平等」は男性が35.5%に対して女性は22.0%と男性の方が13.5ポイント高く、『男性優遇』は女性が47.4%に対し男性は31.5%と女性の方が15.9ポイント高いなど、男女の認識の差が大きい分野である。

前回調査と比べると、女性はあまり大きな変化はみられないが、男性は「平等」が11.5ポイント減り、『男性優遇』が5.5ポイント増えるなど、男性において男性が優遇されているとの認識が強まっている。

福岡県調査と比べると、女性はほぼ同程度となっている。男性は今回調査の方が「平等」は7.4ポイント低く、「わからない」が10ポイント高い。

全国調査と比べると、今回調査の方が男女とも「平等」は11.3ポイント低く、「わからない」が11.6～13ポイント高くなっている。



性別で見ると、『男性優遇』は女性では75.0%、男性では65.6%と女性の方が9.4ポイント高く、「平等」は女性が7.5%、男性が13.9%と男性の方が6.4ポイント高い。

前回調査と比べると、男女とも『男性優遇』が7.8～10.6ポイント減少しているが、「平等」の割合に変化はみられず、「わからない」が男女とも7.5ポイント増えている。

福岡県調査と比べると、今回調査の方が男女とも『男性優遇』の割合が低く、特に男性では10.4ポイント低い、「わからない」が7.4～7.9ポイント高い。

全国調査と比べると、今回調査の方が男女とも「平等」は11.1～13ポイント低く、『男性優遇』は同程度となっており、今回調査の方が男性優遇と認識されている。

年齢別で見ると、男女とも年齢の高い層で『男性優遇』の割合が高い傾向がみられ、特に女性の60代では8割を超えている。男女とも18～29歳では「平等」が1割半ばから2割強と他の年代に比べて高い。

図表1-16 社会通念・慣習・しきたりなどでの男女の地位の平等感 [全体、年齢別]

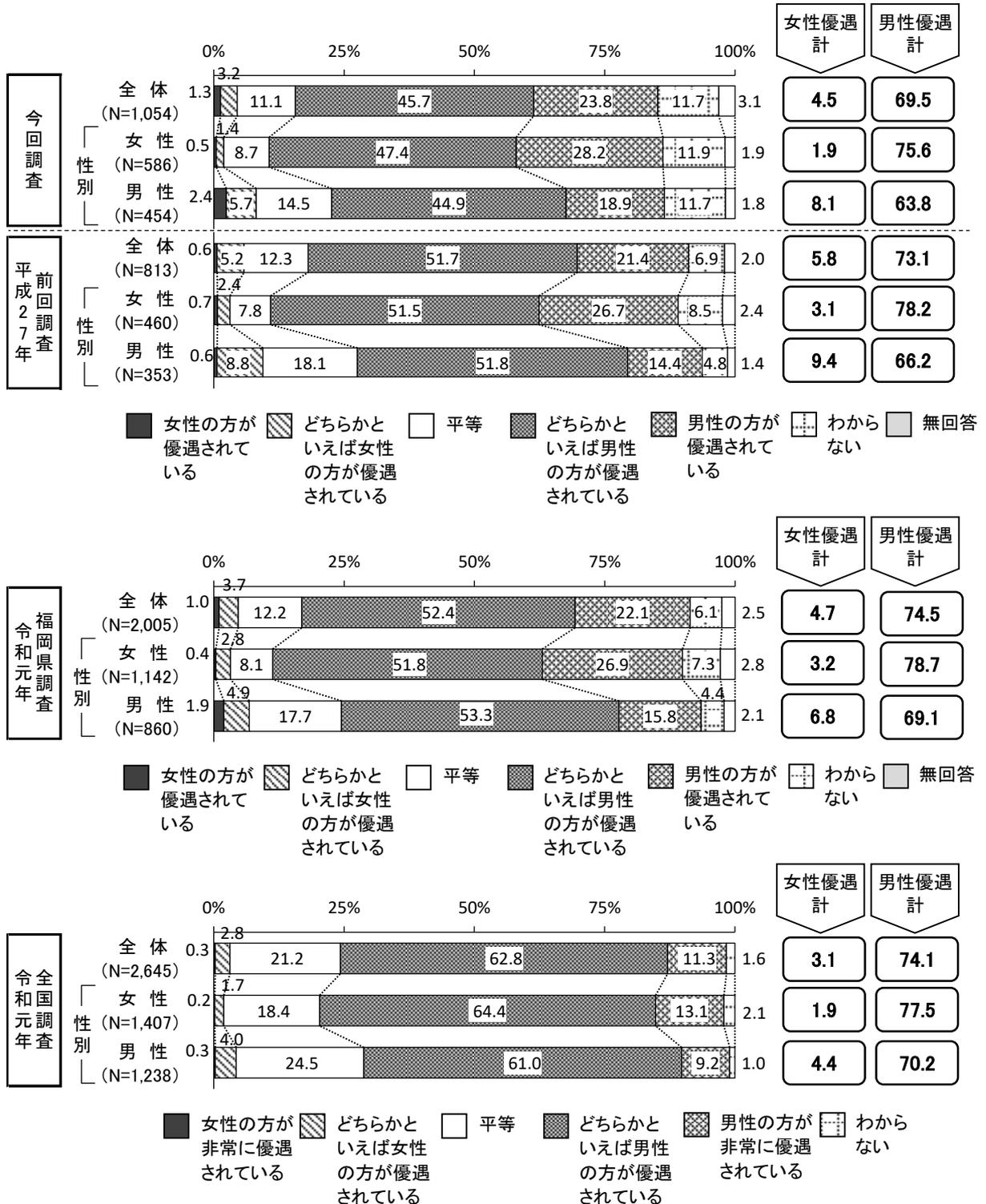
(%)

		標本数	女性の方が優遇	どちらか一方が優え	平等	どちらか一方が優え	男性の方が優遇	わからない	無回答	『女性優遇』計	『男性優遇』計
全体		1,054 100.0	7 0.7	25 2.4	107 10.2	379 36.0	358 34.0	139 13.2	39 3.7	32 3.1	737 70.0
年齢別	女性:18～29歳	89	1.1	-	14.6	25.8	33.7	23.6	1.1	1.1	59.5
	女性:30～39歳	97	-	1.0	6.2	36.1	38.1	18.6	-	1.0	74.2
	女性:40～49歳	115	-	1.7	7.0	36.5	40.0	11.3	3.5	1.7	76.5
	女性:50～59歳	130	-	-	4.6	31.5	47.7	15.4	0.8	-	79.2
	女性:60～69歳	78	-	-	5.1	33.3	50.0	9.0	2.6	-	83.3
	女性:70歳以上	76	-	1.3	9.2	42.1	34.2	3.9	9.2	1.3	76.3
	男性:18～29歳	65	1.5	6.2	21.5	24.6	23.1	21.5	1.5	7.7	47.7
	男性:30～39歳	73	1.4	4.1	16.4	32.9	28.8	16.4	-	5.5	61.7
	男性:40～49歳	81	2.5	4.9	9.9	37.0	32.1	11.1	2.5	7.4	69.1
	男性:50～59歳	104	1.0	6.7	10.6	44.2	26.9	9.6	1.0	7.7	71.1
	男性:60～69歳	68	1.5	2.9	10.3	52.9	19.1	8.8	4.4	4.4	72.0
男性:70歳以上	63	-	1.6	17.5	44.4	23.8	7.9	4.8	1.6	68.2	
無回答		15	-	-	-	-	-	6.7	93.3	-	-

II 調査結果の分析

(ク) 社会全体でみた場合

図表 1-17 社会全体でみた男女の地位の平等感 [全体、性別] (前回・福岡県・全国調査比較)



社会全体で見ると、「平等」は 11.1%にとどまり、『男性優遇』は 69.5%と約7割を占め、男性が優遇される社会ととらえられている。

性別で見ると、『男性優遇』は女性では 75.6%、男性では 63.8%と女性の方が 11.8 ポイント上回っている。

前回調査と比べると、男女とも『男性優遇』『平等』の割合に大きな変化はみられず、「わからない」が男女とも3.4～6.9ポイントとやや増えている。

福岡県調査と比べると、ほぼ同程度となっている。

全国調査と比べると、今回調査の方が男性の『男性優遇』は6.4ポイント低く、「平等」は男女とも9.7～10ポイント低い。

年齢別でみると、『男性優遇』は女性の50代で80.7%と最も高く、また30代と60代でも8割近くとなっている。『女性優遇』は男性の18～29歳で15.4%、50代で11.6%と1割を超え、「平等」は男性の70歳以上で22.2%、30代で19.2%と約2割で他の年代に比べて高くなっている。

図表1-18 社会全体での男女の地位の平等感 [全体、年齢別]

(%)

		標本数	女性の方が優遇	どちらかの方が優え	平等	どちらかの方が優え	男性の方が優遇	わからない	無回答	『女性優遇』計	『男性優遇』計
全体		1,054 100.0	14 1.3	34 3.2	117 11.1	482 45.7	251 23.8	123 11.7	33 3.1	48 4.5	733 69.5
年齢別	女性:18～29歳	89	1.1	2.2	14.6	41.6	21.3	18.0	1.1	3.3	62.9
	女性:30～39歳	97	-	1.0	7.2	54.6	23.7	13.4	-	1.0	78.3
	女性:40～49歳	115	-	0.9	10.4	46.1	29.6	11.3	1.7	0.9	75.7
	女性:50～59歳	130	-	0.8	4.6	46.9	33.8	13.8	-	0.8	80.7
	女性:60～69歳	78	1.3	2.6	6.4	44.9	34.6	9.0	1.3	3.9	79.5
	女性:70歳以上	76	1.3	1.3	9.2	51.3	23.7	3.9	9.2	2.6	75.0
	男性:18～29歳	65	6.2	9.2	13.8	32.3	20.0	16.9	1.5	15.4	52.3
	男性:30～39歳	73	2.7	4.1	19.2	46.6	17.8	9.6	-	6.8	64.4
	男性:40～49歳	81	4.9	4.9	9.9	46.9	16.0	14.8	2.5	9.8	62.9
	男性:50～59歳	104	1.0	10.6	12.5	47.1	21.2	6.7	1.0	11.6	68.3
	男性:60～69歳	68	-	1.5	11.8	54.4	16.2	13.2	2.9	1.5	70.6
	男性:70歳以上	63	-	1.6	22.2	39.7	22.2	11.1	3.2	1.6	61.9
無回答		15	-	-	6.7	-	-	-	93.3	-	-

## 第2章 家庭生活について

### 1. 家庭内における性別役割分担の状況

#### (1) 家庭内の役割分担の状況

- 家庭内の仕事で『夫中心』が高いのは「生活費を稼ぐ」が6割半ば、「自治会・町内会などの地域活動」が4割半ば。
- 『妻中心』が高いのは「炊事、掃除、洗濯などの家事」が8割半ば、「家計支出の管理」6割半ば、「育児、子どものしつけ」が5割弱、「親の介護」が約2割。
- 「同じ程度分担」が高いのは「子どもの教育方針や進路目標の決定」が4割強。「高額の商品や土地・家屋の決定」「家庭内の問題における最終決定」は『夫中心』が4割強あるものの「同じ程度に分担」も3割強から4割強ある。

〔配偶者（パートナー）と同居している方におたずねします〕

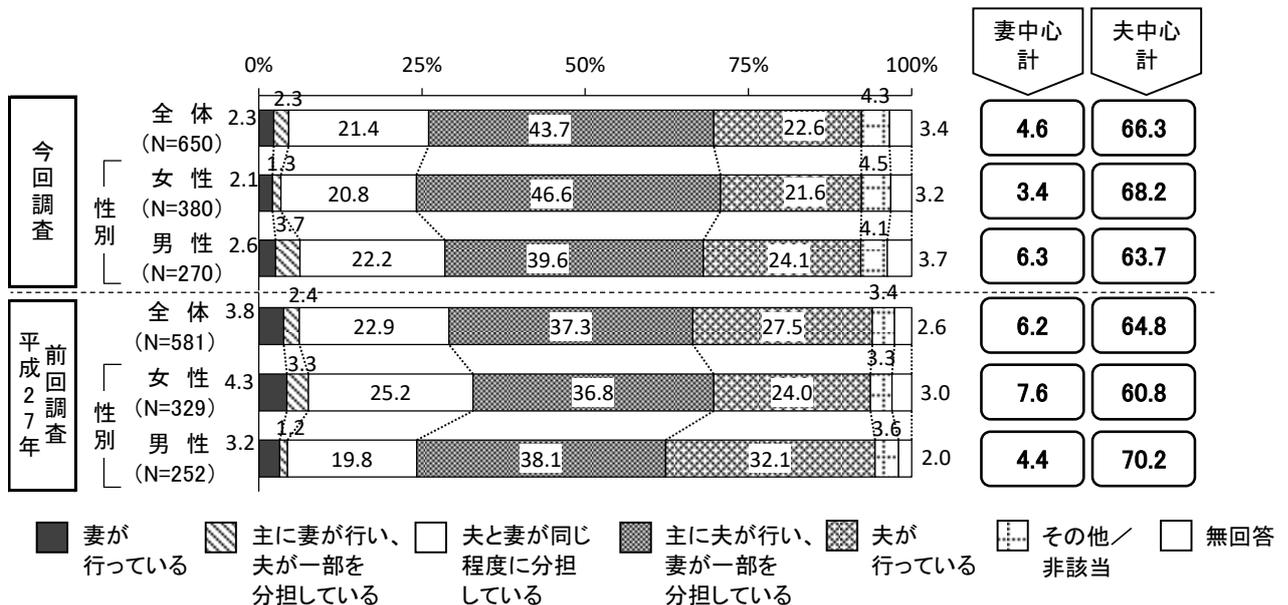
問4. あなたのご家庭では、次にあげるような家庭内の仕事を、主にどなたがしていますか。（ア）から（ケ）のそれぞれについて、最もあてはまるものを選んでください。（○印は1つずつ）

家庭内での男女の役割分担に関する9つの項目について、配偶者（パートナー）と同居している650名に5段階でたずねた。

「妻が行っている」と「主に妻が行い、夫が一部を分担している」との合計を『妻中心』、「夫が行っている」と「主に夫が行い、妻が一部を分担している」との合計を『夫中心』、「夫と妻が同じ程度に分担している」を「同じ程度に分担」とする。

#### (ア) 生活費を稼ぐ

図表2-1 生活費を稼ぐ〔全体、性別〕（前回調査比較）



生活費を稼ぐことについては、『夫中心』は66.3%で、「同じ程度に分担」は21.4%、『妻中心』は4.6%となっており、生活費を稼ぐのは、主に夫の役割とされていることがうかがえる。

性別でみると、あまり大きな差はみられないが、『夫中心』は男性の方が4.5ポイント低くなっている。

前回調査と比べると、女性は「同じ程度に分担」が4.4ポイント減り、『夫中心』が7.4ポイント増えていることから、生活費を稼ぐのは夫の役割という傾向が強くなっている。反対に男性は『夫中心』が6.5ポイント減り、『妻中心』や「同じ程度に分担」がやや増えている。

年齢別でみると、女性の18～29歳で「同じ程度に分担」が31.6%と高く、男性の30代と40代でも3割前後みられる。『夫中心』は男性の18～29歳で85.8%と最も高く、女性では40代で79.7%と高い。

共働き別でみると、女性の共働きでは「同じ程度に分担」は25.2%、男性でも33.6%で、『夫中心』は女性が70.9%、男性が61.1%と高い。女性が働いていても生活費を稼ぐのは夫の役割となっている。

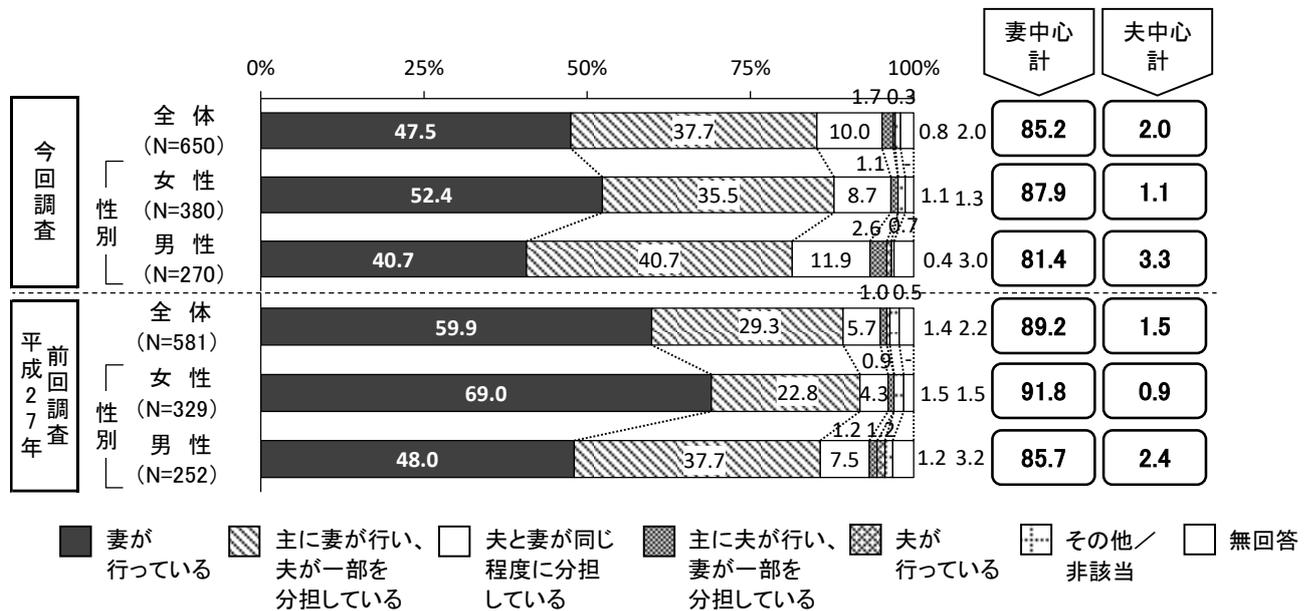
図表2-2 生活費を稼ぐ〔全体、年齢別、共働き別〕

		標本数	妻が行っている	一部に妻が分担している、夫が	夫と妻が同じ程度に	一部に夫が分担している、妻が	夫が行っている	その他／非該当	無回答	『妻中心』計	『夫中心』計
全体		650	15	15	139	284	147	28	22	30	431
		100.0	2.3	2.3	21.4	43.7	22.6	4.3	3.4	4.6	66.3
年齢別	女性:18～29歳	19	-	-	31.6	5.3	52.6	-	10.5	-	57.9
	女性:30～39歳	72	2.8	-	22.2	52.8	19.4	1.4	1.4	2.8	72.2
	女性:40～49歳	84	-	1.2	19.0	60.7	19.0	-	-	1.2	79.7
	女性:50～59歳	96	2.1	1.0	24.0	51.0	17.7	3.1	1.0	3.1	68.7
	女性:60～69歳	55	3.6	3.6	21.8	41.8	16.4	9.1	3.6	7.2	58.2
	女性:70歳以上	54	3.7	1.9	11.1	27.8	29.6	14.8	11.1	5.6	57.4
	男性:18～29歳	7	-	-	14.3	42.9	42.9	-	-	-	85.8
	男性:30～39歳	36	-	5.6	30.6	27.8	33.3	-	2.8	5.6	61.1
	男性:40～49歳	44	-	2.3	27.3	45.5	25.0	-	-	2.3	70.5
	男性:50～59歳	75	2.7	2.7	22.7	42.7	22.7	1.3	5.3	5.4	65.4
	男性:60～69歳	55	7.3	5.5	21.8	36.4	25.5	-	3.6	12.8	61.9
	男性:70歳以上	53	1.9	3.8	13.2	41.5	15.1	18.9	5.7	5.7	56.6
無回答		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
共働き別	女性:共働き	234	1.3	0.4	25.2	61.1	9.8	1.3	0.9	1.7	70.9
	女性:片働き	66	6.1	4.5	4.5	16.7	65.2	3.0	-	10.6	81.9
	女性:その他	31	3.2	-	32.3	29.0	19.4	9.7	6.5	3.2	48.4
	女性:二人とも働いていない	39	-	2.6	10.3	28.2	23.1	23.1	12.8	2.6	51.3
	男性:共働き	152	-	2.6	33.6	49.3	11.8	-	2.6	2.6	61.1
	男性:片働き	74	9.5	5.4	4.1	17.6	54.1	2.7	6.8	14.9	71.7
	男性:その他	13	-	-	30.8	53.8	7.7	-	7.7	-	61.5
	男性:二人とも働いていない	27	-	7.4	3.7	33.3	22.2	33.3	-	7.4	55.5
無回答		14	-	-	28.6	42.9	7.1	-	21.4	-	50.0

II 調査結果の分析

(イ) 炊事、掃除、洗濯などの家事

図表 2-3 炊事、掃除、洗濯などの家事 [全体、性別] (前回調査比較)



炊事、掃除、洗濯などの家事をすることについては、『妻中心』は 85.2%と高く、次いで「同じ程度に分担」は 10.0%、『夫中心』は 2.0%とわずかである。生活費を稼ぐ役割が夫に偏っていたが、それ以上に家事は妻に偏っている。

性別で見ると、女性の方が「妻が行っている」が 52.4%と、男性 (40.7%) より 11.7 ポイント高く、「主に妻が行い、夫が一部を分担している」は女性 35.5%、男性 40.7%と、男性が 5.2 ポイント高い。妻の多くは自分が中心に家事を担っていると認識しているが、夫の約 4 割は家事を一部分担していると認識しており、男女間での認識にずれがみられる。

前回調査と比べると、「妻が行っている」は女性で 16.6 ポイント減少し、「主に妻が行い、夫が一部を分担している」が 12.7 ポイント増えている。また、男性では『妻中心』が 4.3 ポイント減り、「同じ程度分担」が 4.4 ポイント増えている。炊事、掃除、洗濯などの家事は依然として妻の役割とする割合が高いが、夫が一部を分担して行うという傾向は前回調査より高くなっている。

年齢別でみると、男女とも年齢が高い層で『妻中心』の割合が高い傾向がみられる。

共働き別でみると、男女とも『妻中心』の割合に共働き、片働きでの割合に大差はみられず、女性で9割前後、男性で8割前後となっている。「同じ程度に分担」も共働きで1割台と片働きよりやや高い程度にとどまっており、共働きでも炊事、掃除、洗濯などの家事は依然として妻の役割となっている様子がうかがえる。

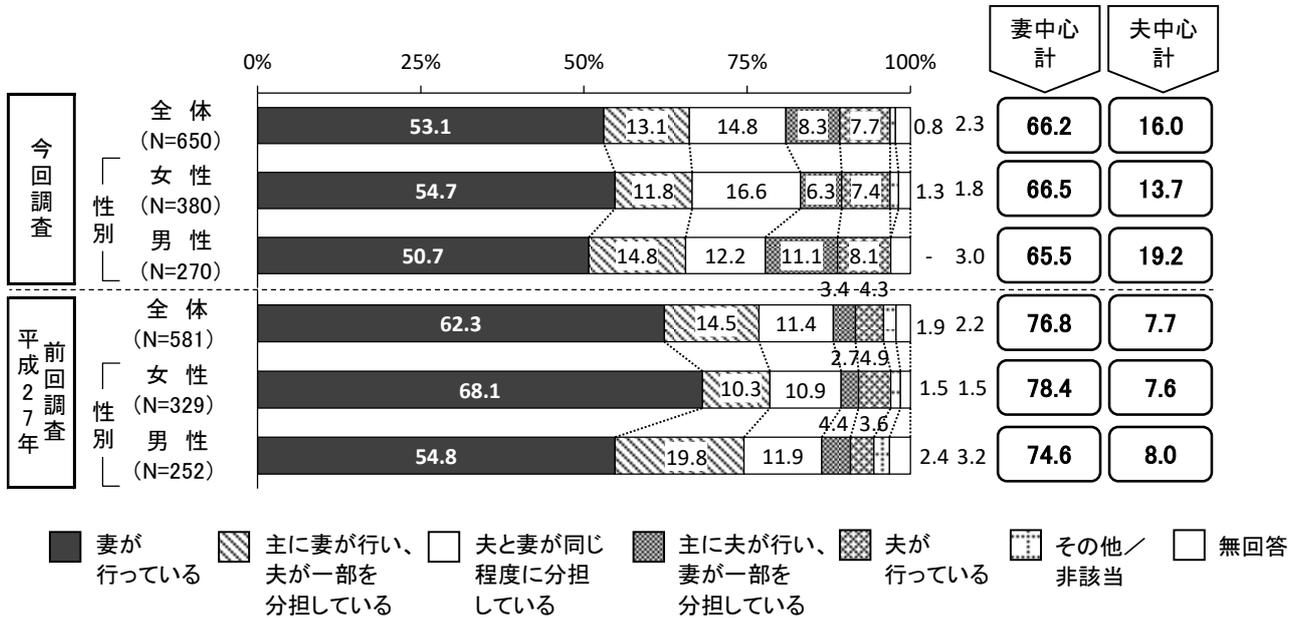
図表2-4 炊事、掃除、洗濯などの家事をする〔全体、年齢別、共働き別〕

		標本数	妻が行っている	主に妻が担行しているが一部を夫が	夫と妻が同じ程度に分担している	主に夫が担行しているが一部を妻が	夫が行っている	その他／非該当	無回答	『妻中心』計	『夫中心』計
全体		650 100.0	309 47.5	245 37.7	65 10.0	11 1.7	2 0.3	5 0.8	13 2.0	554 85.2	13 2.0
年齢別	女性:18~29歳	19	47.4	31.6	10.5	-	-	5.3	5.3	79.0	-
	女性:30~39歳	72	38.9	48.6	9.7	-	-	1.4	1.4	87.5	-
	女性:40~49歳	84	46.4	40.5	13.1	-	-	-	-	86.9	-
	女性:50~59歳	96	54.2	32.3	9.4	2.1	-	2.1	-	86.5	2.1
	女性:60~69歳	55	61.8	27.3	5.5	3.6	-	-	1.8	89.1	3.6
	女性:70歳以上	54	68.5	25.9	1.9	-	-	-	3.7	94.4	-
	男性:18~29歳	7	28.6	71.4	-	-	-	-	-	100.0	-
	男性:30~39歳	36	33.3	41.7	16.7	2.8	2.8	-	2.8	75.0	5.6
	男性:40~49歳	44	34.1	45.5	13.6	6.8	-	-	-	79.6	6.8
	男性:50~59歳	75	38.7	42.7	9.3	1.3	1.3	1.3	5.3	81.4	2.6
	男性:60~69歳	55	38.2	45.5	12.7	1.8	-	-	1.8	83.7	1.8
	男性:70歳以上	53	58.5	24.5	11.3	1.9	-	-	3.8	83.0	1.9
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
共働き別	女性:共働き	234	46.2	41.0	10.3	0.9	-	0.9	0.9	87.2	0.9
	女性:片働き	66	62.1	28.8	4.5	1.5	-	1.5	1.5	90.9	1.5
	女性:その他	31	54.8	25.8	12.9	-	-	3.2	3.2	80.6	-
	女性:二人とも働いていない	39	74.4	20.5	2.6	2.6	-	-	-	94.9	2.6
	男性:共働き	152	32.2	47.4	13.2	3.3	0.7	0.7	2.6	79.6	4.0
	男性:片働き	74	45.9	36.5	9.5	2.7	1.4	-	4.1	82.4	4.1
	男性:その他	13	53.8	23.1	15.4	-	-	-	7.7	76.9	-
	男性:二人とも働いていない	27	63.0	29.6	7.4	-	-	-	-	92.6	-
	無回答	14	50.0	28.6	14.3	-	-	-	7.1	78.6	-

II 調査結果の分析

(ウ) 家計支出の管理

図表 2-5 家計支出の管理 [全体、性別] (前回調査比較)



家計支出の管理については、『妻中心』が66.2%と高く、『夫中心』は16.0%、「同じ程度に分担」は14.8%である。日々の家計支出の管理も妻が中心で行っている割合が高い。

性別で見ると、『妻中心』は女性で66.5%と高いものの男性も65.5%と男性も妻が行っていると認識している。「同じ程度に分担」は女性の方が、『夫中心』は男性の方がやや割合が高い。

前回調査と比べると、男女とも『妻中心』が9.1~11.9ポイント減少し、そのうち特に女性では「妻が行っている」は13.4ポイント減少している。また、男女とも「同じ程度に分担」がやや増加しており、日々の家計の管理については前回調査よりもやや夫が分担する傾向がみられる。

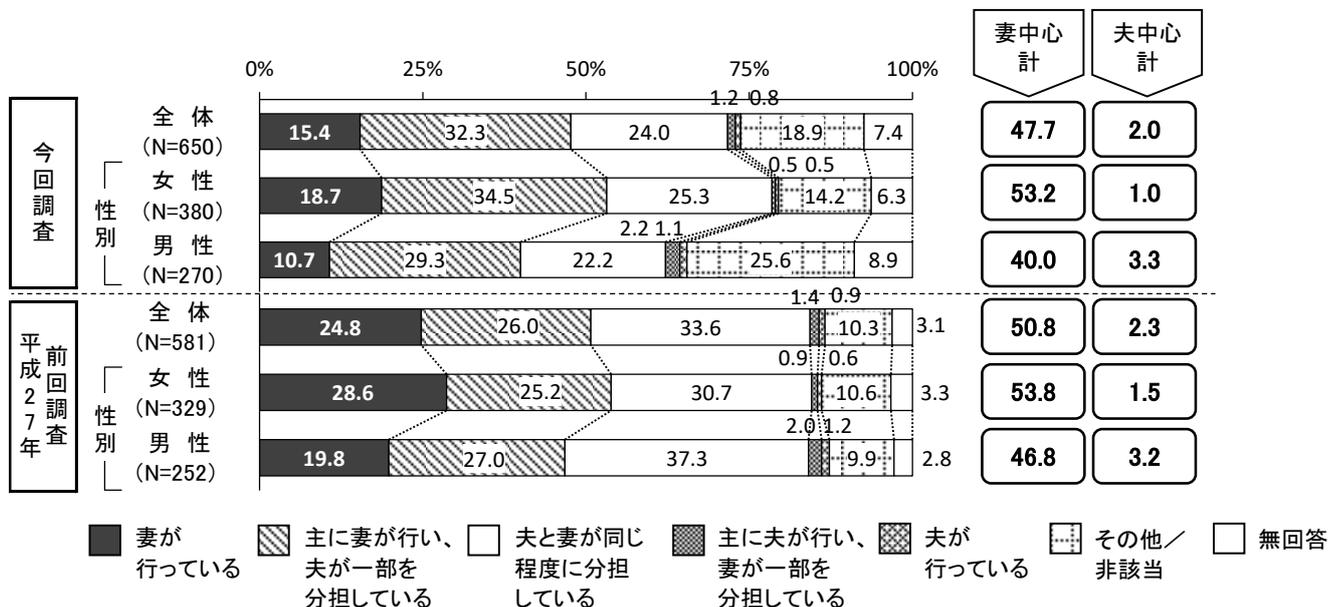
共働き別で見ると、男女とも『妻中心』『同じ程度に分担』の割合に共働き、片働きでの割合に大差はみられない。

図表 2-6 家計支出の管理 [全体、共働き別]

		標本数	妻が行っている	一主 部に妻が 分担して いる	分夫 と妻が 同じ程 度に	一主 部に夫が 分担して いる	夫が 行っている	その他 /非該当	無 回答	妻 中心 計	夫 中心 計
全体		650	345	85	96	54	50	5	15	430	104
		100.0	53.1	13.1	14.8	8.3	7.7	0.8	2.3	66.2	16.0
共 働 き 別	女性:共働き	234	56.0	11.1	17.5	6.8	5.6	1.7	1.3	67.1	12.4
	女性:片働き	66	51.5	15.2	16.7	6.1	10.6	-	-	66.7	16.7
	女性:その他	31	48.4	16.1	19.4	6.5	6.5	-	3.2	64.5	13.0
	女性:二人とも働いていない	39	61.5	10.3	7.7	2.6	15.4	-	2.6	71.8	18.0
	男性:共働き	152	53.3	13.8	11.8	10.5	7.9	-	2.6	67.1	18.4
	男性:片働き	74	52.7	14.9	8.1	9.5	10.8	-	4.1	67.6	20.3
	男性:その他	13	38.5	15.4	7.7	23.1	7.7	-	7.7	53.9	30.8
	男性:二人とも働いていない	27	44.4	18.5	22.2	11.1	3.7	-	-	62.9	14.8
無回答		14	28.6	7.1	28.6	14.3	-	7.1	14.3	35.7	14.3

(エ) 育児、子どものしつけ

図表2-7 育児、子どものしつけ [全体、性別] (前回調査比較)



育児、子どものしつけをすることについては、『妻中心』が47.7%、「同じ程度に分担」は24.0%、『夫中心』は2.0%となっている。なお、育児やしつけを必要とする子どもがない「その他/非該当」が18.9%あり、この割合を除いて考えると妻に偏っていると見えるが、「同じ程度に分担」の割合は炊事、掃除などの家事や家計の管理の場合よりも高く、夫も担っている様子がうかがえる。

性別で見ると、『妻中心』(女性53.2%、男性40.0%)は女性が13.2ポイント高いものの、「同じ程度に分担」(同25.3%、22.2%)は同程度となっている。

前回調査と比べると、男性で『妻中心』の割合は6.8ポイント減少しているが、「その他/非該当」が15.7ポイント増え、「同じ程度に分担」は15.1ポイント減少する結果となっている。また、女性では『妻中心』の割合に変化はないが、「その他/非該当」が3.6ポイント増え、「同じ程度に分担」は5.4ポイント減少する結果となっている。

II 調査結果の分析

年齢別でみると、『妻中心』は女性の40代で63.0%と最も高く、また30代でも59.7%と50代以下で5割を超えている。また、男性では40代と50代で5割を超えている。「同じ程度に分担」は女性の50代以下で2割半ばから3割強、男性の40代以下で3割強から4割強と子どもに手が掛かると思われる年代では育児を分担して行う一方で、妻に偏る場合も多いようである。

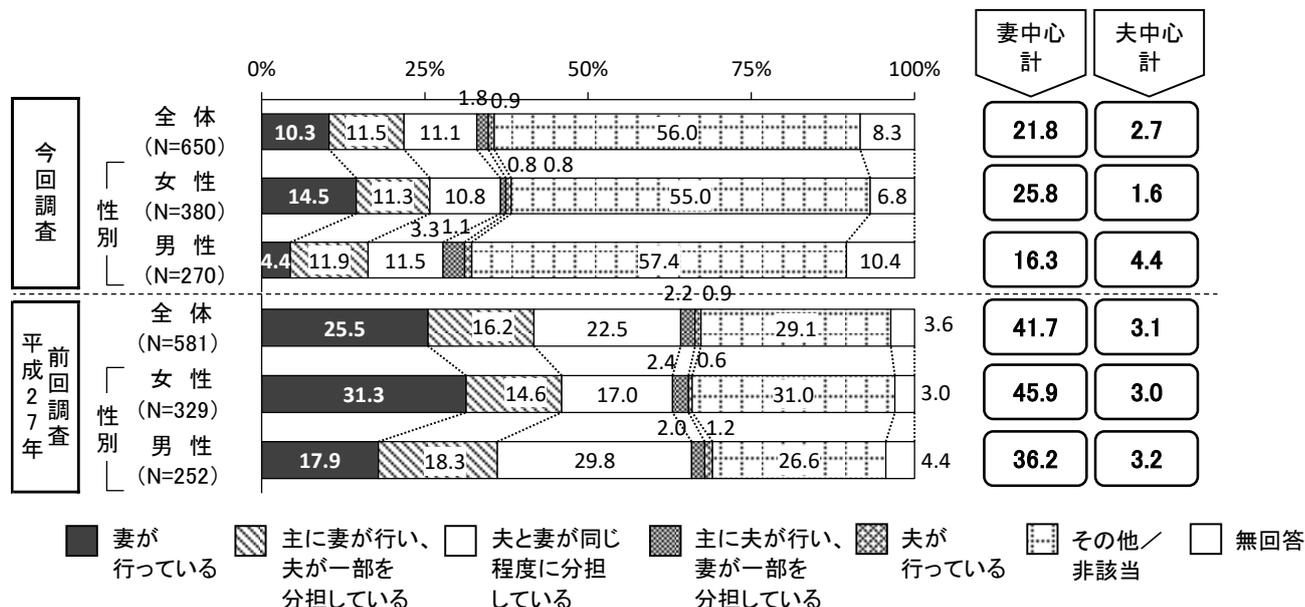
同居家族別でみると、女性で乳幼児がいる場合『妻中心』は66.7%と最も高く、未就学児や小・中学生がいる場合でも6割強となっている。男性では未就学児がいる場合『妻中心』が66.7%と最も高いが、乳幼児や小・中学生では5割台で、「同じ程度に分担」が3割半ばから4割近くとなっている。実際に手のかかる子どもがいる場合、女性は自分が行っている、男性は分担して行っているという認識が強いようである。

図表2-8 育児、子どものしつけ [全体、年齢別、同居家族別]

			妻が行っている	一部に妻が担行して、夫が	夫と妻が同じ程度に	一部に夫が担行して、妻が	夫が行っている	その他／非該当	無回答	妻中心』計	夫中心』計
		標本数								(%)	(%)
全体		650	100	210	156	8	5	123	48	310	13
		100.0	15.4	32.3	24.0	1.2	0.8	18.9	7.4	47.7	2.0
年齢別	女性:18~29歳	19	10.5	42.1	26.3	-	-	5.3	15.8	52.6	-
	女性:30~39歳	72	13.9	45.8	30.6	-	-	8.3	1.4	59.7	-
	女性:40~49歳	84	19.0	44.0	28.6	-	-	7.1	1.2	63.0	-
	女性:50~59歳	96	30.2	26.0	25.0	-	-	16.7	2.1	56.2	-
	女性:60~69歳	55	14.5	34.5	18.2	3.6	3.6	18.2	7.3	49.0	7.2
	女性:70歳以上	54	11.1	16.7	20.4	-	-	27.8	24.1	27.8	-
	男性:18~29歳	7	14.3	-	42.9	-	-	42.9	-	14.3	-
	男性:30~39歳	36	8.3	33.3	30.6	-	2.8	19.4	5.6	41.6	2.8
	男性:40~49歳	44	13.6	40.9	31.8	2.3	-	11.4	-	54.5	2.3
	男性:50~59歳	75	12.0	41.3	16.0	2.7	1.3	21.3	5.3	53.3	4.0
	男性:60~69歳	55	3.6	14.5	25.5	3.6	1.8	38.2	12.7	18.1	5.4
	男性:70歳以上	53	15.1	18.9	11.3	1.9	-	32.1	20.8	34.0	1.9
無回答		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
同居家族別	女性:乳幼児(3歳未満)	54	13.0	53.7	27.8	-	-	3.7	1.9	66.7	-
	女性:未就学児	45	13.3	48.9	35.6	-	-	-	2.2	62.2	-
	女性:小・中学生	112	17.0	45.5	36.6	-	-	-	0.9	62.5	-
	女性:高校生	42	26.2	35.7	35.7	-	-	2.4	-	61.9	-
	女性:専門学校生	7	-	57.1	28.6	-	-	14.3	-	57.1	-
	女性:大学生・短大生	26	38.5	23.1	30.8	-	-	3.8	3.8	61.6	-
	女性:65歳以上	167	16.8	35.9	22.2	-	1.2	15.0	9.0	52.7	1.2
	女性:上記以外の人	167	19.2	28.1	25.1	1.2	0.6	21.0	4.8	47.3	1.8
	男性:乳幼児(3歳未満)	25	12.0	40.0	36.0	4.0	4.0	4.0	-	52.0	8.0
	男性:未就学児	21	4.8	61.9	33.3	-	-	-	-	66.7	-
	男性:小・中学生	57	12.3	42.1	38.6	1.8	1.8	-	3.5	54.4	3.6
	男性:高校生	28	10.7	32.1	46.4	7.1	-	-	3.6	42.8	7.1
	男性:専門学校生	9	11.1	44.4	33.3	-	-	-	11.1	55.5	-
	男性:大学生・短大生	20	15.0	40.0	25.0	5.0	-	10.0	5.0	55.0	5.0
	男性:65歳以上	133	9.0	26.3	20.3	2.3	-	29.3	12.8	35.3	2.3
	男性:上記以外の人	121	9.9	29.8	18.2	1.7	2.5	31.4	6.6	39.7	4.2
無回答		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(オ) 親の介護

図表2-9 親の介護 [全体、性別] (前回調査比較)



親の介護については、『妻中心』が21.8%で、「同じ程度に分担」は11.1%、『夫中心』は2.7%となっている。なお、要介護者が家庭にいない「その他/非該当」が56.0%と高くなっており、この割合を除いて考えると介護は妻に偏っているといえる。

性別で見ると、『妻中心』(女性25.8%、男性16.3%)は女性の方が9.5ポイント高く、特に女性は「妻が行っている」(同14.5%、4.4%)が男性よりも10.1ポイント高くなっている。

前回調査と比べると、男女とも『妻中心』が19.9~20.1ポイント減少し、「その他/非該当」が24~30.8ポイント増えている。

## II 調査結果の分析

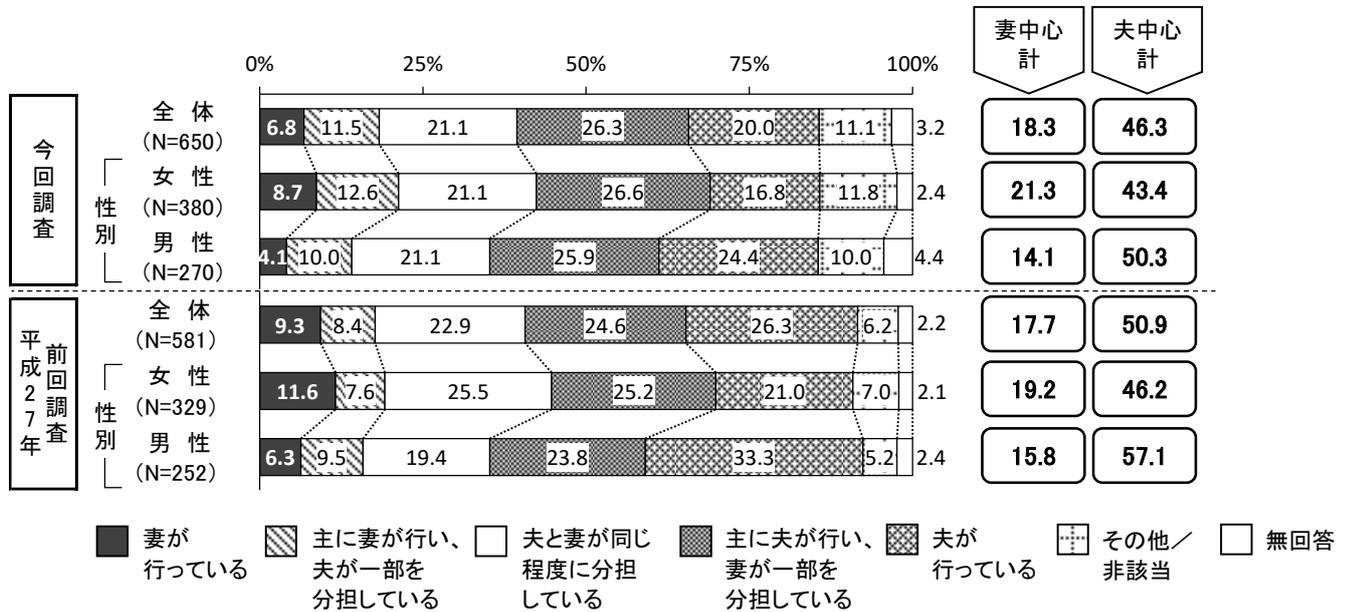
年齢別でみると、女性の60代で『妻中心』が45.5%と最も高く、そのうち「妻が行っている」は27.3%と他の年代に比べて高くなっている。また、50代と70歳以上でも『妻中心』は3割台、そのうち「妻が行っている」は1割半ばと高い。男性の50代では『妻中心』は26.7%と男性の中では最も高くなっている。親の介護が必要な年代では、主に妻が担っている現状がうかがえる。

図表2-10 親の介護 [全体、年齢別]

		標本数	妻が行っている	一部に妻が分擔している、夫が	夫と妻が同じ程度に分擔している	一部に夫が分擔している、妻が	夫が行っている	その他／非該当	無回答	『妻中心』計	『夫中心』計
全体		650 100.0	67 10.3	75 11.5	72 11.1	12 1.8	6 0.9	364 56.0	54 8.3	142 21.8	18 2.7
年齢別	女性:18～29歳	19	-	-	21.1	-	-	63.2	15.8	-	-
	女性:30～39歳	72	8.3	1.4	5.6	-	1.4	81.9	1.4	9.7	1.4
	女性:40～49歳	84	9.5	9.5	8.3	-	-	69.0	3.6	19.0	-
	女性:50～59歳	96	17.7	15.6	13.5	1.0	1.0	46.9	4.2	33.3	2.0
	女性:60～69歳	55	27.3	18.2	18.2	1.8	1.8	27.3	5.5	45.5	3.6
	女性:70歳以上	54	16.7	16.7	5.6	1.9	-	37.0	22.2	33.4	1.9
	男性:18～29歳	7	-	-	14.3	-	-	85.7	-	-	-
	男性:30～39歳	36	-	2.8	11.1	2.8	-	75.0	8.3	2.8	2.8
	男性:40～49歳	44	4.5	9.1	11.4	2.3	-	72.7	-	13.6	2.3
	男性:50～59歳	75	8.0	18.7	12.0	4.0	2.7	49.3	5.3	26.7	6.7
男性:60～69歳	55	-	21.8	10.9	5.5	-	47.3	14.5	21.8	5.5	
男性:70歳以上	53	7.5	1.9	11.3	1.9	1.9	50.9	24.5	9.4	3.8	
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(カ) 自治会・町内会などの地域活動への参加

図表2-11 自治会・町内会などの地域活動への参加〔全体、性別〕(前回調査比較)



自治会・町内会などの地域活動への参加については、『夫中心』は46.3%と最も高く、次いで「同じ程度に分担」が21.1%、『妻中心』が18.3%となっており、地域活動については男性が行っている場合が多い。

性別でみると、女性は『妻中心』（女性21.3%、男性14.1%）の割合が男性よりも7.2ポイント高く、男性は『夫中心』（同43.4%、50.3%）の割合が女性よりも6.9ポイント高いなど、男女とも自分が行っているという認識が強い。

前回調査と比べると、男女とも『夫中心』の割合が2.8~6.8ポイント減り、女性で『妻中心』、男性で「同じ程度に分担」がやや増えている。

II 調査結果の分析

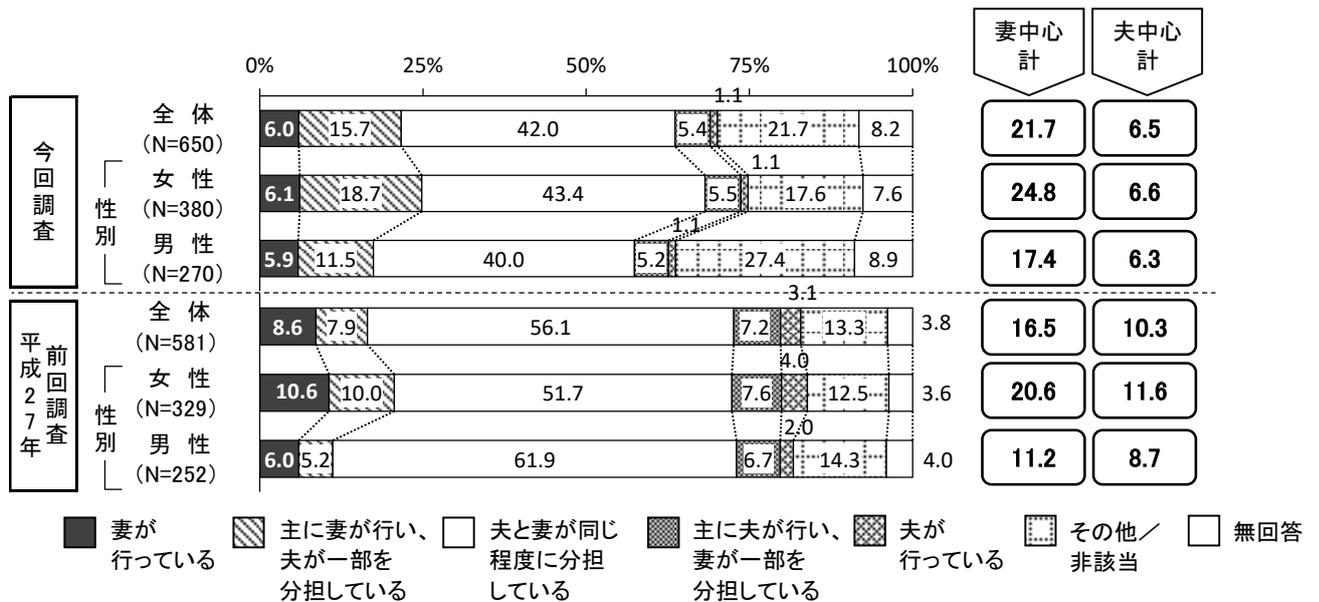
年齢別でみると、男女とも年齢が高い層で『夫中心』の割合が高いが、女性の30代、40代と70歳以上、男性の40代では『妻中心』の割合のも約2割から3割と高い。

図表2-12 自治会・町内会などの地域活動への参加 [全体、年齢別]

		標本数	妻が行っている	主に妻が分擔している、夫が	夫と妻が同じ程度に分擔している	主に夫が分擔している、妻が	夫が行っている	その他／非該当	無回答	『妻中心』計	『夫中心』計
全体		650	44	75	137	171	130	72	21	119	301
		100.0	6.8	11.5	21.1	26.3	20.0	11.1	3.2	18.3	46.3
年齢別	女性:18~29歳	19	10.5	-	10.5	5.3	10.5	52.6	10.5	10.5	15.8
	女性:30~39歳	72	6.9	16.7	16.7	19.4	15.3	23.6	1.4	23.6	34.7
	女性:40~49歳	84	9.5	21.4	21.4	23.8	13.1	10.7	-	30.9	36.9
	女性:50~59歳	96	8.3	8.3	25.0	31.3	16.7	9.4	1.0	16.6	48.0
	女性:60~69歳	55	7.3	9.1	23.6	38.2	18.2	-	3.6	16.4	56.4
	女性:70歳以上	54	11.1	9.3	20.4	27.8	25.9	-	5.6	20.4	53.7
	男性:18~29歳	7	-	14.3	28.6	14.3	-	42.9	-	14.3	14.3
	男性:30~39歳	36	-	8.3	27.8	16.7	11.1	30.6	5.6	8.3	27.8
	男性:40~49歳	44	4.5	15.9	20.5	18.2	22.7	18.2	-	20.4	40.9
	男性:50~59歳	75	9.3	9.3	16.0	30.7	24.0	4.0	6.7	18.6	54.7
	男性:60~69歳	55	-	3.6	27.3	30.9	32.7	-	5.5	3.6	63.6
	男性:70歳以上	53	3.8	13.2	17.0	28.3	30.2	3.8	3.8	17.0	58.5
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(キ) 子どもの教育方針や進路目標の決定

図表2-13 子どもの教育方針や進路目標の決定 [全体、性別] (前回調査比較)



子どもの教育方針や進路目標を決めることについては、「同じ程度に分擔」が42.0%と最も高く、『妻中心』は21.7%、『夫中心』は6.5%となっている。なお、「その他／非該当」21.7%である。育児、子どものしつけに比べて、子どもの将来に影響を与える重大な決定については夫と妻が同じ程度に関わっていることがわかる。

性別でみると、「同じ程度に分担」(女性 43.4%、男性 40.0%) は男女とも同程度であるが、『妻中心』(同 24.8%、17.4%) は女性が 7.4 ポイント男性を上回っている。

前回調査と比べると、「同じ程度に分担」が男女とも 8.3~21.9 ポイント減少し、『妻中心』が 4.2~6.2 ポイント増えている。「その他/非該当」も男女とも 5.1~13.1 ポイント増えているが、該当する人では、男女とも妻が担う傾向がみられる。

年齢別でみると、男女ともいずれの年代も『妻中心』よりも「同じ程度に分担」の割合の方が上回っている。子どもの教育方針や進学目標の決定は夫婦で行っている場合が多いようである。

同居家族別でみると、女性で高校生がいる場合「同じ程度に分担」(42.9%) よりも『妻中心』(54.7%) の方が割合は高いが、それ以外では「同じ程度に分担」の割合の方が高くなっている。特に男性では同居家族に乳幼児、未就学児、専門学校生、大学生・短大生がいる場合「同じ程度に分担」は 6 割半ばを超えて高い。

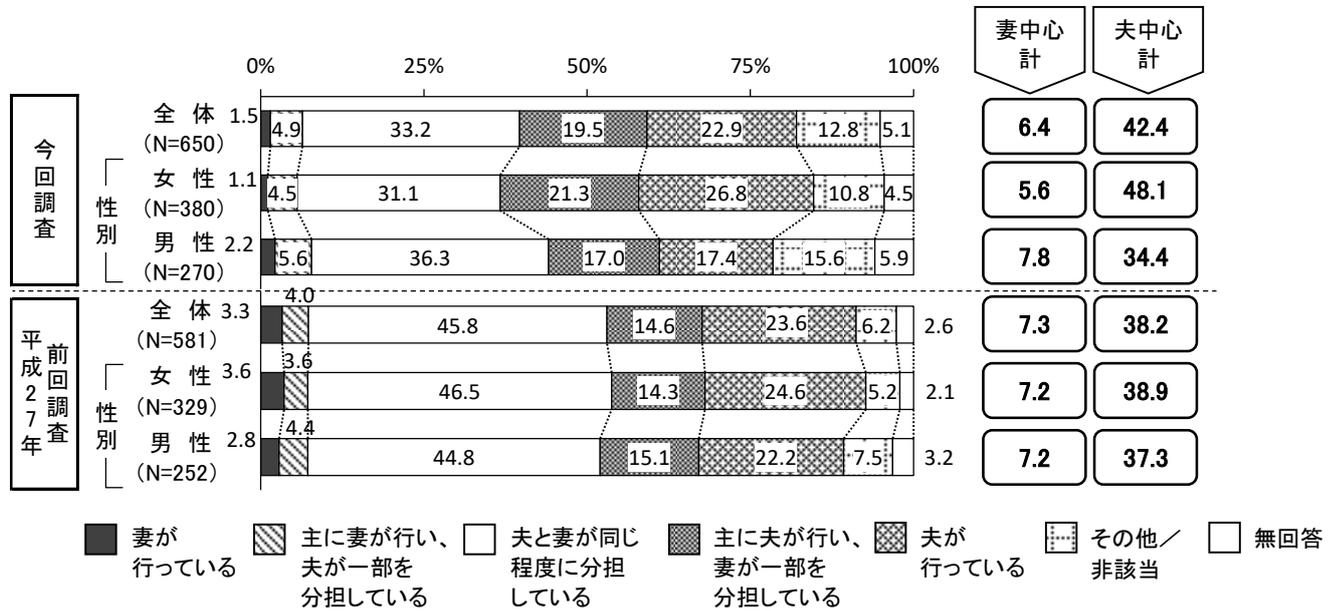
図表 2-14 子どもの教育方針や進路目標の決定 [全体、年齢別、同居家族別]

		標本数	妻が行っている	一部に妻が担行して、夫が	分担し妻が同じ程度に	一部に夫が担行して、妻が	夫が行っている	その他/非該当	無回答	『妻中心』計	『夫中心』計
全体		650 100.0	39 6.0	102 15.7	273 42.0	35 5.4	7 1.1	141 21.7	53 8.2	141 21.7	42 6.5
年齢別	女性:18~29歳	19	10.5	21.1	42.1	5.3	-	5.3	15.8	31.6	5.3
	女性:30~39歳	72	8.3	20.8	52.8	2.8	1.4	11.1	2.8	29.1	4.2
	女性:40~49歳	84	4.8	34.5	51.2	2.4	-	7.1	-	39.3	2.4
	女性:50~59歳	96	7.3	17.7	39.6	9.4	1.0	21.9	3.1	25.0	10.4
	女性:60~69歳	55	3.6	9.1	40.0	7.3	1.8	27.3	10.9	12.7	9.1
	女性:70歳以上	54	3.7	1.9	29.6	5.6	1.9	29.6	27.8	5.6	7.5
	男性:18~29歳	7	-	-	71.4	-	-	28.6	-	-	-
	男性:30~39歳	36	-	11.1	52.8	5.6	2.8	22.2	5.6	11.1	8.4
	男性:40~49歳	44	13.6	22.7	47.7	4.5	-	11.4	-	36.3	4.5
	男性:50~59歳	75	8.0	13.3	44.0	5.3	1.3	21.3	6.7	21.3	6.6
	男性:60~69歳	55	1.8	5.5	30.9	9.1	-	41.8	10.9	7.3	9.1
	男性:70歳以上	53	5.7	7.5	24.5	1.9	1.9	37.7	20.8	13.2	3.8
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
同居家族別	女性:乳幼児(3歳未満)	54	7.4	16.7	55.6	5.6	1.9	9.3	3.7	24.1	7.5
	女性:未就学児	45	8.9	22.2	55.6	4.4	2.2	4.4	2.2	31.1	6.6
	女性:小・中学生	112	6.3	30.4	57.1	0.9	0.9	3.6	0.9	36.7	1.8
	女性:高校生	42	7.1	47.6	42.9	-	-	2.4	-	54.7	-
	女性:専門学校生	7	-	14.3	42.9	14.3	-	28.6	-	14.3	14.3
	女性:大学生・短大生	26	3.8	34.6	46.2	7.7	-	7.7	-	38.4	7.7
	女性:65歳以上	167	4.2	15.0	46.1	4.2	1.2	18.0	11.4	19.2	5.4
	女性:上記以外の人	167	5.4	15.0	38.9	9.0	0.6	24.6	6.6	20.4	9.6
	男性:乳幼児(3歳未満)	25	4.0	12.0	68.0	4.0	4.0	8.0	-	16.0	8.0
	男性:未就学児	21	4.8	23.8	66.7	4.8	-	-	-	28.6	4.8
	男性:小・中学生	57	7.0	21.1	57.9	5.3	3.5	1.8	3.5	28.1	8.8
	男性:高校生	28	17.9	7.1	53.6	14.3	3.6	-	3.6	25.0	17.9
	男性:専門学校生	9	-	-	66.7	11.1	11.1	-	11.1	-	22.2
	男性:大学生・短大生	20	15.0	-	65.0	5.0	-	10.0	5.0	15.0	5.0
	男性:65歳以上	133	3.8	9.0	37.6	5.3	1.5	30.8	12.0	12.8	6.8
男性:上記以外の人	121	5.8	16.5	29.8	5.8	0.8	33.9	7.4	22.3	6.6	
無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

II 調査結果の分析

(ク) 高額の商品や土地・家屋の購入

図表 2-15 高額の商品や土地・家屋の購入 [全体、性別] (前回調査比較)



高額の商品や土地・家屋の購入については、『夫中心』が42.4%、「同じ程度に分担」が33.2%、『妻中心』は6.4%である。家計支出の管理は妻中心であったが、重要な経済的決定は夫と妻が同じ程度に分担して行う場合がありながらも、主に夫が担う場合が多くみられる。

性別でみると、女性は『夫中心』（女性48.1%、男性34.4%）が男性よりも13.7ポイント高く、男性は「同じ程度に分担」（同31.1%、36.3%）が女性よりも5.2ポイント高い。

前回調査と比べると、男女とも「同じ程度に分担」が8.5~15.4ポイント減り、女性で『夫中心』が9.2ポイント増加しており、女性において主に夫が担うという認識が高くなっている。

年齢別でみると、男女とも18～29歳で「同じ程度に分担」が高いが、女性の30代以上では『夫中心』の割合の方が高くなっている。特に50代では『夫中心』が60.4%と最も高く、60代でも54.5%と5割を超えている。

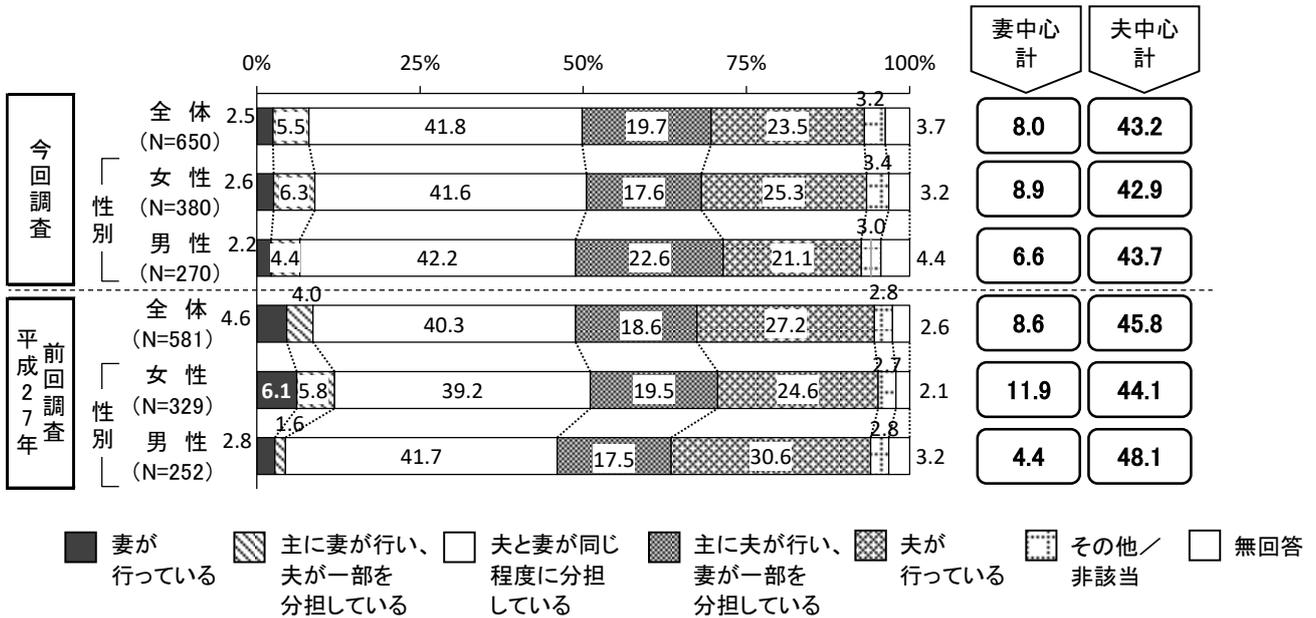
性別役割分担意識別にみると、男女とも性別役割分担に同感するほど『夫中心』の割合が高くなり、同感しない場合では「同じ程度に分担」の割合が高くなる傾向がみられる。男は仕事、女は家庭という性別役割分担意識があると、重要な経済的決定は夫が担っていることがわかる。

図表2-16 高額の商品や土地・家屋の購入〔全体、年齢別、性別役割分担意識別〕

		標本数	妻が行っている	主に妻が担っている、夫が一部を担っている	夫と妻が同じ程度に分担している	主に夫が担っている、妻が一部を担っている	夫が行っている	その他／非該当	無回答	『妻中心』計	『夫中心』計	
全体		650 100.0	10 1.5	32 4.9	216 33.2	127 19.5	149 22.9	83 12.8	33 5.1	42 6.4	276 42.4	
年齢別	女性:18～29歳	19	-	10.5	47.4	5.3	15.8	5.3	15.8	10.5	21.1	
	女性:30～39歳	72	1.4	5.6	33.3	23.6	13.9	19.4	2.8	7.0	37.5	
	女性:40～49歳	84	1.2	4.8	32.1	21.4	27.4	13.1	-	6.0	48.8	
	女性:50～59歳	96	1.0	2.1	21.9	26.0	34.4	12.5	2.1	3.1	60.4	
	女性:60～69歳	55	-	5.5	34.5	20.0	34.5	1.8	3.6	5.5	54.5	
	女性:70歳以上	54	1.9	3.7	33.3	16.7	25.9	3.7	14.8	5.6	42.6	
	男性:18～29歳	7	-	-	71.4	-	14.3	14.3	-	-	-	14.3
	男性:30～39歳	36	5.6	8.3	38.9	13.9	16.7	11.1	5.6	13.9	30.6	
	男性:40～49歳	44	2.3	4.5	38.6	20.5	15.9	18.2	-	6.8	36.4	
	男性:50～59歳	75	1.3	9.3	32.0	20.0	12.0	20.0	5.3	10.6	32.0	
	男性:60～69歳	55	1.8	1.8	38.2	16.4	23.6	10.9	7.3	3.6	40.0	
	男性:70歳以上	53	1.9	3.8	32.1	15.1	20.8	15.1	11.3	5.7	35.9	
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
性別役割分担意識別	女性:同感する	5	-	-	20.0	20.0	40.0	20.0	-	-	60.0	
	女性:ある程度同感する	82	-	6.1	30.5	24.4	35.4	2.4	1.2	6.1	59.8	
	女性:あまり同感しない	153	1.3	4.6	30.1	23.5	25.5	9.2	5.9	5.9	49.0	
	女性:同感しない	139	1.4	3.6	33.1	17.3	22.3	17.3	5.0	5.0	39.6	
	男性:同感する	9	-	-	-	33.3	22.2	44.4	-	-	55.5	
	男性:ある程度同感する	80	-	3.8	32.5	17.5	22.5	18.8	5.0	3.8	40.0	
	男性:あまり同感しない	107	2.8	6.5	35.5	17.8	15.0	14.0	8.4	9.3	32.8	
	男性:同感しない	72	4.2	6.9	45.8	13.9	13.9	11.1	4.2	11.1	27.8	
	無回答	3	-	-	33.3	-	66.7	-	-	-	66.7	

(ケ) 家庭の問題における最終的な決定

図表 2-17 家庭の問題における最終的な決定 [全体、性別] (前回調査比較)



家庭の問題における最終的な決定については、『夫中心』は 43.2%、「同じ程度に分担」は 41.8%、『妻中心』は 8.0%である。家庭内の最終決定権は夫中心、同じ程度に分担するが各々 4割強となっている。

性別でみてもあまり大きな差はみられない。

前回調査と比べると、女性は『妻中心』が 3ポイント、男性では『夫中心』が 4.4ポイント減少し、「同じ程度に分担」がやや増加している。家庭内の最終決定は夫中心でありながらも夫と妻が同じ程度に分担する傾向もみられる。

年齢別でみると、女性では40代以下と男性では50代以下では「同じ程度に分担」の割合が『夫中心』の割合を上回っている。女性の50代以上と男性の60代以上の年代では『夫中心』が5割強から6割と高率となっている。

性別役割分担意識別にみると、男女とも同感する場合は『夫中心』が、同感しない場合は「同じ程度に分担」の割合が高くなる傾向がみられる。

図表2-18 家庭の問題における最終的な決定  
[全体、年齢別、性別役割分担意識別]

		標本数	妻が行っている	一主に妻が担行している、夫が	分夫と妻が同じ程度に	一主に夫が担行している、妻が	夫が行っている	その他／非該当	無回答	『妻中心』計	『夫中心』計	
全体		650 100.0	16 2.5	36 5.5	272 41.8	128 19.7	153 23.5	21 3.2	24 3.7	52 8.0	281 43.2	
年齢別	女性:18~29歳	19	5.3	5.3	52.6	21.1	-	5.3	10.5	10.6	21.1	
	女性:30~39歳	72	1.4	13.9	51.4	11.1	15.3	5.6	1.4	15.3	26.4	
	女性:40~49歳	84	1.2	8.3	51.2	17.9	20.2	1.2	-	9.5	38.1	
	女性:50~59歳	96	4.2	4.2	32.3	22.9	30.2	5.2	1.0	8.4	53.1	
	女性:60~69歳	55	-	3.6	38.2	14.5	36.4	1.8	5.5	3.6	50.9	
	女性:70歳以上	54	5.6	-	29.6	18.5	35.2	1.9	9.3	5.6	53.7	
	男性:18~29歳	7	-	-	71.4	14.3	14.3	-	-	-	-	28.6
	男性:30~39歳	36	2.8	5.6	55.6	19.4	5.6	5.6	5.6	8.4	25.0	
	男性:40~49歳	44	4.5	9.1	43.2	15.9	20.5	6.8	-	13.6	36.4	
	男性:50~59歳	75	1.3	6.7	44.0	22.7	17.3	1.3	6.7	8.0	40.0	
	男性:60~69歳	55	-	-	38.2	30.9	29.1	-	1.8	-	60.0	
男性:70歳以上	53	3.8	1.9	30.2	22.6	30.2	3.8	7.5	5.7	52.8		
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
性別役割分担意識別	女性:同感する	5	-	-	40.0	-	60.0	-	-	-	60.0	
	女性:ある程度同感する	82	1.2	2.4	45.1	15.9	31.7	1.2	2.4	3.6	47.6	
	女性:あまり同感しない	153	3.9	7.2	37.9	19.6	24.2	3.9	3.3	11.1	43.8	
	女性:同感しない	139	2.2	7.9	43.9	17.3	20.9	4.3	3.6	10.1	38.2	
	男性:同感する	9	-	-	33.3	11.1	55.6	-	-	-	66.7	
	男性:ある程度同感する	80	1.3	5.0	41.3	21.3	25.0	3.8	2.5	6.3	46.3	
	男性:あまり同感しない	107	1.9	3.7	43.0	22.4	19.6	0.9	8.4	5.6	42.0	
	男性:同感しない	72	4.2	5.6	44.4	25.0	13.9	5.6	1.4	9.8	38.9	
	無回答	3	-	-	-	33.3	66.7	-	-	-	100.0	

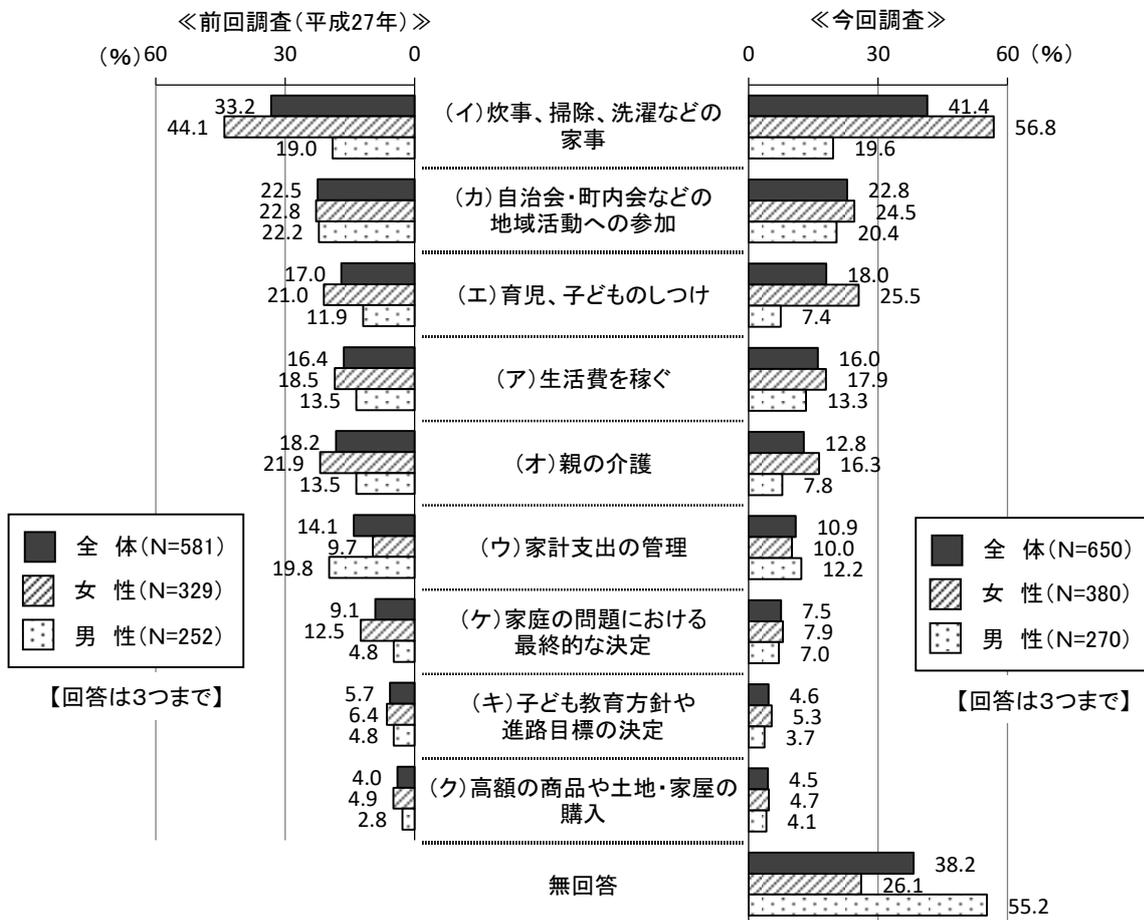
(2) 配偶者にしてほしいこと

●配偶者にしてほしいこと女性は「炊事、掃除、洗濯などの家事」「育児、子どものしつけ」。男性は「自治会・町内会などの地域活動への参加」。

〔配偶者（パートナー）と同居している方におたずねします〕

問4. また、あなたが、問4の（ア）から（ケ）までの家庭内の仕事について、配偶者（パートナー）の方にもっとしてほしいことはどれですか。主なものを3つまで選び、下の枠の中に（ア）から（ケ）までのカタカナを記入してください。

図表2-19 配偶者にしてほしいこと〔全体、性別〕（前回調査比較）



配偶者にしてほしいことは、「炊事、掃除、洗濯などの家事」が41.4%で最も高く、次いで「自治会・町内会などの地域活動への参加」が22.8%、「育児、子どものしつけ」が18.0%、「生活費を稼ぐ」が16.0%、「親の介護」が12.8%となっている。また、無回答は38.2%あった。

性別でみると、女性は「炊事、掃除、洗濯などの家事」が56.8%で最も高く、次いで「育児、子どものしつけ」(25.5%)「自治会・町内会などの地域活動への参加」(24.5%)、が2割台半ばで上位にあげられている。家事や子どもしつけについては女性の『妻中心』の割合が5割強から9割弱と高率であったものが上位にあげられている。

男性は「自治会・町内会などの地域活動への参加」(20.4%)、「炊事、掃除、洗濯などの家事」(19.6%)が約2割、「生活費を稼ぐ」(13.3%)が1割強となっており、地域活動への参加、生活費を稼ぐなど男性の『夫中心』の割合が4割半ばから6割半ばで高かった項目があげられている。男女で比率の差が大きい項目は「炊事、掃除、洗濯などの家事」で女性の方が37.2ポイント、また「育児、子どものしつけ」でも18.1ポイント、「親の介護」で8.5ポイント高くなっている。

前回調査と比べると、女性で「炊事、掃除、洗濯などの家事」が12.7ポイント高くなっていることが目立つ。その他「育児、子どものしつけ」で4.5ポイント高くなっている。

年齢別でみると、女性の年齢が低い層では「炊事、掃除、洗濯などの家事」「育児、子どものしつけ」「生活費を稼ぐ」などの割合が高くなっている。また女性の40代では「自治会・町内会などの地域活動への参加」が35.7%、60代では「親の介護」が25.5%と最も高くなっている。

図表2-20 配偶者にしてほしいこと [全体、年齢別]

		標本数	生活費を稼ぐ	炊事、掃除、洗濯などの家事	家計支出の管理	育児、子どものしつけ	親の介護	自治会・町内会などの地域活動への参加	子ども教育の進路目標や方針	高額商品の購入	家庭最終的な問題の決定	無回答
全体		650 100.0	104 16.0	269 41.4	71 10.9	117 18.0	83 12.8	148 22.8	30 4.6	29 4.5	49 7.5	248 38.2
年齢別	女性:18~29歳	19	31.6	68.4	-	52.6	5.3	15.8	10.5	-	5.3	26.3
	女性:30~39歳	72	23.6	68.1	11.1	48.6	11.1	30.6	2.8	2.8	2.8	12.5
	女性:40~49歳	84	22.6	57.1	8.3	33.3	13.1	35.7	8.3	3.6	6.0	22.6
	女性:50~59歳	96	17.7	57.3	10.4	15.6	20.8	21.9	6.3	5.2	9.4	21.9
	女性:60~69歳	55	7.3	47.3	10.9	14.5	25.5	12.7	5.5	5.5	7.3	38.2
	女性:70歳以上	54	9.3	46.3	13.0	1.9	14.8	18.5	-	9.3	16.7	44.4
	男性:18~29歳	7	14.3	28.6	14.3	28.6	-	-	14.3	14.3	14.3	57.1
	男性:30~39歳	36	22.2	25.0	11.1	13.9	5.6	16.7	2.8	-	2.8	50.0
	男性:40~49歳	44	18.2	31.8	27.3	11.4	6.8	11.4	2.3	6.8	2.3	40.9
	男性:50~59歳	75	13.3	14.7	5.3	4.0	8.0	20.0	2.7	1.3	4.0	60.0
	男性:60~69歳	55	10.9	14.5	5.5	5.5	9.1	30.9	3.6	5.5	7.3	58.2
男性:70歳以上	53	5.7	17.0	17.0	3.8	9.4	22.6	5.7	5.7	17.0	60.4	
無回答		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

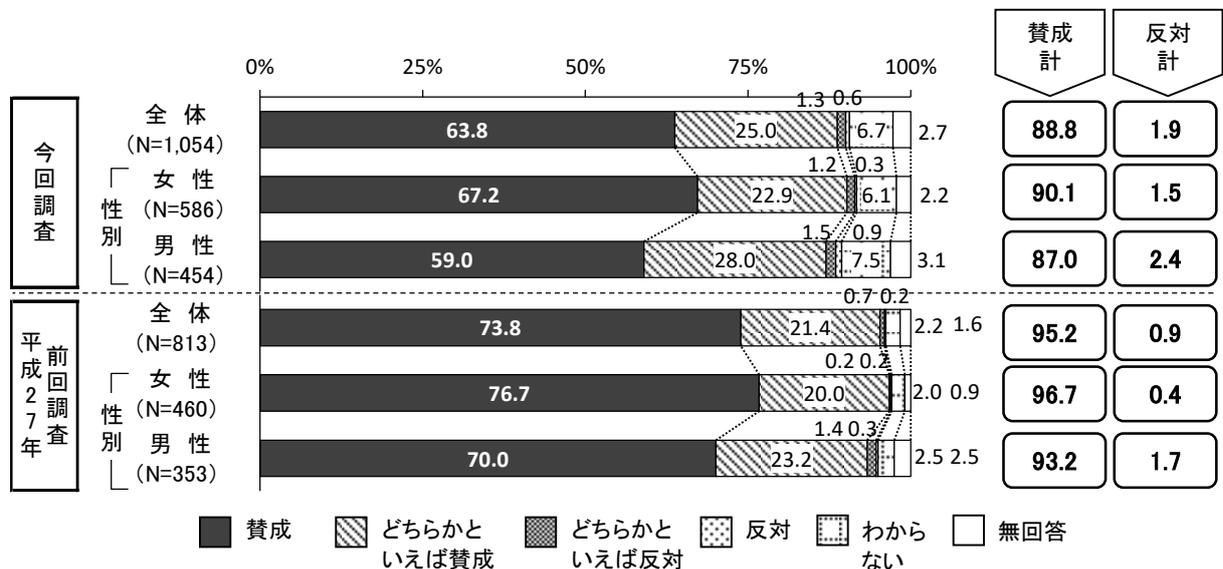
2. 子どものしつけや教育についての考え方

- 性別を問わず、経済的自立・生活自立できるような育て方への支持は9割前後。女性の方が男性よりも積極的に支持する人の割合は高い。経済的自立を積極的に支持する割合は前回調査よりも男女とも10ポイント前後減少。
- 「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる方がよい」という考え方は前回調査よりも支持しない人が10ポイント以上増加し、女性で5割半ば、男性で約4割。「男の子は理科系、女の子は文科系に進んだ方がよい」は支持しない人は女性で7割強、男性で約6割。男らしく、女らしく育てるよりも支持しない人は多い。

問5. (A) あなたは、子どものしつけや教育について、どのような考え方をお持ちですか。次の(ア)から(エ)のそれぞれについて、あなたのお考えに近いものを選んでください。子どものいない人も、一般的にどう思われるかお答えください。  
(○印は1つつ)

(ア) 性別を問わず、経済的に自立できるよう職業人としての教育が必要だ

図表2-21 「性別を問わず、経済的に自立できるよう職業人としての教育が必要だ」  
[全体、性別] (前回調査比較)



子どものしつけや教育についての考え方をたずねた。「性別を問わず、経済的に自立できるよう職業人としての教育が必要だ」については、「賛成」が63.8%、「どちらかといえば賛成」が25.0%とこれらを合計した『賛成』は88.8%となっている。「反対」(0.6%)と「どちらかといえば反対」(1.3%)を合計した『反対』は1.9%と圧倒的に『賛成』が多い。

性別でみると、『賛成』は男女とも9割前後と高いが、そのうち積極的な「賛成」は女性67.2%に対し男性は59.0%と、女性の方が8.2ポイント上回っている。

前回調査と比べると、男女とも積極的な「賛成」が9.5~11ポイント減少している。

年齢別で見ると、男女とも18～29歳で「わからない」が1割台と他の年代に比べて高くなっている。

性別役割分担意識別にみると、積極的な「賛成」は女性の同感しない場合で高い傾向がみられる。

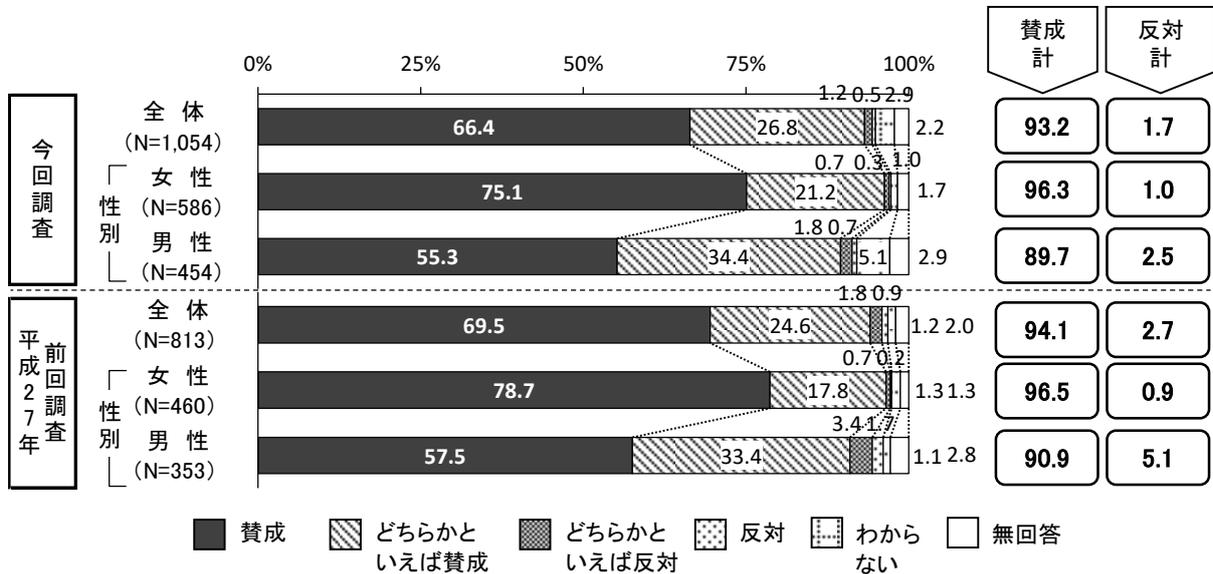
図表2-22 「性別を問わず、経済的に自立できるよう職業人としての教育が必要だ」  
[全体、年齢別、性別役割分担意識別]

		標本数	賛成	いどえちばら賛か成と	いどえちばら反か対と	反対	わからない	無回答	『賛成』計	『反対』計
全体		1,054 100.0	672 63.8	263 25.0	14 1.3	6 0.6	71 6.7	28 2.7	935 88.8	20 1.9
年齢別	女性:18～29歳	89	55.1	28.1	2.2	-	11.2	3.4	83.2	2.2
	女性:30～39歳	97	74.2	21.6	1.0	-	3.1	-	95.8	1.0
	女性:40～49歳	115	64.3	27.0	0.9	1.7	6.1	-	91.3	2.6
	女性:50～59歳	130	71.5	21.5	1.5	-	5.4	-	93.0	1.5
	女性:60～69歳	78	69.2	21.8	-	-	5.1	3.8	91.0	-
	女性:70歳以上	76	67.1	15.8	1.3	-	6.6	9.2	82.9	1.3
	男性:18～29歳	65	50.8	27.7	4.6	-	16.9	-	78.5	4.6
	男性:30～39歳	73	63.0	26.0	1.4	1.4	8.2	-	89.0	2.8
	男性:40～49歳	81	59.3	24.7	2.5	2.5	7.4	3.7	84.0	5.0
	男性:50～59歳	104	57.7	30.8	-	-	5.8	5.8	88.5	-
	男性:60～69歳	68	69.1	19.1	1.5	1.5	5.9	2.9	88.2	3.0
男性:70歳以上	63	54.0	39.7	-	-	1.6	4.8	93.7	-	
	無回答	15	73.3	13.3	-	-	6.7	6.7	86.6	-
性別役割分担意識別	女性:同感する	8	37.5	25.0	-	12.5	25.0	-	62.5	12.5
	女性:ある程度同感する	117	57.3	29.9	3.4	-	7.7	1.7	87.2	3.4
	女性:あまり同感しない	233	70.8	21.9	0.4	-	5.6	1.3	92.7	0.4
	女性:同感しない	225	69.8	20.4	0.9	0.4	5.3	3.1	90.2	1.3
	男性:同感する	16	56.3	25.0	-	-	12.5	6.3	81.3	-
	男性:ある程度同感する	113	46.0	41.6	3.5	0.9	6.2	1.8	87.6	4.4
	男性:あまり同感しない	193	59.6	25.9	0.5	1.0	10.4	2.6	85.5	1.5
	男性:同感しない	128	69.5	20.3	1.6	0.8	3.9	3.9	89.8	2.4
	無回答	21	71.4	9.5	-	-	4.8	14.3	80.9	-

II 調査結果の分析

(イ) 性別を問わず、炊事・掃除・洗濯など、生活に必要な技術を身につけさせる方がよい

図表 2-23 「性別を問わず、炊事・掃除・洗濯など、生活に必要な技術を身につけさせる方がよい」  
[全体、性別] (前回調査比較)



「性別を問わず、炊事・掃除・洗濯など、生活に必要な技術を身につけさせる方がよい」ことについては「賛成」が 66.4%、「どちらかといえば賛成」が 26.8%とこれらを合計した『賛成』は 93.2%、「反対」(0.5%)と「どちらかといえば反対」(1.2%)を合計した『反対』は 1.7%とわずかで、経済的自立同様に生活自立に対しても圧倒的に『賛成』が多い。

性別で見ると、『賛成』は女性が 96.3%で男性 (89.7%) よりも 6.6 ポイント高い。特に積極的な「賛成」は女性の 75.1%に対して男性は 55.3%と、女性の方が 19.8 ポイント高く、生活自立に対しては女性の方が積極的に賛成している。

前回調査と比べると、男女ともあまり大きな変化はみられない。

年齢別でみると、女性の30代で積極的な「賛成」が90.7%と最も高く、50代でも80.8%と高い。男性は年齢の高い層で「どちらかといえば賛成」の割合が高い傾向がみられる。

性別役割分担意識別にみると、男女とも同感しない場合は積極的な「賛成」の割合が高い傾向がみられる。

図表2-24 「性別を問わず、炊事・掃除・洗濯など、生活に必要な技術を身につけさせる方がよい」

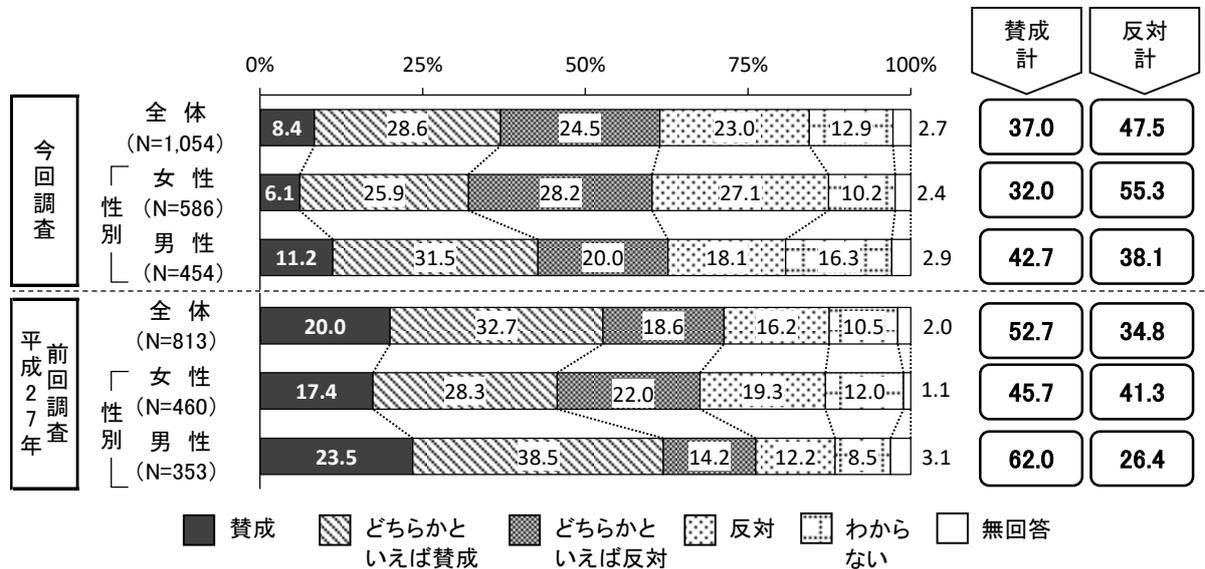
[全体、年齢別、性別役割分担意識別]

		標本数	賛成	いど えち ばら 賛か 成と	いど えち ばら 反か 対と	反 対	わ か ら な い	無 回 答	『賛 成』 計	『反 対』 計
全 体		1,054 100.0	700 66.4	282 26.8	13 1.2	5 0.5	31 2.9	23 2.2	982 93.2	18 1.7
年 齢 別	女性:18～29歳	89	67.4	24.7	2.2	-	2.2	3.4	92.1	2.2
	女性:30～39歳	97	90.7	9.3	-	-	-	-	100.0	-
	女性:40～49歳	115	71.3	27.0	-	0.9	0.9	-	98.3	0.9
	女性:50～59歳	130	80.8	16.9	0.8	-	0.8	0.8	97.7	0.8
	女性:60～69歳	78	75.6	23.1	-	-	-	1.3	98.7	-
	女性:70歳以上	76	59.2	28.9	1.3	1.3	2.6	6.6	88.1	2.6
	男性:18～29歳	65	64.6	20.0	3.1	-	12.3	-	84.6	3.1
	男性:30～39歳	73	67.1	28.8	2.7	-	1.4	-	95.9	2.7
	男性:40～49歳	81	64.2	28.4	-	1.2	2.5	3.7	92.6	1.2
	男性:50～59歳	104	51.0	37.5	2.9	1.0	1.9	5.8	88.5	3.9
	男性:60～69歳	68	47.1	41.2	-	1.5	7.4	2.9	88.3	1.5
男性:70歳以上	63	36.5	50.8	1.6	-	7.9	3.2	87.3	1.6	
無回答		15	66.7	13.3	6.7	-	13.3	-	80.0	6.7
性 別 役 割 分 担 意 識 別	女性:同感する	8	37.5	62.5	-	-	-	-	100.0	-
	女性:ある程度同感する	117	65.8	30.8	0.9	1.7	-	0.9	96.6	2.6
	女性:あまり同感しない	233	76.8	20.2	-	-	1.3	1.7	97.0	-
	女性:同感しない	225	80.4	15.1	1.3	-	1.3	1.8	95.5	1.3
	男性:同感する	16	56.3	-	18.8	-	18.8	6.3	56.3	18.8
	男性:ある程度同感する	113	38.9	50.4	1.8	1.8	5.3	1.8	89.3	3.6
	男性:あまり同感しない	193	56.0	36.3	0.5	-	5.2	2.1	92.3	0.5
	男性:同感しない	128	69.5	21.1	1.6	0.8	3.1	3.9	90.6	2.4
無回答		21	47.6	28.6	4.8	-	9.5	9.5	76.2	4.8

II 調査結果の分析

(ウ) 男女にはそれぞれの役割があるので、男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てた方がよい

図表 2-25 「男女にはそれぞれの役割があるので、男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てた方がよい」[全体、性別] (前回調査比較)



「男女にはそれぞれの役割があるので、男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てた方がよい」ことについては、「賛成」が 8.4%と「どちらかといえば賛成」が 28.6%とこれらを合計した『賛成』は 37.0%、「反対」(23.0%)と「どちらかといえば反対」(24.5%)を合計した『反対』は 47.5%となっており、『賛成』を 10.5 ポイント上回っている。

性別で見ると、『賛成』は女性が 32.0%、男性は 42.7%で男性の方が 10.7 ポイント上回り、『反対』は女性が 55.3%、男性が 38.1%と女性の方が 17.2 ポイント上回っている。

前回調査と比べると、男女とも『賛成』が 13.7~19.3 ポイント減少し、『反対』が 11.7~14 ポイント増えている。特に積極的な「賛成」は 11.3~12.3 ポイントと大きく減少し、男の子らしく、女の子らしくという育て方には賛成しない人が増えている。

年齢別でみると、男女とも年代が高い層で『賛成』の割合が高くなり、年代が低い層で『反対』の割合が高い傾向がみられる。

性別役割分担意識別でみると、男女とも同感しない人ほど『反対』の割合が高くなり、同感する場合は『賛成』の割合が高い傾向がみられる。

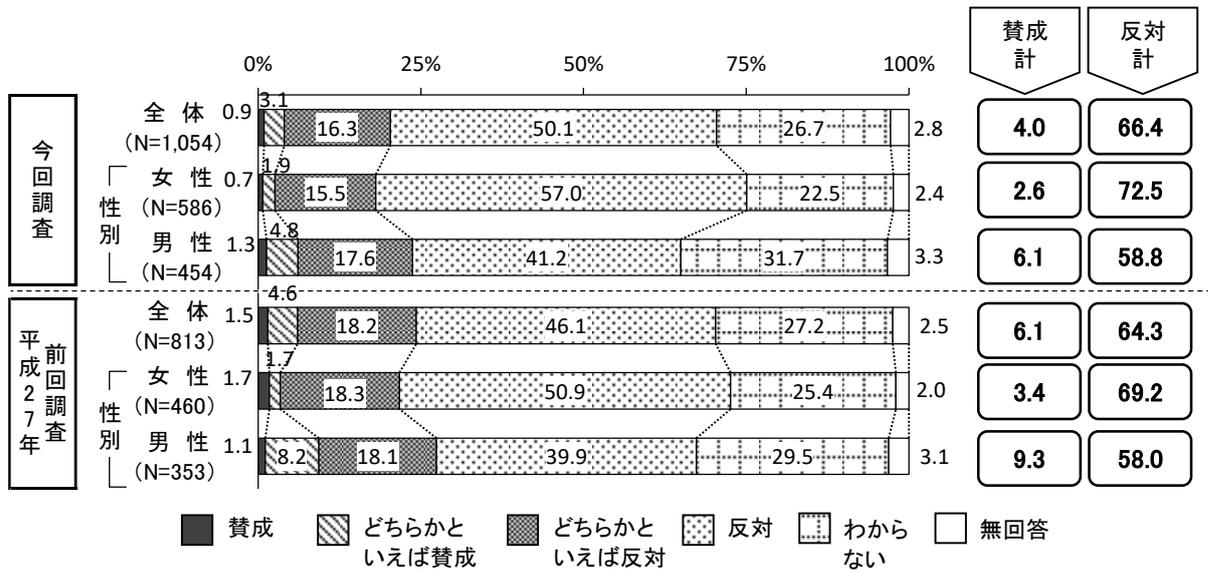
図表2-26 「男女にはそれぞれの役割があるので、男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てた方がよい」[全体、年齢別、性別役割分担意識別]

		標本数	賛成	いどえちばら賛成と	いどえちばら反対と	反対	わからない	無回答	『賛成』計	『反対』計
全体		1,054 100.0	89 8.4	301 28.6	258 24.5	242 23.0	136 12.9	28 2.7	390 37.0	500 47.5
年齢別	女性:18～29歳	89	2.2	14.6	34.8	29.2	15.7	3.4	16.8	64.0
	女性:30～39歳	97	2.1	17.5	29.9	35.1	14.4	1.0	19.6	65.0
	女性:40～49歳	115	5.2	36.5	23.5	22.6	11.3	0.9	41.7	46.1
	女性:50～59歳	130	3.1	23.1	30.0	32.3	10.8	0.8	26.2	62.3
	女性:60～69歳	78	15.4	28.2	29.5	24.4	1.3	1.3	43.6	53.9
	女性:70歳以上	76	13.2	36.8	21.1	14.5	5.3	9.2	50.0	35.6
	男性:18～29歳	65	6.2	24.6	13.8	27.7	27.7	-	30.8	41.5
	男性:30～39歳	73	5.5	23.3	28.8	32.9	9.6	-	28.8	61.7
	男性:40～49歳	81	16.0	18.5	23.5	16.0	22.2	3.7	34.5	39.5
	男性:50～59歳	104	9.6	35.6	21.2	10.6	17.3	5.8	45.2	31.8
	男性:60～69歳	68	13.2	35.3	20.6	16.2	11.8	2.9	48.5	36.8
	男性:70歳以上	63	17.5	54.0	9.5	7.9	7.9	3.2	71.5	17.4
	無回答	15	13.3	40.0	13.3	13.3	13.3	6.7	53.3	26.6
性別役割分担意識別	女性:同感する	8	25.0	50.0	-	12.5	12.5	-	75.0	12.5
	女性:ある程度同感する	117	12.8	42.7	23.9	8.5	11.1	0.9	55.5	32.4
	女性:あまり同感しない	233	5.2	27.9	32.6	21.0	11.2	2.1	33.1	53.6
	女性:同感しない	225	3.1	14.2	27.1	44.0	8.4	3.1	17.3	71.1
	男性:同感する	16	31.3	31.3	-	12.5	18.8	6.3	62.6	12.5
	男性:ある程度同感する	113	13.3	51.3	13.3	6.2	14.2	1.8	64.6	19.5
	男性:あまり同感しない	193	11.9	29.5	21.2	15.5	19.7	2.1	41.4	36.7
	男性:同感しない	128	5.5	18.0	26.6	33.6	12.5	3.9	23.5	60.2
	無回答	21	14.3	33.3	14.3	4.8	19.0	14.3	47.6	19.1

II 調査結果の分析

(エ) 男の子は理科系、女の子は文科系に進んだ方がよい

図表 2-27 「男の子は理科系、女の子は文科系に進んだ方がよい」[全体、性別] (前回調査比較)



「男の子は理科系、女の子は文科系に進んだ方がよい」ことについては、「賛成」が0.9%と「どちらかといえば賛成」が3.1%とこれらを合計した『賛成』は4.0%、「反対」(50.1%)と「どちらかといえば反対」(16.3%)を合計した『反対』は66.4%となっており、『賛成』を大きく上回っている。上記でみた男の子らしく、女の子らしくという育て方よりも反対する人は多い。

性別で見ると、『反対』は女性が72.5%、男性は58.8%で女性の方が13.7ポイント上回っている。

前回調査と比べると、男女とも『賛成』がやや減少し、『反対』がやや増えている程度であるが、積極的な「反対」は女性で6.1ポイント増えている。

年齢別でみると、女性は70歳以上の年齢を除く年代で『反対』は7割を超えて高い。男性は50代と70歳以上で『反対』は5割前後と他の年代に比べて低く、30代の71.3%が男性で最も高い割合となっている。

性別役割分担意識別でみると、男女とも同感しない場合は『反対』の割合が高い傾向がみられる。

図表2-28 「男の子は理科系、女の子は文科系に進んだ方がよい」[全体、年齢別、性別役割分担意識別]

		(%)								
		標本数	賛成	いどえちばら賛成と	いどえちばら反対と	反対	わからない	無回答	『賛成』計	『反対』計
全体		1,054 100.0	10 0.9	33 3.1	172 16.3	528 50.1	281 26.7	30 2.8	43 4.0	700 66.4
年齢別	女性:18~29歳	89	1.1	-	10.1	67.4	18.0	3.4	1.1	77.5
	女性:30~39歳	97	-	-	12.4	62.9	23.7	1.0	-	75.3
	女性:40~49歳	115	0.9	0.9	16.5	55.7	24.3	1.7	1.8	72.2
	女性:50~59歳	130	-	-	14.6	62.3	22.3	0.8	-	76.9
	女性:60~69歳	78	1.3	2.6	20.5	52.6	21.8	1.3	3.9	73.1
	女性:70歳以上	76	1.3	10.5	21.1	34.2	25.0	7.9	11.8	55.3
	男性:18~29歳	65	-	4.6	12.3	47.7	35.4	-	4.6	60.0
	男性:30~39歳	73	-	1.4	15.1	56.2	27.4	-	1.4	71.3
	男性:40~49歳	81	2.5	3.7	16.0	43.2	30.9	3.7	6.2	59.2
	男性:50~59歳	104	2.9	4.8	21.2	30.8	34.6	5.8	7.7	52.0
	男性:60~69歳	68	-	2.9	14.7	50.0	27.9	4.4	2.9	64.7
男性:70歳以上	63	1.6	12.7	25.4	22.2	33.3	4.8	14.3	47.6	
	無回答	15	-	-	6.7	53.3	33.3	6.7	-	60.0
性別役割分担意識別	女性:同感する	8	12.5	-	25.0	37.5	25.0	-	12.5	62.5
	女性:ある程度同感する	117	1.7	6.0	24.8	35.9	30.8	0.9	7.7	60.7
	女性:あまり同感しない	233	-	1.3	15.5	56.2	24.9	2.1	1.3	71.7
	女性:同感しない	225	0.4	0.4	10.7	69.8	15.6	3.1	0.8	80.5
	男性:同感する	16	6.3	12.5	6.3	25.0	43.8	6.3	18.8	31.3
	男性:ある程度同感する	113	0.9	8.0	23.9	31.0	34.5	1.8	8.9	54.9
	男性:あまり同感しない	193	1.6	3.1	19.2	35.8	38.3	2.1	4.7	55.0
男性:同感しない	128	0.8	3.9	10.9	60.9	18.0	5.5	4.7	71.8	
	無回答	21	-	-	9.5	42.9	33.3	14.3	-	52.4

### 第3章 職業について

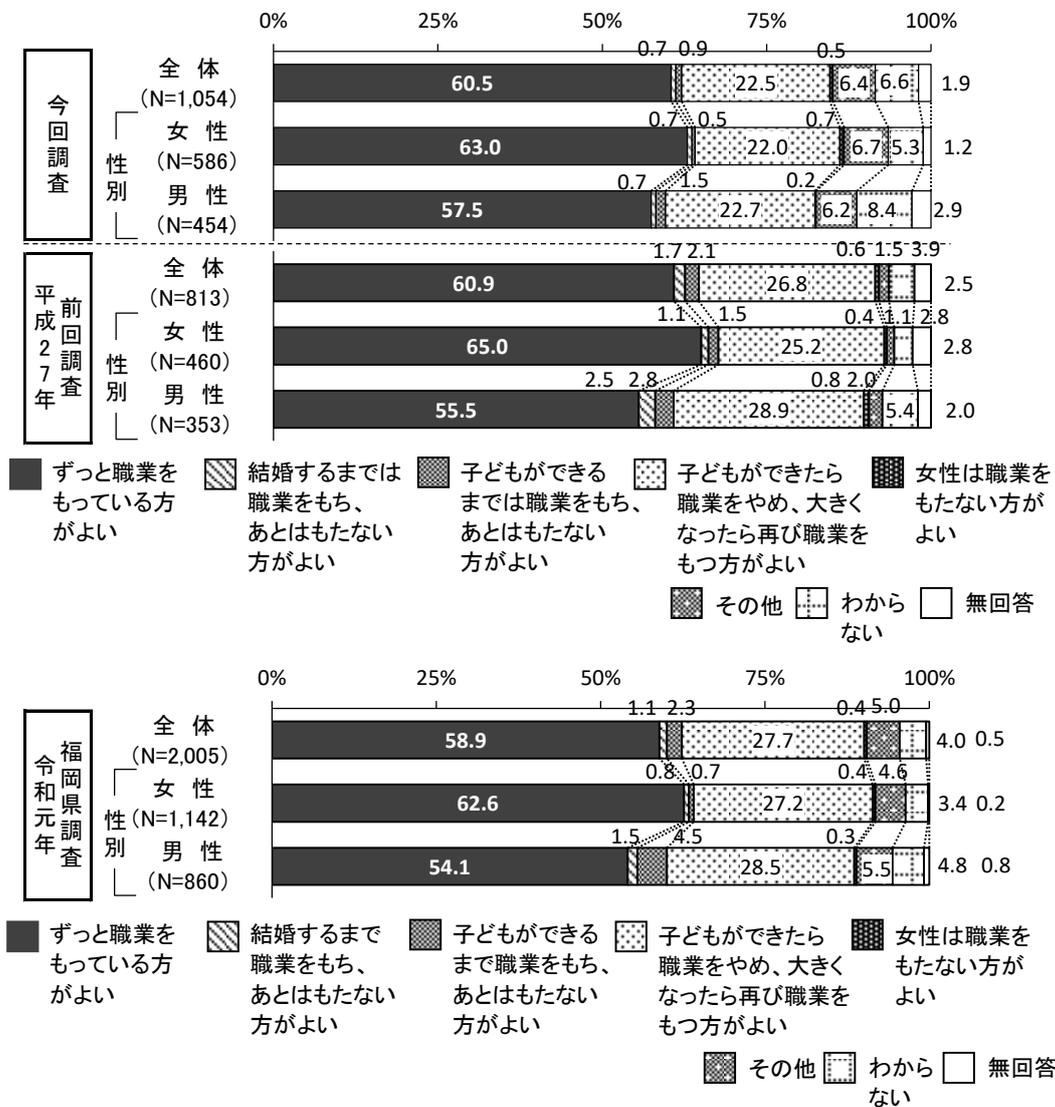
#### 1. 女性が職業をもつことについて

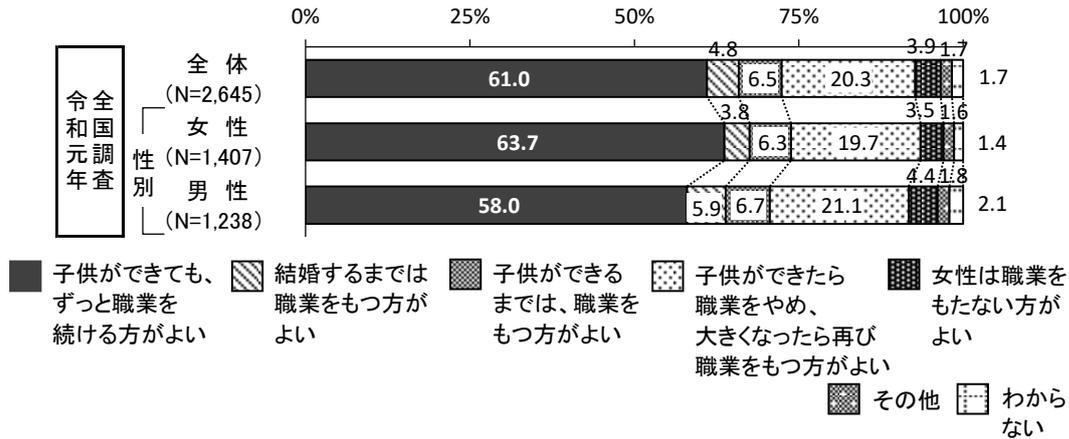
##### (1) 女性が職業をもつことについての考え方

- 女性が職業をもつことについて、男女とも6割前後が「就労継続」。
- 就労継続は女性の30代、40代、50代で約7割と高い。

問6. 一般的に「女性が職業をもつこと」について、あなたはどうお考えですか。  
(○印は1つ)

図表3-1 女性が職業をもつことについての考え方 [全体、性別] (前回・福岡県・全国調査比較)





女性が職業をもつことについて、「ずっと職業をもっている方がよい」という就労継続が60.5%で最も多い。次いで「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」という子育て期に就労を中断する働き方が22.5%となっている。一方、「結婚するまでは職業をもち、あとはもたない方がよい」(0.7%)、「子どもができるまでは職業をもち、あとはもたない方がよい」(0.9%)、「女性は職業をもたない方がよい」(0.5%)の3つはいずれも専業主婦を志向する項目だが、これらの合計は2.1%と回答は少なく、女性が職業をもつことは肯定的に受け止められている。

性別で見ると、女性は就労継続が63.0%で男性(57.5%)を5.5ポイント上回っている。

前回調査と比べると、「その他」「わからない」の割合が増えており、就労継続は同程度、子育て期に就労を中断する働き方や専業主婦志向の割合はそれぞれ減少している。

福岡県調査と比べると、あまり大きな差はみられないが、男性の就業継続の割合は今回調査の方がやや高い。

全国調査と比べると、男女とも就労継続、子育て期に就労を中断する働き方の割合は同程度で、専業主婦志向は今回調査の方が11.7~14.6ポイント低い。

II 調査結果の分析

年齢別でみると、就労継続は女性の30代、40代、50代で約7割と高い。男性では50代で64.4%と高い。子育て期に就労を中断する働き方は男女とも70歳以上で3割半ばと高い。

配偶関係別にみると、男女とも未婚者は配偶者がいる人に比べて就労継続や子育て期に就労を中断する働き方の割合が低く、「その他」「わからない」の割合が高い。また、標本数は少ないが、女性の配偶者と離別した人では就労継続の割合が78.6%と最も高い。

性別役割分担意識別でみると、男女とも同感する人ほど子育て期に就労を中断する働き方や専業主婦志向の割合が高く、同感しない人ほど就労継続の割合が高い。

図表3-2 女性が職業をもつことについての考え方〔全体、年齢別、配偶関係別、性別役割分担意識別〕

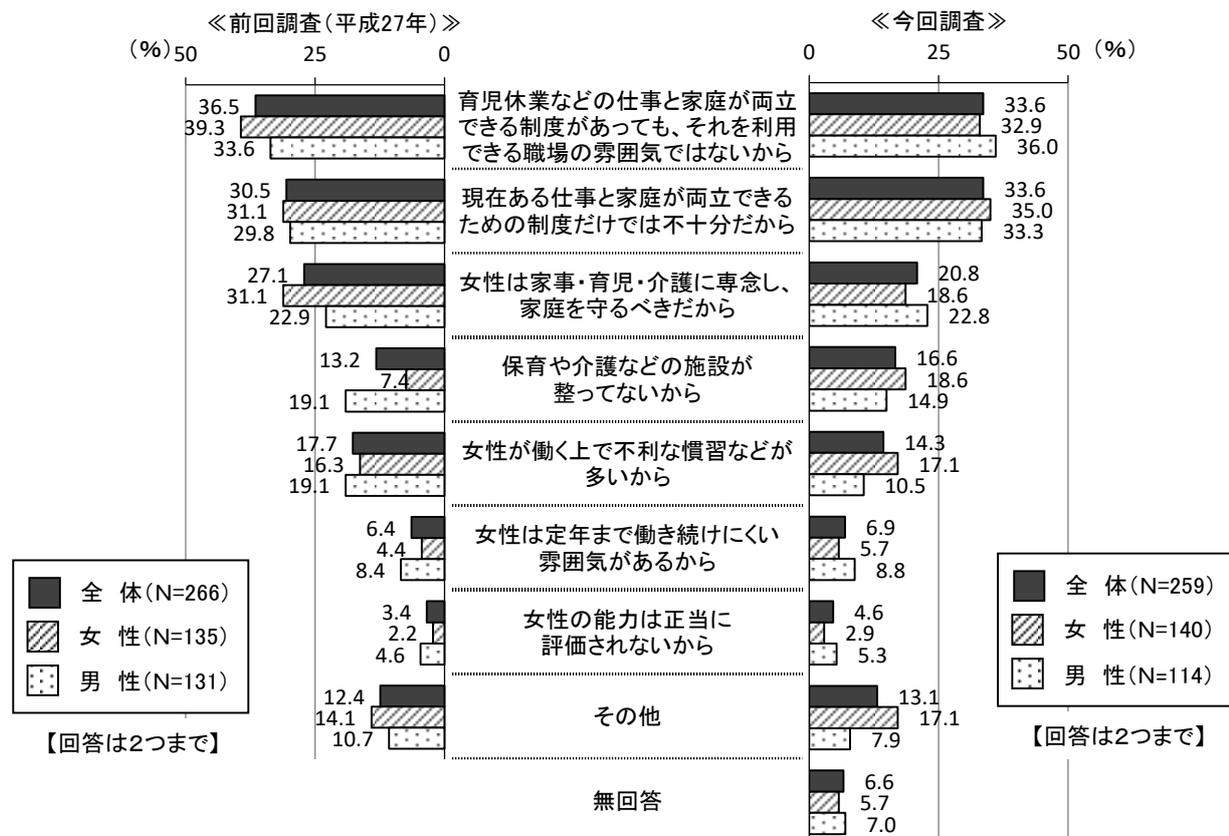
		(%)												
		標本数	方 が よ い	よ い	結 婚 す る ま ま で は な い	い 方 が よ い	業 務 も ち が あ る ま ま で は な い	子 ど も が あ る ま ま で は な い	び や め ど も が あ る ま ま で は な い	が よ い	女 性 は 職 業 を も た な い	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答
全 体		1,054 100.0	638 60.5	7 0.7	10 0.9	237 22.5	5 0.5	67 6.4	70 6.6	20 1.9				
年 齢 別	女性:18~29歳	89	61.8	-	-	20.2	1.1	6.7	7.9	2.2				
	女性:30~39歳	97	69.1	-	1.0	21.6	-	5.2	3.1	-				
	女性:40~49歳	115	67.0	0.9	1.7	14.8	-	7.8	7.8	-				
	女性:50~59歳	130	68.5	0.8	-	19.2	1.5	5.4	3.8	0.8				
	女性:60~69歳	78	60.3	1.3	-	26.9	1.3	9.0	1.3	-				
	女性:70歳以上	76	43.4	1.3	-	35.5	-	6.6	7.9	5.3				
	男性:18~29歳	65	47.7	1.5	1.5	20.0	-	10.8	16.9	1.5				
	男性:30~39歳	73	60.3	1.4	-	21.9	-	9.6	6.8	-				
	男性:40~49歳	81	60.5	-	2.5	14.8	1.2	11.1	8.6	1.2				
	男性:50~59歳	104	64.4	1.0	1.9	18.3	-	1.9	7.7	4.8				
男性:60~69歳	68	58.8	-	1.5	29.4	-	1.5	5.9	2.9					
男性:70歳以上	63	47.6	-	1.6	36.5	-	3.2	4.8	6.3					
無回答	15	60.0	-	-	33.3	-	-	6.7	-					
配 偶 関 係 別	女性:未婚	127	59.8	-	1.6	17.3	1.6	10.2	8.7	0.8				
	女性:配偶者がいる	380	62.6	1.1	-	24.5	0.5	6.1	4.2	1.1				
	女性:配偶者と死別した	33	60.6	-	-	24.2	-	6.1	9.1	-				
	女性:配偶者と離別した	42	78.6	-	2.4	14.3	-	2.4	2.4	-				
	男性:未婚	145	56.6	1.4	2.1	15.9	0.7	9.7	11.0	2.8				
	男性:配偶者がいる	270	60.4	0.4	1.5	24.4	-	4.4	6.3	2.6				
	男性:配偶者と死別した	6	50.0	-	-	50.0	-	-	-	-				
	男性:配偶者と離別した	28	39.3	-	-	39.3	-	7.1	10.7	3.6				
無回答	23	52.2	-	-	21.7	-	-	13.0	13.0					
性 別 役 割 分 担 意 識 別	女性:同感する	8	12.5	12.5	25.0	37.5	-	-	12.5	-				
	女性:ある程度同感する	117	48.7	0.9	0.9	36.8	0.9	5.1	6.8	-				
	女性:あまり同感しない	233	62.2	0.9	-	21.9	0.9	7.3	5.6	1.3				
	女性:同感しない	225	73.3	-	-	14.2	0.4	6.7	4.0	1.3				
	男性:同感する	16	18.8	6.3	6.3	37.5	6.3	6.3	12.5	6.3				
	男性:ある程度同感する	113	41.6	-	1.8	37.2	-	3.5	12.4	3.5				
	男性:あまり同感しない	193	61.1	0.5	1.0	17.6	-	7.3	9.8	2.6				
	男性:同感しない	128	71.9	0.8	0.8	15.6	-	7.0	1.6	2.3				
無回答	21	47.6	-	4.8	28.6	-	4.8	9.5	4.8					

(2) 女性が職業を続けられない方がよいと思う理由

●女性が仕事を続けられない方がよい理由は「両立支援制度があっても、それを利用できる職場の雰囲気でないから」「現在ある仕事と家庭の両立支援制度では不十分だから」が上位。

問6. 付問1. [問6で2～5と答えた方におたずねします]  
では、あなたがそう思われる理由は何ですか。(○印は2つまで)

図表3-3 女性が職業を続けられない方がよいと思う理由 [全体、性別] (前回調査比較)



子育て期に就労を中断する働き方や専業主婦志向の働き方を選んだ259人にその理由をたずねた。「育児休業などの仕事と家庭が両立できる制度があっても、それを利用できる職場の雰囲気ではないから」「現在ある仕事と家庭が両立できるための制度だけでは不十分だから」が同率の33.6%となっており、次いで「女性は家事・育児・介護に専念し、家庭を守るべきだから」が20.8%と上位にあげられている。

性別でみると、上位2項目については男女差はあまりみられず、「女性は家事・育児・介護に専念し、家庭を守るべきだから」(女性18.6%、男性22.8%)は男性が4.2ポイント女性を上回り、「保育や介護などの施設が整ってないから」(同18.6%、14.9%)と「女性が働く上で不利な慣習などが多いから」(同17.1%、10.5%)などは女性が3.7～6.6ポイント男性を上回っている。

II 調査結果の分析

前回調査と比べると、女性では「保育や介護などの施設が整ってないから」が 11.2 ポイント増え、「女性は家事・育児・介護に専念し、家庭を守るべきだから」や「育児休業などの仕事と家庭が両立できる制度があっても、それを利用できる職場の雰囲気ではないから」が 6.4～12.5 ポイント減っている。また、男女とも「現在ある仕事と家庭が両立できるための制度だけでは不十分だから」が 3.5～3.9 ポイントとやや増えている。

年齢別でみると、「育児休業などの仕事と家庭が両立できる制度があっても、それを利用できる職場の雰囲気ではないから」は男性の 18～29 歳で 53.3%と最も高く、次いで女性の 40 代と男性の 60 代で 4 割台と高い。「現在ある仕事と家庭が両立できるための制度だけでは不十分だから」は女性の 30 代で 63.6%と最も高く、また男性の 40 代以下で 4 割台となっている。男性の 30 代と 50 代で「女性は家事・育児・介護に専念し、家庭を守るべきだから」が 3 割前後、女性の 18～29 歳で「保育や介護などの施設が整ってないから」が 31.6%、「女性が働く上で不利な慣習などが多いから」が 26.3%と他の年代に比べて高くなっている。

配偶関係別でみると、未婚の女性で「現在ある仕事と家庭が両立できるための制度だけでは不十分だから」が 46.2%と最も高い一方で「女性は家事・育児・介護に専念し、家庭を守るべきだから」が 30.8%で第 2 位の理由であげられている。未婚の男性は「育児休業などの仕事と家庭が両立できる制度があっても、それを利用できる職場の雰囲気ではないから」(41.4%) が最も高くなっている。

図表 3-4 女性が職業を続けられない方がよいと思う理由 [全体、年齢別、配偶関係別]

(%)

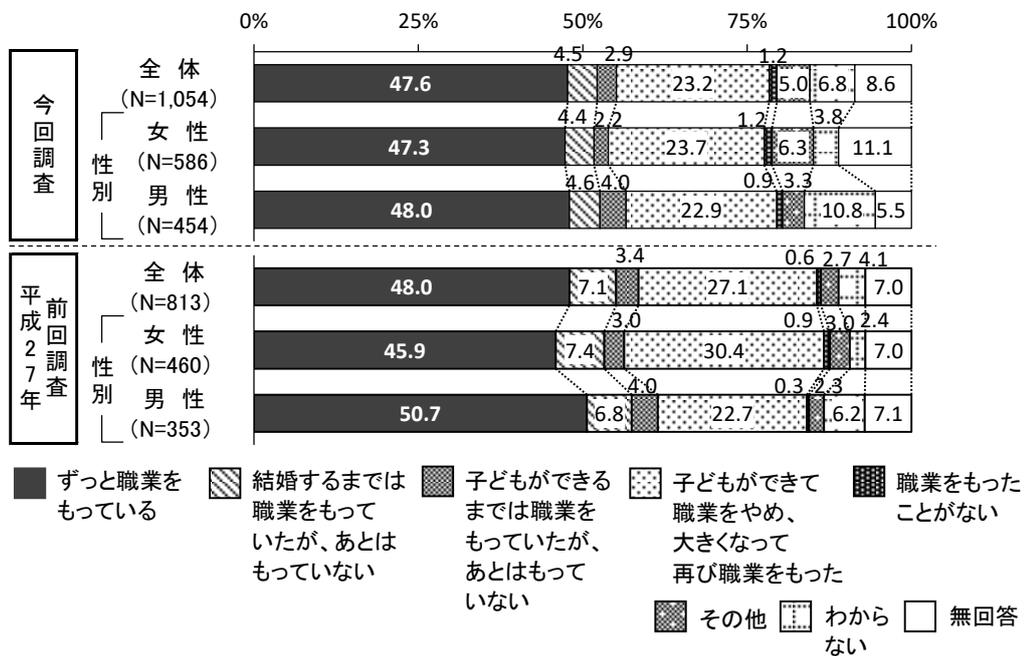
		標本数	女性に専念し、家事・育児・介護を担うべきだから	女性に定年まで働き続けるべき	女性に能力は正當に評価されない	女性が働く上で不利な慣習などが多いから	も、それを利用できる職場の雰囲気ではないから	育児休業などの仕事と家庭が両立できるから	現在ある仕事と家庭が両立できないから	整ってないから	その他	無回答
全体		259 100.0	54 20.8	18 6.9	12 4.6	37 14.3	87 33.6	87 33.6	43 16.6	34 13.1	17 6.6	
年齢別	女性: 18～29歳	19	26.3	-	-	26.3	36.8	36.8	31.6	15.8	-	
	女性: 30～39歳	22	18.2	9.1	-	18.2	31.8	63.6	13.6	4.5	-	
	女性: 40～49歳	20	25.0	5.0	-	20.0	40.0	30.0	10.0	30.0	-	
	女性: 50～59歳	28	14.3	10.7	3.6	17.9	35.7	32.1	10.7	28.6	-	
	女性: 60～69歳	23	21.7	8.7	4.3	13.0	26.1	26.1	21.7	17.4	4.3	
	女性: 70歳以上	28	10.7	-	7.1	10.7	28.6	25.0	25.0	7.1	25.0	
	男性: 18～29歳	15	20.0	20.0	-	6.7	53.3	46.7	6.7	-	-	
	男性: 30～39歳	17	29.4	5.9	5.9	5.9	29.4	41.2	11.8	11.8	-	
	男性: 40～49歳	15	26.7	13.3	6.7	6.7	33.3	40.0	13.3	20.0	-	
	男性: 50～59歳	22	31.8	-	4.5	9.1	36.4	22.7	13.6	-	9.1	
男性: 60～69歳	21	14.3	-	-	14.3	42.9	38.1	28.6	9.5	9.5		
男性: 70歳以上	24	16.7	16.7	12.5	16.7	25.0	20.8	12.5	8.3	16.7		
	無回答	5	40.0	-	40.0	20.0	-	-	-	20.0	20.0	
配偶関係別	女性: 未婚	26	30.8	3.8	-	19.2	26.9	46.2	19.2	23.1	-	
	女性: 配偶者がいる	99	16.2	6.1	4.0	16.2	34.3	32.3	17.2	16.2	7.1	
	女性: 配偶者と死別した	8	12.5	-	-	25.0	37.5	25.0	50.0	-	12.5	
	女性: 配偶者と離別した	7	14.3	14.3	-	14.3	28.6	42.9	-	28.6	-	
	男性: 未婚	29	17.2	20.7	-	3.4	41.4	37.9	13.8	-	10.3	
	男性: 配偶者がいる	71	25.4	4.2	7.0	14.1	31.0	33.8	12.7	12.7	7.0	
	男性: 配偶者と死別した	3	33.3	33.3	-	-	-	-	33.3	-	-	
男性: 配偶者と離別した	11	18.2	-	9.1	9.1	63.6	27.3	27.3	-	-		
	無回答	5	40.0	-	40.0	20.0	-	-	-	20.0	20.0	

2. 女性の実際の働き方

●女性の実際の働き方は「ずっと職業をもっている」が約5割。男女とも考え方の就労継続より1割以上低い。

問7. あなた（男性の場合は、あなたの配偶者（パートナー））は、どのような働き方ですか（どのような働き方になりそうですか）。独身の方も、結婚した場合を想定してお答えください。（○印は1つ）

図表3-5 女性の実際の働き方〔全体、性別〕（前回調査比較）



実際、女性はどのような働き方をしているかたずねたところ、「ずっと職業をもっている」が47.6%と最も多く、次いで「子どもができて職業をやめ、大きくなって再び職業をもった」が23.2%、「結婚するまでは職業をもっていたが、あとはもっていない」が4.5%、「子どもができるまでは職業をもっていたが、あとはもっていない」が2.9%、「職業をもったことがない」が1.2%となっている。

性別による差はあまりみられない。考え方では就労継続は6割前後であったが実際には9.5～15.7ポイント低く、専業主婦の割合がやや高くなっている。子育て期に就労を中断する働き方は考え方と実際は同程度の割合となっている。

前回調査と比べると、女性では「子どもができて職業をやめ、大きくなって再び職業をもった」が6.7ポイント、「結婚するまでは職業をもっていたが、あとはもっていない」が3ポイント減り、「ずっと職業をもっている」は同程度となっている。

II 調査結果の分析

年齢別でみると、就労継続は女性の30代で58.8%と最も高く、18～29歳で56.2%、40代と60代で5割前後となっている。男性は50代で57.7%、30代で49.3%となっている。子育て期に就労を中断する働き方は、考え方では1割台と低かった女性の40代と50代で3割前後と高い。

配偶関係別でみると、女性の未婚者は就労継続が57.5%と配偶者がいる人(43.2%)よりも高い。配偶者がいる女性では子育てに期に就労を中断する働き方や専業主婦の割合がその他の配偶関係者よりも比較的多い。

性別役割分担意識別でみると、考え方と同じように男女とも同感する人ほど子育て期に就労を中断する働き方や専業主婦志向の割合が高く、同感しない人ほど就労継続の割合が高い。

図表3-6 女性の実際の働き方 [全体、性別、配偶関係別、性別役割分担意識別]

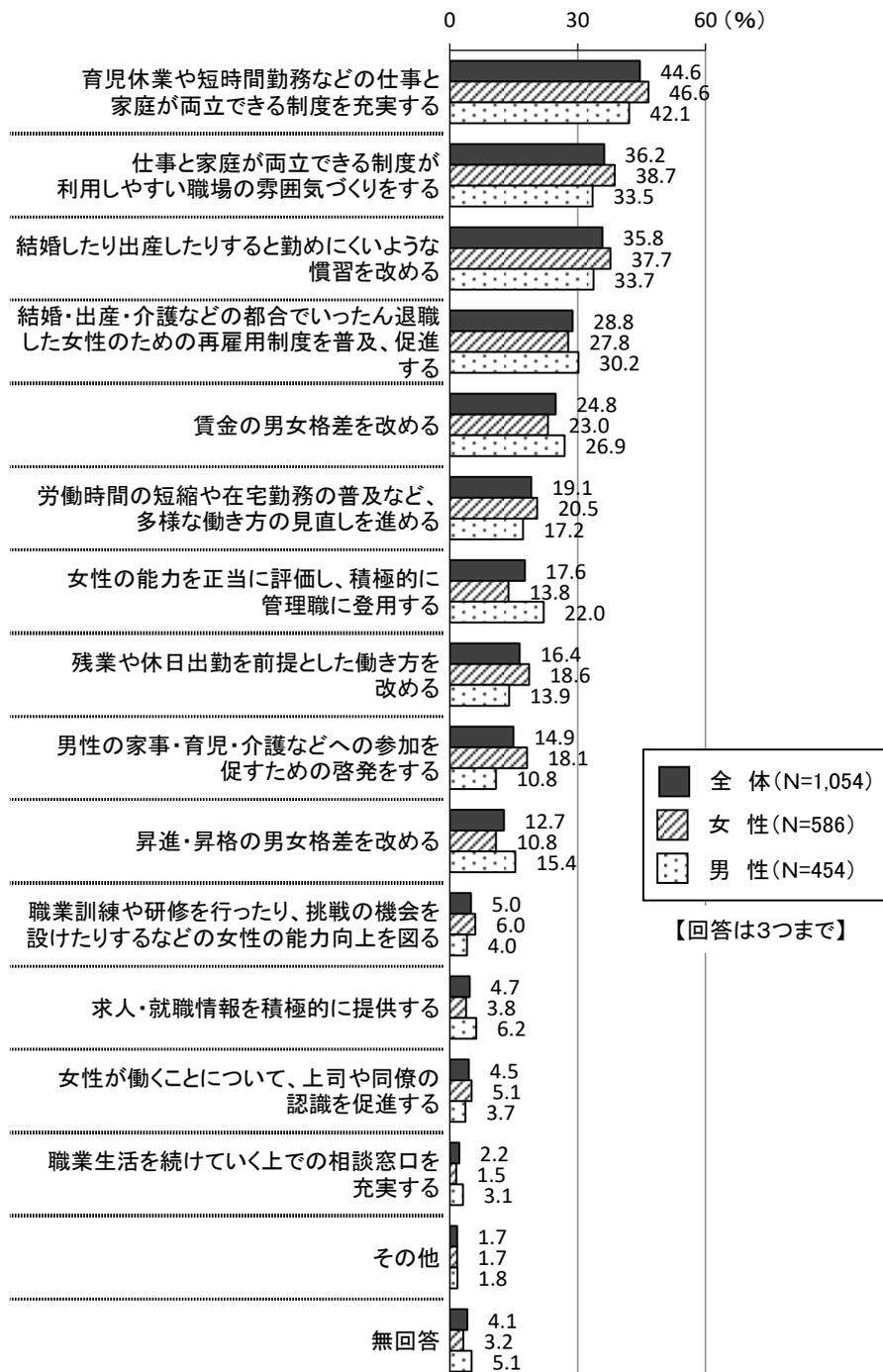
		標本数	る ず つ と 職 業 を も つ て い	も も 結 婚 つ つ て い る ま だ い が 、 あ 職 業 を は	あ 職 業 は も も つ つ て い る ま だ い が	子 ど も が つ つ て い る ま だ い が	び や め ど も が つ つ て い る ま だ い が	子 ど も が つ つ て い る ま だ い が	い 職 業 を も つ た こ と が な	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答
全 体		1,054 100.0	502 47.6	47 4.5	31 2.9	245 23.2	13 1.2	53 5.0	72 6.8	91 8.6		
年 齢 別	女性:18～29歳	89	56.2	-	3.4	14.6	4.5	4.5	13.5	3.4		
	女性:30～39歳	97	58.8	6.2	2.1	23.7	1.0	3.1	1.0	4.1		
	女性:40～49歳	115	49.6	2.6	0.9	29.6	-	8.7	4.3	4.3		
	女性:50～59歳	130	42.3	6.2	3.8	30.0	-	6.2	2.3	9.2		
	女性:60～69歳	78	51.3	7.7	-	16.7	-	7.7	-	16.7		
	女性:70歳以上	76	22.4	3.9	2.6	22.4	2.6	7.9	1.3	36.8		
	男性:18～29歳	65	46.2	1.5	3.1	12.3	1.5	3.1	26.2	6.2		
	男性:30～39歳	73	49.3	4.1	5.5	23.3	-	4.1	9.6	4.1		
	男性:40～49歳	81	39.5	6.2	4.9	28.4	-	2.5	12.3	6.2		
	男性:50～59歳	104	57.7	4.8	2.9	19.2	-	1.9	8.7	4.8		
男性:60～69歳	68	47.1	2.9	5.9	27.9	2.9	4.4	7.4	1.5			
男性:70歳以上	63	44.4	7.9	1.6	27.0	1.6	4.8	1.6	11.1			
無回答	15	53.3	-	-	13.3	13.3	6.7	6.7	6.7			
配 偶 関 係 別	女性:未婚	127	57.5	0.8	2.4	16.5	3.1	2.4	12.6	4.7		
	女性:配偶者がいる	380	43.2	6.3	2.6	26.8	0.5	8.7	1.1	10.8		
	女性:配偶者と死別した	33	33.3	3.0	-	18.2	3.0	-	6.1	36.4		
	女性:配偶者と離別した	42	64.3	-	-	21.4	-	2.4	-	11.9		
	男性:未婚	145	45.5	0.7	3.4	15.9	1.4	2.8	22.8	7.6		
	男性:配偶者がいる	270	51.5	7.0	4.4	28.1	0.7	4.1	2.6	1.5		
	男性:配偶者と死別した	6	50.0	16.7	-	-	-	-	16.7	16.7		
男性:配偶者と離別した	28	32.1	-	3.6	17.9	-	-	21.4	25.0			
無回答	23	43.5	-	-	13.0	8.7	4.3	13.0	17.4			
性 別 役 割 分 担 意 識 別	女性:同感する	8	37.5	12.5	-	-	-	25.0	12.5	12.5		
	女性:ある程度同感する	117	37.6	6.0	3.4	25.6	3.4	7.7	1.7	14.5		
	女性:あまり同感しない	233	41.2	5.6	2.1	30.0	0.4	5.2	4.3	11.2		
	女性:同感しない	225	59.1	2.2	1.8	17.3	0.9	5.8	4.0	8.9		
	男性:同感する	16	12.5	25.0	-	25.0	6.3	-	31.3	-		
	男性:ある程度同感する	113	35.4	8.0	6.2	31.0	-	5.3	8.8	5.3		
	男性:あまり同感しない	193	50.3	2.1	4.1	21.2	0.5	2.1	13.0	6.7		
	男性:同感しない	128	60.9	3.1	2.3	17.2	0.8	3.9	7.0	4.7		
無回答	21	42.9	-	-	19.0	14.3	9.5	4.8	9.5			

3. 女性が働き続けるために必要なこと

●女性が働き続けるために必要なことは「仕事と家庭が両立できる制度の充実」「両立制度を利用しやすい職場の雰囲気づくり」「結婚・出産すると勤めにくい慣習の改め」が上位3位。

問8. 女性が職業をもち、働き続けるためには、どのようなことが必要だと思いますか。  
(○印は3つまで)

図表3-7 女性が働き続けるために必要なこと [全体、性別]



## II 調査結果の分析

---

女性が働き続けるために必要なことをたずねたところ、「育児休業や短時間勤務などの仕事と家庭が両立できる制度を充実する」が44.6%で最も高く、次いで「仕事と家庭が両立できる制度が利用しやすい職場の雰囲気づくりをする」が36.2%、「結婚したり出産したりすると勤めにくいような慣習を改める」が35.8%であげられている。

性別で見ると、女性は上位3位にあげられた項目が男性よりも4～5.2ポイント高く、また「男性の家事・育児・介護などへの参加を促すための啓発をする」が7.3ポイント、「残業や休日出勤を前提とした働き方を改める」「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など、多様な働き方の見直しを進める」などが3.3～4.7ポイント高い。男性は女性よりも「女性の能力を正當に評価し、積極的に管理職に登用する」が8.2ポイント、「昇進・昇格の男女格差を改める」「賃金の男女格差を改める」など3.9～4.6ポイント高くなっている。

年齢別でみると、女性の年齢が低い層では「育児休業や短時間勤務などの仕事と家庭が両立できる制度を充実する」や「結婚したり出産したりすると勤めにくいような慣習を改める」「仕事と家庭が両立できる制度が利用しやすい職場の雰囲気づくりをする」「残業や休日出勤を前提とした働き方を改める」「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など、多様な働き方の見直しを進める」、反対に年齢が高い層では「結婚・出産・介護などの都合でいったん退職した女性のための再雇用制度を普及、促進する」「賃金の男女格差を改める」の割合が高い傾向がみられる。

配偶関係別でみると、女性の未婚では「結婚したり出産したりすると勤めにくいような慣習を改める」や「結婚・出産・介護などの都合でいったん退職した女性のための再雇用制度を普及、促進する」「残業や休日出勤を前提とした働き方を改める」「女性の能力を正當に評価し、積極的に管理職に登用する」「昇進・昇格の男女格差を改める」などが配偶者がいる人よりも割合が高い。配偶者がいる人では「仕事と家庭が両立できる制度が利用しやすい職場の雰囲気づくりをする」や「育児休業や短時間勤務などの仕事と家庭が両立できる制度を充実する」「男性の家事・育児・介護などへの参加を促すための啓発をする」「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など、多様な働き方の見直しを進める」などの割合が未婚者よりも高くなっている。

図表3-8 女性が働き続けるために必要なこと [全体、年齢別、配偶関係別]

(%)

		標本数	賃金の男女格差を改める	昇進・昇格の男女格差を改める	女性の能力を正當に評価し、積極的に管理職に登用する	残業や休日出勤を前提とした働き方を改める	結婚したり出産したりすると勤めにくいような慣習を改める	育児休業や短時間勤務などの仕事と家庭が両立できる制度を充実する	労働時間の短縮や在宅勤務の普及など、多様な働き方の見直しを進める	仕事と家庭が両立できる制度が利用しやすい職場の雰囲気づくりをする	女性が働くことについて、上司や同僚の認識を促進する	男性の家事・育児・介護などへの参加を促すための啓発をする	退職した女性のための再雇用制度を普及・促進する	結婚・出産・介護などの都合でいったん退職した女性のための再雇用制度を普及・促進する	求人・就職情報を積極的に提供する	職業生活を続けていく上での相談窓口を充実する	職業訓練や研修を行うの女性への能力向上の機会を設けたりする	その他	無回答
全体		1,054 100.0	261 24.8	134 12.7	185 17.6	173 16.4	377 35.8	470 44.6	201 19.1	382 36.2	47 4.5	157 14.9	304 28.8	50 4.7	23 2.2	53 5.0	18 1.7	43 4.1	
年齢別	女性:18~29歳	89	16.9	15.7	10.1	27.0	49.4	52.8	19.1	32.6	7.9	15.7	24.7	2.2	2.2	-	2.2	1.1	
	女性:30~39歳	97	19.6	4.1	5.2	21.6	43.3	67.0	25.8	45.4	5.2	18.6	18.6	2.1	1.0	2.1	2.1	2.1	
	女性:40~49歳	115	26.1	13.0	15.7	23.5	33.0	38.3	20.9	39.1	5.2	16.5	21.7	6.1	2.6	7.0	3.5	1.7	
	女性:50~59歳	130	26.2	10.8	16.2	15.4	37.7	41.5	20.8	38.5	3.1	21.5	32.3	3.8	2.3	7.7	0.8	2.3	
	女性:60~69歳	78	23.1	9.0	19.2	10.3	38.5	37.2	20.5	38.5	6.4	19.2	33.3	5.1	-	14.1	-	3.8	
	女性:70歳以上	76	25.0	11.8	15.8	11.8	23.7	44.7	14.5	38.2	3.9	15.8	39.5	2.6	-	5.3	1.3	10.5	
	男性:18~29歳	65	27.7	21.5	15.4	16.9	35.4	35.4	27.7	26.2	4.6	9.2	23.1	3.1	4.6	3.1	6.2	6.2	
	男性:30~39歳	73	17.8	8.2	20.5	16.4	37.0	61.6	19.2	38.4	2.7	12.3	30.1	12.3	2.7	1.4	2.7	-	
	男性:40~49歳	81	29.6	16.0	21.0	11.1	42.0	39.5	14.8	32.1	4.9	7.4	32.1	8.6	1.2	3.7	2.5	3.7	
	男性:50~59歳	104	31.7	16.3	21.2	13.5	30.8	43.3	19.2	30.8	1.0	11.5	31.7	2.9	1.9	3.8	-	5.8	
男性:60~69歳	68	23.5	14.7	30.9	7.4	33.8	38.2	11.8	35.3	5.9	11.8	35.3	4.4	2.9	2.9	-	8.8		
男性:70歳以上	63	28.6	15.9	23.8	19.0	22.2	31.7	9.5	39.7	4.8	12.7	27.0	6.3	6.3	9.5	-	6.3		
無回答	15	26.7	6.7	33.3	6.7	20.0	40.0	20.0	20.0	-	13.3	26.7	-	-	-	-	-	6.7	
配偶関係別	女性:未婚	127	23.6	15.0	14.2	22.8	41.7	45.7	18.9	29.9	7.9	17.3	29.1	1.6	3.1	4.7	3.1	1.6	
	女性:配偶者がいる	380	21.3	9.7	11.6	18.4	36.3	48.2	21.3	43.2	3.7	19.2	26.3	4.5	0.8	6.3	1.6	3.4	
	女性:配偶者と死別した	33	24.2	9.1	33.3	9.1	42.4	45.5	18.2	30.3	6.1	18.2	36.4	3.0	-	6.1	-	4.8	
	女性:配偶者と離別した	42	38.1	9.5	19.0	14.3	38.1	38.1	19.0	33.3	9.5	11.9	33.3	2.4	4.8	7.1	-	-	
	男性:未婚	145	21.4	15.9	20.7	15.2	34.5	44.8	20.7	29.0	4.8	9.7	29.7	9.7	4.8	2.8	2.1	5.5	
	男性:配偶者がいる	270	28.1	15.2	23.3	13.7	34.8	41.5	15.9	38.1	3.0	12.2	31.9	4.8	1.9	4.4	1.1	3.3	
	男性:配偶者と死別した	6	33.3	-	16.7	-	33.3	50.0	-	16.7	-	-	-	-	-	-	-	33.3	
	男性:配偶者と離別した	28	39.3	21.4	14.3	14.3	25.0	39.3	17.9	17.9	7.1	7.1	28.6	3.6	3.6	7.1	3.6	7.1	
無回答	23	26.1	4.3	17.4	8.7	13.0	30.4	17.4	21.7	-	8.7	17.4	4.3	4.3	-	4.3	21.7		

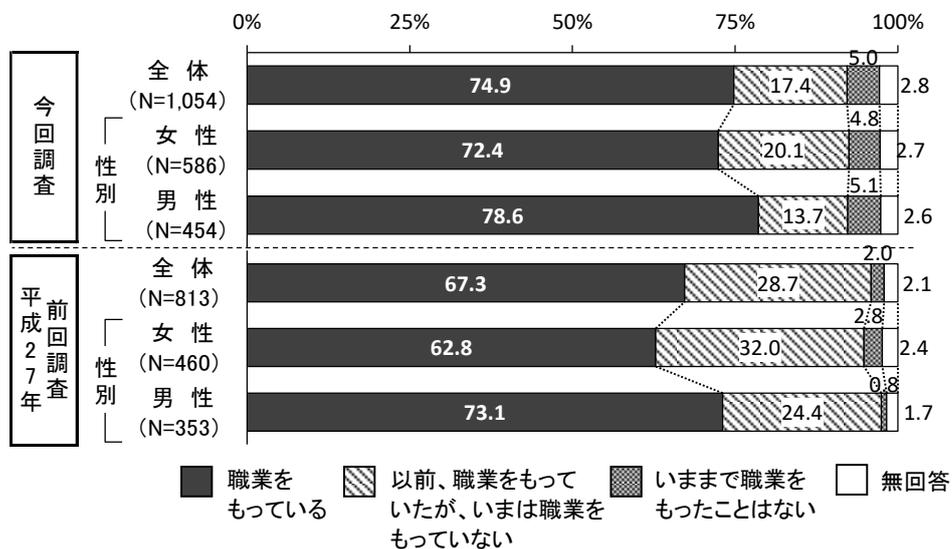
4. 就業状況について

(1) 現在の就業状況

- 現在、「職業をもっている」女性は7割強。前回調査よりも約10ポイント増加。女性の30代から50代では8割を超えている。
- 女性の未婚者よりも配偶者がいる人の方が「職業をもっている」割合は高い。

問9. あなたは現在、職業（収入のある仕事）をもっていますか（育児休業中、介護休業中などの人も働いているものとみなします）。（〇印は1つ）

図表3-9 現在の就業状況〔全体、性別〕（前回調査比較）



現在の職業（収入のある仕事）の有無について、「職業をもっている」が74.9%で最も高く、「以前、職業をもっていたが、いまは職業をもっていない」は17.4%、「いままで職業をもったことはない」は5.0%となっている。

性別で見ると、女性で「職業をもっている」が72.4%、「以前、職業をもっていたが、いまは職業をもっていない」が20.1%、「いままで職業をもったことはない」が4.8%となっている。一方男性では、「職業をもっている」が78.6%、「以前、職業をもっていたが、いまは職業をもっていない」が13.7%、「いままで職業をもったことはない」が5.1%となっている。

前回調査と比べると、女性で「職業をもっている」が9.6ポイント増え、「以前、職業をもっていたが、いまは職業をもっていない」が11.9ポイント減っている。

年齢別でみると、「職業をもっている」は30代、40代、50代で8割を超えて高い。「以前、職業をもっていたが、いまは職業をもっていない」は女性の60代以上で3割半ばから5割と高い。

配偶関係別でみると、女性の未婚者では「職業をもっている」が68.5%であるが、配偶者がいる人では72.9%と現在、仕事をしている人は未婚者よりも多い。

図表3-10 現在の就業状況 [全体、年齢別、配偶関係別]

		(%)				
		標本数	職業をもっている	以前、職業をもっていたが、いまは職業をもっていない	たまたま職業をもっていない	無回答
全 体		1,054 100.0	789 74.9	183 17.4	53 5.0	29 2.8
年 齢 別	女性:18~29歳	89	62.9	11.2	24.7	1.1
	女性:30~39歳	97	84.5	12.4	2.1	1.0
	女性:40~49歳	115	87.8	10.4	0.9	0.9
	女性:50~59歳	130	83.8	14.6	0.8	0.8
	女性:60~69歳	78	62.8	34.6	-	2.6
	女性:70歳以上	76	34.2	50.0	2.6	13.2
	男性:18~29歳	65	63.1	7.7	27.7	1.5
	男性:30~39歳	73	93.2	5.5	1.4	-
	男性:40~49歳	81	90.1	3.7	4.9	1.2
	男性:50~59歳	104	93.3	3.8	-	2.9
	男性:60~69歳	68	73.5	25.0	-	1.5
男性:70歳以上	63	44.4	46.0	-	9.5	
	無回答	15	60.0	20.0	13.3	6.7
配 偶 関 係 別	女性:未婚	127	68.5	10.2	18.9	2.4
	女性:配偶者がいる	380	72.9	24.2	1.1	1.8
	女性:配偶者と死別した	33	63.6	24.2	-	12.1
	女性:配偶者と離別した	42	88.1	9.5	-	2.4
	男性:未婚	145	71.7	9.7	15.9	2.8
	男性:配偶者がいる	270	83.0	15.6	-	1.5
	男性:配偶者と死別した	6	83.3	16.7	-	-
	男性:配偶者と離別した	28	71.4	17.9	-	10.7
		無回答	23	60.9	17.4	8.7

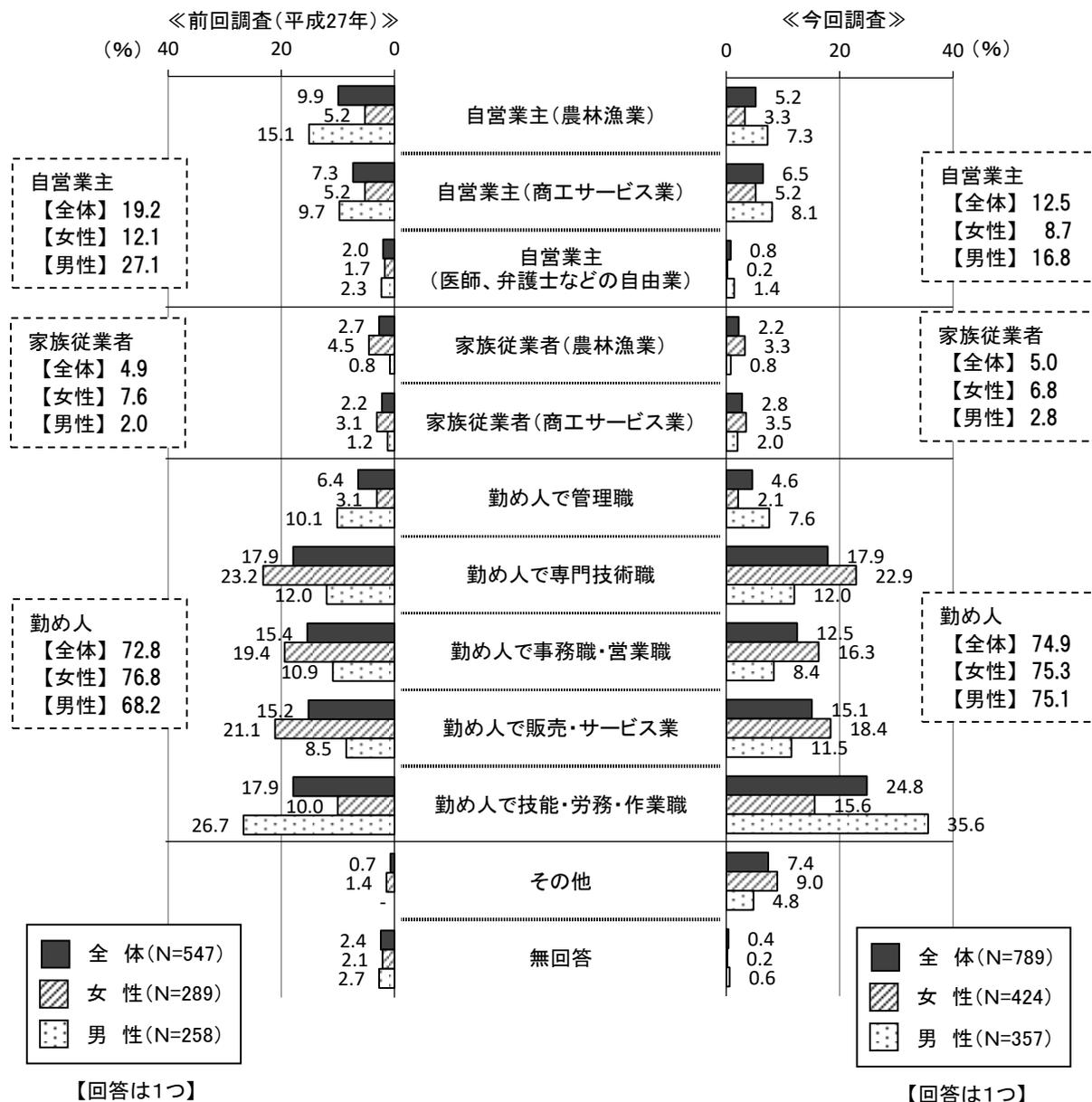
II 調査結果の分析

(2) 就業形態

- 就業形態は『自営業主』が12.5%、『家族従業者』は5.0%、『勤め人』は74.9%。
- 『自営業主』は男性、『家族従業者』は女性が多い。『勤め人』のうち「管理職」と「技能・労務・作業職」は男性、「専門技術職」と「事務職・営業職」「販売・サービス業」は女性が多い。

問9付問1. [問9で1.「職業をもっている」と答えた方に] あなたの職業は次のどれですか。(○印は1つ)

図表3-11 就業形態 [全体、性別] (前回調査比較)



「職業をもっている」と答えた789人に、就業形態をたずねた。

大別すると4つに分けられる。一つは『自営業主』で、細目は「自営業主 (農林漁業)」「自営業主 (商工サービス業)」「自営業主 (医師、弁護士などの自由業)」の自営業主3職種、二つ目

は自営業の『家族従業者』で「家族従業者（農林漁業）」「家族従業者（商工サービス業）」の家族従業者2職種、三つ目は『勤め人』で、細目は「勤め人で管理職」「勤め人で専門技術職」「勤め人で事務職・営業職」「勤め人で販売・サービス業」「勤め人で技能・労務・作業職」の5職種である。最後に「その他」である。

『自営業』に該当するのは全体の12.5%である。性別では女性で8.7%、男性で16.8%である。『家族従業者』は全体で5.0%、女性は6.8%、男性は2.8%となっている。また、『勤め人』に該当するのは全体の74.9%で、性別で見ると女性では75.3%、男性では75.1%となっている。

性別で細目をみると、まず自営業主3職種である「自営業主（農林漁業）」「自営業主（商工サービス業）」「自営業主（医師、弁護士などの自由業）」は男性の割合が多く、反対に家族従業者2職種である「家族従業者（農林漁業）」「家族従業者（商工サービス業）」は女性の割合が高い。勤め人5職種では、「勤め人で管理職」は男性が多く、女性管理職は2.1%にとどまった。「勤め人で専門技術職」「勤め人で事務職・営業職」「勤め人で販売・サービス業」は女性が多く、とりわけ専門技術職（女性22.9%、男性12.0%）は女性が多い職種となっている。一方、「勤め人で技能・労務・作業職」（同15.6%、35.6%）は男性が多い職種である。

前回調査と比べると、男女とも『自営業』の割合がやや減り、男性の『勤め人』の割合が増えている。

年齢別で見ると、『自営業』において、「自営業主（農林漁業）」は男性の60歳以上、「自営業主（商工サービス業）」は男性の50代と70歳以上で多い。『勤め人』のうち「勤め人で管理職」は男性の50代と60代に多い。「勤め人で専門技術職」は女性の年齢が低い層と男性の30代で多く、「勤め人で事務職・営業職」は女性の18～29歳と30代、「勤め人で販売・サービス業」は18～29歳と70歳以上で多い。「勤め人で技能・労務・作業職」は男性の18～29歳と40代で多い。

図表3-12 就業形態 [全体、年齢別]

(%)

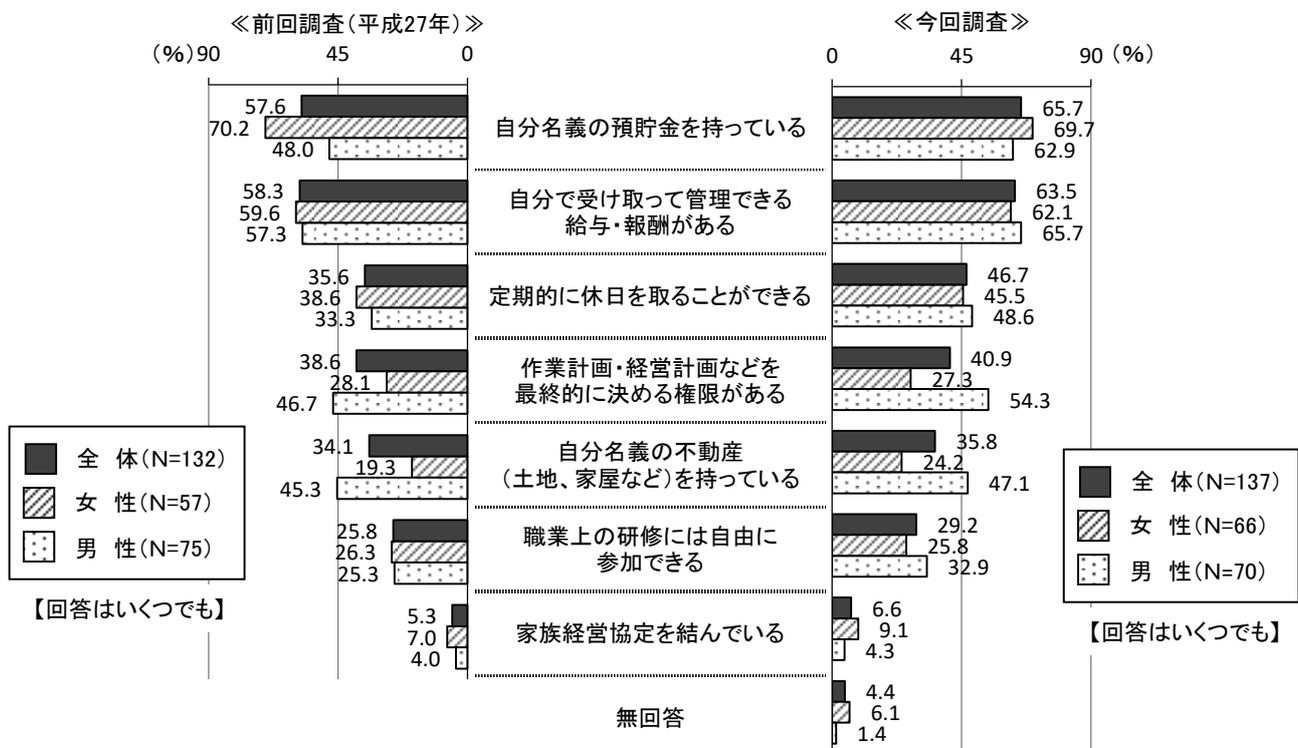
		標本数	自営業主 (農林漁業)	自営業主 (商工サービス業)	業(自営業主 (医師、弁護士などの自由業))	家族従業者 (農林漁業)	家族従業者 (商工サービス業)	勤め人で管理職 (課長級以上)	勤め人で専門技術職	勤め人で事務職・営業職	勤め人で販売・サービス業	勤め人で技能・労務・作業職	その他	無回答
全体		789 100.0	41 5.2	51 6.5	6 0.8	17 2.2	22 2.8	36 4.6	141 17.9	99 12.5	119 15.1	196 24.8	58 7.4	3 0.4
年齢別	女性:18～29歳	56	-	1.8	-	-	-	1.8	25.0	25.0	28.6	12.5	5.4	-
	女性:30～39歳	82	-	-	-	4.9	1.2	1.2	30.5	28.0	17.1	12.2	4.9	-
	女性:40～49歳	101	1.0	4.0	-	2.0	4.0	1.0	26.7	16.8	17.8	18.8	7.9	-
	女性:50～59歳	109	3.7	4.6	-	4.6	6.4	4.6	21.1	11.9	16.5	17.4	9.2	-
	女性:60～69歳	49	8.2	16.3	2.0	4.1	6.1	2.0	14.3	4.1	12.2	14.3	16.3	-
	女性:70歳以上	26	19.2	11.5	-	3.8	-	-	3.8	-	23.1	15.4	19.2	3.8
	男性:18～29歳	41	2.4	2.4	-	2.4	-	-	19.5	-	22.0	43.9	7.3	-
	男性:30～39歳	68	4.4	5.9	-	-	2.9	1.5	23.5	14.7	11.8	30.9	4.4	-
	男性:40～49歳	73	4.1	4.1	1.4	1.4	5.5	2.7	6.8	12.3	13.7	46.6	1.4	-
	男性:50～59歳	97	6.2	13.4	2.1	-	1.0	18.6	9.3	9.3	7.2	30.9	2.1	-
	男性:60～69歳	50	14.0	8.0	2.0	-	-	10.0	10.0	4.0	10.0	28.0	12.0	2.0
	男性:70歳以上	28	21.4	14.3	3.6	3.6	-	3.6	-	-	7.1	35.7	7.1	3.6
	無回答		9	11.1	11.1	-	-	-	-	11.1	-	-	33.3	33.3

(3) 自営業の就労状況

- 自営業の就労の状況は男女とも「自分名義の預貯金をもっている」「自分で受け取って管理できる給与・報酬がある」が6割半ばで上位。
- 男性は「作業・経営計画の最終的に決める権限」「自分名義の不動産をもっている」が女性よりも20ポイント以上高い。

問9付問1-1. [付問1で1~5と答えた方に] あなたの就労状況としては、次のどれがあてはまりますか。(〇印はいくつでも)

図表3-13 自営業の就労の状況 [全体、性別] (前回調査比較)



『自営業』の137名に、就労にかかわる状況を7項目にわたってたずねたところ、「自分名義の預貯金をもっている」(65.7%)、「自分で受け取って管理できる給与・報酬がある」(63.5%)などが6割台と高く、次いで、「定期的に休日を取ることができる」(46.7%)、「作業計画・経営計画などを最終的に決める権限がある」(40.9%)、「自分名義の不動産(土地、家屋など)をもっている」(35.8%)などが続いている。

性別で見ると、男性は「作業計画・経営計画などを最終的に決める権限がある」(女性27.3%、54.3%)が27ポイント、「自分名義の不動産(土地、家屋など)をもっている」(同24.2%、47.1%)が22.9ポイント、「職業上の研修には自由に参加できる」(同25.8%、32.9%)が7.1ポイント女性の割合を上回っている。資産の所有や決定権など経営の重要な部分は男性が担っている場合が多い。

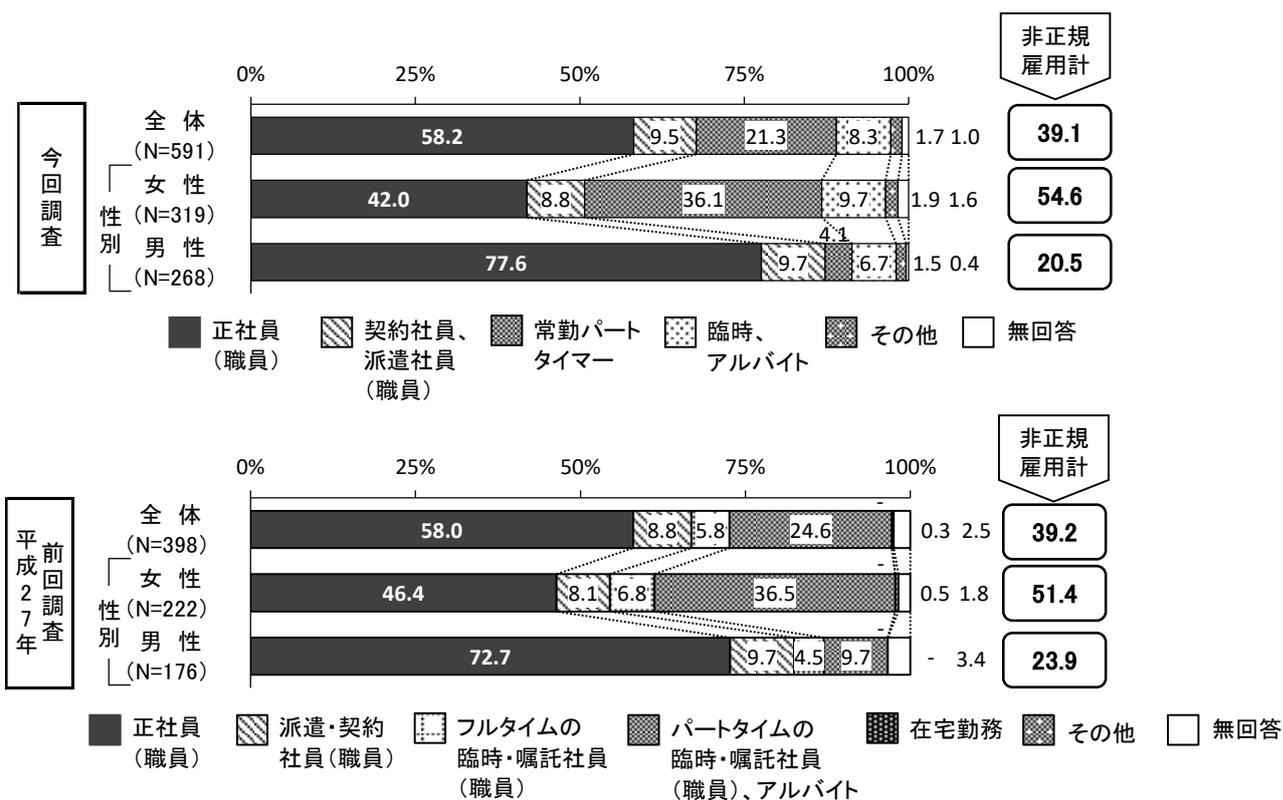
前回調査と比べると、女性で「定期的に休日を取ることができる」が6.9ポイント「自分名義の不動産(土地、家屋など)をもっている」が4.9ポイント高くなっている。

(4) 勤め人の雇用形態

- 女性は「正社員（職員）」が4割強、『非正規雇用』が5割半ばと非正規雇用の方が多い。
- 男性は「正社員（職員）」が8割弱、『非正規雇用』が約2割と正規雇用の方が多い。

問9付問1-2. [付問1で6~10と答えた方に] あなたの雇用形態は、大きく分けて次のどれにあたりますか。(○印は1つ)

図表3-14 勤め人の雇用形態 [全体、性別] (前回調査比較)



『勤め人』と答えた591名に、雇用形態をたずねた、「正社員（職員）」が58.2%で、「正社員（職員）」以外の項目を合計した『非正規雇用』が39.1%である。『非正規雇用』の内訳は、「契約社員・派遣社員（職員）」9.5%、「常勤パートタイマー」21.3%、「臨時、アルバイト」8.3%となっている。

性別で見ると、女性では「正社員（職員）」が42.0%、『非正規雇用』は54.6%で非正規雇用の方が高くなっている。男性では、「正社員（職員）」が77.6%、『非正規雇用』は20.5%と正社員の方が高くなっている。女性の正社員は男性よりも35.6ポイント低く、女性の方が不安定な雇用であることがわかる。『非正規雇用』の女性の内訳をみると、「常勤パートタイマー」36.1%、「臨時、アルバイト」9.7%、「契約社員・派遣社員（職員）」8.8%の順となっている。

前回調査と比べると、女性は「正社員（職員）」が4.4ポイント減少し、『非正規雇用』は3.2ポイントとやや増えている。男性は「正社員（職員）」が4.9ポイント増え、『非正規雇用』が3.4ポイントとやや減っている。

## II 調査結果の分析

年齢別でみると、女性では年代が低い層で「正社員（職員）」の割合が高く、18～29歳では57.7%となっている。反対に『非正規雇用』は年齢が高い層で多く、40代以上では5割を超え、「正社員（職員）」の割合を上回るようになる。男性の場合は「正社員（職員）」は40代の88.3%をピークに年代が低いほど割合は低く、18～29歳では77.1%となっている。男性の70歳以上では『非正規雇用』が61.6%と最も多い。

配偶関係別にみると、「正社員（職員）」は女性の未婚で61.0%と多いが、配偶者がいる場合や死別では『非正規雇用』が6割を超えて多くなっている。

図表3-15 勤め人の雇用形態 [全体、年齢別、配偶関係別]

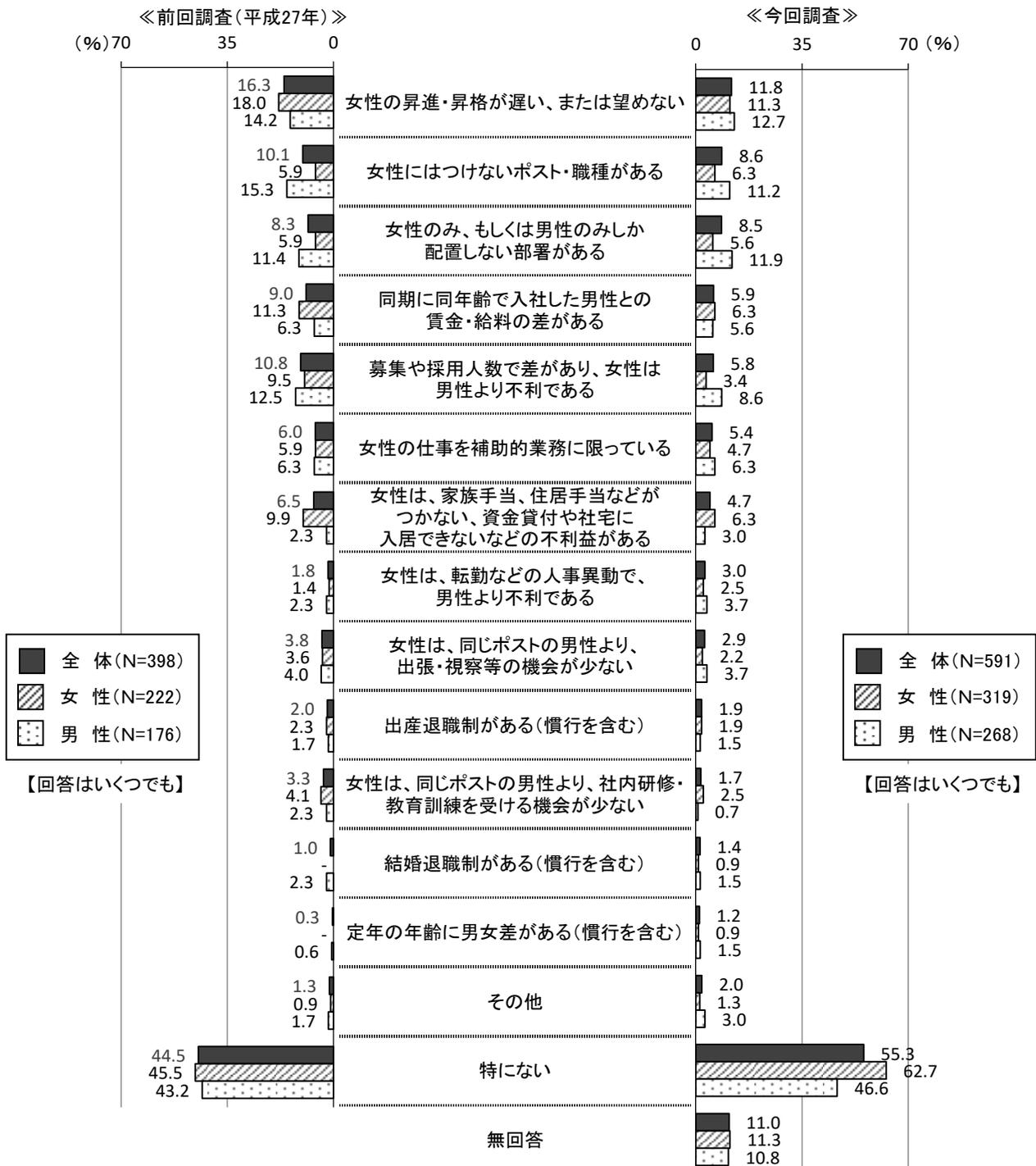
			(%)					(%)	
		標本数	正社員 (職員)	社契 約社員 (職員、 派遣)	パ ー ト 常 勤 タ イ マ ー	ア 臨 ル 時 バ イ ト	そ の 他	無 回 答	計 『 非 正 規 雇 用 』
全 体		591 100.0	344 58.2	56 9.5	126 21.3	49 8.3	10 1.7	6 1.0	231 39.1
年 齢 別	女性:18～29歳	52	57.7	9.6	11.5	21.2	-	-	42.3
	女性:30～39歳	73	49.3	4.1	32.9	8.2	1.4	4.1	45.2
	女性:40～49歳	82	37.8	9.8	41.5	6.1	2.4	2.4	57.4
	女性:50～59歳	78	42.3	7.7	44.9	5.1	-	-	57.7
	女性:60～69歳	23	17.4	26.1	34.8	13.0	8.7	-	73.9
	女性:70歳以上	11	-	-	72.7	18.2	9.1	-	90.9
	男性:18～29歳	35	77.1	8.6	2.9	8.6	2.9	-	20.1
	男性:30～39歳	56	83.9	8.9	3.6	1.8	1.8	-	14.3
	男性:40～49歳	60	88.3	6.7	1.7	3.3	-	-	11.7
	男性:50～59歳	73	86.3	6.8	1.4	4.1	-	1.4	12.3
	男性:60～69歳	31	41.9	22.6	9.7	19.4	6.5	-	51.7
男性:70歳以上	13	38.5	15.4	23.1	23.1	-	-	61.6	
	無回答	4	50.0	50.0	-	-	-	-	50.0
配 偶 関 係 別	女性:未婚	77	61.0	10.4	10.4	16.9	-	1.3	37.7
	女性:配偶者がいる	201	33.8	7.5	46.3	8.0	3.0	1.5	61.8
	女性:配偶者と死別した	12	33.3	16.7	41.7	8.3	-	-	66.7
	女性:配偶者と離別した	27	51.9	11.1	29.6	3.7	-	3.7	44.4
	男性:未婚	89	77.5	11.2	5.6	5.6	-	-	22.4
	男性:配偶者がいる	157	77.1	9.6	3.2	7.0	2.5	0.6	19.8
	男性:配偶者と死別した	2	100.0	-	-	-	-	-	-
	男性:配偶者と離別した	18	77.8	5.6	5.6	11.1	-	-	22.3
	無回答	8	62.5	25.0	12.5	-	-	-	37.5

(5) 職場における女性の就業環境

●職場における女性の就業環境は「特にない」が5割半ば。具体的な項目では「女性の昇進・昇格が遅い、または望めない」「女性にはつけないポスト・職種がある」「女性のみ、もしくは男性のみしか配置しない部署がある」などが1割前後で上位にあげられている。

問9付問1-3. [付問1で6~10と答えた方に] 次にあげることがらの中で、現在のあなたの職場の女性にあてはまることがありますか。(○印はいくつでも)

図表3-16 職場における女性の就業環境 [全体、性別] (前回調査比較)



## II 調査結果の分析

『勤め人』の人に現在の職場における女性の就業環境をたずねた。「特にない」が55.3%で最も多かった。該当する具体的な項目では、「女性の昇進・昇格が遅い、または望めない」(11.8%)、「女性にはつけないポスト・職種がある」(8.6%)、「女性のみ、もしくは男性のみしか配置しない部署がある」(8.5%)などが1割前後であげられている。

性別で見ると、「特にない」(女性62.7%、男性46.6%)は女性の方が16.1ポイント高く、その他女性の割合が男性よりも高い項目は「女性は家族手当、住宅手当などがつかない、資金貸付や社宅に入居できないなどの不利益がある」(女性6.3%、男性3.0%)である。一方、男性の方が割合が高い項目は「女性のみ、もしくは男性のみしか配置しない部署がある」(同5.6%、11.9%)、「女性にはつけないポスト・職種がある」(同6.3%、11.2%)、「募集や採用人数で差があり、女性は男性より不利である」(同3.4%、8.6%)などである。男女とも女性の昇進・昇格の制限についてはともに認識し、さらに女性は家族手当、社宅入居など待遇や昇進・昇格での不利益について、男性は募集・採用やポスト・職種など雇入れの体制や職域の制限に対して認識している。

前回調査と比べると、「特にない」は女性で17.2ポイント、男性では3.4ポイント増え、全体的に具体的な項目での割合は減っている。

雇用形態別で見ると、女性の正規雇用では「女性の昇進・昇格が遅い、または望めない」が18.7%、「同期に同年齢で入社した男性との賃金・給料の差がある」が10.4%と1割を超えて高い。

図表3-17 職場における女性の就業環境 [全体、雇用形態別]

		(%)																
		募集や採用人数で差があり、女性より不利である	女性の昇進・昇格が遅い、または望めない	同期に同年齢で入社した男性との賃金・給料の差がある	女性の仕事を補助的業務に限っている	女性のみ、もしくは男性のみしか配置しない部署がある	女性にはつけないポスト・職種がある	研修・教育訓練を受ける機会が少なくない	女性・視察等の機会が少ない	女性は、転勤などの人事異動で、男性より不利である	女性の年齢に男女差がある(慣行を含む)	結婚退職制がある(慣行を含む)	出産退職制がある(慣行を含む)	女性は、家族手当、住宅手当などがつかない、資金貸付や社宅に入居できないなどの不利益がある	その他	特にない	無回答	
全体		591 100.0	34 5.8	70 11.8	35 5.9	32 5.4	50 8.5	51 8.6	10 1.7	17 2.9	18 3.0	7 1.2	8 1.4	11 1.9	28 4.7	12 2.0	327 55.3	65 11.0
雇用形態別	女性:正規雇用	134	3.0	18.7	10.4	5.2	8.2	3.0	4.5	3.7	-	0.7	0.7	6.7	0.7	59.7	8.2	
	女性:非正規雇用	174	4.0	5.7	3.4	4.6	4.0	5.2	1.7	0.6	1.7	1.1	2.9	6.3	1.7	65.5	12.6	
	女性:その他	6	-	16.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	83.3	-	
	男性:正規雇用	208	10.1	15.4	7.2	6.3	14.4	10.6	1.0	3.8	4.3	1.9	1.4	1.9	3.8	2.4	44.7	8.2
	男性:非正規雇用	55	1.8	1.8	-	7.3	3.6	10.9	-	3.6	1.8	-	1.8	-	-	1.8	58.2	20.0
男性:その他	4	25.0	25.0	-	-	-	50.0	-	-	-	-	-	-	-	50.0	-	-	
無回答	10	-	-	-	-	-	10.0	10.0	-	-	-	10.0	10.0	-	-	30.0	40.0	

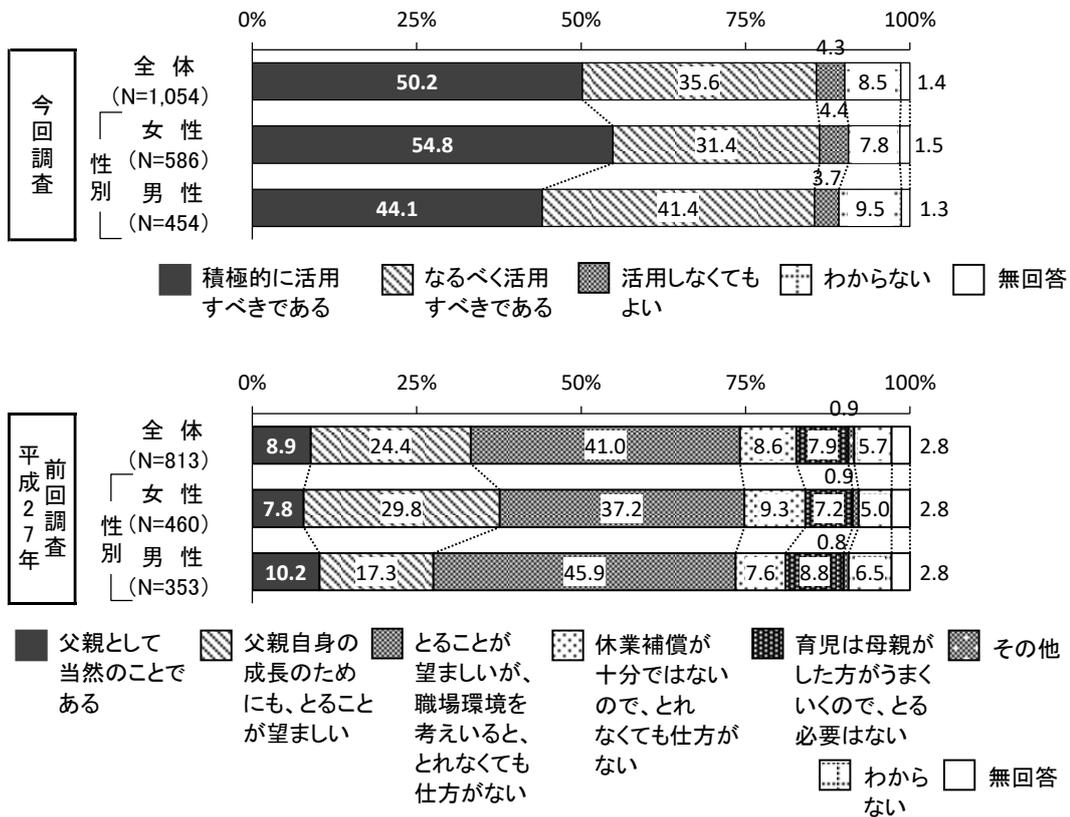
5. 男性が育児休業・介護休業・子の看護休暇を取得することについて

- 男性が育児休業、介護休業、子の看護休暇制度を活用することについて「積極的に活用すべきである」が約5割。男性の方が女性よりも約10ポイント低い。
- 男女とも管理職で「積極的に活用すべきである」（女性66.7%、男性48.1%）が最も高い。

〔ここからは全員がお答えください〕

問 10. 育児や家族の介護を行うために、法律に基づき育児休業・介護休業・子の看護休暇を取得できる制度があります。あなたは、男性がこの制度を活用することについて、どう思いますか。

図表3-18 男性が育児休業・介護休業・子の看護休暇制度を活用することについて  
〔全体、性別〕（前回調査比較）



男性が育児休業、介護休業、子の看護休暇制度を活用することについてたずねた。「積極的に活用すべきである」が50.2%で最も高く、次いで「なるべく活用すべきである」が35.6%、「活用しなくてもよい」は4.3%である。

性別で見ると、女性は「積極的に活用すべきである」が54.8%で男性（44.1%）よりも10.7ポイント高く、男性は「なるべく活用すべきである」が41.4%で女性（31.4%）よりも10ポイント高くなっている。男性自身の方が消極的な結果となっている。

## II 調査結果の分析

前回調査と設問項目が違うため正確な比較はできないが、「父親として当然のことである」「父親自身の成長のためにも、とることが望ましい」などの好意的な回答は女性 37.6%、男性 27.5%、とれなくても仕方がない回答は女性 46.5%、男性 53.5%と今回調査の方が男性の制度の活用には好意的になっているといえる。

年齢別でみると、女性の 18～29 歳で「積極的に活用すべきである」が 66.3%と最も高く、30 代でも 60.8%と年齢の低い層で高くなっている。他方、男性の 18～29 歳では「積極的に活用すべきである」が 38.5%と「なるべく活用すべきである」(43.1%)の方が割合は高く、また「わからない」が 15.4%と他の年代に比べて高くなっている。男性では 30 代と 40 代で「積極的に活用すべきである」が 5 割半ばと比較的高い。

就業形態でみると、勤め人で管理職の「積極的に活用すべきである」は女性で 66.7%、男性で 48.1%と勤め人の女性 58.1%、男性 47.7%に比べて割合は高くなっている。

図表 3-19 男性が育児休業・介護休業・子の看護休暇制度を活用することについて  
[全体、年齢別、就業形態別]

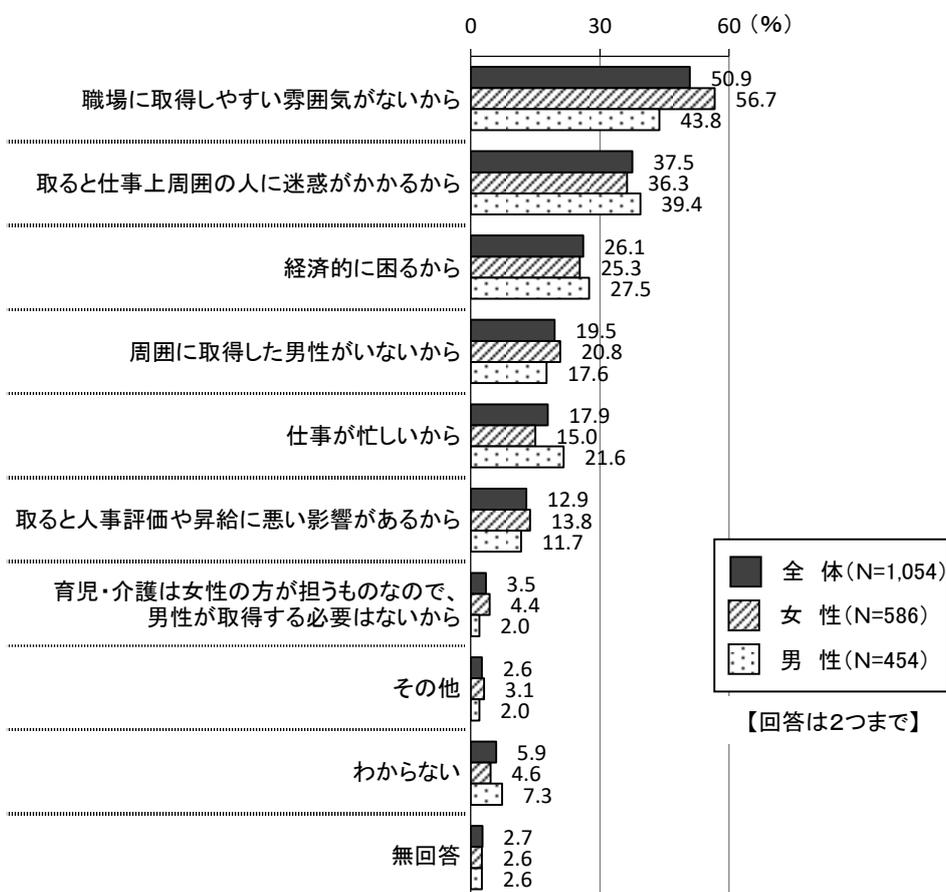
		標本数	積極的に活用する	なるべく活用する	活用しなくてもよい	わからない	無回答
全体		1,054 100.0	529 50.2	375 35.6	45 4.3	90 8.5	15 1.4
年齢別	女性:18～29歳	89	66.3	19.1	3.4	9.0	2.2
	女性:30～39歳	97	60.8	26.8	4.1	7.2	1.0
	女性:40～49歳	115	48.7	31.3	7.0	13.0	-
	女性:50～59歳	130	56.9	35.4	3.1	4.6	-
	女性:60～69歳	78	46.2	38.5	5.1	6.4	3.8
	女性:70歳以上	76	47.4	38.2	3.9	6.6	3.9
	男性:18～29歳	65	38.5	43.1	1.5	15.4	1.5
	男性:30～39歳	73	54.8	37.0	2.7	5.5	-
	男性:40～49歳	81	53.1	33.3	3.7	9.9	-
	男性:50～59歳	104	34.6	48.1	5.8	9.6	1.9
	男性:60～69歳	68	51.5	36.8	1.5	10.3	-
男性:70歳以上	63	33.3	49.2	6.3	6.3	4.8	
	無回答	15	60.0	20.0	13.3	6.7	-
就業形態別	女性:自営業主	37	54.1	16.2	10.8	13.5	5.4
	女性:家族従業者	29	62.1	17.2	6.9	13.8	-
	女性:勤め人で管理職	9	66.7	22.2	11.1	-	-
	女性:勤め人	310	58.1	30.3	4.8	6.1	0.6
	女性:その他	38	34.2	50.0	-	15.8	-
	男性:自営業主	60	41.7	46.7	5.0	6.7	-
	男性:家族従業者	10	40.0	40.0	-	20.0	-
	男性:勤め人で管理職	27	48.1	40.7	7.4	3.7	-
	男性:勤め人	241	47.7	39.0	4.1	8.7	0.4
	男性:その他	17	23.5	58.8	-	17.6	-
		無回答	276	47.5	37.0	2.9	9.1

6. 男性が育児休業を取得しない（できない）理由

●男性が育児休業等を取得しない（できない）理由は「職場に取得しやすい雰囲気がないから」が約5割と最も高い。

問 11. 女性の育児休業取得率は 82.2%であるのに対し、男性の育児休業取得率は 6.16%（厚生労働省：平成 30 年度雇用均等基本調査（全国））となっています。あなたは男性の 9 割以上が育児休業などを取得しない（できない）理由は何だと思えますか。あなたのお考えに最も近いものを選んでください。（○印は2つまで）

図表 3-20 男性が育児休業を取得しない（できない）理由 [全体、性別]



男性の9割以上が育児休業などを取得しない（できない）理由をたずねたところ、「職場に取得しやすい雰囲気がないから」が50.9%と最も高く、次いで「取ると仕事上周囲の人に迷惑がかかるから」が37.5%、「経済的に困るから」が26.1%などとなっている。

性別でみると、女性は「職場に取得しやすい雰囲気がないから」が56.7%で最も高く、男性よりも12.9ポイント高い。男性は「取ると仕事上周囲の人に迷惑がかかるから」（女性36.3%、男性39.4%）、「仕事が忙しいから」（同15.0%、21.6%）などの割合が女性よりも3.1～6.6ポイント高くなっている。

## II 調査結果の分析

就業形態別でみると、男性の勤め人で管理職では「取ると仕事上周囲の人に迷惑がかかるから」が66.7%と最も高くなっている。自営業主と勤め人では「仕事が忙しいから」が比較的高い。

図表3-21 男性が育児休業を取得しない（できない）理由〔全体、就業形態別〕

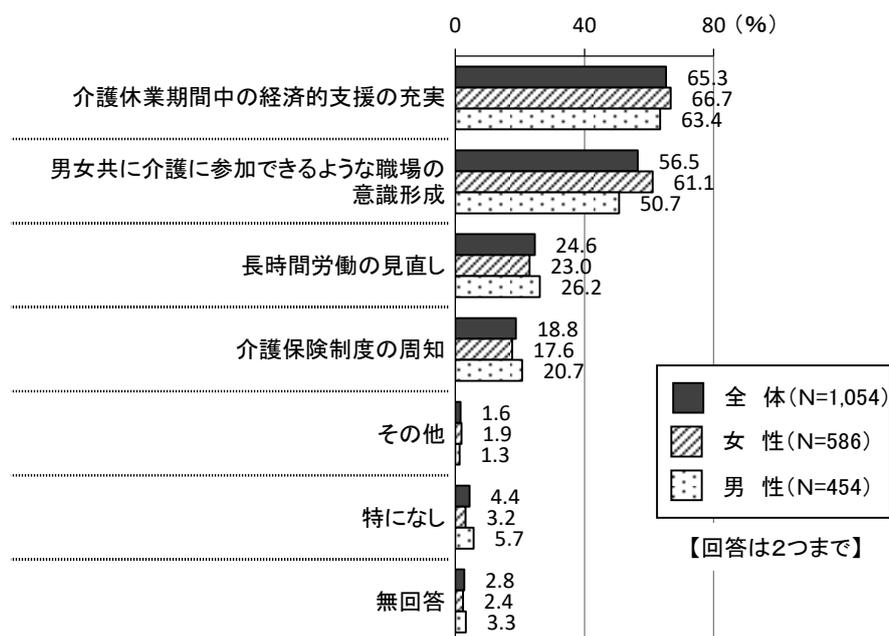
		標本数	い周囲から取得した男性がいな	が職場に取得しやすい雰囲気	仕事忙しいから	取ると仕事上周囲の人に迷惑がかかるから	取ると人事評価や昇給に悪影響があるから	経済的に困るから	育児・介護は女性のほうが取得する必要があるから	その他	わからない	無回答
全体		1,054 100.0	206 19.5	537 50.9	189 17.9	395 37.5	136 12.9	275 26.1	37 3.5	27 2.6	62 5.9	28 2.7
就業形態別	女性:自営業主	37	10.8	64.9	16.2	24.3	10.8	32.4	5.4	5.4	2.7	5.4
	女性:家族従業者	29	20.7	51.7	17.2	44.8	-	31.0	3.4	10.3	-	-
	女性:勤め人で管理職	9	22.2	55.6	11.1	11.1	11.1	44.4	-	-	11.1	-
	女性:勤め人	310	24.2	62.3	15.2	34.2	14.2	24.8	4.5	3.5	2.9	1.3
	女性:その他	38	21.1	42.1	10.5	42.1	10.5	31.6	5.3	-	15.8	2.6
	男性:自営業主	60	15.0	28.3	30.0	38.3	13.3	41.7	5.0	-	3.3	5.0
	男性:家族従業者	10	10.0	50.0	10.0	40.0	20.0	40.0	-	-	10.0	-
	男性:勤め人で管理職	27	11.1	48.1	18.5	66.7	7.4	22.2	-	3.7	-	-
	男性:勤め人	241	19.5	45.6	24.5	39.0	10.4	28.6	1.2	1.7	5.4	1.2
	男性:その他	17	5.9	47.1	11.8	47.1	11.8	17.6	-	-	23.5	-
無回答		276	18.1	47.5	14.9	37.3	15.9	19.6	4.3	2.2	9.1	5.4

7. 男女がともに介護と仕事を両立させていく環境を作るために必要なこと

●男女がともに働き、介護と仕事を両立させていく環境を作るために必要なことは「介護休業期間中の経済的支援の充実」「男女共に介護に参加できるような職場の意識形成」が上位。

問 12. 男女がともに働き、介護と仕事を両立させていく環境を作るためにはどのようなことが必要だと思いますか。(〇印は2つまで)

図表3-22 男女がともに介護と仕事を両立させていく環境を作るために必要なこと [全体、性別]



男女がともに働き、介護と仕事を両立させていく環境を作るために必要なことをたずねたところ、「介護休業期間中の経済的支援の充実」が65.3%、「男女共に介護に参加できるような職場の意識形成」が56.5%で5割を超えて高い。

性別で見ると、上位2位の項目には男女とも5割以上の割合となっているが、女性の方が3.3～10.4ポイント割合が高い。男性は「長時間労働の見直し」や「介護保険制度の周知」などの割合が女性よりもやや高くなっている。

## II 調査結果の分析

年齢別でみると、「介護休業期間中の経済的支援の充実」は女性の30代から60代、男性の30代と50代で7割前後と高い。「男女共に介護に参加できるような職場の意識形成」は女性の50代以下では6割を超えて高い。「長時間労働の見直し」は男女とも年齢の低い層で、「介護保険制度の周知」は年齢の高い層での割合が高い傾向がみられる。

就業形態別でみると、標本数は少ないが、女性の家族従業者では「男女共に介護に参加できるような職場の意識形成」が「介護休業期間中の経済的支援の充実」より割合が高い。男性ではその他を除いた就業形態で「介護休業期間中の経済的支援の充実」の方が割合が高くなっている。

図表3-23 男女がともに介護と仕事を両立させていく環境を作るために必要なこと  
[全体、年齢別、就業形態別]

		標本数	意識形成 よくな 職場に 参加の加	男女共 に介護 の経	経済的 支援の 充実中 の経	介護休 業期 間の充 実	長時 間労 働の 見直 し	介護 保 険 制 度 の 周 知	そ の 他	特 に な し	無 回 答
全体		1,054 100.0	596 56.5	688 65.3	259 24.6	198 18.8	17 1.6	46 4.4	30 2.8		
年齢別	女性:18~29歳	89	66.3	57.3	32.6	7.9	2.2	3.4	3.4		
	女性:30~39歳	97	60.8	72.2	29.9	17.5	2.1	1.0	1.0		
	女性:40~49歳	115	60.0	69.6	16.5	17.4	2.6	6.1	0.9		
	女性:50~59歳	130	66.2	73.8	16.2	16.9	2.3	1.5	-		
	女性:60~69歳	78	59.0	67.9	25.6	20.5	-	1.3	3.8		
	女性:70歳以上	76	50.0	52.6	22.4	27.6	1.3	6.6	7.9		
	男性:18~29歳	65	43.1	55.4	47.7	15.4	3.1	9.2	1.5		
	男性:30~39歳	73	54.8	71.2	27.4	17.8	2.7	1.4	-		
	男性:40~49歳	81	43.2	64.2	28.4	24.7	1.2	12.3	-		
	男性:50~59歳	104	53.8	71.2	21.2	18.3	-	4.8	2.9		
	男性:60~69歳	68	57.4	58.8	14.7	25.0	1.5	1.5	7.4		
男性:70歳以上	63	50.8	54.0	20.6	23.8	-	4.8	9.5			
	無回答	15	60.0	66.7	33.3	6.7	-	6.7	6.7		
就業 形態 別	女性:自営業主	37	51.4	64.9	21.6	27.0	2.7	2.7	5.4		
	女性:家族従業者	29	65.5	58.6	17.2	27.6	3.4	3.4	-		
	女性:勤め人で管理職	9	66.7	66.7	33.3	33.3	-	-	-		
	女性:勤め人	310	63.9	72.9	21.9	14.2	1.9	2.3	0.6		
	女性:その他	38	68.4	55.3	23.7	18.4	-	10.5	-		
	男性:自営業主	60	41.7	60.0	20.0	26.7	-	6.7	5.0		
	男性:家族従業者	10	30.0	70.0	40.0	20.0	-	10.0	-		
	男性:勤め人で管理職	27	51.9	74.1	22.2	18.5	3.7	-	3.7		
	男性:勤め人	241	50.6	66.0	27.4	20.7	1.2	5.0	2.1		
	男性:その他	17	64.7	52.9	17.6	17.6	5.9	11.8	-		
	無回答	276	55.4	59.1	27.2	18.1	1.4	5.1	6.2		

## 第4章 社会活動への参加・参画について

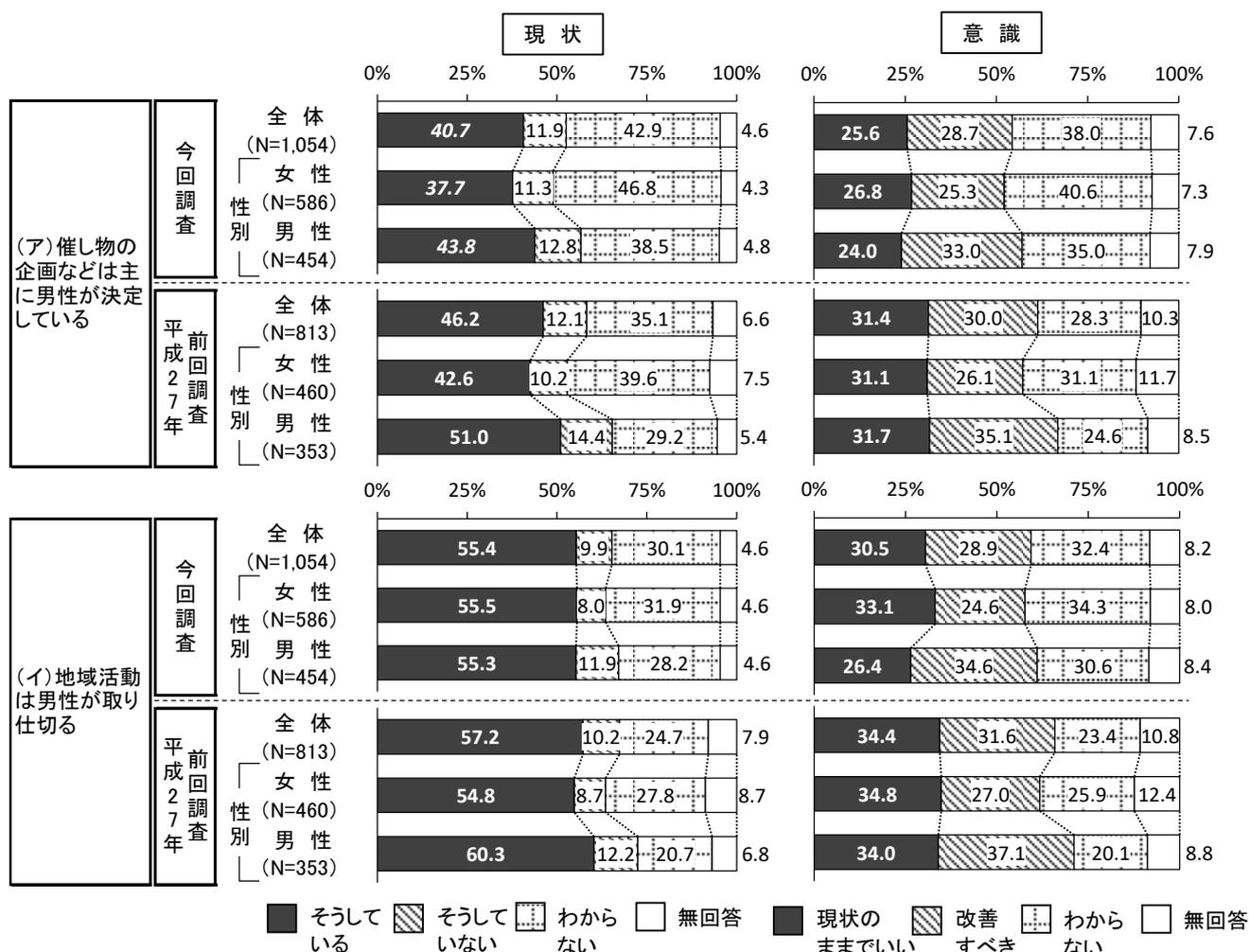
### 1. 地域活動での男女の役割分担

- 地域活動の現状は「地域での集会では、女性がお茶出しや片づけをしている」「地域活動は男性が取り仕切る」「地域の役員はほとんど男性になっている」などで5割半ばが「そうしている」と回答。
- 地域活動で男女の役割分担がある場合、「改善すべき」との回答が最も多い。

問 13. 地域活動での男女の役割分担についておうかがいします。

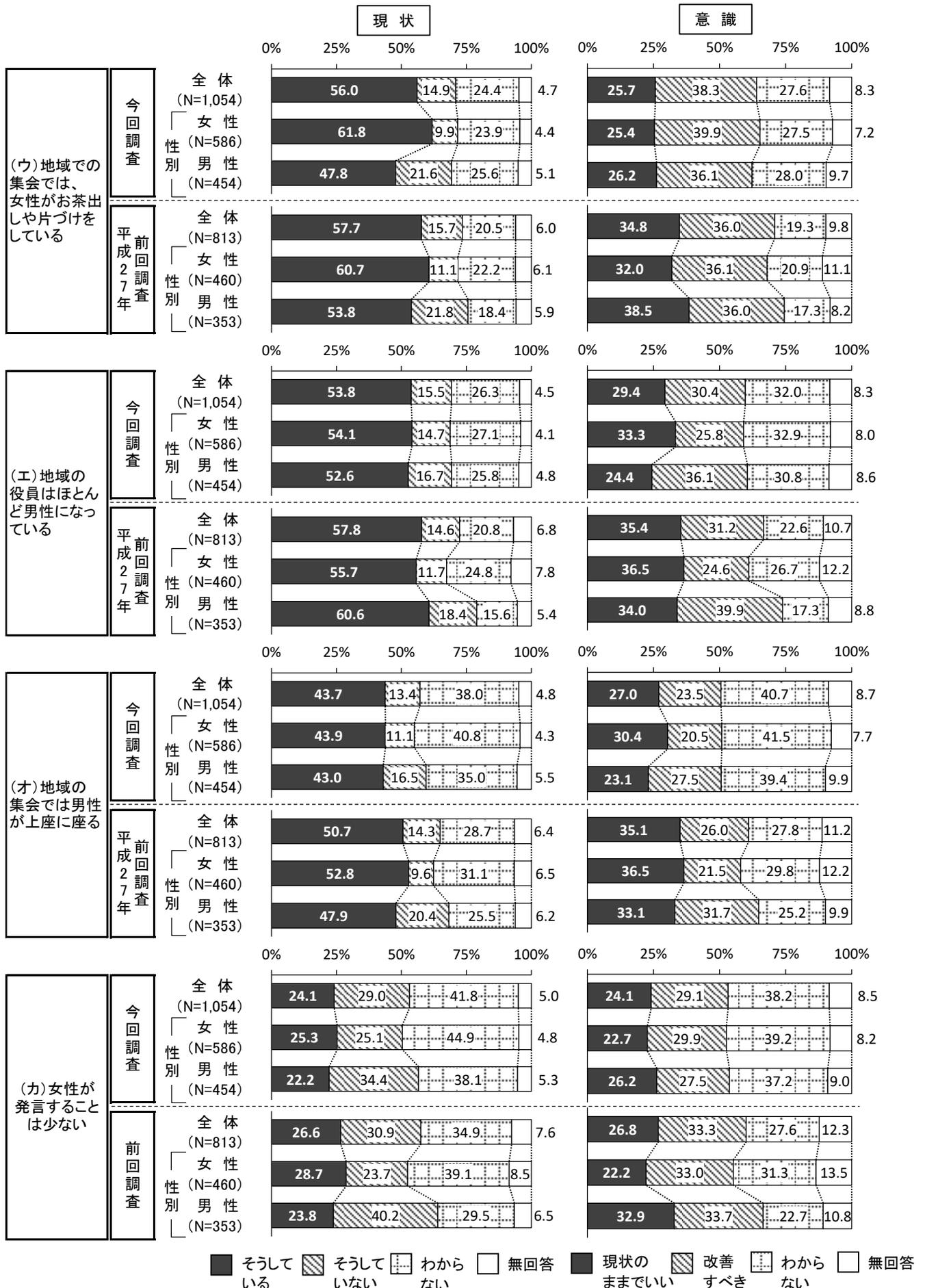
- (1) 現状：あなたが参加している地域活動の現状について(ア)から(ク)のそれぞれにあてはまるものを選んでください。(○印は1つずつ)
- (2) 意識：では、今後はどうすべきだと思いますか。(ア)から(ク)のそれぞれにあてはまるものを選んでください。(○印は1つずつ)

図表4-1(1) 地域活動での男女の役割 [全体、性別] (前回調査比較)

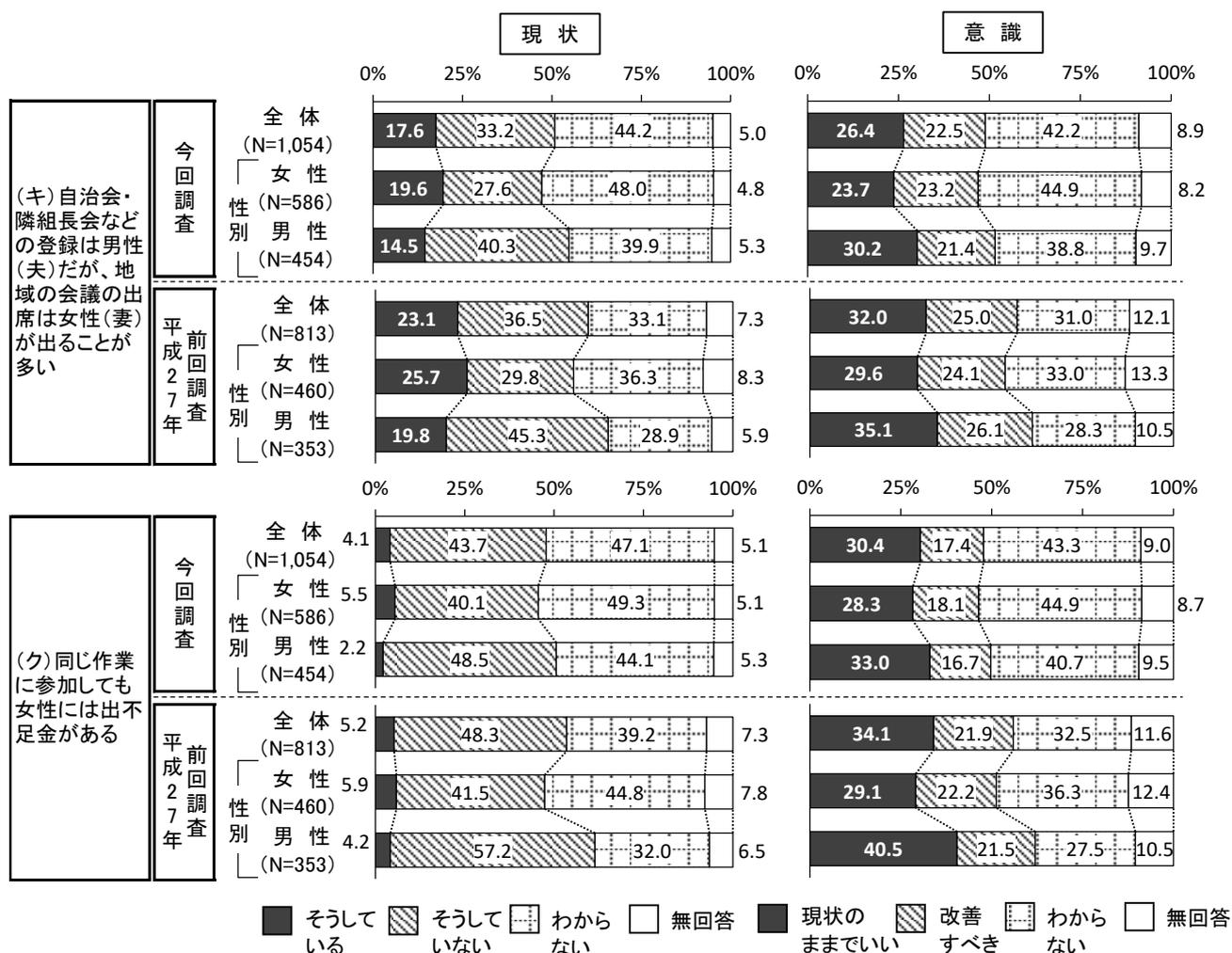


II 調査結果の分析

図表4-1(2) 地域活動での男女の役割 [全体、性別] (前回調査比較)



図表4-1(3) 地域活動での男女の役割 [全体、性別] (前回調査比較)



地域活動での男女の役割分担の状況について現状と意識をたずねた。現状で「そうしている」の割合が高かったものは、「地域での集会では、女性がお茶出しや片づけをしている」(56.0%)、「地域活動は男性が取り仕切る」(55.4%)、「地域の役員はほとんど男性になっている」(53.8%)で5割半ば、「地域の集会では男性が上座に座る」(43.7%)、「催し物の企画などは主に男性が決定している」(40.7%)が4割強と高い。

性別で見ると、「地域での集会では、女性がお茶出しや片づけをしている」は女性の「そうしている」が61.8%と男性(47.8%)を14ポイント上回っている。その他「女性が発言することは少ない」(女性25.3%、男性22.2%)、「自治会・隣組長会などの登録は男性(夫)だが、地域の会議の出席は女性(妻)が出ることが多い」(同19.6%、14.5%)などで女性の「そうしている」割合が男性よりもやや高い。反対に男性は「催し物の企画などは主に男性が決定している」が43.8%と女性(37.7%)を6.1ポイント上回っている。

前回調査と比べると、ほとんどの分野で男女とも前回調査よりも「そうしている」の割合が減少している。「自治会・隣組長会などの登録は男性(夫)だが、地域の会議の出席は女性(妻)が出ることが多い」は男女とも5.3~6.1ポイント減少し、その他「地域の集会では男性が上座に座る」が4.9~8.9ポイント、「催し物の企画などは主に男性が決定している」が4.9~7.2ポイント減少している。他方、「そうしていない」の割合に変化はあまりみられず、「わからない」が増える結果となっており、地域活動での役割分担が解消の方向へ向かっているとは言い難い。

II 調査結果の分析

年齢別でみると、各分野とも年齢の低い層では「わからない」の割合が高い。「そうしている」の割合が高い年代は、女性では40代以上、男性では50代以上となっており、実際に地域活動を行っていると思われる年代では、「そうしている」の割合が高くなっている。

居住地域別でみると、「地域での集会では、女性がお茶出しや片づけをしている」は杷木地域で67.0%、「地域の集会では男性が上座に座る」は杷木地域で50.9%と他の地域に比べて高くなっている。

図表4-2 地域活動での男女の役割の現状 [全体、年齢別、居住地域別]

		標本数	【現状】(ア)催し物の企画などは主に男性が決定している				【現状】(イ)地域活動は男性が取り仕切る				【現状】(ウ)地域での集会では、女性がお茶出しや片づけをしている				【現状】(エ)地域の役員はほとんど男性になっている			
			てそいうるし	いてそいうなし	なわいから	無回答	てそいうるし	いてそいうなし	なわいから	無回答	てそいうるし	いてそいうなし	なわいから	無回答	てそいうるし	いてそいうなし	なわいから	無回答
			(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
全体		1,054 100.0	429 40.7	125 11.9	452 42.9	48 4.6	584 55.4	104 9.9	317 30.1	49 4.6	590 56.0	157 14.9	257 24.4	50 4.7	567 53.8	163 15.5	277 26.3	47 4.5
年齢別	女性:18~29歳	89	18.0	10.1	68.5	3.4	40.4	5.6	50.6	3.4	59.6	6.7	30.3	3.4	38.2	11.2	47.2	3.4
	女性:30~39歳	97	17.5	9.3	72.2	1.0	43.3	4.1	51.5	1.0	54.6	2.1	42.3	1.0	41.2	8.2	49.5	1.0
	女性:40~49歳	115	37.4	9.6	48.7	4.3	55.7	7.8	31.3	5.2	63.5	13.0	19.1	4.3	58.3	12.2	25.2	4.3
	女性:50~59歳	130	47.7	10.0	37.7	4.6	59.2	7.7	29.2	3.8	62.3	10.8	22.3	4.6	56.2	17.7	21.5	4.6
	女性:60~69歳	78	51.3	15.4	32.1	1.3	71.8	11.5	14.1	2.6	65.4	16.7	15.4	2.6	74.4	15.4	7.7	2.6
	女性:70歳以上	76	56.6	15.8	15.8	11.8	65.8	13.2	7.9	13.2	65.8	10.5	11.8	11.8	59.2	23.7	7.9	9.2
	男性:18~29歳	65	24.6	10.8	61.5	3.1	27.7	10.8	56.9	4.6	38.5	6.2	47.7	7.7	26.2	15.4	53.8	4.6
	男性:30~39歳	73	38.4	13.7	47.9	-	53.4	12.3	34.2	-	50.7	13.7	35.6	-	46.6	15.1	38.4	-
	男性:40~49歳	81	37.0	8.6	49.4	4.9	54.3	7.4	34.6	3.7	40.7	17.3	37.0	4.9	45.7	21.0	28.4	4.9
	男性:50~59歳	104	47.1	17.3	32.7	2.9	62.5	13.5	21.2	2.9	53.8	28.8	15.4	1.9	65.4	13.5	19.2	1.9
男性:60~69歳	68	55.9	11.8	27.9	4.4	66.2	10.3	17.6	5.9	48.5	30.9	14.7	5.9	69.1	14.7	10.3	5.9	
男性:70歳以上	63	60.3	12.7	11.1	15.9	63.5	17.5	6.3	12.7	52.4	30.2	4.8	12.7	57.1	22.2	6.3	14.3	
無回答	15	60.0	6.7	26.7	6.7	53.3	20.0	20.0	6.7	80.0	6.7	6.7	6.7	73.3	13.3	6.7	6.7	
居住地域別	甘木地域	682	38.1	11.3	46.2	4.4	52.9	9.5	32.7	4.8	53.7	14.8	26.7	4.8	51.8	14.7	29.5	4.1
	朝倉地域	248	44.8	12.1	38.3	4.8	60.1	8.5	26.6	4.8	56.5	16.9	21.0	5.6	56.5	15.7	22.2	5.6
	杷木地域	106	44.3	16.0	34.9	4.7	59.4	13.2	24.5	2.8	67.0	12.3	18.9	1.9	56.6	20.8	18.9	3.8
	無回答	18	61.1	5.6	27.8	5.6	61.1	22.2	11.1	5.6	72.2	5.6	16.7	5.6	77.8	11.1	5.6	5.6
		標本数	【現状】(オ)地域の集会では男性が上座に座る				【現状】(カ)女性が発言することは少ない				【現状】(キ)自治会・隣組長会などの登録は男性(夫)だが、地域の会議の出席は女性(妻)が出ることが多い				【現状】(ク)同じ作業に参加しても女性には不足金がある			
			てそいうるし	いてそいうなし	なわいから	無回答	てそいうるし	いてそいうなし	なわいから	無回答	てそいうるし	いてそいうなし	なわいから	無回答	てそいうるし	いてそいうなし	なわいから	無回答
全体		1,054 100.0	461 43.7	141 13.4	401 38.0	51 4.8	254 24.1	306 29.0	441 41.8	53 5.0	185 17.6	350 33.2	466 44.2	53 5.0	43 4.1	461 43.7	496 47.1	54 5.1
年齢別	女性:18~29歳	89	23.6	3.4	69.7	3.4	12.4	15.7	68.5	3.4	21.3	7.9	67.4	3.4	6.7	14.6	75.3	3.4
	女性:30~39歳	97	29.9	5.2	63.9	1.0	13.4	17.5	68.0	1.0	15.5	13.4	69.1	2.1	2.1	19.6	77.3	1.0
	女性:40~49歳	115	42.6	9.6	43.5	4.3	26.1	25.2	44.3	4.3	17.4	24.3	53.9	4.3	3.5	38.3	53.0	5.2
	女性:50~59歳	130	53.1	12.3	30.0	4.6	31.5	25.4	37.7	5.4	15.4	34.6	44.6	5.4	7.7	47.7	40.0	4.6
	女性:60~69歳	78	55.1	24.4	17.9	2.6	37.2	30.8	28.2	3.8	26.9	50.0	19.2	3.8	7.7	66.7	20.5	5.1
	女性:70歳以上	76	60.5	13.2	15.8	10.5	31.6	39.5	17.1	11.8	26.3	39.5	23.7	10.5	5.3	59.2	22.4	13.2
	男性:18~29歳	65	24.6	1.5	69.2	4.6	13.8	20.0	61.5	4.6	9.2	12.3	73.8	4.6	3.1	15.4	76.9	4.6
	男性:30~39歳	73	34.2	17.8	47.9	-	13.7	28.8	57.5	-	15.1	23.3	61.6	-	1.4	38.4	60.3	-
	男性:40~49歳	81	38.3	12.3	44.4	4.9	19.8	30.9	44.4	4.9	12.3	34.6	49.4	3.7	2.5	35.8	56.8	4.9
	男性:50~59歳	104	53.8	16.3	26.9	2.9	26.0	43.3	27.9	2.9	15.4	51.9	28.8	3.8	1.0	58.7	37.5	2.9
男性:60~69歳	68	50.0	27.9	16.2	5.9	33.8	36.8	23.5	5.9	13.2	61.8	19.1	5.9	1.5	75.0	17.6	5.9	
男性:70歳以上	63	52.4	23.8	6.3	17.5	25.4	42.9	15.9	15.9	22.2	54.0	7.9	15.9	4.8	65.1	14.3	15.9	
無回答	15	60.0	13.3	20.0	6.7	33.3	20.0	40.0	6.7	26.7	33.3	33.3	6.7	6.7	40.0	53.3	-	
居住地域別	甘木地域	682	41.9	13.3	40.2	4.5	22.1	28.3	44.7	4.8	18.9	29.8	46.3	5.0	4.0	43.4	47.5	5.1
	朝倉地域	248	45.2	14.9	33.9	6.0	29.0	26.2	38.7	6.0	13.3	38.3	41.9	6.5	2.4	44.0	47.6	6.0
	杷木地域	106	50.9	11.3	34.0	3.8	24.5	39.6	32.1	3.8	17.9	41.5	38.7	1.9	8.5	45.3	42.5	3.8
	無回答	18	50.0	5.6	38.9	5.6	27.8	33.3	33.3	5.6	22.2	44.4	27.8	5.6	5.6	44.4	50.0	-

各分野の意識を現状別でみると、すべての分野で「そうしている」場合、「改善すべき」の割合が最も高くなっている。ただし、「地域活動は男性が取り仕切る」については「現状のままがいい」が40.2%と「改善すべき」(41.4%)と同程度となっている。

図表4-3 地域活動での男女の役割 [全体、現状別]

(%)

		標本数	【意識】(ア)催し物の企画などは主に男性が決定している						標本数	【意識】(イ)地域活動は男性が取り仕切る			
			ま現 で状 いの いま	き改 善す べ	いわ から な	無 回 答				ま現 で状 いの いま	き改 善す べ	いわ から な	無 回 答
全体		1,054 100.0	270 25.6	303 28.7	401 38.0	80 7.6	全体		1,054 100.0	321 30.5	305 28.9	342 32.4	86 8.2
【現状】 (ア)催し物の 企画などは主 に男性が決定 している	そうしている	429	34.5	49.4	11.9	4.2	【現状】 (イ)地域活動 は男性が取り 仕切る	そうしている	584	40.2	41.4	13.9	4.5
	そうしていない	125	66.4	17.6	12.0	4.0		そうしていない	104	64.4	14.4	17.3	3.8
	わからない	452	8.2	15.0	73.9	2.9		わからない	317	5.4	14.5	76.3	3.8
	無回答	48	4.2	2.1	2.1	91.7		無回答	49	4.1	4.1	2.0	89.8
全体		1,054 100.0	271 25.7	404 38.3	291 27.6	88 8.3	全体		1,054 100.0	310 29.4	320 30.4	337 32.0	87 8.3
【現状】 (ウ)地域での 集会では、女 性がお茶出し や片づけをし ている	そうしている	590	25.3	59.0	11.5	4.2	【現状】 (エ)地域の役 員はほとんど 男性になって いる	そうしている	567	33.9	46.9	15.2	4.1
	そうしていない	157	72.0	13.4	10.2	4.5		そうしていない	163	63.2	17.8	13.5	5.5
	わからない	257	3.5	13.6	79.4	3.5		わからない	277	5.1	8.7	82.3	4.0
	無回答	50	-	-	6.0	94.0		無回答	47	2.1	2.1	2.1	93.6
全体		1,054 100.0	285 27.0	248 23.5	429 40.7	92 8.7	全体		1,054 100.0	254 24.1	307 29.1	403 38.2	90 8.5
【現状】 (オ)地域の集 会では男性が 上座に座る	そうしている	461	35.6	40.8	18.2	5.4	【現状】 (カ)女性が発 言することは 少ない	そうしている	254	15.7	70.1	9.8	4.3
	そうしていない	141	70.9	10.6	13.5	5.0		そうしていない	306	64.4	17.6	14.1	3.9
	わからない	401	4.7	11.2	80.8	3.2		わからない	441	3.4	16.8	75.7	4.1
	無回答	51	3.9	-	3.9	92.2		無回答	53	3.8	1.9	1.9	92.5
全体		1,054 100.0	278 26.4	237 22.5	445 42.2	94 8.9	全体		1,054 100.0	320 30.4	183 17.4	456 43.3	95 9.0
【現状】 (キ)自治会・隣 組長会などの 登録は男性(夫) だが、地域の会 議の出席は女 性(妻)が出る ことが多い	そうしている	185	27.6	56.8	12.4	3.2	【現状】 (ク)同じ作業 に参加しても 女性には出不 足金がある	そうしている	43	16.3	72.1	4.7	7.0
	そうしていない	350	60.6	20.3	13.7	5.4		そうしていない	461	65.9	17.4	11.5	5.2
	わからない	466	3.0	12.9	79.8	4.3		わからない	496	1.8	14.5	80.2	3.4
	無回答	53	1.9	1.9	3.8	92.5		無回答	54	-	-	5.6	94.4

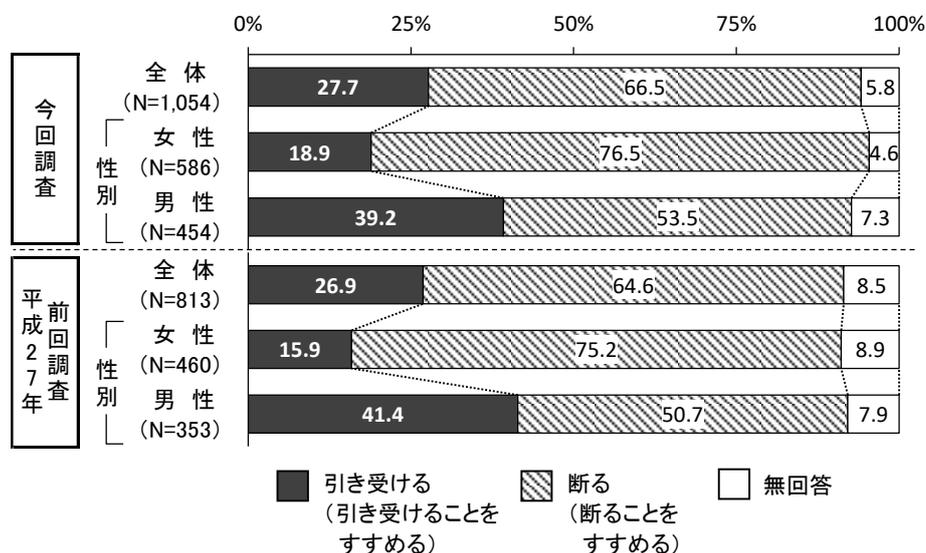
2. 女性が地域の役職につくことについて

(1) 女性が地域の役職に推薦された場合の対処

- 女性が地域の役職につくことについて、女性の「断る」は7割半ばで男性（5割半ば）よりも抵抗感が強い。
- 性別役割分担意識に同感しない女性ほど「引き受ける」割合が高い。

問 14. 区会長やPTA会長などの地域の役職についてうかがいます。女性の方は、もし、あなた自身が推薦されたら引き受けますか。男性の方は、妻など身近な女性が推薦されたとしたら引き受けることをすすめますか。(〇印は1つ)

図表 4-4 女性が地域の役職に推薦された場合の対処 [全体、性別] (前回調査比較)



女性が区会長やPTA会長などの地域の役職につくことについて、女性には実際に引き受けるかどうかを、男性には身近な女性が推薦された場合に引き受けることをすすめるかをたずねた。

「断る (断ることをすすめる)」が 66.5%、反対に「引き受ける (引き受けることをすすめる)」は 27.7%で「断る (断ることをすすめる)」が圧倒的に高い。

性別でみると、「断る (断ることをすすめる)」は女性で 76.5%と男性の 53.5%を 23 ポイント上回り、女性は地域の役職につくことについての抵抗感が強いことがわかる。

前回調査と比べると、男女ともあまり大きな変化はみられないが、女性では「引き受ける」が 3 ポイントとやや増えている。

年齢別でみると、女性の18～29歳で「引き受ける」が25.8%と女性の中では最も高く、また、50代と60代でも2割前後となっている。男性はいずれの年代も「引き受けることをすすめる」が3割半ばから5割半ばの割合がある。一方、女性の30代から40代では「断る」が約8割となっている。

共働き別でみると、女性は共働きで「断る」が79.9%と最も高いが、「引き受ける」は19.7%と片働き（16.7%）をやや上回っている。

性別役割分担意識別でみると、女性は同感しない人ほど「引き受ける」割合が高くなっている。

図表4-5 女性が地域の役職に推薦された場合の対処 [全体、年齢別、共働き別、性別役割分担意識別]

		標本数	こ（引 ）と引き をき受 すける すける める	す（断 ）す断 める るこ ）とを	無 回 答
全体		1,054	292	701	61
		100.0	27.7	66.5	5.8
年齢別	女性:18～29歳	89	25.8	69.7	4.5
	女性:30～39歳	97	16.5	81.4	2.1
	女性:40～49歳	115	16.5	80.0	3.5
	女性:50～59歳	130	19.2	78.5	2.3
	女性:60～69歳	78	21.8	74.4	3.8
	女性:70歳以上	76	14.5	71.1	14.5
	男性:18～29歳	65	36.9	52.3	10.8
	男性:30～39歳	73	39.7	57.5	2.7
	男性:40～49歳	81	34.6	61.7	3.7
	男性:50～59歳	104	32.7	58.7	8.7
	男性:60～69歳	68	55.9	39.7	4.4
	男性:70歳以上	63	39.7	46.0	14.3
	無回答	15	20.0	73.3	6.7
共働き別	女性:共働き	234	19.7	79.9	0.4
	女性:片働き	66	16.7	74.2	9.1
	女性:その他	31	25.8	71.0	3.2
	女性:二人とも働いていない	39	12.8	76.9	10.3
	男性:共働き	152	37.5	57.9	4.6
	男性:片働き	74	37.8	60.8	1.4
	男性:その他	13	61.5	38.5	-
	男性:二人とも働いていない	27	40.7	40.7	18.5
無回答	418	28.2	63.2	8.6	
性別役割分担意識別	女性:同感する	8	12.5	87.5	-
	女性:ある程度同感する	117	14.5	82.1	3.4
	女性:あまり同感しない	233	17.2	79.0	3.9
	女性:同感しない	225	23.6	70.7	5.8
	男性:同感する	16	37.5	62.5	-
	男性:ある程度同感する	113	39.8	49.6	10.6
	男性:あまり同感しない	193	40.4	52.8	6.7
	男性:同感しない	128	37.5	57.0	5.5
無回答	21	19.0	66.7	14.3	

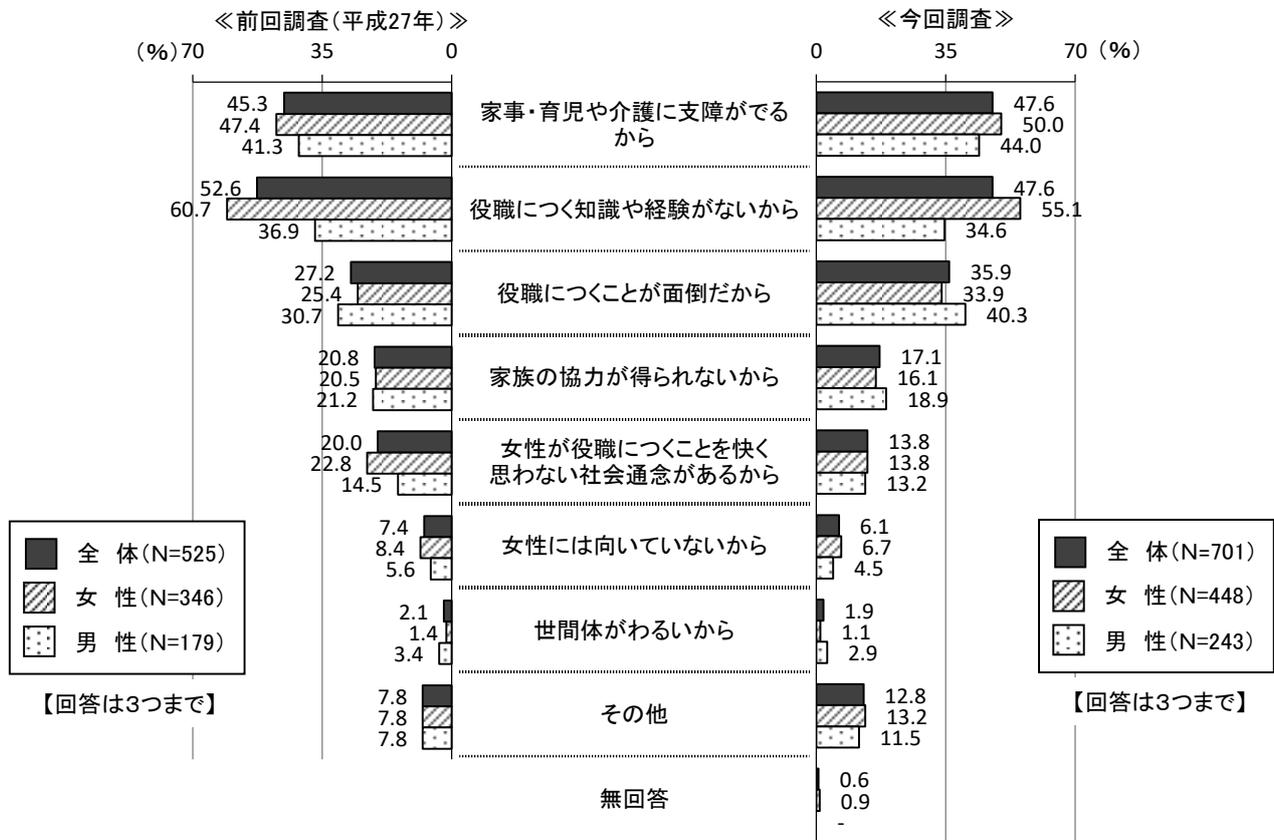
II 調査結果の分析

(2) 地域の役職を断る理由

- 地域の役職を断る、断ることをすすめる理由の第1位は、女性では「役職につく知識や経験がないから」、男性では「家事・育児や介護に支障がでるから」。
- 男女とも「役職につくことが面倒だから」は前回調査より9ポイント前後増加。

問14付問1. [問14で 2. 「断る(断ることをすすめる)」と答えた方に] その理由は何ですか。(〇印は3つまで)

図表4-6 地域の役職を断る理由 [全体、性別] (前回調査比較)



「断る(断ることをすすめる)」と答えた701人にその理由をたずねた。「家事・育児や介護に支障がでるから」と「役職につく知識や経験がないから」が同率の47.6%、「役職につくことが面倒だから」が35.9%で上位にあげられている。

性別で見ると、女性は「役職につく知識や経験がないから」が55.1%で第1位の理由となっており、男性(34.6%)を20.5ポイント上回っている。次いで「家事・育児や介護に支障がでるから」(女性50.0%、男性44.0%)が6ポイント男性を上回っている。男性は「役職につくことが面倒だから」(同33.9%、40.3%)が6.4ポイント女性を上回り、男性の第2位の理由となっている。

前回調査と比べると、女性では「役職につく知識や経験がないから」が5.6ポイント、「女性が役職につくことを快く思わない社会通念があるから」は9ポイント減少している。その他、男女とも「役職につくことが面倒だから」が8.5~9.6ポイント増えている。

年齢別でみると、「役職につく知識や経験がないから」は女性の60代と70歳以上で6割半ば、50代で56.9%と、年齢の高い層での割合が高い。その他、「女性が役職につくことを快く思わない社会通念があるから」「家族の協力が得られないから」「女性には向いていないから」などの理由も女性の年齢が高い層で割合が高くなっている。「家事・育児や介護に支障がでるから」は女性の30代で64.6%と最も高く、18～29歳でも59.7%、40代でも53.3%と5割を超えている。また、男性の30代で61.9%、40代で52.0%と高く、男女とも年齢の低い層での割合が高い傾向がみられる。「役職につくことが面倒だから」も女性の18～29歳で51.6%、男性の30代と40代で50.0%と年齢の低い層で割合が高い。

共働き別でみると、男性の共働きは「家事・育児や介護に支障がでるから」が47.7%と片働き(40.0%)に比べて高くなっている。反対に女性の共働きでは「家事・育児や介護に支障がでるから」は片働きに比べて割合はやや低く、また「役職につく知識や経験がないから」「家族の協力が得られないから」などの割合も低い。「役職につくことが面倒だから」は34.8%と片働き(22.4%)に比べ12.4ポイント高くなっている。

図表4-7 地域の役職を断る理由〔全体、年齢別、共働き別〕

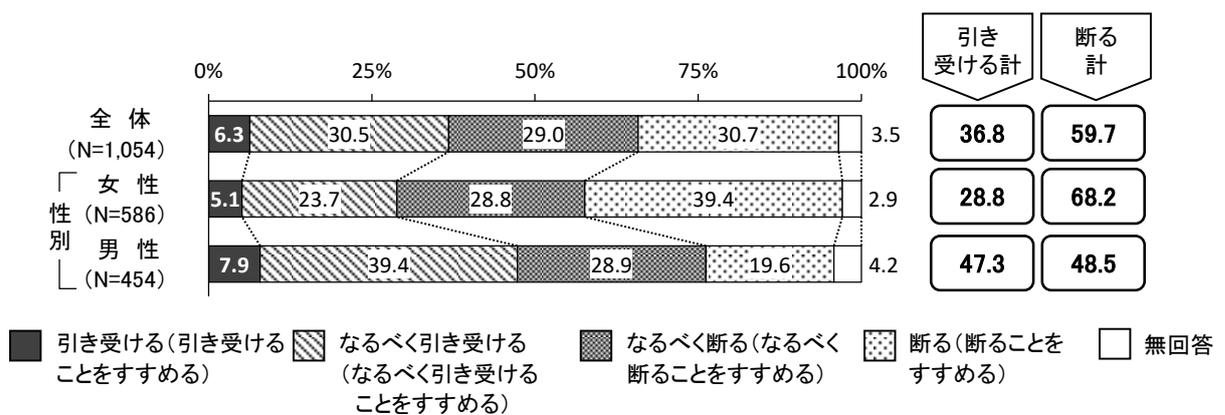
		標本数	家族の協力が得られないから	女性と男性の役割が異なるから	支障がでるから	役職につく知識や経験がないから	面倒だから	女性には向いていないから	世間体が変わるから	その他	無回答
全体		701 100.0	120 17.1	97 13.8	334 47.6	334 47.6	252 35.9	43 6.1	13 1.9	90 12.8	4 0.6
年齢別	女性:18～29歳	62	6.5	6.5	59.7	43.5	51.6	4.8	1.6	9.7	-
	女性:30～39歳	79	10.1	1.3	64.6	53.2	44.3	5.1	1.3	10.1	1.3
	女性:40～49歳	92	18.5	13.0	53.3	51.1	37.0	2.2	3.3	15.2	1.1
	女性:50～59歳	102	16.7	12.7	45.1	56.9	31.4	5.9	-	17.6	-
	女性:60～69歳	58	20.7	24.1	37.9	63.8	27.6	15.5	-	10.3	1.7
	女性:70歳以上	54	25.9	33.3	35.2	64.8	5.6	11.1	-	13.0	1.9
	男性:18～29歳	34	17.6	20.6	38.2	26.5	35.3	2.9	11.8	8.8	-
	男性:30～39歳	42	23.8	7.1	61.9	28.6	50.0	-	-	7.1	-
	男性:40～49歳	50	16.0	10.0	52.0	34.0	50.0	8.0	-	12.0	-
	男性:50～59歳	61	14.8	9.8	42.6	26.2	32.8	1.6	3.3	16.4	-
	男性:60～69歳	27	18.5	14.8	25.9	44.4	37.0	7.4	3.7	7.4	-
男性:70歳以上	29	27.6	24.1	31.0	62.1	34.5	10.3	-	13.8	-	
	無回答	11	18.2	27.3	27.3	36.4	18.2	18.2	9.1	27.3	-
共働き別	女性:共働き	187	16.6	11.8	58.8	52.4	34.8	5.9	1.1	9.6	1.1
	女性:片働き	49	20.4	10.2	61.2	57.1	22.4	8.2	2.0	22.4	-
	女性:その他	22	31.8	13.6	22.7	54.5	18.2	13.6	-	36.4	4.5
	女性:二人とも働いていない	30	23.3	33.3	30.0	66.7	20.0	16.7	-	6.7	-
	男性:共働き	88	17.0	8.0	47.7	29.5	40.9	5.7	1.1	15.9	-
	男性:片働き	45	13.3	13.3	40.0	37.8	42.2	6.7	2.2	13.3	-
	男性:その他	5	20.0	20.0	60.0	60.0	-	20.0	-	-	-
	男性:二人とも働いていない	11	18.2	36.4	36.4	63.6	18.2	-	-	18.2	-
	無回答	264	15.5	14.8	42.8	46.6	41.3	4.2	3.0	11.0	0.4

3. 女性が市の審議会や委員会の委員に就任を依頼された場合の対処

- 女性が市の審議会や委員に就任することについて、女性の『断る』は7割弱と男性（5割弱）よりも抵抗感は強い。
- 地域の区会長やPTA会長などに比べると、男女とも抵抗感はやや低い。

問 15. 女性の方はあなた自身が、男性の方は妻などの身近な女性が、「市の審議会や委員会の委員」への就任を依頼されたらどうしますか。（○印は1つ）

図表 4 - 8 女性が市の審議会や委員会の委員に就任を依頼された場合の対処 [全体、性別]



女性が市の審議会や委員に就任することについて、女性には実際に引き受けるかどうかを、男性には身近な女性が推薦された場合に引き受けることをすすめるかどうかをたずねた。

「引き受ける（引き受けることをすすめる）」（6.3%）と「なるべく引き受ける（なるべく引き受けることをすすめる）」（30.5%）を合計した『引き受ける（ことをすすめる）』は36.8%、一方、「断る（断ることをすすめる）」（30.7%）と「なるべく断る（なるべく断ることをすすめる）」（29.0%）を合計した『断る（ことをすすめる）』は59.7%となっている。

性別で見ると、女性の場合『引き受ける』が28.8%で『断る』が68.2%、男性の場合は『引き受けることをすすめる』が47.3%で『断ることをすすめる』が48.5%となっている。女性よりも男性の方が、引き受けることを受け入れる傾向がみられる。

地域の区会長やPTA会長などの役職につくことへの設問は2択であるため正確な比較はできないが、女性では『引き受ける』は9.9ポイント、また男性でも8.1ポイント増えており、抵抗感は低くなっている。

年齢別でみると、女性の18～29歳と70歳以上で『引き受ける』が3割半ばと高く、50代でも29.2%と3割近くある。男性は50代で『引き受けることをすすめる』が37.5%と他の年代に比べて低いが、その他の年代では4割半ばから5割半ばとなっている。一方、女性の30代は『断る』が76.3%と最も高い。

共働き別でみると、女性は共働きで「引き受ける」が29.1%と片働き（21.2%）より7.9ポイント上回っている。

性別役割分担意識別でみると、女性は同感しない人ほど『引き受ける』割合が高くなっている。

図表4-9 女性が市の審議会や委員会の委員に就任を依頼された場合の対処  
[全体、年齢別、共働き別、性別役割分担意識別]

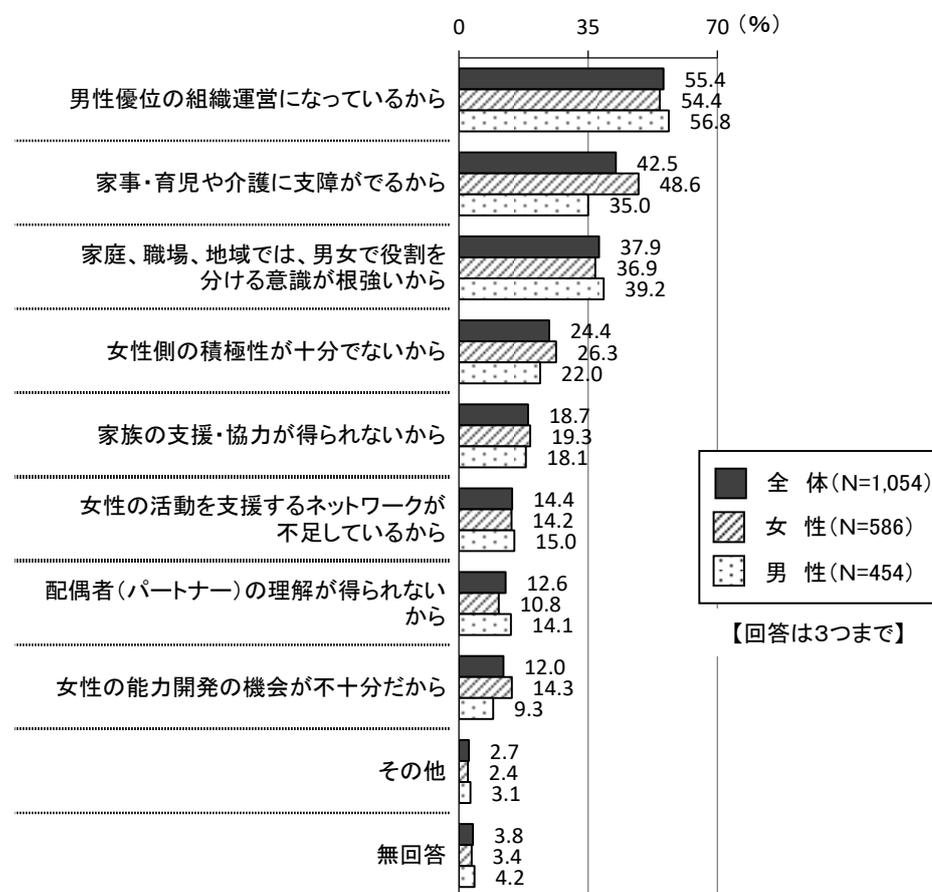
		標本数	引き受けることをすすめる	引き受けることをすすめる（なるべく引き受ける）	なるべく断ることをすすめる	断ることをすすめる（断ることをすすめる）	無回答	『引き受ける』計	『断る』計
全体		1,054 100.0	66 6.3	321 30.5	306 29.0	324 30.7	37 3.5	387 36.8	630 59.7
年齢別	女性:18～29歳	89	6.7	29.2	28.1	33.7	2.2	35.9	61.8
	女性:30～39歳	97	5.2	17.5	34.0	42.3	1.0	22.7	76.3
	女性:40～49歳	115	5.2	20.0	27.8	43.5	3.5	25.2	71.3
	女性:50～59歳	130	3.8	25.4	26.9	43.1	0.8	29.2	70.0
	女性:60～69歳	78	6.4	20.5	29.5	38.5	5.1	26.9	68.0
	女性:70歳以上	76	3.9	31.6	26.3	31.6	6.6	35.5	57.9
	男性:18～29歳	65	6.2	40.0	35.4	15.4	3.1	46.2	50.8
	男性:30～39歳	73	4.1	43.8	35.6	15.1	1.4	47.9	50.7
	男性:40～49歳	81	9.9	40.7	23.5	22.2	3.7	50.6	45.7
	男性:50～59歳	104	5.8	31.7	33.7	24.0	4.8	37.5	57.7
	男性:60～69歳	68	11.8	44.1	20.6	17.6	5.9	55.9	38.2
男性:70歳以上	63	11.1	39.7	22.2	20.6	6.3	50.8	42.8	
	無回答	15	-	20.0	46.7	26.7	6.7	20.0	73.4
共働き別	女性:共働き	234	5.6	23.5	30.8	38.9	1.3	29.1	69.7
	女性:片働き	66	3.0	18.2	24.2	50.0	4.5	21.2	74.2
	女性:その他	31	-	35.5	22.6	38.7	3.2	35.5	61.3
	女性:二人とも働いていない	39	5.1	20.5	25.6	41.0	7.7	25.6	66.6
	男性:共働き	152	5.9	34.9	34.2	21.7	3.3	40.8	55.9
	男性:片働き	74	12.2	35.1	20.3	28.4	4.1	47.3	48.7
	男性:その他	13	15.4	46.2	7.7	23.1	7.7	61.6	30.8
	男性:二人とも働いていない	27	7.4	48.1	22.2	18.5	3.7	55.5	40.7
	無回答	418	6.5	32.8	30.4	26.3	4.1	39.3	56.7
性別役割分担意識別	女性:同感する	8	-	12.5	25.0	62.5	-	12.5	87.5
	女性:ある程度同感する	117	3.4	21.4	32.5	41.0	1.7	24.8	73.5
	女性:あまり同感しない	233	3.0	24.9	29.2	40.8	2.1	27.9	70.0
	女性:同感しない	225	8.4	24.4	27.1	36.0	4.0	32.8	63.1
	男性:同感する	16	25.0	25.0	25.0	18.8	6.3	50.0	43.8
	男性:ある程度同感する	113	8.8	36.3	31.0	19.5	4.4	45.1	50.5
	男性:あまり同感しない	193	5.2	44.0	29.5	17.6	3.6	49.2	47.1
	男性:同感しない	128	8.6	38.3	25.8	23.4	3.9	46.9	49.2
		無回答	21	4.8	14.3	38.1	28.6	14.3	19.1

4. 政策・方針決定の過程に女性が進出していない理由

●政策・方針決定の過程に女性が進出していない理由は、「男性優位の組織運営になっているから」が男女とも第1位。次いで、女性は「家事・育児や介護に支障がでるから」、男性は「家庭、職場、地域では、男女で役割を分ける意識が根強いから」。

問 16. 政治、行政、企業、地域活動などにおいて政策・方針決定の過程に女性が進出していない理由は何だと思えますか。(〇印は3つまで)

図表 4-10 政策・方針決定の過程に女性が進出していない理由 [全体、性別]



政治、行政、企業、地域活動などにおいて政策・方針決定の過程に女性が進出していない理由は、「男性優位の組織運営になっているから」が 55.4%と最も高く、次いで「家事・育児や介護に支障がでるから」(42.5%)、「家庭、職場、地域では、男女で役割を分ける意識が根強いから」(37.9%)、「女性側の積極性が十分でないから」(24.4%) などとなっている。

性別で見ると、「家事・育児や介護に支障がでるから」(女性 48.6%、男性 35.0%) は女性の第2位の理由で、女性の方が男性よりも 13.6 ポイント高くなっている。その他「女性側の積極性が十分でないから」(同 26.3%、22.0%)や「女性の能力開発の機会が不十分だから」(同 14.3%、9.3%)なども女性の方が男性よりも割合が 4.3~5 ポイント高い。また、男性の第2位は「家庭、職場、地域では、男女で役割を分ける意識が根強いから」(39.2%)となっており、女性は家庭のこと、男性は意識のことを第2位の理由としてあげている。

年齢別でみると、女性は年齢が低くなるほど「家事・育児や介護に支障がでるから」の割合が高くなり、18～29歳では57.3%となっている。また、「男性優位の組織運営になっているから」は40代と70歳以上を除く年代で6割近くと高い。「女性側の積極性が十分でないから」や「女性の能力開発の機会が不十分だから」などは女性の60代以上での割合が高くなっている。「家庭、職場、地域では、男女で役割を分ける意識が根強いから」は女性の年齢が高い層での割合が高い傾向がみられる。

共働き別でみると、女性の共働き、片働きにかかわらず「家事・育児や介護に支障がでるから」は5割半ばと高いが、男性では共働き（43.4%）の方が片働き（27.0%）に比べて16.4ポイント高い。「家族の支援・協力が得られないから」は女性の共働きが23.1%と片働き（18.2%）に比べて4.9ポイント高くなっている。

図表4-11 政策・方針決定の過程に女性が進出していない理由

[全体、年齢別、共働き別]

(%)

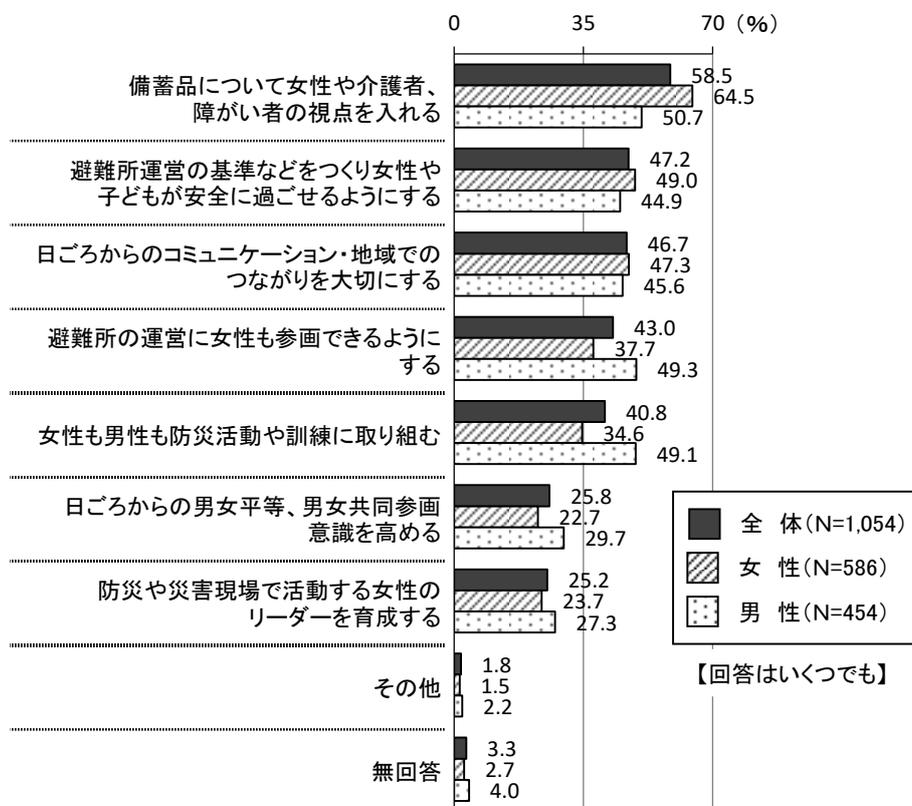
		標本数	男性優位の組織運営に	家庭、職場、地域で役割を分ける意識が根強いから	家庭、職場、地域で役割を分ける意識が根強いから	配偶者が得られないから	家族の支援・協力が得られないから	家事・育児や介護に支障がでるから	女性の能力開発の機会が十分でないから	女性の活動が支援不足	女性側の積極性が十分でないから	その他	無回答
全体		1,054 100.0	584 55.4	399 37.9	133 12.6	197 18.7	448 42.5	127 12.0	152 14.4	257 24.4	28 2.7	40 3.8	
年齢別	女性:18～29歳	89	58.4	27.0	4.5	14.6	57.3	11.2	23.6	23.6	6.7	1.1	
	女性:30～39歳	97	58.8	35.1	4.1	19.6	56.7	8.2	11.3	23.7	1.0	2.1	
	女性:40～49歳	115	48.7	40.9	10.4	20.0	55.7	7.8	8.7	27.8	1.7	6.1	
	女性:50～59歳	130	58.5	38.5	18.5	25.4	43.8	9.2	12.3	21.5	1.5	1.5	
	女性:60～69歳	78	57.7	39.7	12.8	16.7	42.3	32.1	17.9	32.1	3.8	2.6	
	女性:70歳以上	76	43.4	38.2	10.5	15.8	32.9	25.0	14.5	32.9	-	7.9	
	男性:18～29歳	65	60.0	40.0	20.0	23.1	36.9	7.7	18.5	16.9	6.2	3.1	
	男性:30～39歳	73	61.6	45.2	13.7	15.1	45.2	8.2	15.1	16.4	1.4	-	
	男性:40～49歳	81	54.3	38.3	8.6	17.3	34.6	8.6	19.8	25.9	4.9	1.2	
	男性:50～59歳	104	50.0	35.6	12.5	18.3	43.3	5.8	8.7	18.3	1.9	5.8	
男性:60～69歳	68	63.2	36.8	13.2	19.1	20.6	19.1	14.7	29.4	1.5	8.8		
男性:70歳以上	63	55.6	41.3	19.0	15.9	23.8	7.9	15.9	27.0	3.2	6.3		
無回答	15	46.7	40.0	46.7	13.3	26.7	13.3	6.7	20.0	-	6.7		
共働き別	女性:共働き	234	59.8	35.0	12.8	23.1	54.3	7.7	12.8	22.2	2.1	1.7	
	女性:片働き	66	48.5	39.4	7.6	18.2	54.5	15.2	10.6	36.4	1.5	4.5	
	女性:その他	31	38.7	25.8	22.6	35.5	32.3	16.1	9.7	22.6	3.2	9.7	
	女性:二人とも働いていない	39	48.7	48.7	17.9	7.7	43.6	38.5	12.8	28.2	-	2.6	
	男性:共働き	152	55.3	34.2	13.8	13.8	43.4	6.6	12.5	19.7	2.6	3.3	
	男性:片働き	74	64.9	45.9	9.5	18.9	27.0	9.5	16.2	29.7	2.7	1.4	
	男性:その他	13	53.8	53.8	23.1	15.4	7.7	15.4	7.7	15.4	7.7	15.4	
	男性:二人とも働いていない	27	66.7	33.3	14.8	18.5	22.2	11.1	22.2	29.6	3.7	7.4	
無回答	418	53.6	38.8	11.7	17.9	39.5	13.6	16.5	24.2	3.1	4.5		

5. 災害に備えるために必要な男女共同参画の視点

●災害に備えるために必要な男女共同参画の視点は「備蓄品について女性や介護者、障がい者の視点を入れる」、次いで女性は「避難所運営の基準などをつくり女性や子どもが安全に過ごせるようにする」、男性は「避難所の運営に女性も参画できるようにする」。

問 17. 近年の大規模災害時における経験から、災害直後の避難所運営に女性が参画していないことや、日ごろの防災や震災対応に女性の視点がないことなどが課題として指摘されています。災害に備えるために、これからどのようなことが必要だと思いますか。(〇印はいくつでも)

図表 4-12 災害に備えるために必要な男女共同参画の視点 [全体、性別]



災害への備えとして男女共同参画の視点で必要だと思うことをたずねたところ、「備蓄品について女性や介護者、障がい者の視点を入れる」が 58.5%で最も高く、以下、「避難所運営の基準などをつくり女性や子どもが安全に過ごせるようにする」(47.2%)、「日ごろからのコミュニケーション・地域でのつながりを大切にする」(46.7%)、「避難所の運営に女性も参画できるようにする」(43.0%)、「女性も男性も防災活動や訓練に取り組む」(40.8%)などが4割台と多岐にわたってあげられている。

性別で見ると、女性は「備蓄品について女性や介護者、障がい者の視点を入れる」(女性 64.5%、男性 50.7%)、「避難所運営の基準などをつくり女性や子どもが安全に過ごせるようにする」(同 49.0%、44.9%)などの割合が男性よりも高く、男性は「避難所の運営に女性も参画できるようにする」(同 37.7%、49.3%)、「女性も男性も防災活動や訓練に取り組む」(同 34.6%、49.1%)、「日ごろからの男女平等、男女共同参画意識を高める」(同 22.7%、29.7%)などが女性よりも高くなっている。

年齢別でみると、「備蓄品について女性や介護者、障がい者の視点を入れる」は女性の30代で70.1%と最も高く、40代、50代でも7割近くとなっている。「避難所運営の基準などをつくり女性や子どもが安全に過ごせるようにする」も女性の30代で68.0%、「避難所の運営に女性も参画できるようにする」は男性の60代で58.8%、「女性も男性も防災活動や訓練に取り組む」は男性の30代と70歳以上で5割半ばと高いのが目立つ。「日ごろからのコミュニケーション・地域でのつながりを大切にする」は男女とも年齢の高い層で割合が高い傾向がみられる。

居住地域別でみると、「備蓄品について女性や介護者、障がい者の視点を入れる」は甘木地域と朝倉地域で6割前後と高く、「日ごろからのコミュニケーション・地域でのつながりを大切にする」は朝倉地域と杷木地域で5割を超えている。

図表4-13 災害に備えるために必要な男女共同参画の視点 [全体、年齢別、居住地域別]

			(%)								
		標本数	で避難所 の運営に する女性 も参画	女性も 男性も 防災活 動や訓 練に取 り組む	者、蓄 障が にいつ 者いて の女性 をや介 れ護	過り避 せ女性 の運営 の基準 が安全 につ	女性や 災害現 場での 活動す る	をシヨ ンから にす地 域での コミュ ニケ リ	日 共 同 参 画 の 意 識 を 高 め る 、 男	そ の 他	無 回 答
全体		1,054 100.0	453 43.0	430 40.8	617 58.5	498 47.2	266 25.2	492 46.7	272 25.8	19 1.8	35 3.3
年齢別	女性:18~29歳	89	40.4	25.8	57.3	43.8	15.7	33.7	33.7	2.2	3.4
	女性:30~39歳	97	33.0	33.0	70.1	68.0	16.5	42.3	21.6	2.1	2.1
	女性:40~49歳	115	33.0	31.3	69.6	47.8	23.5	42.6	18.3	2.6	5.2
	女性:50~59歳	130	33.8	33.8	68.5	45.4	27.7	46.2	23.8	1.5	1.5
	女性:60~69歳	78	47.4	38.5	65.4	51.3	28.2	61.5	20.5	-	-
	女性:70歳以上	76	44.7	50.0	51.3	35.5	31.6	64.5	18.4	-	3.9
	男性:18~29歳	65	43.1	35.4	52.3	41.5	21.5	35.4	30.8	6.2	1.5
	男性:30~39歳	73	49.3	56.2	54.8	46.6	35.6	38.4	34.2	1.4	1.4
	男性:40~49歳	81	49.4	44.4	58.0	39.5	21.0	39.5	30.9	1.2	2.5
	男性:50~59歳	104	48.1	50.0	51.9	47.1	26.0	48.1	15.4	1.0	5.8
男性:60~69歳	68	58.8	52.9	48.5	50.0	29.4	52.9	35.3	2.9	4.4	
男性:70歳以上	63	47.6	55.6	34.9	44.4	31.7	60.3	39.7	1.6	7.9	
	無回答	15	53.3	26.7	60.0	53.3	20.0	53.3	26.7	-	6.7
居住地域別	甘木地域	682	44.1	38.6	58.9	46.6	25.8	43.7	28.4	1.9	3.7
	朝倉地域	248	41.9	48.0	60.1	50.4	22.2	51.2	20.2	2.4	2.4
	杷木地域	106	35.8	40.6	50.9	43.4	28.3	53.8	22.6	-	2.8
	無回答	18	55.6	27.8	66.7	50.0	27.8	55.6	22.2	-	5.6

## 第5章 暴力などの人権侵害について

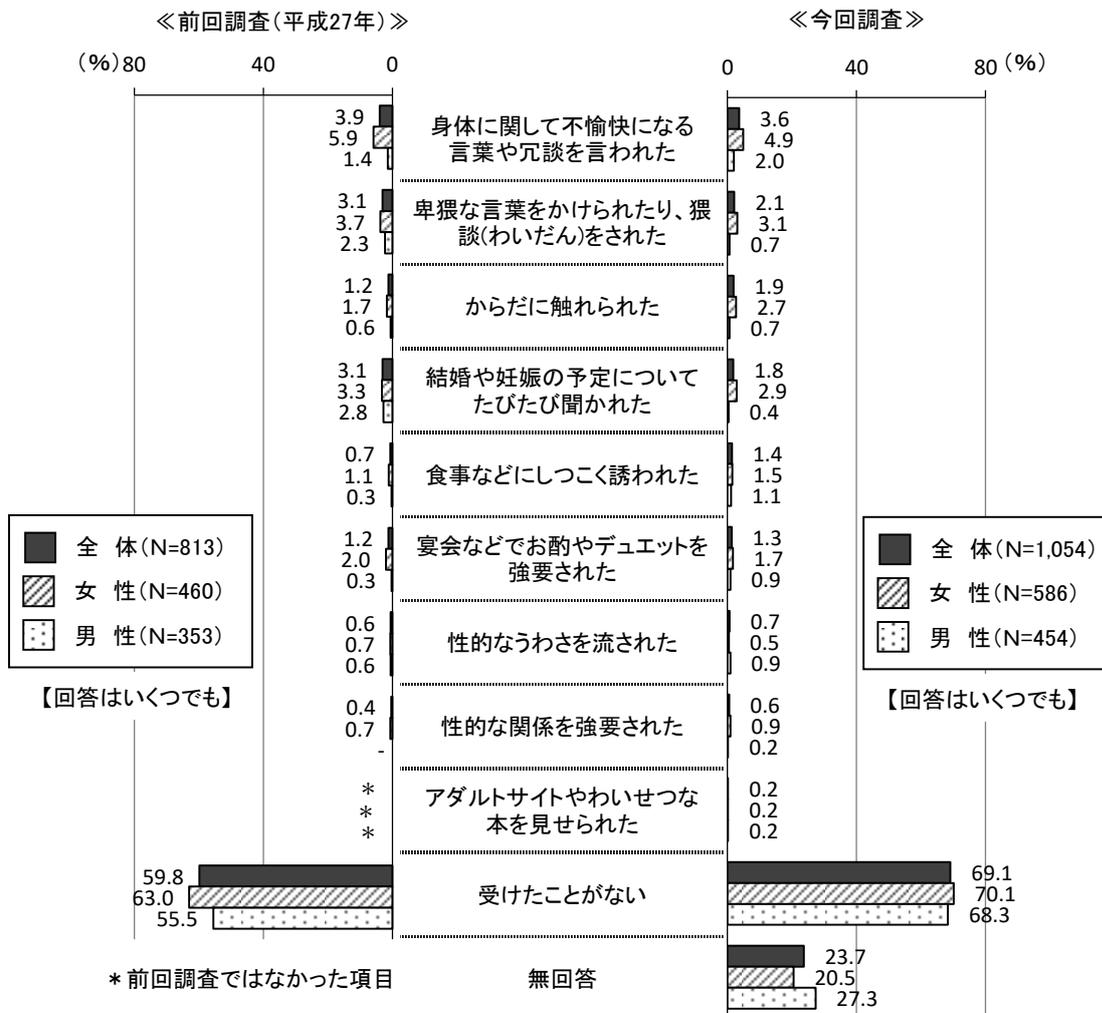
### 1. セクシュアル・ハラスメントの経験

●セクハラ経験は「職場」で女性 9.4%、男性 4.4%、「地域活動の場」で、女性 4.4%、男性 2.9%、「学校に関わる場」で女性 2.9%、男性 1.1%。

問 18. あなたはここ3年ぐらいの間に (A) 職場、(B) 地域活動の場、(C) 学校に関わる場で次のようなセクシュアル・ハラスメント (他の者を不快にさせる性的な言動) を受けたことがありますか。(○印はそれぞれいくつでも)

#### (A) 職場

図表 5-1 職場でのセクシュアル・ハラスメントの経験 [全体、性別] (前回調査比較)



職場でのセクシュアル・ハラスメントの経験についてみると、「身体に関して不愉快になる言葉や冗談を言われた」(3.6%)、「卑猥な言葉をかけられたり、猥談をされた」(2.1%)、「からだに触れられた」(1.9%)、「結婚や妊娠の予定についてたびたび聞かれた」(1.8%)などがあげられている。どれか一つでも受けたことがあると回答した人の割合は7.2%となっている。

性別でみると、どれか一つでも受けた経験があると回答した人の割合は、女性で 9.4%、男性で 4.4%となっている。具体的には、女性では「身体に関して不愉快になる言葉や冗談を言われた」(4.9%)、「卑猥な言葉をかけられたり、猥談をされた」(3.1%)、「結婚や妊娠の予定についてたびたび聞かれた」(2.9%) などとなっている。一方、男性では「身体に関して不愉快になる言葉や冗談を言われた」(2.0%)、「食事などにしつこく誘われた」(1.1%) などがあげられている。

年齢別でみると、どれか一つでも受けた経験があると回答した人の割合は、女性の 18～29 歳で 21.4%と最も高く、30 代から 50 代では 1 割前後と、職場でのセクハラを受けた経験が高い。その内容としては、18～29 歳の女性では「結婚や妊娠の予定についてたびたび聞かれた」(10.1%)、「食事などにしつこく誘われた」「身体に関して不愉快になる言葉や冗談を言われた」(同率 9.0%)、「卑猥な言葉をかけられたり、猥談をされた」(6.7%) などが高くなっている。一方、男性では 18～29 歳と 40 代でセクハラの実験が 1 割弱と他の年代に比べて高くなっている。

図表 5-2 職場でのセクシュアル・ハラスメントの経験 [全体、年齢別]

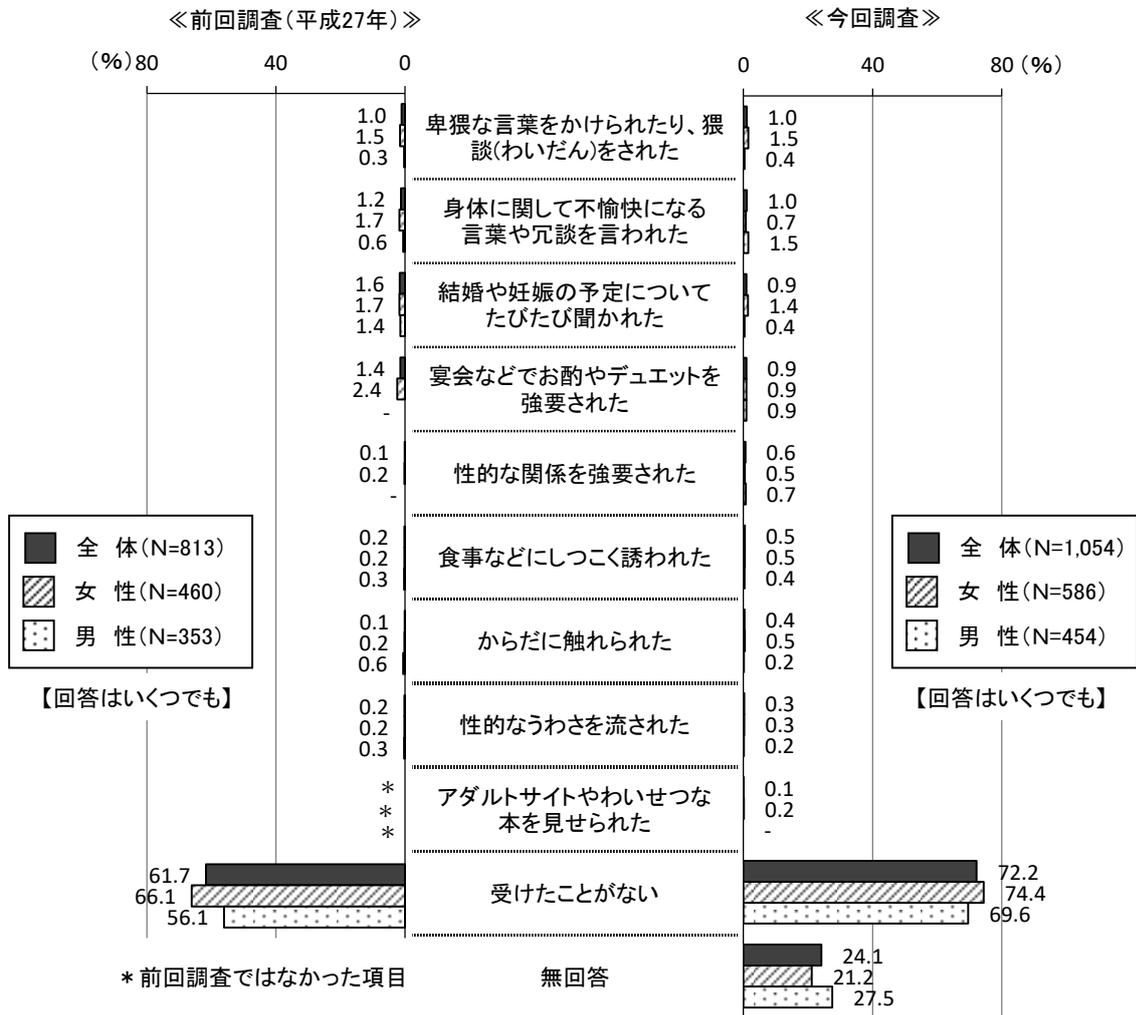
(%)

		標本数	性的な関係を強要された	からだに触れられた	食事などにしつこく誘われた	卑猥な言葉をかけられた	身体に関して不愉快になる言葉や冗談を言われた	アダルトサイトやわいせつな本を見せられた	性的なうわさを流された	宴会などでお酌やデュエットを強要された	結婚や妊娠の予定についてたびたび聞かれた	受けたことがない	無回答	経験がある
全体		1,054 100.0	6 0.6	20 1.9	15 1.4	22 2.1	38 3.6	2 0.2	7 0.7	14 1.3	19 1.8	728 69.1	250 23.7	7.2
年齢別	女性:18～29歳	89	2.2	4.5	9.0	6.7	9.0	-	2.2	3.4	10.1	57.3	21.3	21.4
	女性:30～39歳	97	1.0	6.2	-	1.0	4.1	-	-	1.0	3.1	75.3	14.4	10.3
	女性:40～49歳	115	-	2.6	-	3.5	6.1	-	-	0.9	1.7	78.3	11.3	10.4
	女性:50～59歳	130	1.5	2.3	0.8	4.6	6.9	0.8	0.8	3.8	2.3	76.2	14.6	9.2
	女性:60～69歳	78	-	-	-	-	1.3	-	-	-	-	74.4	24.4	1.2
	女性:70歳以上	76	-	-	-	1.3	-	-	-	-	-	51.3	47.4	1.3
	男性:18～29歳	65	-	1.5	3.1	-	-	-	4.6	3.1	-	60.0	32.3	7.7
	男性:30～39歳	73	-	1.4	-	1.4	1.4	-	-	-	1.4	78.1	17.8	4.1
	男性:40～49歳	81	1.2	1.2	3.7	2.5	4.9	-	-	2.5	1.2	77.8	13.6	8.6
	男性:50～59歳	104	-	-	-	-	2.9	-	1.0	-	-	75.0	22.1	2.9
男性:60～69歳	68	-	-	-	-	1.5	-	-	-	-	72.1	26.5	1.4	
男性:70歳以上	63	-	-	-	-	-	-	1.6	-	-	38.1	60.3	1.6	
無回答		15	-	6.7	6.7	6.7	-	-	-	-	-	53.3	40.0	6.7

II 調査結果の分析

(B) 地域活動の場

図表5-3 地域活動の場でのセクシュアル・ハラスメントの経験 [全体、性別] (前回調査比較)



地域活動の場では、「卑猥な言葉をかけられたり、猥談をされた」「身体に関して不愉快になる言葉や冗談を言われた」(同率 1.0%)、「結婚や妊娠の予定についてたびたび聞かれた」「宴会などでお酌やデュエットを強要された」(同率 0.9%) などがあげられている。地域でどれか一つでもセクハラを受けた人の割合は 3.7% となっている。

性別で見ると、どれか一つでも受けた経験があると回答した人の割合は、女性で 4.4%、男性で 2.9% となっている。具体的には、女性では「卑猥な言葉をかけられたり、猥談をされた」(1.5%)、「結婚や妊娠の予定についてたびたび聞かれた」(1.4%) などとなっている。一方、男性では「身体に関して不愉快になる言葉や冗談を言われた」(1.5%)、「宴会などでお酌やデュエットを強要された」(0.9%) などがあげられている。

年齢別でみると、女性の18～29歳と50代、60代でセクハラを受けた割合が6%台とやや高く、内容としては「卑猥な言葉をかけられたり、猥談をされた」「結婚や妊娠の予定についてたびたび聞かれた」「宴会などでお酌やデュエットを強要された」「身体に関して不愉快になる言葉や冗談を言われた」などがあげられている。

図表5-4 地域活動の場でのセクシュアル・ハラスメントの経験 [全体、年齢別]

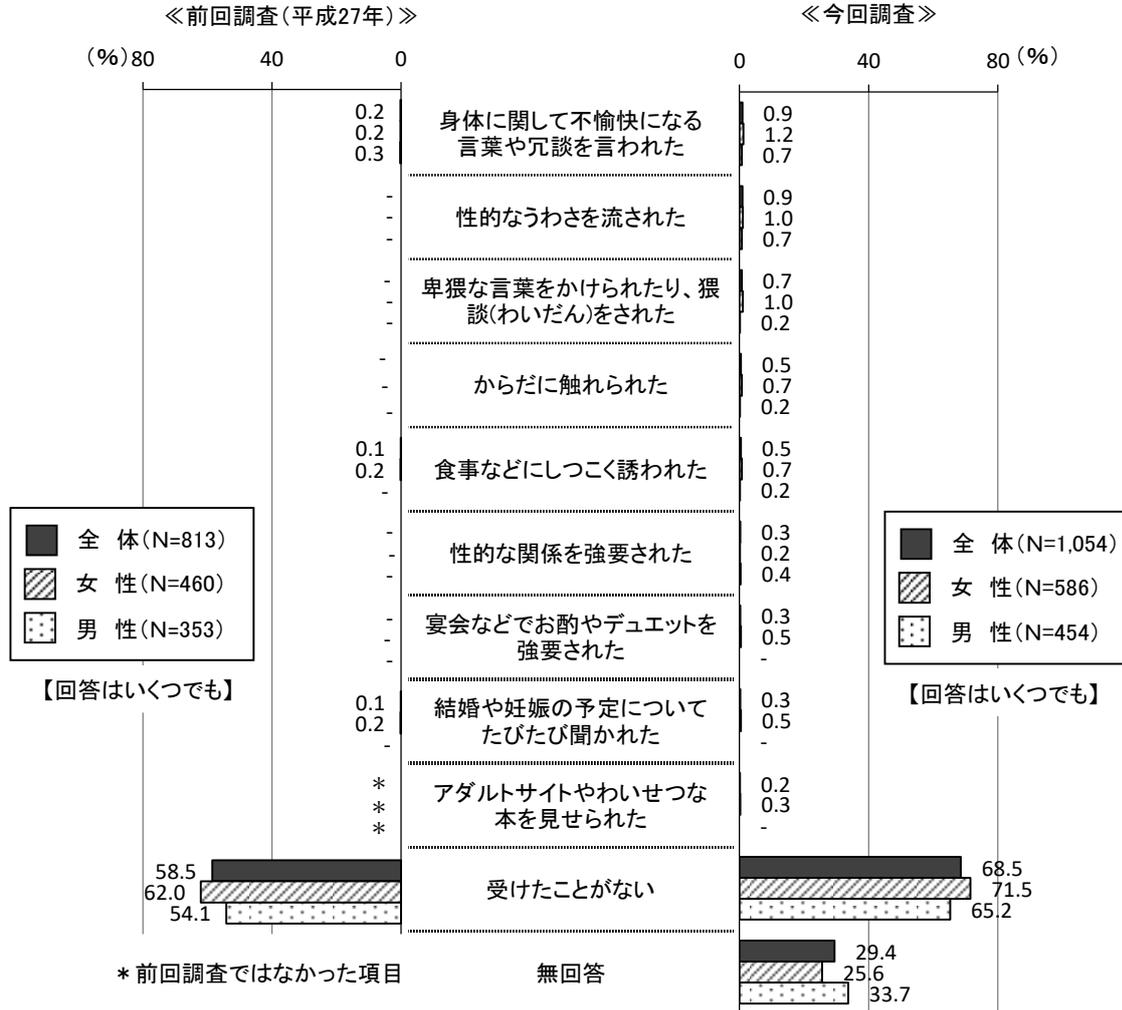
(%)

		標本数	性的な関係を強要された	からだに触れられた	食事などにしつこく誘われた	卑猥な言葉をかけられたり、猥談をされた	身体に関して不愉快になる言葉や冗談を言われた	アダルトサイトやわいせつな本を見せられた	性的なうわさを流された	宴会などでお酌やデュエットを強要された	結婚や妊娠の予定についてたびたび聞かれた	受けたことがない	無回答	経験がある
全体		1,054 100.0	6 0.6	4 0.4	5 0.5	11 1.0	11 1.0	1 0.1	3 0.3	9 0.9	10 0.9	761 72.2	254 24.1	3.7
年齢別	女性:18～29歳	89	-	1.1	-	2.2	1.1	1.1	2.2	1.1	1.1	65.2	28.1	6.7
	女性:30～39歳	97	-	-	-	-	-	-	-	-	1.0	80.4	18.6	1.0
	女性:40～49歳	115	0.9	-	-	-	-	-	-	0.9	2.6	80.9	15.7	3.4
	女性:50～59歳	130	0.8	0.8	1.5	1.5	0.8	-	-	1.5	1.5	78.5	14.6	6.9
	女性:60～69歳	78	1.3	1.3	1.3	5.1	1.3	-	-	1.3	1.3	74.4	19.2	6.4
	女性:70歳以上	76	-	-	-	1.3	1.3	-	-	-	-	60.5	38.2	1.3
	男性:18～29歳	65	1.5	-	-	-	1.5	-	-	-	-	64.6	32.3	3.1
	男性:30～39歳	73	-	-	-	-	-	-	-	-	2.7	78.1	19.2	2.7
	男性:40～49歳	81	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	-	-	2.5	-	71.6	25.9	2.5
	男性:50～59歳	104	-	-	-	-	1.9	-	1.0	-	-	74.0	24.0	2.0
	男性:60～69歳	68	-	-	-	-	-	-	-	-	-	73.5	26.5	-
	男性:70歳以上	63	1.6	-	1.6	1.6	4.8	-	-	3.2	-	50.8	41.3	7.9
無回答		15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	66.7	33.3	-

II 調査結果の分析

(C) 学校に関わる場

図表 5-5 学校に関わる場でのセクシュアル・ハラスメントの経験 [全体、性別] (前回調査比較)



学校に関わる場でのセクハラについては、「身体に関して不愉快になる言葉や冗談を言われた」(0.9%)、「性的なうわさを流された」(0.9%)、「卑猥な言葉をかけられたり、猥談をされた」(0.7%)、「からだに触れられた」「食事などにしつこく誘われた」(同率0.5%)などあげられている。一つでも受けた経験があると回答した人の割合は2.1%で、職場、地域活動の場と比べると経験率は相対的に低くなっている。

性別で見ると、何らかのセクハラを受けた経験がある女性は2.9%、男性は1.1%となっている。

年齢別でみると、女性では18～29歳で学校でのセクハラの実験が13.5%と他の年代に比べて多い。具体的には「卑猥な言葉をかけられたり、猥談をされた」「身体に関して不愉快になる言葉や冗談を言われた」「性的なうわさを流された」（同率5.6%）などがあげられている。

図表5-6 学校に関わる場でのセクシュアル・ハラスメントの実験 [全体、年齢別]

(%)

		標本数	性的な関係を強要された	からだに触れられた	食事などにしつこく誘われた	卑猥な言葉をかけられたり、猥談をされた	身体に関して不愉快になる言葉や冗談を言われた	アダルトサイトやわいせつな本を見せられた	性的なうわさを流された	エツトを強要された	宴会などでお酌やデュエツトを強要された	結婚や妊娠の予定について	受けたことがない	無回答	実験がある
全体		1,054 100.0	3 0.3	5 0.5	5 0.5	7 0.7	10 0.9	2 0.2	9 0.9	3 0.3	3 0.3	722 68.5	310 29.4		2.1
年齢別	女性:18～29歳	89	1.1	3.4	3.4	5.6	5.6	2.2	5.6	3.4	3.4	65.2	21.3		13.5
	女性:30～39歳	97	-	-	-	-	-	-	-	-	-	80.4	19.6		-
	女性:40～49歳	115	-	-	-	-	-	-	-	-	-	80.9	19.1		-
	女性:50～59歳	130	-	0.8	-	0.8	1.5	-	-	-	-	73.8	23.1		3.1
	女性:60～69歳	78	-	-	1.3	-	-	-	1.3	-	-	70.5	28.2		1.3
	女性:70歳以上	76	-	-	-	-	-	-	-	-	-	50.0	50.0		-
	男性:18～29歳	65	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	-	1.5	-	-	64.6	33.8		1.6
	男性:30～39歳	73	-	-	-	-	-	-	-	-	-	78.1	21.9		-
	男性:40～49歳	81	1.2	-	-	-	-	-	1.2	-	-	70.4	27.2		2.4
	男性:50～59歳	104	-	-	-	-	1.0	-	1.0	-	-	68.3	30.8		0.9
	男性:60～69歳	68	-	-	-	-	1.5	-	-	-	-	64.7	33.8		1.5
男性:70歳以上	63	-	-	-	-	-	-	-	-	-	39.7	60.3		-	
無回答		15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	53.3	46.7		-

II 調査結果の分析

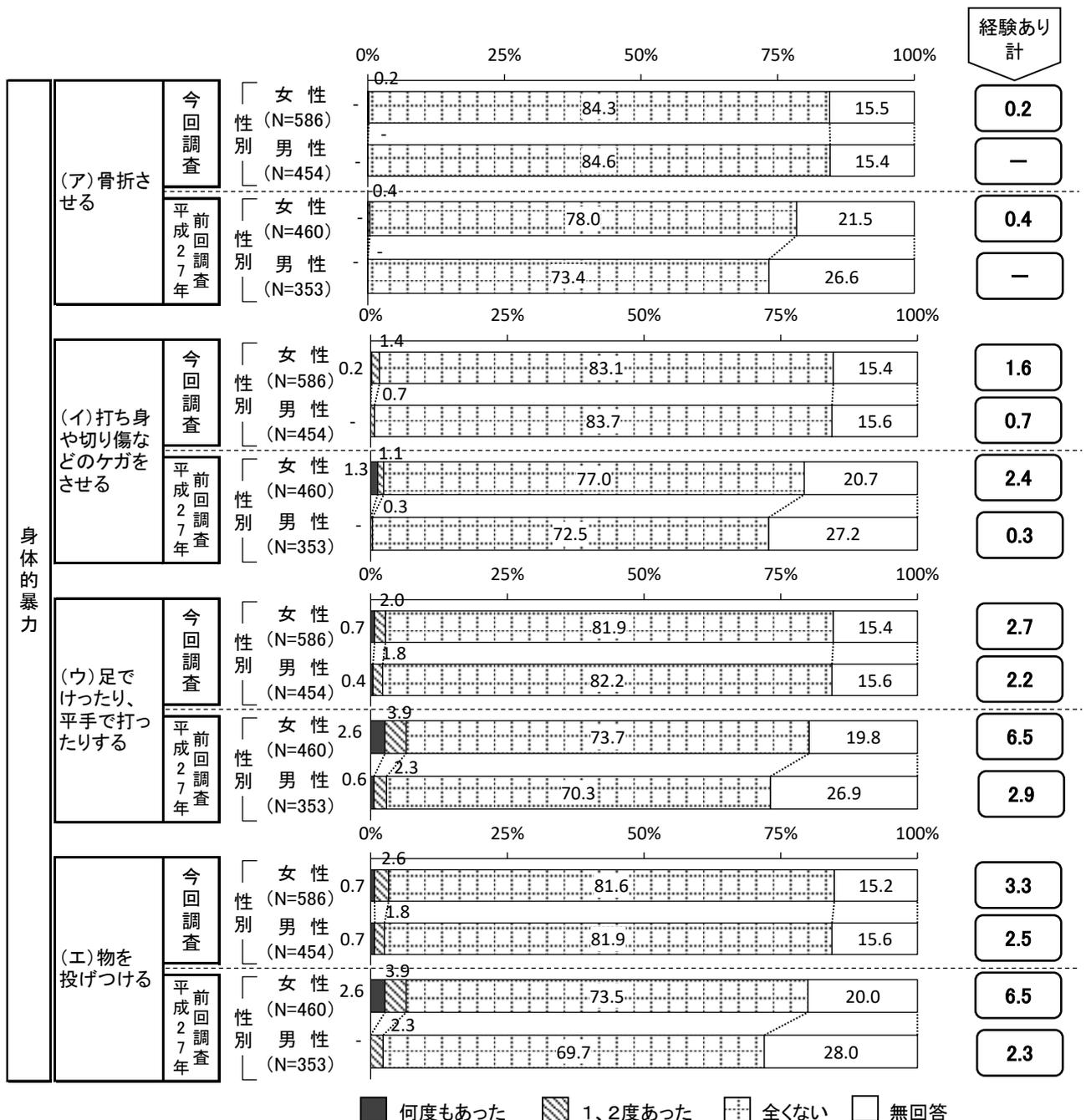
2. ドメスティック・バイオレンスについて

(1) ドメスティック・バイオレンスの経験

- DVの経験は女性で約2割、男性で約1割。
- 具体的には「大声でどなる」や「子どもや他人の前で侮辱したり、ばかにしたりする」などの精神的暴力が多い。

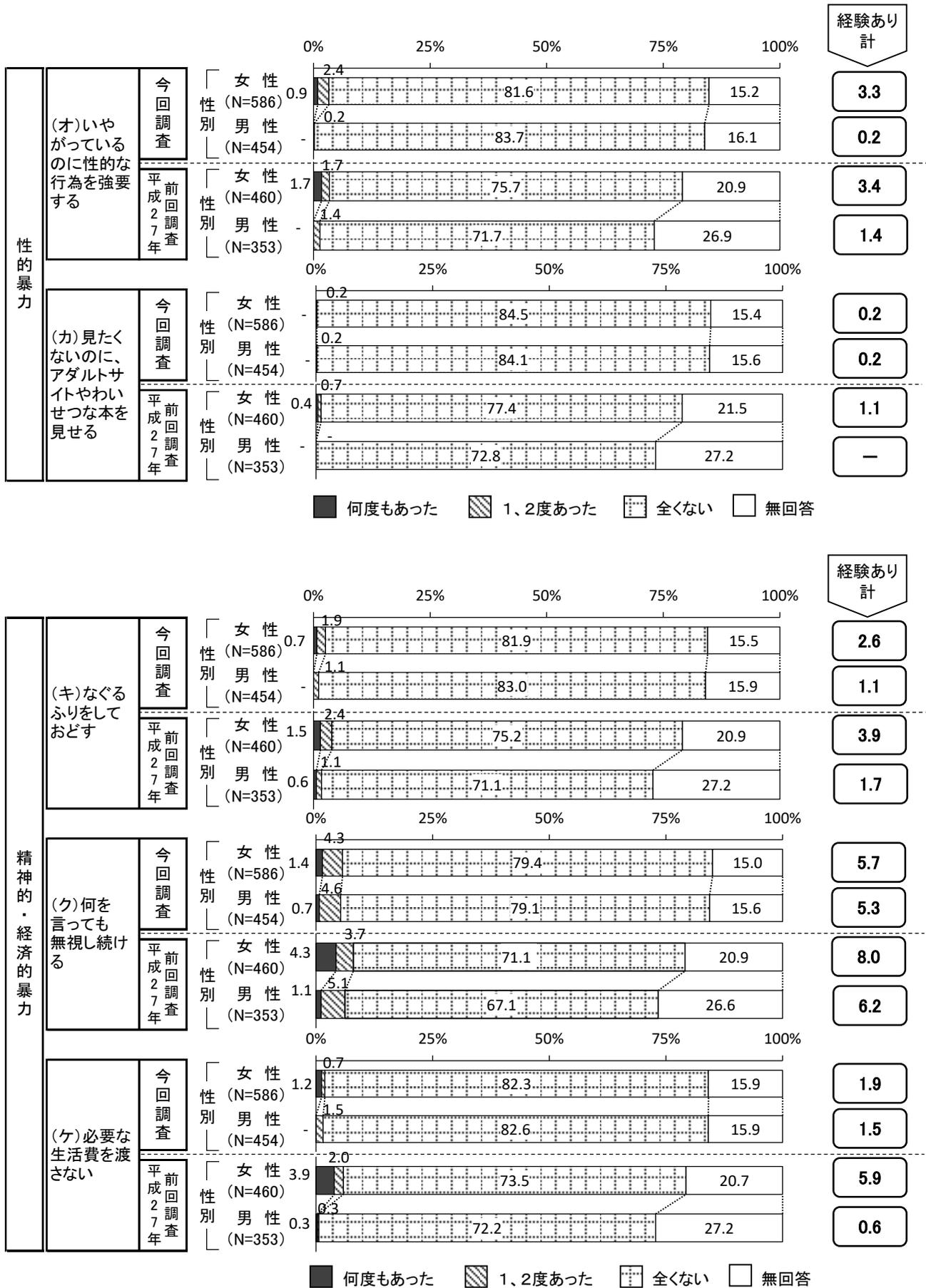
問 19. あなたは、ここ3年ぐらゐの間にあなたの配偶者（パートナー）や恋人関係にあった人から次のようなことをされたことがありますか。（ア）から（エ）のそれぞれについてあてはまるものを選んでください。（○印は1つずつ）

図表5-7(1) ドメスティック・バイオレンスの経験 [性別]



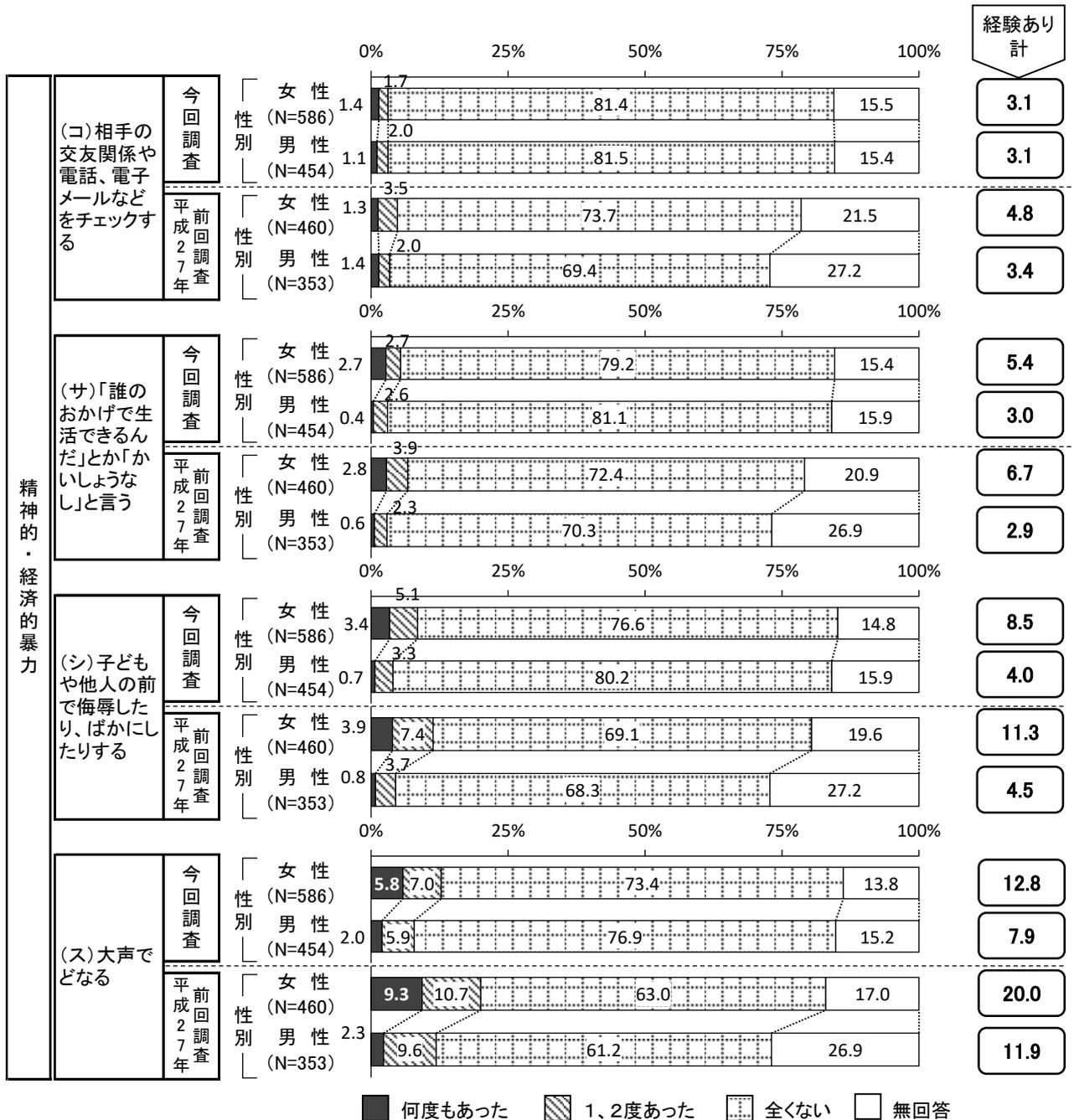
■ 何度もあった    ▨ 1、2度あった    □ 全くない    □ 無回答

図表5-7(2) ドメスティック・バイオレンスの経験 [性別]



II 調査結果の分析

図表5-7(3) ドメスティック・バイオレンスの経験 [性別]

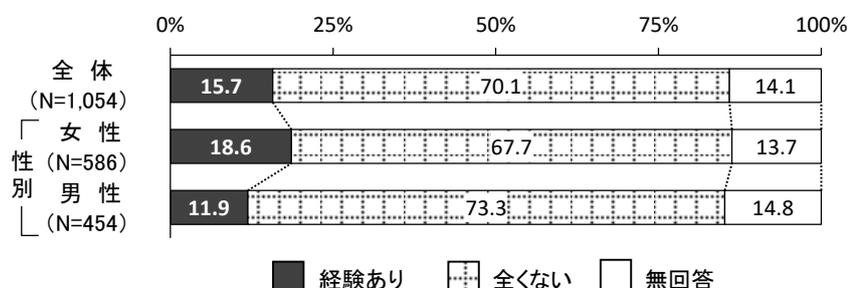


配偶者（パートナー）や恋人関係にあった人から暴力を受けたことがあるかどうか、暴力の内容ごとにとたずねた。

「何度もあった」と「1、2度あった」を合計した『経験あり』は、「相手の交友関係や電話、電子メールなどをチェックする」（同率 3.1%）、「見たくないのに、アダルトサイトやわいせつな本を見せる」（同率 0.2%）で男女とも同率であるが、その他の項目については女性の方が割合は高くなっている。特に「大声でどなる」（女性 12.8%、男性 7.9%）や「子どもや他人の前で侮辱したり、ばかにしたりする」（同 8.5%、4.0%）などは 4.5～4.9 ポイント女性の方が高くなっている。

これら（ア）から（ス）の暴力に一つでも「何度もあった」「1、2度あった」と回答した「経験あり」は15.7%、「全くない」は70.1%となっている。女性の「経験あり」は18.6%、男性は11.9%となっている。

図表5-8 【まとめ】ドメスティック・バイオレンスの経験 [全体、性別]



年齢別でみると、「経験あり」は女性の18～29歳（21.3%）、40代（20.9%）、50代（23.1%）で2割を超えている。

配偶関係別でみると、「経験あり」は男女とも配偶者がいる人で1割半ばかりから2割と高いが、女性の未婚、男女の離別でも1割台となっている。

図表5-9 【まとめ】ドメスティック・バイオレンスの経験 [全体、年齢別、配偶関係別]

		標本数	経験あり (%)	全くない (%)	無回答 (%)
全体		1,054	15.7	70.1	14.1
年齢別	女性:18～29歳	89	21.3	64.0	14.6
	女性:30～39歳	97	14.4	76.3	9.3
	女性:40～49歳	115	20.9	72.2	7.0
	女性:50～59歳	130	23.1	66.2	10.8
	女性:60～69歳	78	15.4	69.2	15.4
	女性:70歳以上	76	13.2	55.3	31.6
	男性:18～29歳	65	6.2	73.8	20.0
	男性:30～39歳	73	13.7	80.8	5.5
	男性:40～49歳	81	16.0	74.1	9.9
	男性:50～59歳	104	8.7	77.9	13.5
	男性:60～69歳	68	10.3	75.0	14.7
男性:70歳以上	63	17.5	54.0	28.6	
無回答		15	20.0	66.7	13.3
配偶関係別	女性:未婚	127	12.6	70.9	16.5
	女性:配偶者がいる	380	22.6	68.4	8.9
	女性:配偶者と死別した	33	6.1	57.6	36.4
	女性:配偶者と離別した	42	11.9	61.9	26.2
	男性:未婚	145	5.5	80.7	13.8
	男性:配偶者がいる	270	15.9	72.2	11.9
	男性:配偶者と死別した	6	-	50.0	50.0
	男性:配偶者と離別した	28	10.7	60.7	28.6
無回答		23	13.0	52.2	34.8

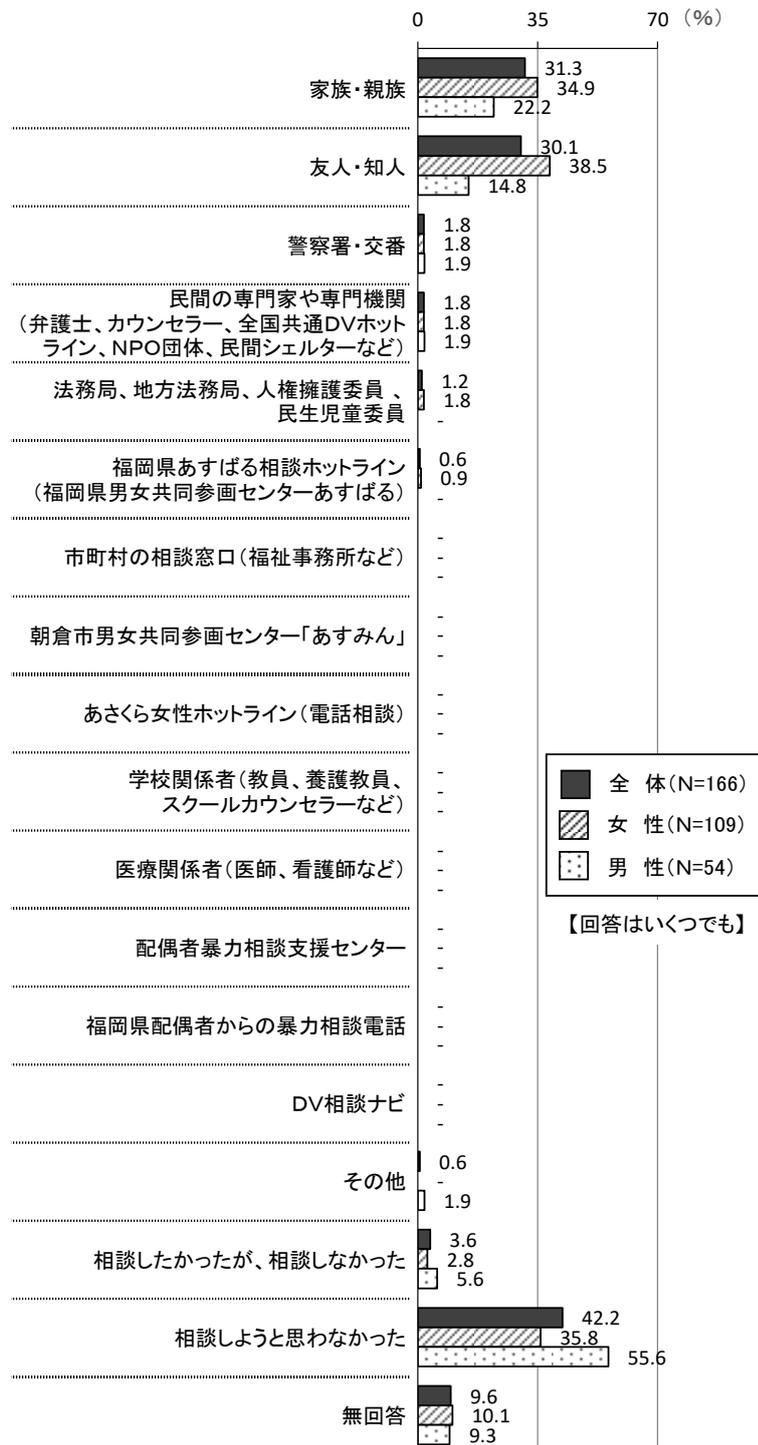
II 調査結果の分析

(2) ドメスティック・バイオレンスの相談

●暴力を受けたことについての相談は主に「家族・親族」「友人・知人」で女性に多い。「相談しようと思わなかった」は男性が約5割半ば、女性が3割半ばで男性に多い。

問 19 付問 1. [問 19 でいずれかに 1. または 2. と答えた方に] あなたはこれまでに、問 19 であげたような行為について誰かに打ち明けたり相談したりしましたか。  
(〇印はいくつでも)

図表 5-10 ドメスティック・バイオレンスの相談 [全体、性別]



配偶者（パートナー）や恋人関係にあった人から一つでも「何度もあった」「1、2度あった」と回答した166人に、そのことについて誰かに打ち明けたり相談したりしたかたずねたところ、「相談しようとは思わなかった」が42.2%で最も高かった。打ち明けたり相談したりした相手は「家族、親族」（31.3%）、「友人、知人」（30.1%）が主な相談先となっており、専門家や相談機関、公的機関に相談したという人はわずかで、「朝倉市男女共同参画センター『あすみん』」や「あさくら女性ホットライン」には該当者はいなかった。「相談したかったが、相談しなかった」は3.6%となっている。

性別でみると、女性では「友人、知人」（女性38.5%、男性14.8%）、と「家族、親族」（同34.9%、22.2%）が多く、男性では「相談しようとは思わなかった」が55.6%と多いが、女性も35.8%ある。

年齢別でみると、女性の30代以下では「友人・知人」、40代と70歳以上では「家族、親族」への相談が多いが、18～29歳と40代で「法務局、地方法務局、人権擁護委員、民生児童委員」、30代と50代、男性の50代で「警察署・交番」、女性の40代と男性の50代で「民間の専門家や専門機関」、女性の40代で「福岡県あすばる相談ホットライン」など専門機関や公的機関への相談がみられる。

図表5-11 ドメスティック・バイオレンスの相談 [全体、年齢別]

		(%)																				
		標本数	家族・親族	友人・知人	警察署・交番	法務局、地方 民生児童委員	市町村の相談窓口 (福祉事務所など)	朝倉市男女共同参画 センター「あすみん」	あさくら女性ホット ライン(電話相談)	学校関係者(教員、 カウンセラーなど)	医療関係者(医師、 看護師など)	NPO団体、民間 シェルターなど	民間の専門家や 専門機関(弁護士、 カウンセラー、全国 共通DVホットライン、 カウ)	配偶者暴力相談 支援センター	福岡県配偶者 からの暴力相談 電話	福岡県あすばる 相談ホットライン (福岡県男女共同 参画センターあ すばる)	DV相談ナビ	その他	相談したかった が、相談しな かった	相談しようと思 わなかった	無回答	
全体		166 100.0	52 31.3	50 30.1	3 1.8	2 1.2	-	-	-	-	-	3 1.8	-	-	-	1 0.6	-	1 0.6	6 3.6	70 42.2	16 9.6	
年齢別	女性:18～29歳	19	31.6	57.9	-	5.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5.3	36.8	-	
	女性:30～39歳	14	35.7	57.1	7.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	28.6	-	
	女性:40～49歳	24	41.7	33.3	-	4.2	-	-	-	-	-	8.3	-	-	-	4.2	-	-	-	29.2	12.5	
	女性:50～59歳	30	36.7	30.0	3.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6.7	36.7	13.3	
	女性:60～69歳	12	16.7	33.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	41.7	25.0	
	女性:70歳以上	10	40.0	20.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	50.0	10.0	
	男性:18～29歳	4	-	25.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	25.0	50.0	-
	男性:30～39歳	10	30.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10.0	-	70.0	-
	男性:40～49歳	13	7.7	23.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	76.9	-
	男性:50～59歳	9	33.3	22.2	11.1	-	-	-	-	-	-	11.1	-	-	-	-	-	-	-	-	44.4	11.1
	男性:60～69歳	7	14.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	28.6	42.9	14.3
	男性:70歳以上	11	36.4	18.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	36.4	27.3
	無回答		3	66.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	33.3	-

II 調査結果の分析

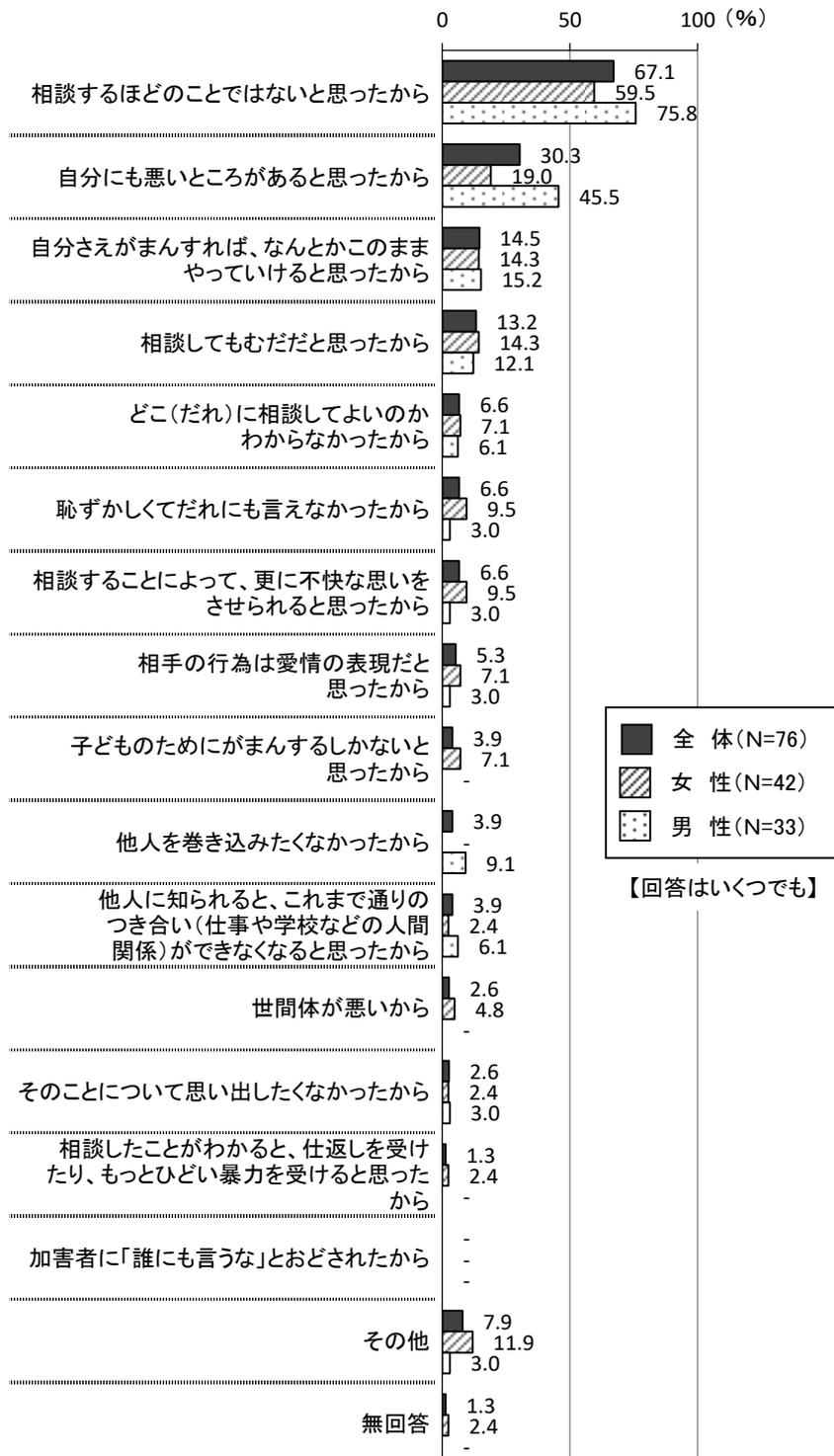
(3) 相談をしなかった理由

●暴力を受けたことについて相談しなかった理由は「相談するほどのことではないと思ったから」「自分にも悪いところがあると思ったから」が上位2位で男性に多い。

問 19 付問 1-1. [付問 1 で 16. または 17. と 答 えた 方 に]

どこ(だれ)にも相談しなかったのは、なぜですか。(〇印はいくつでも)

図表 5-12 相談をしなかった理由 [全体、性別]



「相談したかったが、相談しなかった」「相談しようとは思わなかった」と回答した 76 人に、その理由をたずねた。

「相談するほどのことではないと思ったから」が 67.1%で最も多く、次いで「自分にも悪いところがあると思ったから」が 30.3%、「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」が 14.5%、「相談してもむだだと思ったから」が 13.2%となっている。

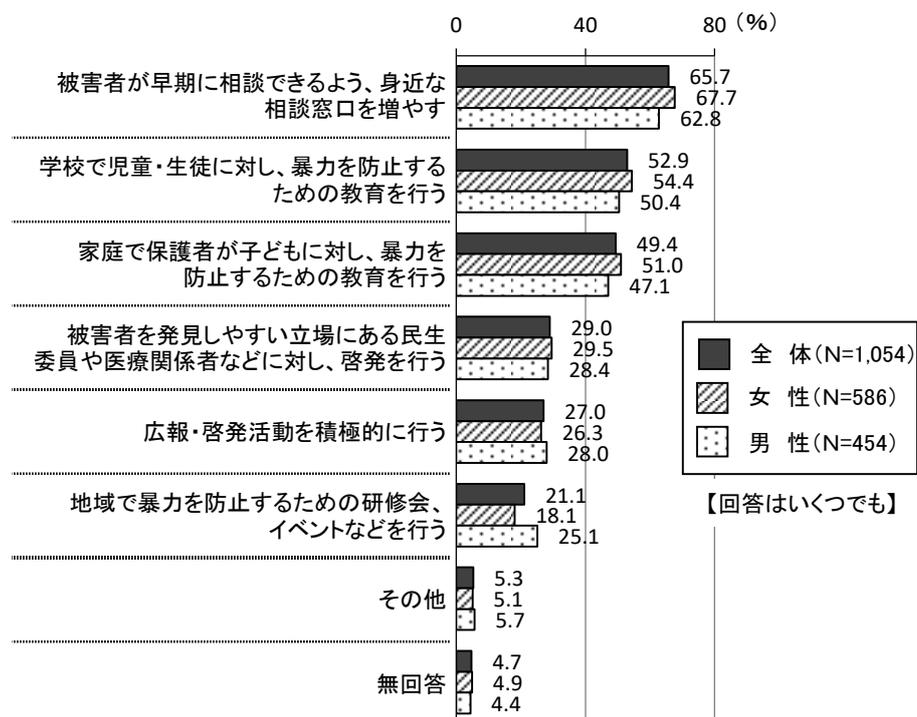
性別でみると、男性は「自分にも悪いところがあると思ったから」が 45.5%で女性の 19.0%を 26.5 ポイント、「相談するほどのことではないと思ったから」（女性 59.5%、男性 75.8%）が 16.3 ポイント、「他人を巻き込みたくなかったから」（同 0%、9.1%）が 9.1 ポイント女性の割合を上回っている。女性は「子どものためにがまんするしかないと思ったから」（同 7.1%、0%）、「はずかしくてだれにも言えなかった」（同 9.5%、3.0%）、「相談することによって、更に不快な思いをさせられると思ったから」（同 9.5%、3.0%）などが男性の割合をやや上回っている。

3. 男女間における暴力を防止するための取り組み

●男女間における暴力を防止するためには「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」「学校で児童・生徒に対し、暴力を防止するための教育を行う」「家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う」が上位3位。

問 20. あなたは、男女間における暴力を防止するためにはどうしたらよいと思いますか。  
(〇印はいくつでも)

図表 5-13 男女間における暴力を防止するための取り組み [全体、性別]



男女間における暴力を防止するためには「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」が65.7%と最も高く、次いで「学校で児童・生徒に対し、暴力を防止するための教育を行う」が52.9%、「家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う」が49.4%となっている。

性別で見ると、上位3位にあげられた項目は女性の方が男性よりも3.9~4.9ポイント高い。「地域で暴力を防止するための研修会、イベントなどを行う」(女性18.1%、男性25.1%)は男性の割合の方が女性よりも7ポイント高い。

年齢別でみると、「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」は女性の50代で77.7%と最も高く、また60代と男性の40代でも7割台となっている。「学校で児童・生徒に対し、暴力を防止するための教育を行う」は女性の18～29歳と男性の70歳以上で6割台、「家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う」は女性の70歳以上で60.5%と高くなっている。

図表5-14 男女間における暴力を防止するための取り組み〔全体、年齢別〕

		(%)												
		標本数	教育、暴力を防止するための対	家庭で保護者が子どもへの対	学校で児童・生徒への教育、	暴力を防止するための教育、	地域で暴力を防止するための	広域で暴力を防止するための	広報・啓発活動を積極的に	やよ、被害者が早期に相談できる	被害者などに対する見守りや医療関係者	被害者などに対する見守りや医療関係者	その他	無回答
全体		1,054 100.0	521 49.4	558 52.9	222 21.1	285 27.0	692 65.7	306 29.0	56 5.3	50 4.7				
年齢別	女性:18～29歳	89	51.7	64.0	18.0	20.2	67.4	31.5	10.1	4.5				
	女性:30～39歳	97	50.5	56.7	10.3	20.6	64.9	30.9	8.2	3.1				
	女性:40～49歳	115	47.8	47.0	15.7	24.3	62.6	27.0	7.8	5.2				
	女性:50～59歳	130	51.5	54.6	24.6	33.8	77.7	30.8	2.3	3.1				
	女性:60～69歳	78	44.9	55.1	19.2	37.2	71.8	29.5	-	3.8				
	女性:70歳以上	76	60.5	51.3	19.7	19.7	59.2	27.6	1.3	11.8				
	男性:18～29歳	65	36.9	38.5	16.9	24.6	52.3	24.6	12.3	6.2				
	男性:30～39歳	73	56.2	56.2	24.7	27.4	61.6	28.8	4.1	1.4				
	男性:40～49歳	81	43.2	49.4	18.5	18.5	72.8	25.9	6.2	1.2				
	男性:50～59歳	104	51.0	46.2	24.0	29.8	69.2	26.9	2.9	5.8				
	男性:60～69歳	68	51.5	52.9	33.8	38.2	63.2	35.3	10.3	5.9				
	男性:70歳以上	63	41.3	61.9	34.9	30.2	50.8	30.2	-	6.3				
	無回答	15	60.0	66.7	13.3	26.7	66.7	26.7	-	6.7				

## 第6章 男女共同参画社会の実現に向けて

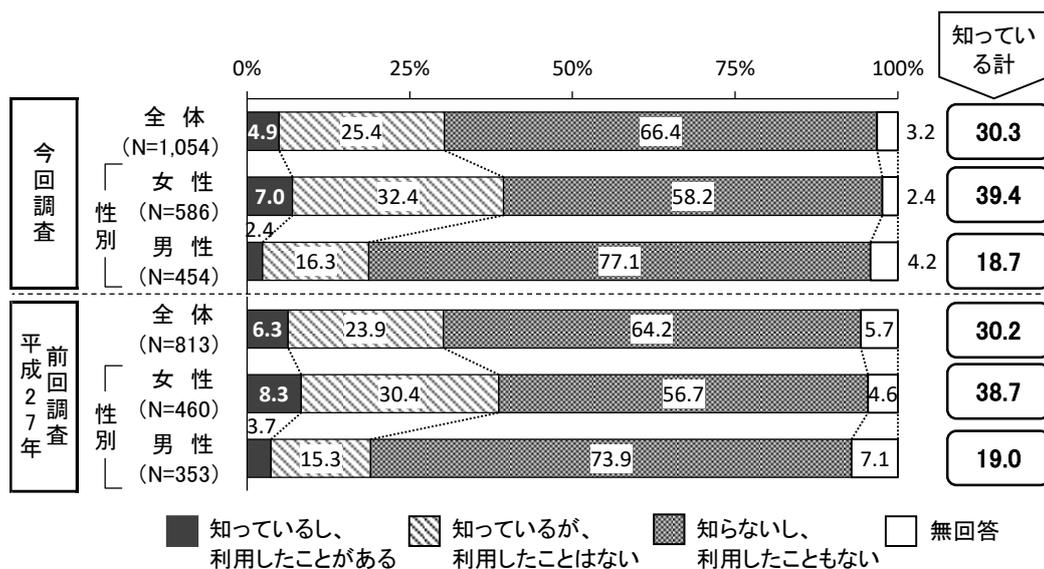
### 1. 朝倉市男女共同参画センター（あすみん）について

#### （1）朝倉市男女共同参画センター（あすみん）の認知と利用

- 朝倉市男女共同参画センター(あすみん)の認知度と利用の有無について「知っているし、利用したことがある」(4.9%)と「知っているが、利用したことはない」(25.4%)を合計した『知っている』は30.3%。
- 『知っている』は女性の方が男性よりも高く、40代以上で高い。

問 21. あなたは、朝倉市男女共同参画センター(あすみん)をご存知ですか。また利用したことがありますか。(〇印は1つ)

図表 6-1 朝倉市男女共同参画センター（あすみん）の認知と利用 [全体、性別]（前回調査比較）



朝倉市男女共同参画センター(あすみん)の認知度と利用の有無について「知っているし、利用したことがある」は4.9%と「知っているが、利用したことはない」の25.4%を合計した『知っている』は30.3%となっている。

性別で見ると、「知っているし、利用したことがある」(女性7.0%、男性2.4%)、「知っているが、利用したことはない」(同32.4%、16.3%)のいずれも女性の割合が男性を上回っており、女性の方が認知は高い。

前回調査と比べると、男女とも「知っているし、利用したことがある」「知っているが、利用したことはない」の割合に変化はあまりみられない。

年齢別で見ると、女性の40代以上で『知っている』が4割を超えている。男性は70歳以上で27.0%と男性の中で最も高い。

居住地域別で見ると、『知っている』は、杷木地域で51.9%と最も高く、次いで甘木地域が28.8%、朝倉地域が25.8%となっている。

図表6-2 朝倉市男女共同参画センター（あすみん）の認知と利用  
[全体、年齢別、居住地域別]

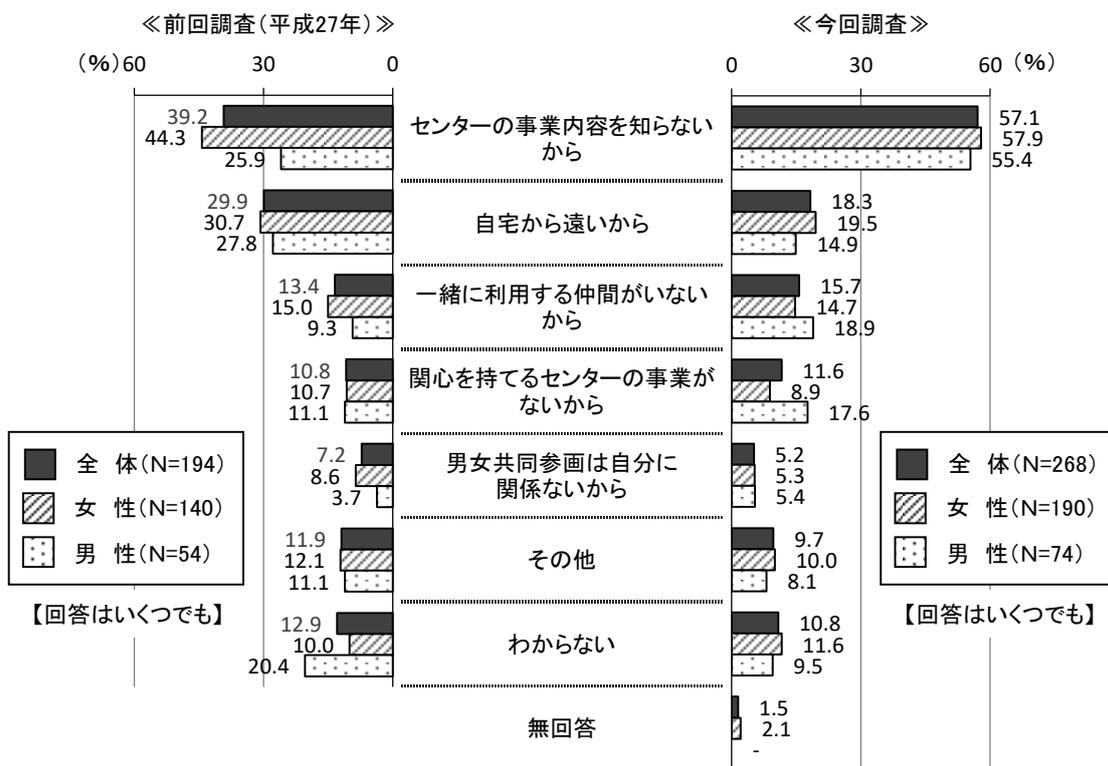
		標本数	し知 たっ こと いる が あ し る 、 利 用	し知 たっ こと いる は な い 、 利 用	利知 用ら しな い こ し 、 も な い	無 回 答	『知 っ て い る 』 計
全 体		1,054 100.0	52 4.9	268 25.4	700 66.4	34 3.2	320 30.3
年 齢 別	女性:18~29歳	89	1.1	24.7	73.0	1.1	25.8
	女性:30~39歳	97	4.1	27.8	67.0	1.0	31.9
	女性:40~49歳	115	9.6	34.8	52.2	3.5	44.4
	女性:50~59歳	130	8.5	36.9	53.1	1.5	45.4
	女性:60~69歳	78	9.0	32.1	56.4	2.6	41.1
	女性:70歳以上	76	9.2	36.8	48.7	5.3	46.0
	男性:18~29歳	65	1.5	9.2	84.6	4.6	10.7
	男性:30~39歳	73	1.4	15.1	83.6	-	16.5
	男性:40~49歳	81	2.5	16.0	80.2	1.2	18.5
	男性:50~59歳	104	1.9	15.4	77.9	4.8	17.3
	男性:60~69歳	68	2.9	20.6	70.6	5.9	23.5
	男性:70歳以上	63	4.8	22.2	63.5	9.5	27.0
	無回答	15	-	26.7	66.7	6.7	26.7
地 域 別	甘木地域	682	3.7	25.1	67.6	3.7	28.8
	朝倉地域	248	4.8	21.0	72.2	2.0	25.8
	杷木地域	106	14.2	37.7	45.3	2.8	51.9
	無回答	18	-	27.8	66.7	5.6	27.8

(2) 利用したことがない理由

●朝倉市男女共同参画センター(あすみん)を「知っているが、利用したことはない」理由は、「センターの事業内容を知らないから」が約6割で最も高い。

問 21 付問 1. [問 21 で 2. と 答 え た 方 に] では、朝倉市男女共同参画センター(あすみん)を利用したことがないのはどのような理由からですか。(〇印はいくつでも)

図表 6-3 利用したことがない理由 [全体、性別] (前回調査比較)



朝倉市男女共同参画センター(あすみん)を「知っているが、利用したことはない」268人にその理由をたずねたところ、「センターの事業内容を知らないから」が57.1%で最も高くなっている。次いで「自宅から遠いから」が18.3%、「一緒に利用する仲間がいないから」が15.7%、「関心を持てるセンターの事業がないから」が11.6%となっている。

性別で見ると、女性で「自宅から遠いから」が19.5%と男性(14.9%)を4.6ポイント上回り、男性は「関心を持てるセンターの事業がないから」が17.6%で女性(8.9%)を8.7ポイント、「一緒に利用する仲間がいないから」(女性14.7%、男性18.9%)が4.2ポイント上回っている。

前回調査と比べると、男女とも「センターの事業内容を知らないから」が13.6~29.5ポイント増え、「自宅から遠いから」は11.2~12.9ポイント減少している。また、男性は「一緒に利用する仲間がいないから」が9.6ポイント、「関心を持てるセンターの事業がないから」が6.5ポイント増えている。

年齢別にみると、女性の18～29歳と60代で「センターの事業内容を知らないから」が7割強、女性の60代で「自宅から遠いから」が48.0%と高い。男性の60代以上では「一緒に利用する仲間がいないから」「関心を持てるセンターの事業がないから」が3割弱から3割半ばで比較的高い。

居住地域別でみると、「センターの事業内容を知らないから」は杷木地域で75.0%と最も高くなっている。また、「一緒に利用する仲間がいないから」(25.0%)や「関心を持てるセンターの事業がないから」(17.5%)なども他の地域に比べて高い。甘木地域では「自宅から遠いから」が21.6%で比較的高い。

図表6-4 利用したことがない理由 [全体、年齢別、居住地域別]

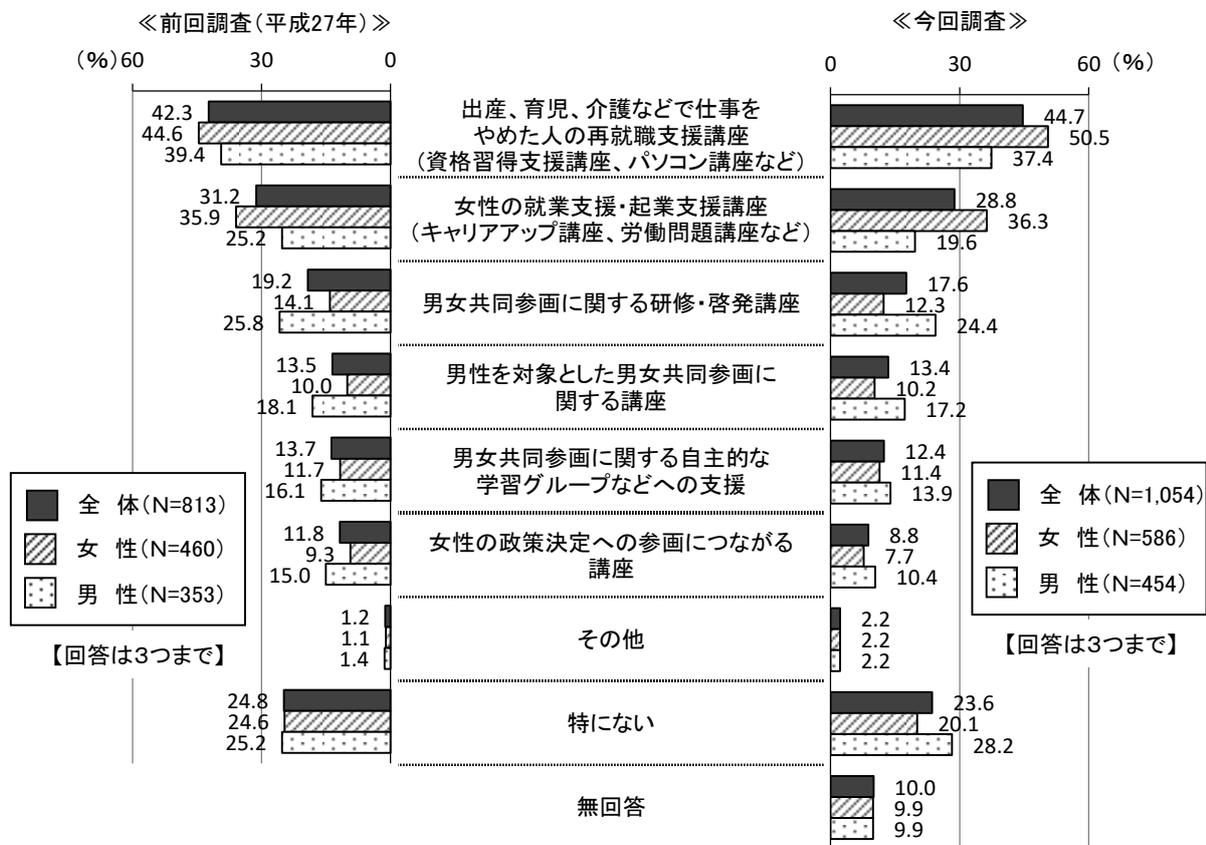
		標本数	センターの事業内容を知らないから	関心を持てないから	一緒に利用する仲間がいないから	自宅から遠いから	男性に共同参画は関係ないから	その他	わからない	無回答
全体		268 100.0	153 57.1	31 11.6	42 15.7	49 18.3	14 5.2	26 9.7	29 10.8	4 1.5
年齢別	女性:18～29歳	22	72.7	4.5	22.7	9.1	-	-	13.6	4.5
	女性:30～39歳	27	55.6	7.4	3.7	7.4	-	14.8	18.5	-
	女性:40～49歳	40	52.5	10.0	10.0	20.0	12.5	10.0	12.5	2.5
	女性:50～59歳	48	56.3	12.5	18.8	14.6	4.2	4.2	12.5	2.1
	女性:60～69歳	25	72.0	4.0	8.0	48.0	4.0	16.0	-	-
	女性:70歳以上	28	46.4	10.7	25.0	21.4	7.1	17.9	10.7	3.6
	男性:18～29歳	6	50.0	-	16.7	16.7	16.7	-	33.3	-
	男性:30～39歳	11	45.5	9.1	18.2	18.2	-	-	18.2	-
	男性:40～49歳	13	69.2	7.7	-	7.7	-	-	23.1	-
	男性:50～59歳	16	56.3	18.8	12.5	12.5	6.3	12.5	-	-
男性:60～69歳	14	50.0	28.6	28.6	21.4	-	28.6	-	-	
男性:70歳以上	14	57.1	28.6	35.7	14.3	14.3	-	-	-	
	無回答	4	50.0	25.0	-	25.0	-	25.0	-	-
地域別 居住	甘木地域	171	53.8	9.9	12.3	21.6	6.4	10.5	11.1	2.3
	朝倉地域	52	55.8	9.6	19.2	15.4	3.8	7.7	13.5	-
	杷木地域	40	75.0	17.5	25.0	7.5	2.5	7.5	7.5	-
	無回答	5	40.0	40.0	20.0	20.0	-	20.0	-	-

(3) 朝倉市男女共同参画センター（あすみん）で行ってほしい事業

●朝倉市男女共同参画センター(あすみん)で行ってほしい事業は「出産、育児、介護などで仕事をやめた人の再就職支援講座」「女性の就業支援・起業支援講座」「男女共同参画に関する研修・啓発講座」が上位3位。

問 22. あなたは、朝倉市男女共同参画センター(あすみん)では、どのような事業をしてほしいと思いますか。(〇印は3つまで)

図表 6-5 朝倉市男女共同参画センター（あすみん）で行ってほしい事業 [全体、性別] (前回調査比較)



朝倉市男女共同参画センター(あすみん)で行ってほしい事業についてたずねたところ、「出産、育児、介護などで仕事をやめた人の再就職支援講座」が 44.7% で最も高い。次いで「女性の就業支援・起業支援講座」が 28.8%、「男女共同参画に関する研修・啓発講座」が 17.6%、「男性を対象とした男女共同参画に関する講座」が 13.4%、「男女共同参画に関する自主的な学習グループなどへの支援」が 12.4% となっている。再就職や就業・起業支援といった仕事についての項目が上位となっている。

性別で見ると、女性は男性よりも「出産、育児、介護などで仕事をやめた人の再就職支援講座」(女性 50.5%、男性 37.4%) が 13.1 ポイント、「女性の就業支援・起業支援講座」(同 36.3%、19.6%) が 16.7 ポイント高くなっている。一方、男性は女性よりも「男女共同参画に関する研修・啓発講座」(同 12.3%、24.4%) が 12.1 ポイント、「男性を対象とした男女共同参画に関する講座」(同 10.2%、17.2%) が 7 ポイント高く、女性は仕事に関すること、男性は男女共同参画に関する講座への希望が高くなっている。

前回調査と比べると、女性は「出産、育児、介護などで仕事をやめた人の再就職支援講座」が5.9ポイント増えているが、その他の項目についてはあまり大きな変化はみられない。

年齢別でみると、「出産、育児、介護などで仕事をやめた人の再就職支援講座」は女性の70歳以上を除く各年代で5割を超えており、「女性の就業支援・起業支援講座」は女性の30代と60代で4割台と他の年代に比べて高い。「男性を対象とした男女共同参画に関する講座」は男性の60代以上の年代が高い層での割合が高く、「男女共同参画に関する研修・啓発講座」は男性の18～29歳と70歳以上での割合が比較的高くなっている。

あすみんの認知と利用状況別でみると、認知がある人では「出産、育児、介護などで仕事をやめた人の再就職支援講座」が5割台で高い。知っているし、利用したことがある人は利用したことがない人よりもほとんどの項目で割合が高い。

図表6-6 朝倉市男女共同参画センター（あすみん）で行ってほしい事業

[全体、年齢別、あすみんの認知と利用状況別]

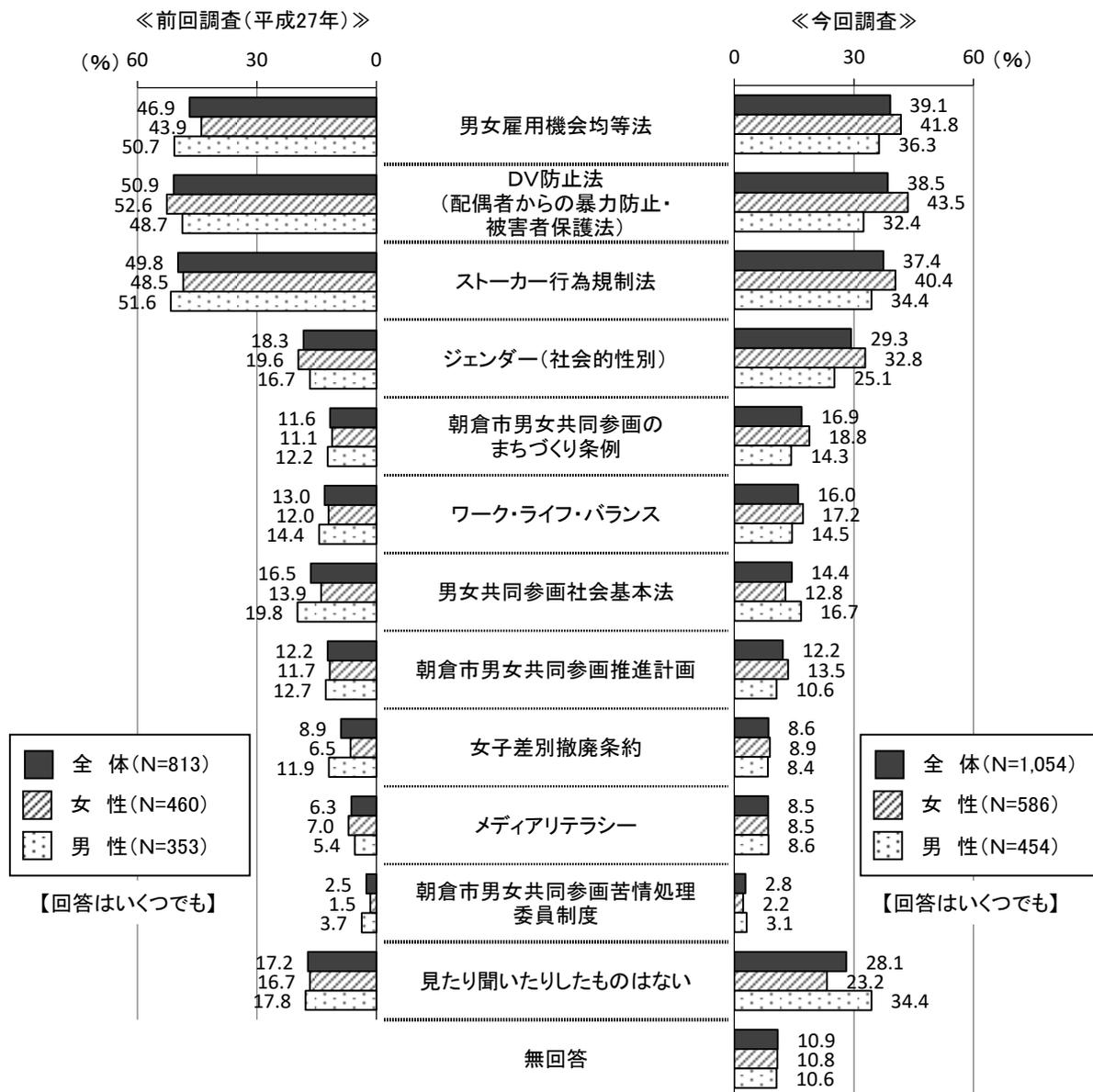
		標本数	修男女共同参画に関する研修	参画性に関する講座	座講女性の就業支援・起業支援（キャリアアップ講座など）	ン資格習得支援講座、パソコン講座など）	をやめた人の再就職支援講座	つ女性の政策決定への参画に	支的な学習グループなどへの自主	男女共同参画に関する自主	その他	特にな	無回答
全体		1,054 100.0	185 17.6	141 13.4	304 28.8	471 44.7	93 8.8	131 12.4	23 2.2	249 23.6	105 10.0		
年齢別	女性:18～29歳	89	18.0	12.4	38.2	55.1	4.5	6.7	1.1	24.7	6.7		
	女性:30～39歳	97	13.4	5.2	42.3	55.7	6.2	8.2	3.1	20.6	4.1		
	女性:40～49歳	115	7.8	9.6	34.8	51.3	7.0	8.7	2.6	25.2	4.3		
	女性:50～59歳	130	11.5	13.8	39.2	56.2	7.7	11.5	2.3	17.7	8.5		
	女性:60～69歳	78	14.1	11.5	44.9	50.0	10.3	16.7	3.8	16.7	10.3		
	女性:70歳以上	76	10.5	7.9	14.5	28.9	11.8	19.7	-	14.5	31.6		
	男性:18～29歳	65	29.2	16.9	20.0	35.4	3.1	13.8	3.1	36.9	4.6		
	男性:30～39歳	73	21.9	13.7	21.9	42.5	13.7	13.7	2.7	30.1	5.5		
	男性:40～49歳	81	22.2	13.6	28.4	39.5	14.8	14.8	1.2	28.4	8.6		
	男性:50～59歳	104	25.0	13.5	14.4	36.5	4.8	10.6	2.9	32.7	8.7		
男性:60～69歳	68	17.6	22.1	22.1	45.6	11.8	17.6	1.5	19.1	14.7			
男性:70歳以上	63	31.7	27.0	11.1	23.8	15.9	14.3	1.6	19.0	19.0			
	無回答	15	13.3	20.0	20.0	33.3	6.7	6.7	-	20.0	13.3		
認知状況・利用別	知っているし、利用したことがある	52	26.9	11.5	36.5	51.9	9.6	23.1	-	7.7	3.8		
	知っているが、利用したことはない	268	20.1	15.7	29.5	51.5	9.3	13.8	2.6	20.5	6.3		
	知らないし、利用したこともない	700	16.3	13.0	28.9	42.6	8.7	11.1	2.0	26.7	9.7		
	無回答	34	8.8	5.9	11.8	23.5	5.9	11.8	5.9	8.8	52.9		

2. 男女共同参画に関する法律、言葉、朝倉市の取り組み等の認知

●「男女雇用機会均等法」「DV防止法」「ストーカー行為規制法」は約4割で上位の認知。  
女性の方が男性よりも認知は高い。

問 23. 次のことから、あなたが見たり聞いたりしたものはありますか。  
(〇印はいくつでも)

図表 6-7 男女共同参画に関する法律、言葉、朝倉市の取り組み等の認知 [全体、性別] (前回調査比較)



男女共同参画社会に関する法律や条例、言葉、朝倉市の取り組みなどの認知についてたずねた。「男女雇用機会均等法」が39.1%、「DV防止法」が38.5%。「ストーカー行為規制法」が37.4%と、この3つの法律については4割弱の認知となっている。朝倉市の取り組みである「朝倉市男女共同参画のまちづくり条例」は16.9%、「朝倉市男女共同参画推進計画」は12.2%、「朝倉市男女共同参画苦情処理委員制度」は2.8%となっている。「見たり聞いたりしたものはなし」は28.1%である。

性別でみると、「見たり聞いたりしたものはない」（女性 23.2%、男性 34.4%）は男性の方が女性よりも 11.2 ポイント高く、女性は「DV防止法」（同 43.5%、32.4%）が男性よりも 11.1 ポイント高く、女性で最も高くなっている。その他「男女雇用機会均等法」（同 41.8%、36.3%）が 5.5 ポイント、「ストーカー行為規制法」（同 40.4%、34.4%）が 6 ポイント、「ジェンダー」（同 32.8%、25.1%）が 7.7 ポイント男性よりも割合が高くなっている。

前回調査と比べると、上位 3 位にあげられた項目については女性では 2.1～9.1 ポイント、男性では 14.4～17.2 ポイント割合が減少している。「ジェンダー」は男女とも 8.4～13.2 ポイント増え、また女性では「朝倉市男女共同参画のまちづくり条例」が 7.7 ポイント、「ワーク・ライフ・バランス」が 5.2 ポイント増えるなど認知は上がっている。「見たり聞いたりしたものはない」は女性で 6.5 ポイント、男性は 16.6 ポイント増加している。

年齢別でみると、「DV防止法」「ストーカー行為規制法」などは女性の 40 代と 50 代での割合が高く、「男女共同参画社会基本法」「女子差別撤廃条約」「ジェンダー」「メディアリテラシー」「ワーク・ライフ・バランス」などは男女とも 18～29 歳での認知が高い。朝倉市の取り組みである「朝倉市男女共同参画のまちづくり条例」や「朝倉市男女共同参画推進計画」などは男女とも年齢の高い層での認知が高い傾向がみられる。

図表 6-8 男女共同参画に関する法律、言葉、朝倉市の取り組み等の認知 [全体、年齢別]

		標本数	の朝倉市まちづくり条例	苦情処理委員制度	朝倉市男女共同参画推進計画	朝倉市男女共同参画基本法	女子差別撤廃条約	男女雇用機会均等法	ストーカー行為規制法	からの保護法	DV防止法（配偶者暴力法）	ジェンダー（社会的性別）	メディアリテラシー	ワーク・ライフ・バランス	見たり聞いたりしたものはない	無回答
全体		1,054 100.0	178 16.9	29 2.8	129 12.2	152 14.4	91 8.6	412 39.1	394 37.4	406 38.5	309 29.3	90 8.5	169 16.0	296 28.1	115 10.9	
年齢別	女性:18～29歳	89	19.1	1.1	11.2	32.6	19.1	48.3	32.6	46.1	46.1	22.5	33.7	18.0	4.5	
	女性:30～39歳	97	23.7	2.1	10.3	10.3	9.3	44.3	43.3	41.2	38.1	10.3	18.6	29.9	5.2	
	女性:40～49歳	115	13.9	2.6	13.9	10.4	7.8	40.9	47.0	47.8	32.2	6.1	21.7	27.8	7.8	
	女性:50～59歳	130	17.7	2.3	13.1	8.5	6.2	44.6	48.5	51.5	33.8	6.2	12.3	20.0	9.2	
	女性:60～69歳	78	19.2	1.3	14.1	9.0	9.0	38.5	39.7	39.7	21.8	5.1	11.5	20.5	16.7	
	女性:70歳以上	76	21.1	3.9	19.7	7.9	2.6	31.6	23.7	27.6	21.1	1.3	3.9	22.4	25.0	
	男性:18～29歳	65	16.9	3.1	10.8	30.8	16.9	32.3	27.7	30.8	35.4	23.1	26.2	35.4	4.6	
	男性:30～39歳	73	8.2	4.1	5.5	20.5	8.2	39.7	43.8	39.7	28.8	12.3	17.8	37.0	9.6	
	男性:40～49歳	81	11.1	2.5	4.9	7.4	6.2	30.9	34.6	32.1	25.9	7.4	18.5	40.7	4.9	
	男性:50～59歳	104	10.6	1.9	9.6	14.4	6.7	37.5	32.7	27.9	20.2	2.9	9.6	33.7	11.5	
	男性:60～69歳	68	19.1	4.4	17.6	20.6	7.4	45.6	36.8	36.8	29.4	4.4	11.8	35.3	10.3	
	男性:70歳以上	63	23.8	3.2	17.5	9.5	6.3	31.7	30.2	28.6	12.7	4.8	4.8	22.2	23.8	
無回答	15	20.0	13.3	13.3	6.7	6.7	13.3	6.7	26.7	20.0	6.7	13.3	26.7	33.3		

3. 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度

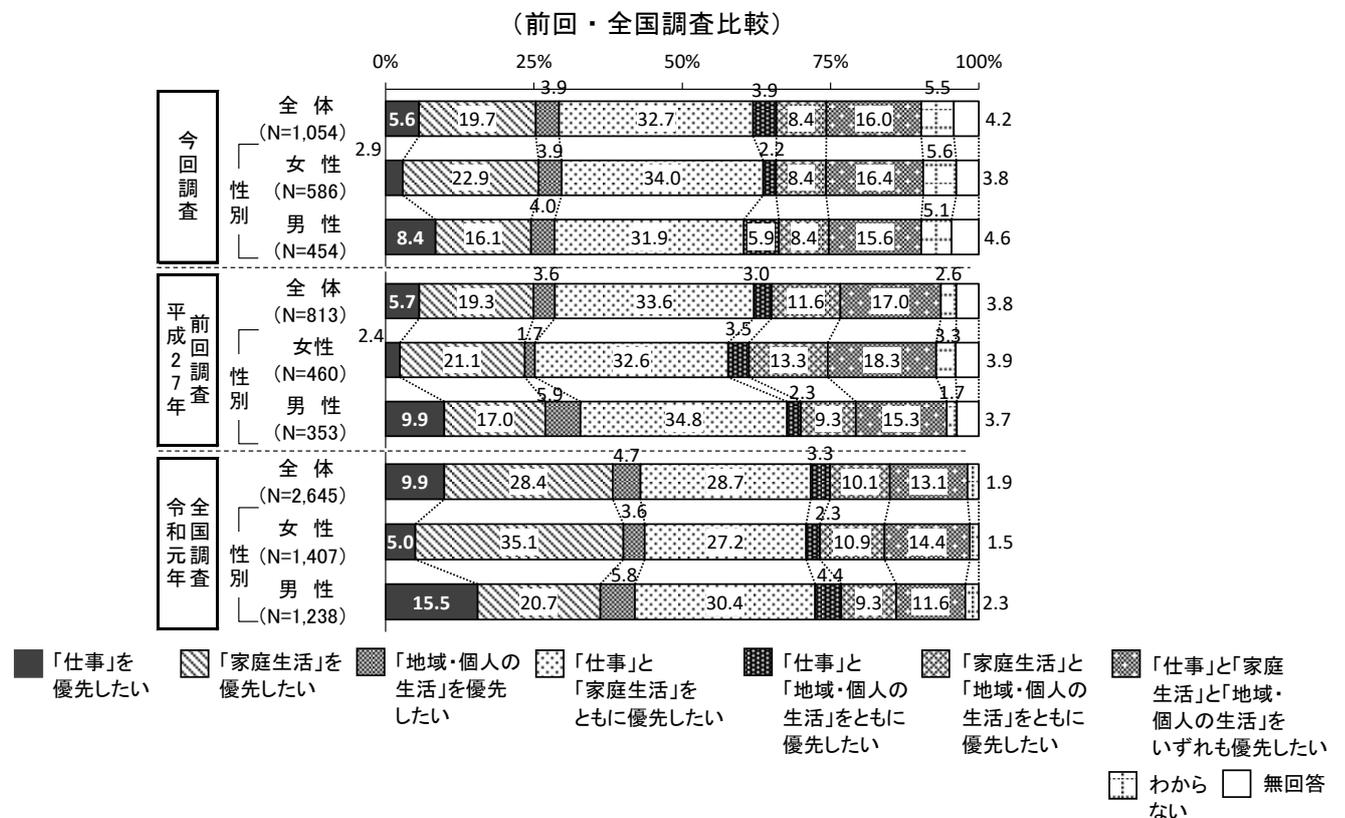
(1) 希望

●生活における「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の希望する優先度について、男女とも『「仕事」と『家庭生活』を優先したい』が3割強で最も高い。

問 24. 生活のなかでの「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味・付き合い等）の優先度についておうかがいます。

(A) まず、あなたの希望に最も近いものをこの中から1つだけお答えください。

図表 6-9 希望する「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」優先度 [全体、性別]



生活における「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度について希望と現実のそれぞれについてたずねた。

希望では『「仕事」と『家庭生活』を優先したい』が 32.7%、『「家庭生活」を優先したい』が 19.7%、「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をいずれも優先したい』が 16.0%となっている。

性別でみると、女性では『「家庭生活」を優先したい』(女性 22.9%、男性 16.1%) が男性よりも 6.8 ポイント、男性では『「仕事」を優先したい』(同 2.9%、8.4%) と『「仕事」と『地域・個人の生活』をともに優先したい』(同 2.2%、5.9%) の割合が女性よりも 3.7~5.5 ポイント上回っている。その他の項目については同程度となっている。

前回調査と比べてあまり大きな変化はみられない。

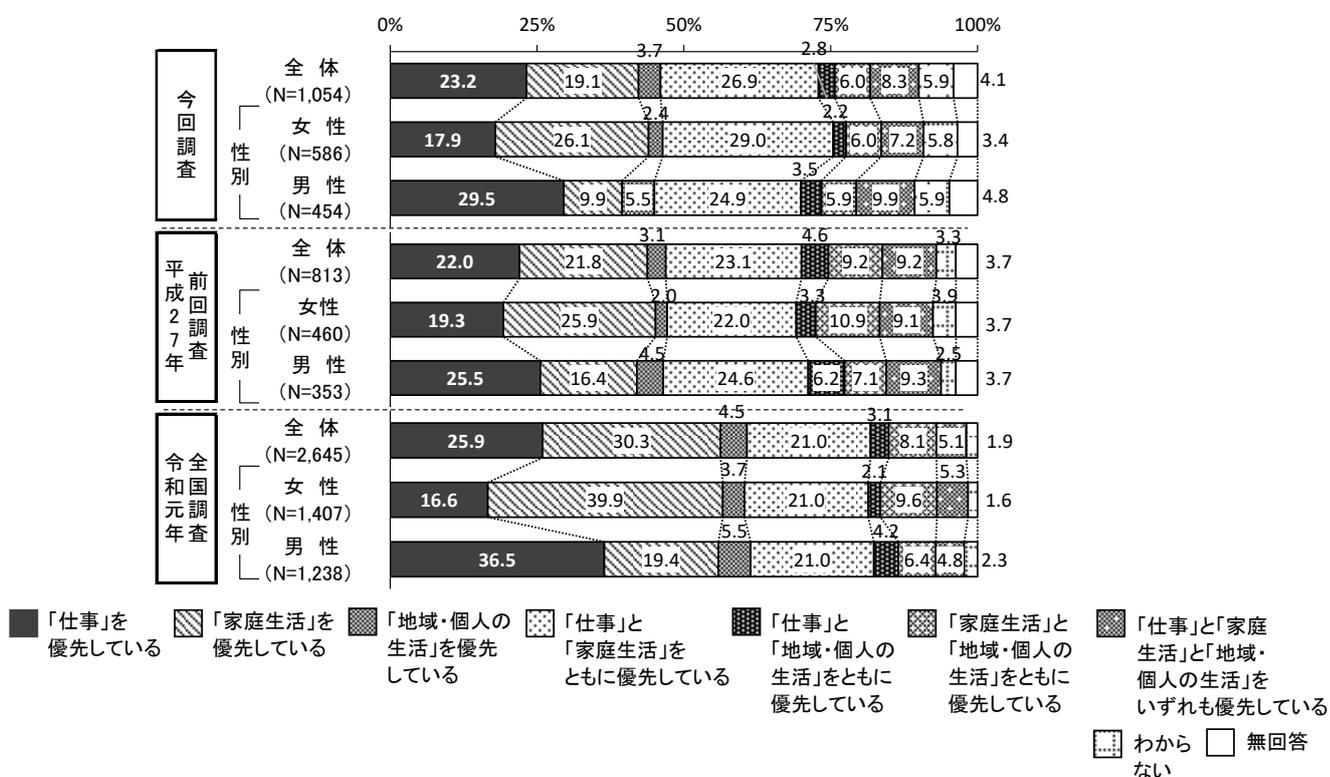
全国調査と比べて、男女とも『「仕事」と『家庭生活』を優先したい』が全国よりも割合が高く、『「家庭生活」を優先したい』や『「仕事」を優先したい』などの割合は低くなっている。

(2) 現実（現状）

●現実では女性は「『仕事』と『家庭生活』をともに優先している」、男性は「『仕事』を優先している」がともに約3割で最も高い。

問 24. 生活のなかでの「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味・付き合い等）の優先度についておうかがいします。  
 (B) あなたの現実（現状）に最も近いものをこの中から1つだけお答えください。

図表 6-10 現実（現状）の「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」優先度  
 [全体、性別]（前回・全国調査比較）



現実では「『仕事』と『家庭生活』をともに優先している」が 26.9%、「『仕事』を優先している」が 23.2%、「『家庭生活』を優先している」は 19.1%となっており、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先している」や「『仕事』を優先している」の割合は希望とは大きく違っている。

性別でみると、女性は、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先している」（女性 29.0%、男性 24.9%）が最も高く、男性は「『仕事』を優先している」（同 17.9%、29.5%）が最も高くなっている。また、女性では「『家庭生活』を優先している」（同 26.1%、9.9%）が男性を 16.2 ポイント上回っている。希望では 1 割半ばあった「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をいずれも優先している」は現実では 1 割に満たない。

前回調査と比べると、男性は「『仕事』を優先している」が 4 ポイントと増え、女性は「『仕事』と『家庭生活』をともに優先している」が 7 ポイント増えている。

全国調査と比べると、今回調査の方が女性は「『家庭生活』を優先している」が 13.8 ポイント、男性は「『仕事』を優先している」が 7 ポイント低くなっている。

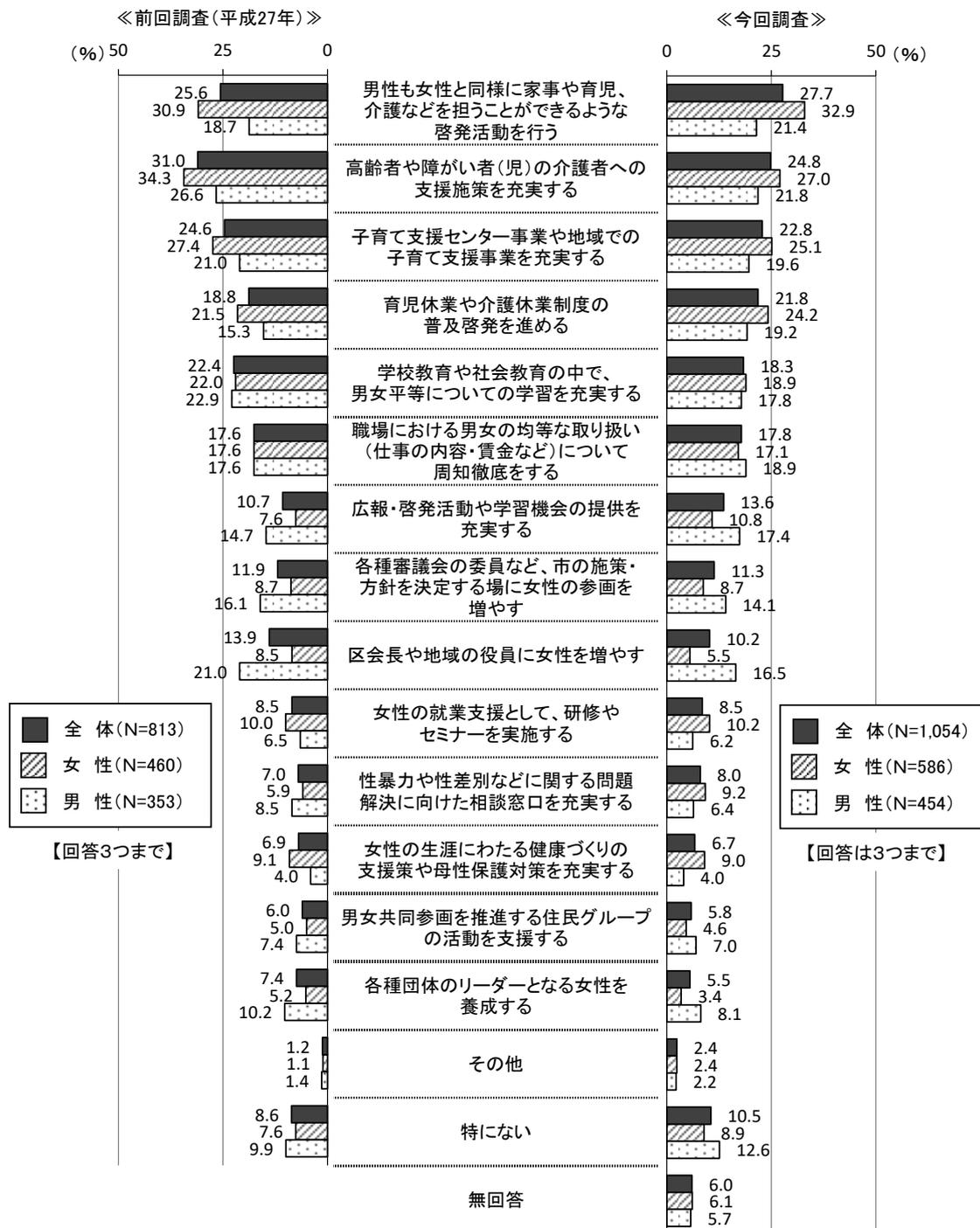
II 調査結果の分析

4. 男女共同参画社会実現のために望む施策

●男女共同参画社会の実現のために力を入れる施策は、「男性も女性と同様に家事や育児、介護などを担うことができるような啓発活動を行う」「高齢者や障がい者（児）の介護者への支援施策を充実する」。

問 25. 「自立し支え合い個性や能力を発揮できる元気な朝倉市」の男女共同参画まちづくり実現のために、あなたは、朝倉市（行政）が今後どのようなことに力を入れていきたいと思いませんか。（〇印は3つまで）

図表 6-11 男女共同参画社会実現のための施策〔全体、性別〕（前回調査比較）



男女共同参画社会の実現のために、市として力を入れる施策をたずねたところ、「男性も女性と同様に家事や育児、介護などを担うことができるような啓発活動を行う」が 27.7%、「高齢者や障がい者（児）の介護者への支援施策を充実する」が 24.8%、「子育て支援センター事業や地域での子育て支援事業を充実する」22.8%、「育児休業や介護休業制度の普及啓発を進める」が 21.8%で上位にあげられている。また、「学校教育や社会教育の中で、男女平等についての学習を充実する」（18.3%）、「職場における男女の均等な取り扱い（仕事の内容・賃金など）について周知徹底をする」（17.8%）なども2割弱となっている。

性別で見ると、上位4位にあげられた項目については女性の割合の方が男性よりも高く、特に「男性も女性と同様に家事や育児、介護などを担うことができるような啓発活動を行う」（女性 32.9%、男性 21.4%）は男性よりも 11.5 ポイント高い。男性は「区会長や地域の役員に女性を増やす」（同 5.5%、16.5%）、「広報・啓発活動や学習機会の提供を充実する」（同 10.8%、17.4%）、「各種審議会の委員など、市の施策・方針を決定する場に女性の参画を増やす」（同 8.7%、14.1%）などが女性よりも 5.4～11 ポイント高くなっている。

前回調査と比べると、前回調査では第2位であった「男性も女性と同様に家事や育児、介護などを担うことができるような啓発活動を行う」は男女とも割合が 2～2.7 ポイントとやや増えて、今回調査では第1位となっている。その他「育児休業や介護休業制度の普及啓発を進める」や「広報・啓発活動や学習機会の提供を充実する」なども男女とも割合が 2.7～3.9 ポイント増えている。

II 調査結果の分析

年齢別でみると、「男性も女性と同様に家事や育児、介護などを担うことができるような啓発活動を行う」は男女とも30代（女性40.2%、男性30.1%）で高く、女性の50代以上でも3割台となっている。「子育て支援センター事業や地域での子育て支援事業を充実する」「育児休業や介護休業制度の普及啓発を進める」「職場における男女の均等な取り扱い（仕事の内容・賃金など）について周知徹底をする」「性暴力や性差別などに関する問題解決に向けた相談窓口を充実する」などは男女とも年齢の低い層での割合が高い傾向がみられる。その他「女性の就業支援として、研修やセミナーを実施する」は女性の30代から50代で1割台と比較的高い。「高齢者や障がい者（児）の介護者への支援施策を充実する」は男女とも年代の高い層での割合が高く、また「広報・啓発活動や学習機会の提供を充実する」や「区会長や地域の役員に女性を増やす」「男女共同参画を推進する住民グループの活動を支援する」などは男性の年齢が高い層、「各種審議会の委員など、市の施策・方針を決定する場に女性の参画を増やす」は男性の60代での割合が高い。

図表6-12 男女共同参画社会実現のための施策〔全体、年齢別〕

		(%)																																					
標本数		提供を充実する	広報・啓発活動や学習機会の充実	性参画の増やす	各種審議会の委員など、市の女性を増やす	区会長や地域の役員に女性を増やす	実する	学校教育や社会教育の充実	どりに関する内容の徹底・資金な	職場における男女の均等な取	及啓発を進める	育児休業や介護休業制度の普	さるような啓発活動を行う	男性も女性と同様に家事や育	やセミナーを実施する	女性の就業支援として、研修	充実する	女性の生涯にわたる健康づく	問題解決に向けた相談窓口を	性暴力や性差別などに関する女	各種団体のリーダーとなる女	グループの活動を推進する住民	男女共同参画を推進する住民	子育て支援センター事業や地	高齢者や障がい者（児）の介	その他	特にな	無回											
全体		1,054	143	119	108	193	188	230	292	90	71	84	58	61	240	261	25	111	63	100.0	13.6	11.3	10.2	18.3	17.8	21.8	27.7	8.5	6.7	8.0	5.5	5.8	22.8	24.8	2.4	10.5	6.0		
年齢別	女性:18~29歳	89	7.9	9.0	4.5	19.1	21.3	29.2	24.7	5.6	9.0	10.1	5.6	2.2	28.1	18.0	-	12.4	7.9																				
	女性:30~39歳	97	4.1	5.2	3.1	15.5	18.6	28.9	40.2	11.3	7.2	10.3	4.1	1.0	39.2	20.6	2.1	11.3	1.0																				
	女性:40~49歳	115	13.9	7.8	7.8	14.8	13.0	22.6	29.6	11.3	10.4	11.3	2.6	5.2	21.7	28.7	4.3	12.2	4.3																				
	女性:50~59歳	130	10.0	10.8	2.3	19.2	22.3	26.2	34.6	17.7	6.2	11.5	3.1	4.6	20.8	26.2	3.8	5.4	6.2																				
	女性:60~69歳	78	15.4	12.8	5.1	29.5	15.4	24.4	37.2	7.7	10.3	6.4	2.6	3.8	25.6	41.0	-	5.1	3.8																				
	女性:70歳以上	76	14.5	6.6	11.8	18.4	9.2	11.8	31.6	2.6	13.2	2.6	2.6	11.8	15.8	30.3	1.3	6.6	15.8																				
	男性:18~29歳	65	15.4	15.4	9.2	20.0	23.1	18.5	23.1	6.2	4.6	10.8	6.2	4.6	13.8	10.8	3.1	18.5	4.6																				
	男性:30~39歳	73	15.1	12.3	13.7	17.8	26.0	30.1	30.1	6.8	5.5	6.8	5.5	4.1	26.0	11.0	2.7	9.6	1.4																				
	男性:40~49歳	81	11.1	12.3	11.1	18.5	21.0	22.2	14.8	4.9	2.5	7.4	6.2	7.4	28.4	28.4	3.7	13.6	1.2																				
	男性:50~59歳	104	18.3	12.5	22.1	18.3	14.4	16.3	19.2	5.8	1.9	6.7	12.5	2.9	15.4	21.2	1.9	14.4	8.7																				
	男性:60~69歳	68	19.1	20.6	19.1	14.7	17.6	17.6	20.6	11.8	2.9	2.9	11.8	10.3	25.0	30.9	1.5	7.4	7.4																				
	男性:70歳以上	63	27.0	12.7	22.2	17.5	12.7	9.5	22.2	1.6	7.9	3.2	4.8	15.9	7.9	28.6	-	11.1	11.1																				
	無回答	15	6.7	26.7	6.7	6.7	13.3	6.7	13.3	13.3	-	6.7	6.7	13.3	26.7	26.7	13.3	13.3	6.7																				

### Ⅲ 調査結果のまとめ



### Ⅲ 調査結果のまとめ

#### 調査結果からみえる特徴と今後の課題

##### はじめに

朝倉市では、男女があらゆる分野において、それぞれに自立し、お互いが助け合い、性別に関係なくそれぞれの個性と能力を充分発揮し、ともに責任を担っていく男女共同参画のまちづくりをめざしている。平成29年には、「自立し支え合い 個性や能力を發揮できる 元気な朝倉市をめざして」を基本理念とする「第3次朝倉市男女共同参画推進計画」を策定し、施策の推進にあたってきた。令和3年度は第3次計画の最終年度であり、第4次計画の策定に向けた基礎資料とするため、18歳以上の市民2,000人を対象に「男女共同参画に関する市民意識調査」を実施した。以下では、調査結果からみえてきた朝倉市の男女共同参画に関する現状と課題について考察する。

##### 1. 男女平等に関する考え方について

男女平等や男女共同参画への関心度をたずねたところ、全体では『関心がある』と『関心がない』がほぼ半数ずつであった。前回調査に比べ、男女とも『関心がある』が減少しているが、特に男性での関心の低下が顕著である。

しかし、「男は仕事、女は家庭」という考え方、固定的性別役割分担意識については、『同感する』が2割台半ば、『同感しない』が7割台半ばで、『同感しない』が大幅に上回っており、前回調査からも『同感しない』は大きく増加している。性別で見ると、『同感しない』は男性が女性より約8ポイント下回っているものの、県や国の調査と比較すると、男女とも『同感しない』が約15ポイントから20ポイント上回っており、朝倉市においては固定的性別役割分担意識はかなりの程度解消されているといえる。

男女の地位の平等感について8つの分野についてたずねたところ、「平等」との回答は「学校教育の場」で約5割だが、その他の分野は『男性優位』の割合が高く、「政治の場」「社会通念・慣習・しきたり」「社会全体」では『男性優位』が約7割と特に高くなっている。

性別で見ると、女性の「平等」の割合は、「学校教育の場で」以外の全ての分野で男性を下回っている。「家庭生活」「職場」については、前回よりも女性の「平等」は大きく増加しており、不平等感が解消されつつあることがうかがえるが、男女の地位については、女性の方が男性よりも不平等感を強く感じている。特に、「法律や制度のうえ」では、「平等」が男性は3割台半ばであるのに対し、女性は2割強で、性別による認識の差が大きい。近年、「女性活躍推進法」や「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」が施行されるなど、法律や制度が整備されてはいるが、女性にはそれが実際の男女平等に結びついていないとは実感されていないようである。

## 2. 家庭生活について

現在、配偶者（パートナー）と同居している人に、家庭内の9つの役割の分担状況についてたずねた。『夫中心』は、「生活費を稼ぐ」で6割台半ば、「自治会・町内会などの地域活動」が4割台半ばとなっており、一方、『妻中心』は、「炊事、掃除、洗濯などの家事」が8割台半ば、「家計支出の管理」が6割台半ば、「育児、子どものしつけ」が5割弱などで、夫が稼ぎ妻は家事・育児という性別役割分担が現在も行われていることがわかる。共働きの場合でも、「生活費を稼ぐ」は、『夫中心』が男性で約6割、女性は約7割で、妻が就労していても生活費を稼ぐのは夫中心となっている。一方、「炊事、掃除、洗濯などの家事」については共働き、片働きいずれも『妻中心』が女性で9割前後、男性で8割前後にのぼり、共働きでも家事は妻が担っている状況がうかがえる。

「家庭の問題における最終的な決定」については、約4割が「平等」とする一方で『夫中心』も4割を超え、前回調査から大きく変化していない。性別役割分担意識は解消されてきているが、家庭内の役割分担や重要な決定への女性の参画は、それほど進んでいない様子が見える。ジェンダー平等を意識の面だけにとどまらず、具体的な行動につなげていくことが今後の大きな課題といえる。

子どものしつけや教育については、「性別を問わず、経済的に自立できるよう職業人としての教育が必要だ」「性別を問わず、炊事・掃除・洗濯など、生活に必要な技術を身につけさせる方がよい」は、全体では9割前後の人が『賛成』しているが、「賛成」と「どちらかといえば賛成」に分けてみると、いずれも女性で積極的な「賛成」が高く、女性の方がより賛成する傾向がみられる。特に「炊事・掃除・洗濯など、生活に必要な技術を身につけさせる」は「賛成」は女性が男性を約20ポイント上回っており、男の子の生活自立については女性の方がより肯定的である。

「男女にはそれぞれの役割があるので、男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てた方がよい」については、全体では『賛成』が37.0%、『反対』が47.5%と、前回調査と比べると、男女とも『賛成』が減少し、『反対』が増加しており、男の子らしく、女の子らしくという育て方に『賛成』しない人が増加している。性別で見ると、女性は『反対』が5割を超えているのに対し、男性は『賛成』が『反対』を5ポイント近く上回っており、ジェンダーにとらわれない育て方には男性の方が消極的な様子が見える。また、男女とも年代が低い層でジェンダーにとらわれない育て方に肯定的な傾向がみられ、世代間の意識の差が大きい。

全体的には、子どもの性別に関わらず、経済自立も生活自立も必要と考えている人は多く、男の子らしく、女の子らしくという意識も薄れつつあるが、性別や世代間での意識差がみられる。一人ひとりの子どもの個性を尊重するジェンダーにとらわれない教育を推進するためには、このような意識のギャップを解消していくことが望まれる。

## 3. 職業について

女性が職業をもつことについては、「ずっと職業をもっている方がよい」という就労継続が約6割、「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方よい」という中断・再就職が2割を超えており、専業主婦志向はほとんどみられず、結婚や出産後も女性が職業もつことが肯定的にとらえられている。

実際に、現在の就業状況を見ると、女性で「職業をもっている」が7割を超えており、前回調査から約10ポイント増加している。しかし、勤め人の雇用形態を見ると、女性は非正規雇用が5割台半ばにのぼり、正規雇用は前回調査からやや減少するなど、正規雇用での就労は進んでいない。

女性が職業をもつことについて「ずっと職業をもっている方がよい」以外の回答をした人にその理由をたずねると、「育児休業などの仕事と家庭が両立できる制度があっても、それを利用できる職場の雰囲気でないから」「現在ある仕事と家庭が両立できるための制度だけでは不十分だから」の2項目が高くなっており、両立支援の制度やそれを利用できる職場の風土が課題と認識されていることがうかがえる。また、前回調査に比べて「女性は家事・育児・介護に専念し、家庭を守るべきだから」が女性で大きく減少しており、女性の自発的な選択というよりは、制度等が整わないため中断・再就職をせざるを得ないという面が強まっていると推測される。一方、管理職に就く人も多いと思われる男性の50代で「女性は家事・育児・介護に専念し、家庭を守るべきだから」がやや高くなっており、制度を利用できる雰囲気を醸成するためには管理職への啓発が重要なことが示唆されている。

女性が働き続けるために必要なこととしては、「育児休業や短時間勤務などの仕事と家庭が両立できる制度を充実する」「仕事と家庭が両立できる制度が利用しやすい職場の雰囲気づくりをする」「結婚したり出産したりすると勤めにくいような慣習を改める」などが高くなっている。性別で見ると、女性は上位3項目のすべてで男性よりも5ポイント前後高いほか、「男性の家事・育児・介護などへの参加を促すための啓発をする」が男性より約7ポイント高く、男性の家事・育児等への参画を推進する取り組みが求められている。一方、男性は「女性の能力を正當に評価し、積極的に管理職に登用する」「昇進・昇格の男女格差を改める」「賃金の男女格差を改める」など制度面の整備がやや高い。

年齢別で見ると、女性の年齢が低い層では「育児休業や短時間勤務などの仕事と家庭が両立できる制度を充実する」「結婚したり出産したりすると勤めにくいような慣習を改める」「仕事と家庭が両立できる制度が利用しやすい職場の雰囲気づくりをする」「残業や休日出勤を前提とした働き方を改める」「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など、多様な働き方の見直しを進める」などが高くなっており、年齢が低い層の女性からは両立支援制度の整備に加え、働き方の見直しや職場の風土改善など、幅広い取り組みが望まれている。女性活躍やワーク・ライフ・バランスの推進のためにも、事業所等の積極的な取り組みを促す施策が必要である。

自営業の人に、就労にかかわる7項目についてたずねたところ、「自分名義の預貯金を持っている」「自分で受け取って管理できる給与・報酬がある」が6割台、「定期的に休日を取ることができる」「作業計画・経営計画などを最終的に決める権限がある」が4割台などとなっており、また最終的に決める権限がある以外の項目では、性別による差はあまりみられない。しかし、女性は男性より「作業計画・経営計画などを最終的に決める権限がある」「自分名義の不動産（土地、家屋など）を持っている」「職業上の研修には自由に参加できる」などが低くなっており、決定権や不動産の所有などの面で男性と差があることがわかる。一方、前回調査と比べると、男女とも「定期的に休日を取ることができる」が大きく増加しており、自営業においてもワーク・ライフ・バランスの取り組みが進められていることがうかがえる。

男性が育児休業・介護休業・子の看護休暇を活用することについては、「積極的に活用すべきである」が約5割、「なるべく活用すべきである」が3割台半ばで、9割近くが肯定的である。

性別でみると女性は「積極的に活用すべきである」、男性は「なるべく活用すべきである」がそれぞれ約 10 ポイント高くなっており、男性のほうがやや消極的である。

現在、男性の 9 割以上が育児休業などを取得しない（できない）のはなぜだと思いかをたずねたところ、「職場に取得しやすい雰囲気がないから」が約 5 割、「取ると仕事上周囲の人に迷惑がかかるから」が 4 割弱、「経済的に困るから」が 2 割台半ばなどで上位となっている。就業形態別でみると、男性の勤め人で管理職では「取ると仕事上周囲の人に迷惑がかかるから」が 6 割台半ばと高くなっている。育児休業や介護休業は労働者の権利であり、管理職は希望する労働者が安心して休業を取得できるよう、雇用管理をすることが望まれる立場である。事業所への啓発とともに、支援金などに関する情報提供を積極的に行うなどの取り組みを進めたい。

#### 4. 地域活動について

地域活動での男女の役割分担の状況について現状をたずねた。現状で「そうしている」の割合が高かったものは、「地域での集会では、女性がお茶出しや片づけをしている」「地域活動は男性が取り仕切る」「地域の役員はほとんど男性になっている」が 5 割半ば、「地域の集会では男性が上座に座る」「催し物の企画などは主に男性が決定している」が 4 割強などとなっており、「地域の役員や意思決定は男性が、片付けなどの雑用は女性が」という役割分担が現在でも行われていることがわかる。前回調査と比べると、ほとんどの分野で男女とも前回調査よりも「そうしている」の割合が減少しているが、「そうしていない」の割合に変化はあまりみられず、「わからない」が増加しており、地域活動での役割分担が解消されているとはいいがたい。現状に対する意識をみると、現状で「そうしている」場合、どの項目についても「改善すべき」の割合が最も高くなっており、改善を望む声が多数派である。しかし、「現状のままでいい」が「地域活動は男性が取り仕切る」で約 4 割、「地域の集会では男性が上座に座る」「催し物の企画などは主に男性が決定している」「地域の役員はほとんど男性になっている」なども 3 割台となっており、現状を肯定する意見もいまだ多い。

女性が区会長や P T A 会長などの地域の役職につくことについて、女性には実際に引き受けるかどうかを、男性には妻など身近な女性が推薦された場合に引き受けることをすすめるかたずねたところ、「断る（断ることをすすめる）」が 6 割台半ば、「引き受ける（引き受けることをすすめる）」が 3 割弱であった。特に女性で「断る（断ることをすすめる）」が 7 割台半ばと高くなっている。前回調査よりは女性で「引き受ける」がやや増加したものの、依然として地域の役職に就くことに対する女性の抵抗感が強いことがわかる。

「断る（断ることをすすめる）」と答えた理由は、「家事・育児や介護に支障がでるから」と「役職につく知識や経験がないから」が 5 割弱で最も高いが、性別でみると、女性は「役職につく知識や経験がないから」が男性よりも大幅に高くなっている。さらに年齢別でみると、「家事・育児や介護に支障がでるから」は、子育て中の人も多いと思われる 40 代以下の女性で高くなっている。「役職につく知識や経験がないから」「女性が役職につくことを快く思わない社会通念があるから」「家族の協力が得られないから」「女性には向いていないから」は女性の年齢の高い層での割合が高い。子育て期の時間的制約が経験の不足につながり、それが心理的な制約になっていくことが示唆されている。

一方、女性が市の審議会などへの就任を依頼された場合については、『引き受ける（ことをすすめる）』が女性は3割弱、男性は5割弱で地域の区会長やPTA会長などの役職に比べると抵抗感は薄いようである。地域の役職への女性登用拡大を進める段階の一つとして、公募枠などを活用して市の審議会などに女性を積極的に登用することが望まれる。

少子高齢化が進行し、地域の課題も多様化するなか、地域の課題解決のためには多様な背景を持つ人たちが参画し、多様な視点から意見を出し合うことが重要である。そのためには、子どもや要介護者などがある人でも活動しやすい時間帯や活動内容を工夫したり、地域活動の負担や役員にかかる責任を分散・軽減したりするなど、女性や若年層など様々な人が地域活動に参画し、経験を積むことができる環境を整えるとともに、従来の役割分担を見直していくなど、これまでの男性中心な地域活動のあり方を地域が主体となって変革していくことが必要である。

男女共同参画の視点から災害に備えるために必要なことについて、女性は「備蓄品について女性や介護者、障害者の視点を入れる」「避難所運営の基準などをつくり女性や子どもが安全に過ごせるようにする」などが高い。男性では「避難所の運営に女性も参画できるようにする」「女性も男性も防災活動や訓練に取り組む」「日ごろからの男女平等、男女共同参画意識を高める」などが女性より高くなっており、女性は実際に災害が発生したときに女性などの弱者が安心して過ごせるような対策を、男性は防災や避難所運営への女性の参画をより重視しているようである。もちろんこれらは別々の問題ではなく、前者を実現するためには、日頃の防災活動の段階から多様な人が活動に参画し意見を出し合うことが重要である。現状としては地域の活動は男性中心の傾向があるため、女性など多様な人材の登用を進めつつ、現在リーダーとして活動している人を対象に男女共同参画研修を実施したり、子育て中や介護中の人など様々な人との意見交換の機会を設けるなどの取り組みが求められる。

## 5. 暴力などの人権侵害について

セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）の被害経験については、職場では女性 9.4%、男性 4.4%、地域活動の場では女性 4.4%、男性 2.9%、学校に関わる場では女性 2.9%、男性 1.1%が何らかのセクハラを受けたことがあると回答しており、いずれも女性の被害経験率が高くなっている。年齢別では、職場と学校に関わる場では年齢が低い層の女性の被害経験率が高い傾向がみられるが、地域活動の場では20代以下に加えて50代、60代の女性も高くなっている。

ここ3年ぐらいの間にDVを受けた経験については、女性の約2割、男性の約1割が、何らかのDVを受けたと回答している。DVの内容としては、「相手の交友関係や電話、電子メールなどをチェックする」「見たくないのに、アダルトサイトやわいせつな本を見せる」などが男女同率である以外は、女性の方が高くなっており、特に「大声でどなる」「子どもや他人の前で侮辱したり、ばかにしたりする」「いやがっているのに性的な行為を強要する」などが女性で高い。また、割合は小さいとはいえ、「骨折させる」「打ち身や切り傷などのケガをさせる」など、ケガを伴う被害を受けた人もいる。

DVを受けた人が相談した相手は身近な「友人・知人」と「家族・親族」が多く、女性はそれぞれ4割弱と3割台半ばに上るが、男性は1割台半ばと2割強と女性より低い。また、公的機関や専門機関に相談した人は男女とも1%台か0で、非常に少なく、どこにも相談しなかった人が

多い。相談しなかった理由は、「相談するほどのことではないと思ったから」が男女とも目立って高く、「自分にも悪いところがあると思ったから」「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけるといったから」「相談してもむだだと思ったから」など、被害者が被害を軽くみてしまっていたり、相談することをあきらめてしまったりしている様子が見られる。

男女間における暴力をなくすために求められることとしては、「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」が6割台半ばで最も高く、「学校で児童・生徒に対し、暴力を防止するための教育を行う」「家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う」などの教育に関する項目も約5割と高くなっている。

セクハラやDVなどの暴力が朝倉市においても発生していることは今回の調査からも明らかだが、DV被害の相談状況をみる限り、被害を一人で抱え込んでしまっている人も多いと思われる。また、女性よりは被害経験率が低いとはいえ、男性にも被害者がおり、女性以上に相談できていない状況がある。暴力をなくすための取り組みとして相談窓口を増やすことが第1位にあげられているが、すでにある相談機関が十分に活用されているとはいえない。相談窓口の周知にあたっては、どのような行為がセクハラやDVにあたるのかや、被害者が悪いのではないこと、また男性も被害にあうことがあることなど、セクハラやDVに関する認識を高めるような啓発と合わせて取り組むことが望ましい。また、特に女性で「相談してもむだだと思ったから」「恥ずかしくて誰にもいえなかったから」「相談することによって、さらに不快な思いをさせられると思ったから」などの回答が1割前後みられるため、相談しやすい環境への配慮や、相談員の資質向上など、被害者が安心して相談できる体制づくりをさらに進めることが重要である。

## 6. 男女共同参画社会の実現に向けて

朝倉市男女共同参画センター(あすみん)の認知度と利用の有無については、「知っているし、利用したことがある」が約5%、「知っているが、利用したことはない」が2割台半ばで約3割が認知している。性別では、女性の認知度が約4割であるのに対し、男性は2割弱にとどまる。男女とも年齢が高い層で認知が高い傾向が見られる。また、地理的に近い杷木地区では約5割が認知しているが、あすみんには相談窓口としての機能もあるため、他地域に居住する市民や若年層に対してもさらなる周知を図ることが望ましい。

「知っているが、利用したことはない」理由としては、「センターの事業内容を知らないから」が目立って高く、次いで「自宅から遠いから」「一緒に利用する仲間がいないから」「関心を持ってセンターの事業がないから」などが上位となっている。

一方、あすみんで行ってほしい事業としては、「出産、育児、介護などで仕事をやめた人の再就職支援講座」が4割台半ば、「女性の就業支援・起業支援講座」が3割弱、「男女共同参画に関する研修・啓発講座」が2割弱などで、再就職や就業・起業支援といった仕事に関する項目が特に60代までの女性に高い。

あすみんの事業展開や広報にあたっては、市民のニーズを考慮した内容や事業内容がわかりやすい広報はもとより、SNSを活用した広報の展開や、出前講座やオンラインでの開催など遠方の市民も参加しやすい方法を検討するなど、近隣以外の市民にもあすみんを身近に感じてもらえるような方策の検討を期待したい。

男女共同参画に関する法律や言葉、市の取り組みの認知では、「男女雇用機会均等法」「DV防止法（配偶者からの暴力防止・被害者保護法）」「ストーカー行為規制法」などの法律はそれぞれ4割弱が認知しているが、前回調査より認知度が低下している。一方で、「ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）」は約3割で前回調査より約10ポイント増加し、特に性別では女性、年齢別では若年層での認知度が高くなっている。「朝倉市男女共同参画のまちづくり条例」の認知度はやや向上したものの、「朝倉市男女共同参画推進計画」とともに1割台、「朝倉市男女共同参画苦情処理委員制度」は2.8%の認知度となっており、男女共同参画のまちづくりをさらに推進するためにもこれらの項目の認知度をより一層高めていく必要がある。

男女共同参画のまちづくりを実現するために市が力を入れていくべきこととしては「男性も女性と同様に家事や育児、介護などを担うことができるような啓発活動を行う」「高齢者や障がい者（児）の介護者への支援施策を充実する」「子育て支援センター事業や地域での子育て支援事業を充実する」「育児休業や介護休業制度の普及啓発を進める」などが上位にあげられており、子育てや介護への支援策や就労との両立支援、またそれらに関わる啓発などが求められている。年齢別で見ると、「男性も女性と同様に家事や育児、介護などを担うことができるような啓発活動を行う」は30代の男女や50代以上の女性などで、「育児休業や介護休業制度の普及啓発を進める」は30代以下の女性や30代男性で、「高齢者や障がい者（児）の介護者への支援施策を充実する」は60代女性で高いなど、子育てや介護の当事者が多い年代で、それに関する項目への要望が高くなっている。子育てや介護と他の活動との両立は、当事者への支援だけではなく、事業所の理解や積極的な取り組み、家族や地域の理解と協力が必要であり、広く市民や事業者への啓発が求められる。また、男女共同参画に関する啓発・教育や政策・方針決定の場への女性の参画、相談窓口の充実などは、市民のニーズとして上位にあがってこないとしても、男女共同参画のまちづくりを推進するうえで基盤となる不可欠なものであり、これらの施策の重要性についての市民の理解を深めるような取り組みも併せて進めることが重要である。



◎参考資料  
使用した調査票



令和2年度

# 朝倉市男女共同参画に関する市民意識調査

日頃より、市民の皆様には、男女共同参画のまちづくりにご協力をいただき、ありがとうございます。市では、「男女が自立し、助け合い、性別に関係なくそれぞれの個性と能力を十分発揮し、共に責任を担っていく男女共同参画のまちづくり」のため、男女共同参画の施策を推進しているところです。

その一環として、5年ごとに市民意識調査を実施し、市民の皆様のご意見をうかがい、今後の施策に反映させたいと考えております。

調査対象の選定にあたりましては、市内にお住いの18歳以上の方の中から2,000人を無作為に選ばせていただきました。

設問数が多くお手数をおかけしますが、この調査の趣旨をご理解いただき、ぜひご協力をお願いいたします。

令和2年9月 朝倉市長 林 裕 二

## 【ご記入にあたってのお願い】

- この調査票は、あて名のご本人がお答えください。  
ご本人による記入が難しい場合は、ご家族や第三者による代筆で、ご記入ください。  
回答した人、記入した人のお名前などは記入する必要はありません。
- 回答は、あてはまる番号に○印をつけてください。質問によって、○印をつける数を指定しています。  
[例] ①はい 2. いいえ  
お答えが「その他」の場合には、番号に○印をつけたうえで、その内容を（ ）の中に具体的に書いてください。また、カタカナを回答枠内に記入する場合があります。
- 質問によっては回答していただく方が限られる場合がありますので、矢印や案内にそってお答えください。
- ご記入後は、この回答冊子を同封の返信用封筒に折りたたみ封入し、10月9日(金)までに、切手をはらずにポストに入れてください。
- 調査結果は、統計的に処理いたしますので、回答された皆様にご迷惑をおかけすることはありません。

【問い合わせ先】 朝倉市役所 総務部 総合政策課 男女共同参画推進・青少年係  
住所 〒838-1592 福岡県朝倉市杷木池田 483-1  
電話 0946-28-7595 (直通)  
FAX 0946-63-3569 (代表) e-mail : danjo@city.asakura.lg.jp



男女平等に関する考え方についておたずねします

問1. あなたは男女平等や男女共同参画をテーマにする話題にどの程度関心がありますか。(○印は1つ)

1. 非常に関心がある
2. まあまあ関心がある
3. あまり関心がない
4. ほとんど関心がない
5. 全く関心がない

問2. 「男は仕事、女は家庭」という考え方があります。あなたご自身の気持ちとしては、この考え方についてどう思いますか。(○印は1つ)

1. 同感する
2. ある程度同感する
3. あまり同感しない
4. 同感しない

問3. あなたは、次にあげる(ア)から(ク)までの分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。それぞれについて、最もあてはまるものを選んでください。(○印は1つずつ)

※各項目ごとに横を見てお答え下さい。  
(○印はそれぞれ1つずつ)

	優 女性 の 方 が い る	さ れ て い る 女 性 の 方 が 優 遇 さ れ て い る	ど ち ら か と い え ば 女 性 の 方 が 優 遇 さ れ て い る	平 等	ど ち ら か と い え ば 男 性 の 方 が 優 遇 さ れ て い る	優 男 性 の 方 が 遇 さ れ て い る	わ か ら な い
(ア) 家庭生活で	1	2	3	4	5	6	
(イ) 職場で	1	2	3	4	5	6	
(ウ) 学校教育の場で	1	2	3	4	5	6	
(エ) 地域活動・社会活動の場で	1	2	3	4	5	6	
(オ) 政治の場で	1	2	3	4	5	6	
(カ) 法律や制度のうえで	1	2	3	4	5	6	
(キ) 社会通念・慣習・しきたりなどで	1	2	3	4	5	6	
(ク) 社会全体でみた場合	1	2	3	4	5	6	

家庭生活についておたずねします

〔配偶者（パートナー）と同居している方におたずねします〕

問4. あなたのご家庭では、次にあげるような家庭内の仕事を、主にどなたがしていますか。（ア）から（ケ）のそれぞれについて、最もあてはまるものを選んでください。（○印は1つつ）

	妻が行っている	主に妻が行い、夫が一部を分担している	夫と妻が同じ程度に分担している	主に夫が行い、妻が一部を分担している	夫が行っている	その他／非該当
(ア) 生活費を稼ぐ	1	2	3	4	5	6
(イ) 炊事、掃除、洗濯などの家事	1	2	3	4	5	6
(ウ) 家計支出の管理	1	2	3	4	5	6
(エ) 育児、子どものしつけ	1	2	3	4	5	6
(オ) 親の介護	1	2	3	4	5	6
(カ) 自治会・町内会などの地域活動への参加	1	2	3	4	5	6
(キ) 子どもの教育方針や進路目標の決定	1	2	3	4	5	6
(ク) 高額の商品や土地・家屋の購入	1	2	3	4	5	6
(ケ) 家庭の問題における最終的な決定	1	2	3	4	5	6

また、あなたが、問4の（ア）から（ケ）までの家庭内の仕事について、配偶者（パートナー）の方にもっとしてほしいことはどれですか。主なものを3つまで選び、下の枠の中に（ア）から（ケ）までのカタカナを記入してください。

◎ 配偶者（パートナー）にしてほしいこと――→

--	--	--

**〔すべての方におたずねします〕**

問5. (A) あなたは、子どものしつけや教育について、どのような考え方をお持ちですか。  
 次の(ア)から(エ)のそれぞれについて、あなたのお考えに近いものを選んでください。  
 子どものいない人も、一般的にどう思われるかお答えください。(○印は1つずつ)

	賛成	どちらかといえば賛成	どちらかといえば反対	反対	わからない
(ア) 性別を問わず、経済的に自立できるよう職業人としての教育が必要だ	1	2	3	4	5
(イ) 性別を問わず、炊事・掃除・洗濯など、生活に必要な技術を身につけさせる方がよい	1	2	3	4	5
(ウ) 男女にはそれぞれの役割があるので、男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てた方がよい	1	2	3	4	5
(エ) 男の子は理科系、女の子は文科系に進んだ方がよい	1	2	3	4	5

**職業についておたずねします**

**〔ここからは全員がお答えください〕**

問6. 一般的に「女性が職業をもつこと」について、あなたはどうお考えですか。(○印は1つ)

1. ずっと職業をもっている方がよい
2. 結婚するまでは職業をもち、あとはもたない方がよい
3. 子どもができるまでは職業をもち、あとはもたない方がよい
4. 子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい
5. 女性は職業をもたない方がよい
6. その他 (具体的に \_\_\_\_\_ )
7. わからない

付問1. [問6で 2～5 と答えた方におたずねします]

では、あなたがそう思われる理由は何ですか。(○印は2つまで)

1. 女性は家事・育児・介護に専念し、家庭を守るべきだから
2. 女性は定年まで働き続けにくい雰囲気があるから
3. 女性の能力は正當に評価されないから
4. 女性が働く上で不利な慣習などが多いから
5. 育児休業などの仕事と家庭が両立できる制度があっても、それを利用できる職場の雰囲気ではないから
6. 現在ある仕事と家庭が両立できるための制度だけでは不十分だから
7. 保育や介護などの施設が整っていないから
8. その他 (具体的に \_\_\_\_\_ )

問7. あなた（男性の場合は、あなたの配偶者（パートナー））は、どのような働き方ですか（どのような働き方になりそうですか）。独身の方も、結婚した場合を想定してお答えください。（○印は1つ）

1. ずっと職業をもっている
2. 結婚するまでは職業をもっていたが、あとはもっていない
3. 子どもができるまでは職業をもっていたが、あとはもっていない
4. 子どもができて職業をやめ、大きくなって再び職業をもった
5. 職業をもったことがない
6. その他（具体的に \_\_\_\_\_ )
7. わからない

問8. 女性が職業をもち、働き続けるためには、どのようなことが必要だと思いますか。

（○印は3つまで）

1. 賃金の男女格差を改める
2. 昇進・昇格の男女格差を改める
3. 女性の能力を正當に評価し、積極的に管理職に登用する
4. 残業や休日出勤を前提とした働き方を改める
5. 結婚したり出産したりすると勤めにくいような慣習を改める
6. 育児休業や短時間勤務などの仕事と家庭が両立できる制度を充実する
7. 労働時間の短縮や在宅勤務の普及など、多様な働き方の見直しを進める
8. 仕事と家庭が両立できる制度が利用しやすい職場の雰囲気づくりをする
9. 女性が働くことについて、上司や同僚の認識を促進する
10. 男性の家事・育児・介護などへの参加を促すための啓発をする
11. 結婚・出産・介護などの都合でいったん退職した女性のための再雇用制度を普及、促進する
12. 求人・就職情報を積極的に提供する
13. 職業生活を続けていく上での相談窓口を充実する
14. 職業訓練や研修を行ったり、挑戦の機会を設けたりするなどの女性の能力向上を図る
15. その他（具体的に \_\_\_\_\_ )

**問9. あなたは現在、職業（収入のある仕事）をもっていますか（育児休業中、介護休業中などの人も働いているものとみなします）。（○印は1つ）**

- 1. 職業をもっている
  - 2. 以前、職業をもっていたが、いまは職業をもっていない
  - 3. いままで職業をもったことはない
- 問10へ  
(次ページ)

**付問1. [問9で1.「職業をもっている」と答えた方に]**  
**あなたの職業は次のどれですか。（○印は1つ）**

- 1. 自営業主（農林漁業）
  - 2. 自営業主（商工サービス業）
  - 3. 自営業主（医師、弁護士などの自由業）
  - 4. 家族従業者（農林漁業）
  - 5. 家族従業者（商工サービス業）
  - 6. 勤め人で管理職（課長級以上）
  - 7. 勤め人で専門技術職（医師、弁護士、教員、エンジニア、看護師、デザイナーなど）
  - 8. 勤め人で事務職・営業職（事務職員、営業職員、銀行員など）
  - 9. 勤め人で販売・サービス業（店員、外交員、美容師、接客、清掃、ガイドなど）
  - 10. 勤め人で技能・労務・作業職（工場労働者、職人、建設作業者、運転手など）
  - 11. その他（具体的に
- ) → 付問1-2、  
付問1-3へ

**付問1-1. [付問1で 1～5 と答えた方に]**  
**あなたの就労状況としては、次のどれがあてはまりますか。（○印はいくつでも）**

- 1. 自分で受け取って管理できる給与・報酬がある
- 2. 定期的に休日を取ることができる
- 3. 職業上の研修には自由に参加できる
- 4. 作業計画・経営計画などを最終的に決める権限がある
- 5. 自分名義の預貯金を持っている
- 6. 自分名義の不動産（土地、家屋など）を持っている
- 7. 家族経営協定を結んでいる

**付問1-2. [付問1で 6～10 と答えた方に]**  
**あなたの雇用形態は、大きく分けて次のどれにあたりますか。（○印は1つ）**

- 1. 正社員（職員）
  - 2. 契約社員、派遣社員（職員）
  - 3. 常勤パートタイマー
  - 4. 臨時、アルバイト
  - 5. その他（具体的に
- )

付問1-3. [付問1で6~10と答えた方に]

次にあげることがらの中で、現在のあなたの職場の女性にあてはまることがありますか。

(○印はいくつでも)

1. 募集や採用人数で差があり、女性は男性より不利である
2. 女性の昇進・昇格が遅い、または望めない
3. 同期に同年齢で入社した男性との賃金・給料の差がある
4. 女性の仕事を補助的業務に限っている
5. 女性のみ、もしくは男性のみしか配置しない部署がある
6. 女性にはつけないポスト・職種がある
7. 女性は、同じポストの男性より、社内研修・教育訓練を受ける機会が少ない
8. 女性は、同じポストの男性より、出張・視察等の機会が少ない
9. 女性は、転勤などの人事異動で、男性より不利である
10. 定年の年齢に男女差がある (慣行を含む)
11. 結婚退職制がある (慣行を含む)
12. 出産退職制がある (慣行を含む)
13. 女性は、家族手当、住居手当などがつかない、資金貸付や社宅に入居できないなどの不利益がある
14. その他 (具体的に )
15. 特にない

[ここからは全員がお答えください]

問 10. 育児や家族の介護を行うために、法律に基づき育児休業・介護休業・子の看護休暇を取得できる制度があります。あなたは、男性がこの制度を活用することについて、どう思いますか。

1. 積極的に活用すべきである
2. なるべく活用すべきである
3. 活用しなくてもよい
4. わからない

問 11. 女性の育児休業取得率は82.2%であるのに対し、男性の育児休業取得率は6.16% (厚生労働省：平成30年度雇用均等基本調査(全国))となっています。あなたは男性の9割以上が育児休業などを取得しない(できない)理由は何だと思えますか。あなたのお考えに最も近いものを選んでください。(○印は2つまで)

1. 周囲に取得した男性がいないから
2. 職場に取得しやすい雰囲気がないから
3. 仕事が忙しいから
4. 取ると仕事上周圍の人に迷惑がかかるから
5. 取ると人事評価や昇給に悪い影響があるから
6. 経済的に困るから
7. 育児・介護は女性の方が担うものなので、男性が取得する必要はないから
8. その他 (具体的に )
9. わからない

問 12. 男女がともに働き、介護と仕事を両立させていく環境を作るためにはどのようなことが必要だと思いますか。(〇印は2つまで)

1. 男女共に介護に参加できるような職場の意識形成
2. 介護休業期間中の経済的支援の充実
3. 長時間労働の見直し
4. 介護保険制度の周知
5. その他 (具体的に \_\_\_\_\_ )
6. 特になし

社会活動などへの参加・参画についておたずねします

問 13. 地域活動での男女の役割分担についておうかがいします。

- (1) 現状：あなたが参加している地域活動の現状について (ア) から (ク) のそれぞれにあてはまるものを選んでください。(〇印は1つずつ)
- (2) 意識：では、今後はどうすべきだと思いますか。(ア) から (ク) のそれぞれにあてはまるものを選んでください。(〇印は1つずつ)

	(1) 現 状			(2) 意 識		
	そうしている	そうしていない	わからない	現状のままでもいい	改善すべき	わからない
(ア) 催し物の企画などは主に男性が決定している	1	2	3	1	2	3
(イ) 地域活動は男性が取り仕切る	1	2	3	1	2	3
(ウ) 地域での集会では、女性がお茶出しや片づけをしている	1	2	3	1	2	3
(エ) 地域の役員はほとんど男性になっている	1	2	3	1	2	3
(オ) 地域の集会では男性が上座に座る	1	2	3	1	2	3
(カ) 女性が発言することは少ない	1	2	3	1	2	3
(キ) 自治会・隣組長会などの登録は男性 (夫) だが、地域の会議の出席は女性 (妻) が出ることが多い	1	2	3	1	2	3
(ク) 同じ作業に参加しても女性には出不足金*がある	1	2	3	1	2	3

\*出不足金・・・地域活動の作業で、女性が出た場合にその世帯からは不足金を徴収する地域の慣行

問 14. 区会長やPTA会長などの地域の役職についてうかがいます。女性の方は、もし、あなた自身が推薦されたら引き受けますか。男性の方は、妻など身近な女性が推薦されたとしたら引き受けることをすすめますか。(〇印は1つ)

1. 引き受ける (引き受けることをすすめる)
2. 断る (断ることをすすめる)

→ (次のページ)

付問 1. [問 14 で 2. 「断る(断ることをすすめる)」と答えた方に]  
その理由は何ですか。(○印は3つまで)

1. 家族の協力が得られないから
2. 女性が役職につくことを快く思わない社会通念があるから
3. 家事・育児や介護に支障がでるから
4. 役職につく知識や経験がないから
5. 役職につくことが面倒だから
6. 女性には向いていないから
7. 世間体がわるいから
8. その他(具体的に )

[ここからは全員がお答えください]

問 15. 女性の方はあなた自身が、男性の方は妻などの身近な女性が、「市の審議会や委員会の委員」への就任を依頼されたらどうしますか。(○印は1つ)

1. 引き受ける(引き受けることをすすめる)
2. なるべく引き受ける(なるべく引き受けることをすすめる)
3. なるべく断る(なるべく断ることをすすめる)
4. 断る(断ることをすすめる)

問 16. 政治、行政、企業、地域活動などにおいて政策・方針決定の過程に女性が進出していない理由は何だと思えますか。(○印は3つまで)

1. 男性優位の組織運営になっているから
2. 家庭、職場、地域では、男女で役割を分ける意識が根強いから
3. 配偶者(パートナー)の理解が得られないから
4. 家族の支援・協力が得られないから
5. 家事・育児や介護に支障がでるから
6. 女性の能力開発の機会が不十分だから
7. 女性の活動を支援するネットワークが不足しているから
8. 女性側の積極性が十分でないから
9. その他(具体的に )

問 17. 近年の大規模災害時における経験から、災害直後の避難所運営に女性が参画していないことや、日ごろの防災や震災対応に女性の視点がないことなどが課題として指摘されています。災害に備えるために、これからどのようなことが必要だと思えますか。(○印はいくつでも)

1. 避難所の運営に女性も参画できるようにする
2. 女性も男性も防災活動や訓練に取り組む
3. 備蓄品について女性や介護者、障がい者の視点を入れる
4. 避難所運営の基準などをつくり女性や子どもが安全に過ごせるようにする
5. 防災や災害現場で活動する女性のリーダーを育成する
6. 日ごろからのコミュニケーション・地域でのつながりを大切にする
7. 日ごろからの男女平等、男女共同参画意識を高める
8. その他(具体的に )

暴力などの人権侵害についておたずねします

問 18. あなたはここ3年ぐらいの間に (A) 職場、(B) 地域活動の場、(C) 学校に関わる場で次のようなセクシュアル・ハラスメント (他の者を不快にさせる性的な言動) を受けたことがありますか。  
(○印はそれぞれいくつでも)

	(A)	(B)	(C)
	職場で	場 で 地 域 活 動 の	る 学 校 に 関 わ る 場 で
(ア) 性的な関係を強要された	1	1	1
(イ) からだに触れられた	2	2	2
(ウ) 食事などにしつこく誘われた	3	3	3
(エ) 卑猥な言葉をかけられたり、猥談をされた	4	4	4
(オ) 身体に関して不愉快になる言葉や冗談を言われた	5	5	5
(カ) アダルトサイトやわいせつな本を見せられた	6	6	6
(キ) 性的なうわさを流された	7	7	7
(ク) 宴会などでお酌やデュエットを強要された	8	8	8
(ケ) 結婚や妊娠の予定についてたびたび聞かれた	9	9	9
(コ) 受けたことがない	10	10	10

問 19. あなたは、ここ3年ぐらいの間にあなたの配偶者 (パートナー) や恋人関係にあった人から次のようなことをされたことがありますか。(ア) から (ス) のそれぞれについてあてはまるものを選んでください。(○印は1つずつ)

		あ 何 度 も あ っ た	あ 1、 2 度 あ っ た	全 く な い
身 体 的 暴 力	(ア) 骨折させる	1	2	3
	(イ) 打ち身や切り傷などのケガをさせる	1	2	3
	(ウ) 足でけったり、平手で打ったりする	1	2	3
	(エ) 物を投げつける	1	2	3
暴 性 的	(オ) いやがっているのに性的な行為を強要する	1	2	3
	(カ) 見たくないのに、アダルトサイトやわいせつな本を見せる	1	2	3
精 神 的 ・ 経 済 的 暴 力	(キ) なぐるふりをしておどす	1	2	3
	(ク) 何を言っても無視し続ける	1	2	3
	(ケ) 必要な生活費を渡さない	1	2	3
	(コ) 相手の交友関係や電話、電子メールなどをチェックする	1	2	3
	(サ) 「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かいしようなし」と言う	1	2	3
	(シ) 子どもや他人の前で侮辱したり、ばかにしたりする	1	2	3
	(ス) 大声でどなる	1	2	3

**付問 1. [問 19 でいずれかに 1. または 2. と答えた方に]**

**あなたはこれまでに、問 19 であげたような行為について誰かに打ち明けたり相談したりしましたか。(〇印はいくつでも)**

1. 家族・親族
2. 友人・知人
3. 警察署・交番
4. 法務局、地方法務局、人権擁護委員、民生児童委員
5. 市町村の相談窓口(福祉事務所など)
6. 朝倉市男女共同参画センター「あすみん」
7. あさくら女性ホットライン(電話相談)
8. 学校関係者(教員、養護教員、スクールカウンセラーなど)
9. 医療関係者(医師、看護師など)
10. 民間の専門家や専門機関(弁護士、カウンセラー、全国共通DVホットライン、NPO団体、民間シェルターなど)
11. 配偶者暴力相談支援センター
12. 福岡県配偶者からの暴力相談電話
13. 福岡県あすばる相談ホットライン(福岡県男女共同参画センターあすばる)
14. DV相談ナビ
15. その他(具体的に )
16. 相談したかったが、相談しなかった
17. 相談しようと思わなかった

**付問 1-1. [付問 1 で 16. または 17. と答えた方に]**

**どこ(だれ)にも相談しなかったのは、なぜですか。(〇印はいくつでも)**

1. どこ(だれ)に相談してよいのかわからなかったから
2. 恥ずかしくてだれにも言えなかったから
3. 相談してもむだだと思ったから
4. 相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思ったから
5. 加害者に「誰にも言うな」とおどされたから
6. 相談することによって、更に不快な思いをさせられると思ったから
7. 自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから
8. 子どものためにがまんするしかないと思ったから
9. 世間体が悪いから
10. 他人を巻き込みたくなかったから
11. 他人に知られると、これまで通りのつき合い(仕事や学校などの人間関係)ができなくなると思ったから
12. そのことについて思い出したくなかったから
13. 自分にも悪いところがあると思ったから
14. 相手の行為は愛情の表現だと思ったから
15. 相談するほどのことではないと思ったから
16. その他(具体的に )

## 〔ここからは全員がお答えください〕

問 20. あなたは、男女間における暴力を防止するためにはどうしたらよいと思いますか。

(○印はいくつでも)

1. 家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う
2. 学校で児童・生徒に対し、暴力を防止するための教育を行う
3. 地域で暴力を防止するための研修会、イベントなどを行う
4. 広報・啓発活動を積極的に行う
5. 被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす
6. 被害者を発見しやすい立場にある民生委員や医療関係者などに対し、啓発を行う
7. その他 (具体的に )

## 男女共同参画社会の実現についておたずねします

問 21. あなたは、朝倉市男女共同参画センター(あすみん)\* をご存知ですか。また利用したことがありますか。(○印は1つ)

1. 知っているし、利用したことがある
2. 知っているが、利用したことはない
3. 知らないし、利用したこともない

※朝倉市男女共同参画センター「あすみん」(旧女性センター)

朝倉市の男女共同参画の社会づくりを目指すための施設です。サークル活動、軽スポーツ、研修、会議、料理講習等に男女問わず利用できます。

付問 1. [問 21 で 2. と答えた方に]

では、朝倉市男女共同参画センター(あすみん)を利用したことがないのはどのような理由からですか。(○印はいくつでも)

1. センターの事業内容を知らないから
2. 関心を持てるセンターの事業がないから
3. 一緒に利用する仲間がないから
4. 自宅から遠いから
5. 男女共同参画は自分に関係ないから
6. その他 (具体的に )
7. わからない

〔ここからは全員がお答えください〕

問 22. あなたは、朝倉市男女共同参画センター(あすみん)では、どのような事業をしてほしいと思いますか。(〇印は3つまで)

1. 男女共同参画に関する研修・啓発講座
2. 男性を対象とした男女共同参画に関する講座
3. 女性の就業支援・起業支援講座(キャリアアップ講座、労働問題講座など)
4. 出産、育児、介護などで仕事をやめた人の再就職支援講座(資格習得支援講座、パソコン講座など)
5. 女性の政策決定への参画につながる講座
6. 男女共同参画に関する自主的な学習グループなどへの支援
7. その他(具体的に )
8. 特にない

問 23. 次のことがらで、あなたが見たり聞いたりしたものはありますか。(〇印はいくつでも)

1. 朝倉市男女共同参画のまちづくり条例
2. 朝倉市男女共同参画苦情処理委員制度\*
3. 朝倉市男女共同参画推進計画
4. 男女共同参画社会基本法
5. 女子差別撤廃条約
6. 男女雇用機会均等法
7. ストーカー行為規制法
8. DV防止法(配偶者からの暴力防止・被害者保護法)
9. ジェンダー(社会的性別)
10. メディアリテラシー
11. ワーク・ライフ・バランス\*\*
12. 見たり聞いたりしたものはない

※朝倉市男女共同参画苦情処理委員制度

男女共同参画の視点から改めた方がいいと思われる施策についての苦情、または、性に関する権利侵害を受けたときの救済の申出制度です。苦情処理委員が、処理にあたります。

※ワーク・ライフ・バランス

「仕事と生活の調和」。国民一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できること。

問 24. 生活のなかでの「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」(地域活動・学習・趣味・付き合い等)の優先度についておうかがいします。

(A) まず、あなたの希望に最も近いものをこの中から1つだけお答えください。

1. 「仕事」を優先したい
2. 「家庭生活」を優先したい
3. 「地域・個人の生活」を優先したい
4. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい
5. 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
6. 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
7. 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をいずれも優先したい
8. わからない

(B) あなたの現実(現状)に最も近いものをこの中から1つだけお答えください。

1. 「仕事」を優先している
2. 「家庭生活」を優先している
3. 「地域・個人の生活」を優先している
4. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先している
5. 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している
6. 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
7. 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をいずれも優先している
8. わからない

問 25.「自立し支え合い個性や能力を発揮できる元気な朝倉市」の男女共同参画まちづくり実現のために、あなたは、朝倉市(行政)が今後どのようなことに力を入れていったらいいと思いますか。

(○印は3つまで)

1. 広報・啓発活動や学習機会の提供を充実する
2. 各種審議会の委員など、市の施策・方針を決定する場に女性の参画を増やす
3. 区会長や地域の役員に女性を増やす
4. 学校教育や社会教育の中で、男女平等についての学習を充実する
5. 職場における男女の均等な取り扱い(仕事の内容・賃金など)について周知徹底をする
6. 育児休業や介護休業制度の普及啓発を進める
7. 男性も女性と同様に家事や育児、介護などを担うことができるような啓発活動を行う
8. 女性の就業支援として、研修やセミナーを実施する
9. 女性の生涯にわたる健康づくりの支援策や母性保護対策を充実する
10. 性暴力や性差別などに関する問題解決に向けた相談窓口を充実する
11. 各種団体のリーダーとなる女性を養成する
12. 男女共同参画を推進する住民グループの活動を支援する
13. 子育て支援センター事業や地域での子育て支援事業を充実する
14. 高齢者や障がい者(児)の介護者への支援施策を充実する
15. その他(具体的に )
16. 特にない

お忙しいところ、ご協力ありがとうございました。

ご記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒に入れて、10月9日(金)までに投函してください。



朝倉市男女共同参画に関する市民意識調査  
報 告 書

令和3年1月

編集／発行 朝倉市 総務部 総合政策課  
男女共同参画推進・青少年係

〒838-1592 福岡県朝倉市杷木池田 483-1

TEL 0946-28-7595

FAX 0946-63-3569 (代表)

e-mail: danjo@city.asakura.lg.jp